



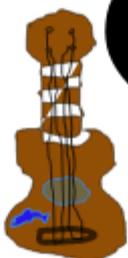
弦楽器イルカ⇄友人の往復書簡より

考

ウ

え

カ マ る

弦楽器イルカ+友人

～まえがき～

人間は考える葦である、と昔の人は言った。

しかし残念ながら私は、葦のことをよく知らない。形とか、何科なのかとか。そもそもパスカルって誰？ ん、ルソーじゃないよね？ って誰に聞いてんの、自分。

そんな葦以下の、どこの馬の骨とも鹿の骨とも知れない私（G）と友人（U）が合わさって、馬鹿な考えを披露する。とりあえずは自分自身の思考世界を拓げるために。

上手くいけばあなたの視界も少しくらいは開けるかもしれない、と願って。

我々は、考えるウマとシカである。

「お金と感情と公平さを等価に」がモットー

©ウマシカ制作委員会



～目次～

～第一回 『1Q84』とクラウド～

幕開けはレビューの応酬から。(2013年1月頃)

～第二回 『1Q84』と丸刈りの誕生～

どうでもいい発想をいくつか。とんでもない妄想は一旦おあずけで。(2013年2月頃)

～第三回 『監獄の誕生』と丸刈りの消失～

とんでもない妄想、できました。(2013年2月頃)

～第四回と第五回セット 『恋する原発2』と『1Q84』再び～

攻守のバランスにご期待ください。(2013年3月頃)

～第六回 『55歳からのハローライフ』と、彼と巡礼と帯～

帯、はじめました。(2013年4月頃)

～第七回 『Nウェイの森』(KOW版)と、『フィンランドの駅』～

北欧のウマシカです。(2013年4月頃)

～第八回 『想像ラジオ』と斬新な王道～

末広がってもいいですか？(2013年7月頃)

～第急回 『風立ちぬ』と紅白歌合戦～

空メール編に突入です。(2014年1月頃)

～第十回 『天誅～闇の仕置き人～』とキス我慢選手権～

ご一緒に握り飯もいかがですか？(2014年2月頃)

～第十一回 『帝都物語』とオリンピック憲章～

五輪だけがオリンピックじゃない。(2014年2月頃)

～第十二回 『天罰～闇の仕分け人～』と「あなたはなぜ原発作業員ではないのか？」～

ことここに極まられるり。(2014年3月頃)

～第十三回 『天×誅 THE MOVIE ～今宵、お前にXを～』と「よりぬきウマシカさん」～

天誅先生、ありがとう！(2014年5月頃)

～第十四回 『雑味しんぼ』と連載休止～

食べ残しがないように。(2014年5月頃)

～第十五回 『女のいない男たち』と2014 W杯～

久々のウマとシカです。(2014年6月頃)

～第十六回 『キュウソネコカミ』とみんな大好き陰謀論～

ネコとネズミとウマとシカです。(2014年9月頃)

～第十七回 『寄生獣』と「ネトウハ▽」とは何か？ 前編～

後編に乞うご期待！(2014年11月頃)

～第十八回 『寄生獣』と「ネトウハ▽」とは何か？ 後編～

前編がおススメです！(2014年11月頃)

～第十九回 『殉愛(仮)』と雑パンⅢ世～

これは国語の問題です。(2014年12月頃)

～第二十回 『明日死ぬかもしれない自分、そしてあなたたち』と『さくら』前編～

クソ食うハエも好きずきです。(2015年3月頃)

～第二十一回 『ぼくたちは何だかすべて忘れてしまうね』と「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」後編～

覚えられるようなアレじゃありません。(2015年3月頃)

～第二十二回 『21世紀の資本』と「ヒバナの瞬き」～

自称、ウマシカの王です。(2015年4月頃)

～第二十三回 「うどんから目を離すな」と「ウマシカを好きだなんて貂犀かも」～

若干やっつけウマシカです。(2015年6月頃)

～第二十四回 『ヒストリエ』と「幻の巨人」～

進撃のウマシカです。(2015年6月頃)

～第二十五回 『Z』と『世界の半分を怒らせる』～

別冊の紹介です。(2015年6月頃)

～別冊よりぬきウマシカさん 番外編「私は思い出す」～

考えるウマシカ 第二十五回より。(2015年6月頃)

～第二十六回 『賢者の愛』と「ネトウハ▽」の逆襲～

世界のほとんどの嫌われる、妄想の四面楚歌です。(2015年8月頃)

～第虹十七回 『ドラえもん』と「うまうましかじか」～

ウマシカ色の、虹の懸け橋。(2015年9月頃)

～第二十八回 『ドンマイ MY フレンド』と無評の評～

ムヒョ～のヒョ～くらいの温度です、実際は。(2015年11月頃)

～第二十九回 『眼と精神』と山登り～

みんな、オラに文才を分けてくれるような可能性なり玉がもしオラにあるとすれば、分けてもらえたらもちろんオラ大いに助かりますという意味も含めての。(2015年12月頃)

～第三十回 『独立国家のつくりかた』とコピーロボット～

厚顔無恥では負けたくない。(2016年1月頃)

～第三十一回 『アイネクライネ』と台湾事情～

無事で何より。あと見ないふり。(2016年2月頃)

～第三十二回 「恋する十四松」とM-1グランプリ～

タイトルにするほどアレじゃなくてアレですが。(2016年3月頃)

～第三十三回 『最低。』と最高。のあいだ～

やっと逢えたね、っ、て。(2016年4月頃)

～第三十四回 『性の歴史』とお茶の間の非日常～

非日常という名のお色気番組。(2016年5月頃)

～第三十五回 『イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ』と「グラフィティ GO」～

「キン消し GO」はちょっと探しづらい。(2016年7月頃)

～第三十六回 『ニンジャスレイヤー』と「ブローケン・ハート」～

やっつけくらいでむしろいい。(2016年8月頃)

～第三十七回 『アウターワールド』と妄想の「ドラゴンボール GO」～

バカ様、リリースだぜ！(2016年8月頃)

～第三十八回 『キャッチャー・イン・ザ・ライ』と『アウター・ワールド』再び～

終戦がらみで思い切って。(2016年8月頃)

～大 THANK YOU 回 『一齣漫画宣言』と『アウター・ワールド』三たび～

でっかい感謝です。(2016年9月頃)

～第始終回『世界の終わりとカールスモーキー・ワンダーランド』～

軽く煙に巻く感じで。(2016年11月頃)

～第四十一回 間違った聖地巡礼と『この世界の片隅の職業としての小説家(仮)』～

この世界の片隅の職業としてのウマシカ（仮）です。（2016年12月頃）

～第四十二回 『初恋にさようなら』と新しい愛国教育～

愛国にこんにちわ。（2016年3月頃）

～第四十三回 スノーデンと『Brothers - A Tale of Two Sons』～

思った以上にふります。（2017年5月頃）。

～第四十四回 『雑の名は●』と『人工知能の夢』～

自分、雑食系ですから。（2018年1月頃）

～第四十五回 『雑の名は●2』とロケットパンチ～

生きることは戦いです。（2018年1月頃）

～第四十六回 『文学部唯野教授』と信派の自由～

21世紀のウマシカです。（2018年2月頃）

～第四十七回 『先ず隗より始めよ』と読解力～

烈火の塊です。（2018年3月頃）

～第四十罰回 平成の終焉と『ラリパッパブルース』～

「ひふみよいむなやんで言葉は枯れ散るらん」です。（2018年4月頃）

～第至急回 花粉症と『フクロウの声が聞こえる』～

異物を楽しむウマシカです。（2018年4月頃）

考るうウマシカ番外編

～第五十回 『月曜日の憂鬱』と『初恋にさようなら』再び～

記念回です。（2018年8月頃）

まず、ネットでも指摘がいくつかあったんだけど、村上春樹『1Q84』と、押井守監督のアニメ映画『うる星やつら～ビューティフルドリーマー～』が冒頭とラスト、かなり一緒だったという指摘から始めたい。しかも『うる星』の上映は1984年、まあこれは偶然だと思うけど。

ただし、『1Q84』が全体通してわかりやすく説明されていたのに対し、『うる星』の方は何回か意識して観ないとオチの仕込みに気づかない。でも、それが押井映画の良い所であり、初期の春樹もそういう隠し玉タイプの作家だったと思うんだけど、最近はどうもわかりやすくなってる。もちろん、豊富な読書量と知識量は健在だから、引用文献を読み直さないと理解の取りこぼしはたくさんあるだろうけど、少なくとも『羊をめぐる冒険』の頃と比べたらだいぶ理解されやすい物語だと思う。

とりあえず、今までの春樹作品をまとめて再構築した感じを受けた。たとえば、「リーダー 対 リトル・ピープル」の関係は、『羊をめぐる冒険』の「黒幕的存在 対 羊」の関係とほぼ同等だし、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』の「やみくろ」も思い出す。また、エピソードの真相を明かさない点は、短編集『神の子どもたちはみな踊る』でも同様で、「言葉は石になる」という象徴的なセリフもあり、そこでも多くは語られない。さらに同じ短編集の「蜂蜜パイ」を引き継いだ物語だとも思う。他にも、宗教を扱っている点では、『アンダーグラウンド』での聞き取りが消化されて物語に強く出たのだと思うし、二人称で「あなた」と語りかける部分は、『アフターダーク』を思い出した。意図的に過去作の要素を詰め込んで、「初心者でも始められる春樹入門」にわざわざしたっぽいと感じた。

「わかりにくい物は排除される」時代の流れに迎合してんのかどうなのか。単に年齢を重ねることで丸くなり、若い読者にも本を読んでほしい的な老婆心なのか、それとも俺の見立てがまったくの見当はずれなのか。わかんないけどね。

ところで、俺はそもそも、謎解きへの興味というものが薄い。謎がわかったところで現実とは関係ないし、読者が自分で結論を出せばいいと思うから。書評やいろいろ出てるけど、無粋だと思うね、俺は。ただ、「リトル・ピープル」や「空気さなぎ」について自分の考えを書くことが、読む人にとって俺自身の値打ちを判断する一つの材料になると思うから、公平さという観点からあえて展開してみようと思う。

「リトル・ピープル」ってのは、『1984』に出てくる「ビッグ・ブラザー」って存在に対応する物だ。その名の通り小さく、人数が増えたり減ったりする。

これにはいくつかの仮説が立てられると思う。たとえばわかりやすいのは、いわゆる「ビッグ・ブラザー」的な父性の支配から、「リトル・ピープル」的な母性の支配へ、という例の流れ。あからさまな暴力や権力を持ち出す父的な支配ではなく、より民主化されたと見せかけて、それと気づかない内に取り込まれる母親的な「空気」の支配。よく文化人とかが言いそうな話だけど。「空気」だからこそ、形も数も変えられる「リトル・ピープル」という存在となじみがいい。さらに「空気さなぎ」という言葉も、繭、ネット、網というイメージとなじみがいい。文字通り「空気」が支配する網は、インターネットなど見えない無数の糸によって編まれている。現在はびこっているインターネットの萌芽が、1984年にあったのかもしれない。(ちなみに、クラウドって俺は全然知らないんだけど、「空気さなぎ」とここら辺でつながりそう？ 雲と「空気さなぎ」って近いっちゃ近くない？ どっちも見えないラインをつないで形成される感じとか。ちょっと無理にでもつなげてみてくんない？ 無茶ぶりすぎ?)

また、他の考え方で言うなら、世界を動かすような支配者層が「ビッグ・ブラザー」のような大きい規模の少数な存在から、「リトル・ピープル」というある程度小さい規模の多数の存在に変わっている、ということもいえるのかもしれない。民主化の流れの中で、世界を動かす財閥やら何やらの支配層も、権力がある程度は広く分配

する構造が生まれたというような。

または、春樹自身はインタビューで、森の精的な発言をしてるみたいだから、単に人の心に巣食う妖怪ってことかもしれん。

でもここまで書いてみて、解釈はどんな場合でも各読者に委ねられるべきだし、いちいち他人に伝達する必要はないな、と改めて思った。国語のテストじゃあるまいし。

「リトル・ピープル」や「空気さなぎ」が何なのか、それぞれが考えて自分の結論に辿り着くこと。それが何であれ、そこがどこであれ、自分が決めた選択を受け入れること。これ、そのまま『1Q84』のラストシーンにもつながるしね。まとめとして綺麗じゃね？

だから、俺が第一回目に『1Q84』を持ってきたのは、解釈をどうこう言いたいためじゃない。それよりも、この小説中でもっとも俺の目を引いた文章について、今後それがどう受け止められて、どう動いていくのかが気になったから。以下にその部分を引用してみる。

「何があっても、どんなことをしても、私の力でそれを本物にしなくてはならない。いや、私と天吾くんと二人の力で、それを本物にしなくてはならない。私たちは集められるだけの力を集めて、ひとつに合わせなくてはならない。私たち二人のためにも、そしてこの小さなもののためにも。」(1Q84 BOOK3〈10月-12月〉P588)

「集められるだけの力を集めて、ひとつに合わせなくてはならない」って、たとえば不特定多数にデモ運動を呼びかける言葉としても使える物だ。ここでの「私たち」は「青豆+天吾」、さらにこの後「天吾と私とこの小さなものの三人で」って箇所もあるから、「私たち=天吾+青豆(+小さなもの)」って解釈でいいんだろう。その「私たち」のために集める力とは何の、誰の力なのか。元々春樹は、親や親戚との付き合いも夫婦揃ってほとんどない、夫婦の力だけでやっていく、というスタンスだったから、家族という最小単位で力を合わせようって意味はあると思う。ただ、それだけじゃない気もする。

たとえば、「小さなもの」ってのは決して子供って意味に限定されない。はっきり受精してないのに妊娠してる設定だから、本当に青豆のお腹に人間の子供がいるかは断定できない。そう考えると「小さなもの」っていうのは、もしかしたら個人の誇りとか、あるいは春樹自身の作品とか(子供のいない春樹には作品が子供の存在なのかも)、そして作品を通しての作家と読者のつながりを指すとしても、あんまりおかしくないかもしれない。さらに「小さなもの」と「リトル・ピープル」は、同じ「小」でも、意味的に対を成す言葉だろうな、と思う。「小さなもの」はお腹の中で固定されてる、弱い守るべき存在。「リトル・ピープル」は神出鬼没で自由に世界を侵食できる、むしろ私たちに脅かす存在。弱い「小さなもの」を含めた「私たち」のために、「私たち」同士が集まって力をひとつにする=連帯することで「小さなもの」を「リトル・ピープル」から守ること。少し前から春樹はネットで読者とコミュニケーションしてるエッセイを何冊か出してるから、連帯というキーワードを今作に含める意味はあると俺は思う。

ただし、「小さなもの」にいろんな意味を込める解釈の難点はやっぱ、最後に「三人で」って人として数えてる点だね。「小さなもの」を人数にしちゃってるってことは、やっぱ子供のことを指すんだろうな。「天吾と私と小さなもの、三つの力で」くらいにしとけば後々ぼやけたのに。これ、春樹的にはちょっと失敗って気がしない？や、現代の文豪に対してやっぱ不遜かね？

さてここで話題転換、春樹は震災後、イスラエルだかの受賞スピーチで、原発とか震災とか戦争について発言してるよね。春樹は、俺の印象では、文壇で呼ばれるような集団とは距離を置き、自分の書きたいことを書きたい様書いて、『ノルウェイの森』がたまたま大ベストセラーになって、業界のメインストリームに半ば無理やり担ぎ上げられたタイプの作家だと思っている。『ウォーク・ドント・ラン』って村上龍との対談本でも、「宣伝さ

れて一気に売れるってのがどういうことなのか、春樹さんも一度体験したほうがいい」って趣旨のことを龍に言われて、その後『ノルウェイの森』で売れることを体験した春樹自身が、エッセイの中でその言葉を振り返ってたと思う。大きな宣伝されて、恐ろしく売れる本を書くことへの違和感、的ない感じで。元々、十人に一人が気に入ればいいって言ってるし。

学生時代はノンポリで当時デモに冷め切ってたってのは、いろんところで書いてるけど、それでも東日本大震災の前に、デモの呼びかけと取られてもおかしくない言葉を書いたということ。そしてあのスピーチ。今後世界と春樹がどこへ向かうのか。世間がどう受け止めて、全体としてどう動くのか。または春樹的な文化が人心に働くのか。興味ある。

俺なんて、一連の震災を身近で体験してはじめて、やっと世間に対して呼びかける意味みたいなことを考えるようになったのに。さすが春樹。しかもこういうスタンスに傾いてたからこそ、最近の作品がどんどんわかりやすく、理解されやすい物になってんのかもなって思った。とはいえ個人的には、説明の少ない、理解しづらい作品の方が好きなんだけど。まあ仕方ない。

とりあえず以上、どうかな？



拡散する「1Q84」と収束する「1Q84」

まずはノーベル文学賞、受賞できなくて残念だったね。村上春樹の「代わり」って言ったら失礼だけど、受賞したのは、中国の解放運動家みたいな人だったよね。政治的な力が働いているとかいろいろ言われているけど。

自分の目で見てきたんだけど、その中国では春樹がかなり人気なんだよね。ノーベル賞の受賞者は有名なのかはさっぱりわからないけど。北京や上海、広州の本屋では当たり前前に『1Q84』が平積みされていたのを見かけたよ。

あと去年は、イスラム圏、とは言ってもかなりゆるいイスラム圏だが、のトルコのイスタンブールの本屋でも見かけたし、そこから北上してセルビア、つまり元共産圏（とは言っても、以下略）、のベオグラードの本屋では「村上春樹」コーナーが作られていたのを見かけたよ（こっそり写真とってくれば良かった）。

僕から見れば、言わば中国も含めて「少し体制的な」これらの国々で、『1Q84』が普通に売られていることに違和感があった。ごく普通に見える本屋さんんだけど、運動家が草の根的に地下活動している訳でもないし、学生のバイトの店員さんが革命前夜のハラハラ感をもって働いているわけでもないから、やっぱりごく普通の本屋さんなんだろうね。

要するに『1Q84』はいろんな国で、人民を煽動したり、反体制的感情をいたずらに刺激することは無いごくごく安全で平和な「文芸書」って認められているみたいなんだ。でもやっぱり、僕は『1Q84』には反体制的な力がある気がする。春樹の言葉を借りれば、壁に向かって投げられる卵の一つなんだと思っている。

さて、『1Q84』がこれだけ世界中の人に愛される理由の一つに、「おしゃれな恋愛物語」だからということがあるって断言しても間違いじゃないと思う。『ノルウェイの森』が大ヒットしたのと同じような理由で、この『1Q84』も大ヒットしたんじゃないかな。

登場人物たちは、みんながみんな、「うんざりするほど」洗練された仕草や言葉を使いこなし、教養があり、頭の回転も速い。しがない塾講師で貧乏な設定だっただろう天吾も貧乏臭さはみじんも感じられない。男の一番の魅力は経済力かもしれないからね。青豆の容姿も、左右の耳の大きさが著しく異なって不格好で、顔が強烈に歪むことがあるけど、それぞれ髪の毛と強靱な精神力によって表に出ることがなく、それなりの美人というふうに描かれているね。

ありふれた普通の男女のフリをした、リア充（笑）の美男美女の洗練された恋愛物語はそりゃ面白いし人気が出るだろう。そんなこんなで、言語の壁を越えて世界中に拡散された恋愛小説だが、もしそこに反体制的な「種（あるいは卵?）」が忍び込んでいたとしたら政治的にはすごいことになるよね。

ところで、Gの言う、押井守監督のアニメ映画『うる星やつら～ビューティフルドリーマー～』とかなり一緒だという指摘がネットであるということについて、ちょっと検索してみたけど、見つからなかったよ。ネット上で過去の誰か、あるいは「名無しさん」がつぶやくなり、書き込むなりして、「いいね!」とか、「ググレカス!」とかで、ちょっと盛り上がって感じなのかな？

「うる星～」って、昭和的な安アパートにヒョウ柄の水着を着た巨乳のお姉ちゃんが天から舞い降りてきて、お宅っぼい主人公と恋愛感情と友情が混じり合ったドタバタ劇を繰り広げるってイメージなんだけど、それでオッケ？ 映画版とかまったく知らないんだけど、想像するに『1Q84』の冒頭と終わりに共通点があるってことは、その映画もパラレルワールドだってことなんだろうかね。

『1Q84』の冒頭はすごいね。春樹ワールドの真骨頂だと思うんだが、あっちの世界とこっちの世界の境界線の描

き方が絶妙で上手いんだよね。

あっちの世界の手前まで青豆を導いたのかわからないけど、あの不吉で不気味なタクシーや首都高の非常階段、そんなものが1984年の東京にあったのかどうか、ギリギリのラインだと思う。「これから普通でないことするので、物事が普通でなく見えるかもしれない」とタクシー運転手が青豆に言うが、別次元からきた案内人がなんらかの理由で暗示的に言うしかなかったのか、ただの寂しいオヤジの上から目線の戯言か、ってところが絶妙だよ。そして同時に、われわれ読者もまたパラレルワールドに引き込まれるというわけだ。

青豆は別世界に踏み込んで月が2つに見えるようになったけれど、天吾との2つのストーリーは、はじめは相互に関連性が無く、無限に離れた場所にあるよね。それが、時間的にも空間的にも一点に収束していくけれども、それは偶然かもしれないし、2つの月の引力の力かもしれないし、惹かれ合う男女の想う力なのかもしれないし、ストーリーの構成の力なのかもしれないし。いずれにせよ「運命」を感じさせて、とってもロマンチックで美しいと感じさせるんだ。村上春樹の小説はおしゃれだ。

そうそう、今回のテーマはクラウド？ ちょっと行き違いがあって、僕はそれをテーマにするつもりはなかったんだけど、関連して、言いたいことは一応あるんだ。

あのアップルの故スティーブジョブスもジョージオーウェルの『1984』をオマージュにして、まさに1984年にCMを作らせているんだ。もう一つの1984年はIBMが支配する世界でさ、絶望的に体制的で支配的な世界みたいなんだけど、それを破壊するっていうかっこいいCMなんだよね。

あれから20年近くたったけど、今じゃあ僕はアップルの iCloud に支配されている気がしてならない（笑）。体制を壊す側も、結局は体制側になってしまうのは避けられないのかもね。

ちょっと今日はここまでしておくよ。僕の『1Q84』の感想文は、まだ2つの月が重なっていない状態だから、また時間ができたら書くよ。

次はビッグ・ブラザーとリトル・ピープルについて触れると思う。



Uの次回が楽しみだ。

春樹の受賞は個人的にはどうでもいいと思ってんだけど。取ろうが取るまいが、作品の内容や価値が変わるわけじゃなし。ただ、春樹にとってやっぱ作品は子供みたいな物で、賞を取ったら嬉しいんだろうな、とは思う。いっつも拒まないもんね。

あと、俺はおしゃれはもういいや派です。おしゃれさが文化の拡散にとって重要だろうとは思うけど。例の「流行は軽くなる」の流れだよ。当然、おしゃれなほうが人は惹かれるから。確かに、春樹が仕掛けたおしゃれ爆弾が世界各地で時間差炸裂する様は空想すると素敵なお光景かもしれない。でも、俺はむしろ『1Q84』のおしゃれさは流した派だよ。そのせいで距離ができたってくらい。俺は、『神の子どもたちはみな踊る』。あのくらい地味な方が好き。

『うる星』のイメージは大体O.K.。一軒家だけどおおむね合ってる。ただしマンガ版の話ね。押井監督のアニメ版は押井流に作品をねじ曲げたりいじり倒してて、その中でもイナバウアーばりにソリ具合が見事だったのが、例の作品。そもそも、『1Q84』と同じ仕掛けがあるって、Wikiがない当時は気づかない人も多かったはず。

『1Q84』もタイガーが右か左か、もし何の説明もなかったらただの誤植と思われちゃうかもしれない。でも、あえて説明されない物を読み解く読解力こそが文化の醍醐味だと俺は思うんだけどね（待てよ。タイガー、って虎縞。ってことは虎縞ビキニ？ もしや、ラ…？ …まさか、ねえ）。たとえば『寄生獣』で、ミギーに感情が芽生えてる事実はほのめかされるだけで明言されず、終盤で一気にたたみ掛ける演出。身の安全を確保するためには誰にも明かすことができなかつた、それで読者にさえ隠してたんだっていう。ネ申だね。

話がネ申方向に逸れた。

逸れついでにいうと、『1Q84』はパラレルワールドじゃないって文中で否定されてて、世界は一つしかない、ただ逸れてるだけ、逸れながら進んでるって感じだと思う。あと天吾がいつ月が二つある世界に移ったかは明言されてないんだよね。まあ、読者も含めたバラバラの世界が一つに引っぱられる描写は見事だし、パラレルであろうがなかろうが大体一緒だと思う。引っパラレルワールドだな。これいける？ 今からでもコピーに使ってもらえるかな。「1Q84年。引っパラレルワールドへようこそ」的な。緑と赤地の上に金文字で。

話が引っパラレル方向に逸れた。まあいいや。もっと逸れついでに、てか一気に逸らすけど、新しいサイトの案を考えた。『1Q84』も「力を集めて」だし、ツイッターとか世界は繋がる方向へ進んでるけど、過度に繋がりがすぎて飽きたら、一旦立ち止まる方向にも進むと思う。そのときに、そこまで繋がりがたくはないんだけど、でも繋がってほしい、と思えるようなサイトがあればいいんじゃないかと。

題して、「空に宛てた手紙」。

たとえば、フェイスブックやらで昔の恋人と会って云々とかあるらしいけど、そこまでじゃない、連絡取りたい訳じゃないし、そもそも今どうしてるか知りたいって程でもない。

でも、何らかの想いがあって、それを誰かに伝えたい。本人に直接届いてもいいけど、別に届かなくてもいい。または、想いを表に出すことで、実際の告白に踏み切れるかもしれない。

そこで恋文部門、手紙部門と二つあって、手紙部門は、友達や家族、故人とかに宛てて手紙を書ける。

そうやってみんなが書いた手紙をおしゃれなデザインで掲載する。誰でも閲覧可能。本人に届くかもしれない

し、届かないかもしれない。目的はそれを読んで、どきっとする人、ほっとする人、いろいろな想いを抱くこと。俺自身、そのくらいなら書きたいことがあるような気がする。

更に詳細を書くと、気に入ったら「いいね」みたいに、「届け！」切手（スタンプ）を送ることでポイントが加算されて、ポイントの高い人気ある手紙は、どんどん上位にランクしていく。

ただ、手紙は通常一ヶ月くらいで整理されてタンスにしまわれるので、一ヶ月過ぎたものはランクから外されていく。もちろん、検索で過去の手紙も探すことができる。新着順とかでも見ることは可能。

読んで良かった手紙には、返信を送ることができる。返信者は受取人、差出人の二種類から自分の立場を選んで入力する。本当の受取人（想われ人）が「自分です」って名乗ったり、あるかもしれない。

ただ、誰でも作成、返信できるわけじゃなく、手紙の差出人、受取人は登録必須にする。メアドとか簡単な登録で、基本匿名、基本無料でできればいいと思う。

また、差出人が手紙のURLを誰にでも送れる機能も付ける。例えばラジオのDJにオンエアで告白を頼む感じで、自分が書いた手紙のURLを相手に直接送ることもできる。

任意で情報を入力する項目もある。あなた／相手のイニシャル、今のあなたの年代、出会った当時の年代、あなた／相手の好きな本／映画／音楽／趣味、出会った場所、〇県〇市、が入力できる。

絶対守るルールは、個人情報保護。当人以外で、簡単に個人を特定できるような内容は書かない。また、感謝の手紙であること。恨み言、悪口にならないように。内容によっては、管理者が独断で削除できる。

どうかな？ たとえ既存であったとしても、新しくやったらおもしろいと思うんだけど。他人の手紙とか読んだら面白そう。バレンタインにちなんです訳でもないんだけど。

あとこれ、『1Q84』の内容にもちょっとかぶるよね。何年も会ってない人たちの世界が、逸れてるようで繋がってない？ さすが春樹。収斂されたわ。

ところで、次は体罰について書こうと思ってたんだけど、アイドルが丸刈りにしてネット動画で謝罪ってアレ、本当に胸クソ悪い体罰だと俺は思う。たとえ坊主にしたのは独断だったとしても（その後公式な弁解読んだら、スタッフは止めはしたけど結局傍観してたって話。無力かお前らは）、公式チャンネルでの放送には大人のスタッフが関わってることを認めてる。つまり周囲の大人が若い女の丸坊主涙謝罪にGOサイン出して撮影してるってことだ（そしてこの体罰は、動画や画像を観た世界中の人々を加害者に仕立てあげることで完成した。まるで映画の『セブン』みたいに）。

良識ある大人なら謝罪放送でさらし者にせず、坊主にしたのは隠してカツラかぶせて、とりあえず脱退、数年後に髪が伸びたら、「実はあのとき、彼女は坊主にした」って明かしてグループに戻す、とかにすればいい。大人がカツラかぶった彼女と一緒に登場して代理で謝るんでもいい。この映像はショッキングなため、ファンの方だけご覧ください的な警告を付けるんでもいい。俺みたいな単に不快を感じた一般人に対して、今からでも何か言うべきだ。

思い出したのは、他人の謝罪場面に偶然出くわしたときの居心地の悪さ。例えば電車の遅延で駅員に怒鳴るおっさん、わざと周りに聞こえるように大声で罵倒して、仕方なく謝罪する駅員見て、俺はすごい嫌な気分になる。アレの数倍、気分が悪くなった。

大体、ちょっと確認したいんだけど、彼女、「メンバーやファンのみなさん、スタッフさん、家族、たくさんのみなさま」に向かって謝ってるみたいだけど、その中に俺は含まれてないよね。俺はあのグループに関して一銭も金を落としてない部外者だ。もし彼女がそんな俺も含めた「みなさま」に謝ってるつもりなら、俺は絶対に許さない。

だって女性を丸坊主にして泣かせて謝罪させる「みなさま」って、人間として最低だろう。街中でそんな光景に出くわしたら「みなさま」のほう完全に悪人、下手したら通報されるよ。

どうかしてる、本当に。この国の空気がそれを許してしまってるのなら、本当に醜いことだと思う。それこそ大阪の体罰の件じゃないけど、この際行政が介入して、あのグループの放送を一旦中止すればいいんじゃないだろうか。それから視聴者はテレビの中の人に過度な期待を抱くのはもうやめるべきだ。そういう時代じゃない。

でもきっとああいうのが面白いと思う人々もたくさんいるんだろう。俺にとっていくら悪趣味だと思える物でも娯楽になるし、金が動くから回り続ける。まだまだ今後もこういう失望感を味わうんだって覚悟は必要だな。ここはそういう場所なんだ。

気が滅入るけど、次回はそこらへんをテーマに書いてみたい。

今回はこんな感じ。どうかな？



さて、丸刈り峯岸みなみの件だが、「ニュースが無いことがニュース」というよくわからない言葉があるが、これは逆バージョンと言えらると思う。あまりにも話題になりすぎたことが一番の話題なんじゃないかな。なんか世界66カ国の報道機関で報じられたらしい。これには僕も驚いた。

世界のニュースになったのは、あまりにも峯岸が奇妙に映ったからなんだろうね。峯岸や運営の大人たちが考えている以上に、世界では恋愛禁止という「罪」は軽く、丸刈りという「罰」は重かったわけだ。あちらでは今頃「おい、NHKやBBCがつくっている世界と、自分たちがつくっている世界はだいぶ違っているぞ！あのアルジャジーラですら俺たちを奇妙な目で見ているぞ！」って声が上がっているかもね。当人や運営は今ごろパラレルワールドを体験しているだろうね。「罪」と「罰」の天秤が、不吉に大きく傾いているもう一つの世界だ。

なぜ、パラレルワールドが起きてしまったのか。キーとなる「罪」と「罰」をしてみるか。

AKBにあまり詳しくない人は知らないかもしれないが、峯岸はAKB48のなかではバラエティ担当で、好きなものは「尺」「おいしい」「数字」なんだ。つまり、テレビ番組でどれだけの時間を自分に使われるかというのが「尺」であり、番組的に自分がウケるかどうかが「おいしい」であり、「数字」というのは視聴率。今回の件では計らずとも峯岸が好きな3点セットで満たされたんじゃないかな（笑）。

峯岸にはスキャンダル発覚前から自分のポジションに対しての焦りがあっただろうね。去年に指原莉乃がスキャンダルをきっかけに、いっそう人気と実力を伸ばしてきたからね。指原は福岡のローカル番組を入れると、6本かな？レギュラー番組を持っていて、AKBグループでは異例中の異例の売れっ子で、峯岸はAKBの内輪番組の司会を1本持っているだけなんだよね。二人はかなりの仲良しだとは思いますが、同時にライバルであるのは間違いないと思う。峯岸は同い年の後輩である指原がどんどん先に進んでいるのを見てきているわけだからね。言わば売れ残りを賭けたお笑い芸人みたいなもので、芸風が過激になってしまったのかもしれないな。

AKBの恋愛禁止というルールなんだけど、これまでに何人もが「罪」を犯して「罰」を受けてきた。まあ、詳細内訳はwikiペディアでもみてもらうとして、整理すると、現在進行形の恋愛発覚への「罰」はAKBからの脱退が妥当なんだな（夢に向かったの卒業という名の自主都合退職か、クビという会社都合退職かはあるが）。指原のスキャンダルは過去の恋愛だったので、AKB48はいわば「脱退」したけど、当時は超マイナーだったHKT48への移籍で済んだと言えると思う。※今でこそHKTの知名度が高まって（これは指原のおかげだが）、「罰」の要素が無いように感じるが、指原も当初は、笑っていいともレギュラーは次のタイミングで卒業するだろなど、しばらく表舞台には出て来れないのではないかという予想が一般的だったし、秋元康もここまで逆境を跳ね返してくるとは思わなかったと思う。へたれのさしこだしね。

指原のようにはいかなくなってしまったのが峯岸だ。指原のHKT成功以来、（準）選抜クラスメンバーが、兼任または移籍という形で日本の地方組織SKE48やNMB48だけでなく、上海やジャカルタのグループにどんどん流れていったからさ。アキバからの「左遷」が「罰」であるという意味合いはほとんど無くなってしまったね。峯岸への公式の「罰」は謹慎+研究生への降格だったけれども、やっぱり脱退と比べると釣り合わないんだよね。

「オリメン」つまりAKB48発足当初からいるメンバーだけ優遇されるのは納得できないという声も出てきそうだし。

どうしても脱退を間逃れて生き残りたいということであれば、自ら何かをするしかなく、「丸刈り」で意思を表明するという選択肢は、本人や大人のなかでは妥当な選択だったはずだし、「オリメン」の間ではそう共通認識が作られていた（丸刈り峯岸とオリメンのピース写真）。そして、指原が「左遷」ネタでかなりの笑いを取っていたように、峯岸も「丸刈り」ネタで笑いを取れるはずだった。丸刈りはちょうどいい罰であると同時にウケも狙える一石二鳥のおいしい話として使えるはずだった。ここまでが、AKB側のワールドの論理。

ところがこちらのワールドでは「恋愛」が「罪」にあたるというルールが奇妙に映った。ファンの間でも意見が分かれるが、アイドルはファンとの疑似恋愛で成立しているところがあるのが一つの理由だと思う。そして、この事実は表に出てはいけない暗黙の了解であって、世界のなかの空気のようなものだ。その空気の温度がこちらとこちらでだいぶ違っていたために、奇妙な対流を起し、質量を狂わせ、天秤を傾ける別世界を作り出した。

AKBは「会いにいけるアイドル」なので、狭い劇場で毎日公演を行っているから、ファンが熱い視線を「推しメン」に送れば、偶然目が合ったりもするだろうし、握手会で簡単な会話ができたり、名前や顔を認知してもらうこともある。そういう「釣り」作戦で、惚れたか惚れられたか曖昧なまま、善良なファンの熱をどんどん上げていって、成立しているようなグループだ。「クラスで何番目かに可愛い子」をメンバーに集めていると言われるが、ここでも裏にあるカラクリが見え隠れする（手が届きそうと思わせる作戦）。

AKBがこのキャバクラ営業で驚異的にCDを売り上げているのは間違いない。AKBのルールである「恋愛禁止」というのは、メンバーはファンの恋人なのだから当然である。メンバーによる「不倫」を禁止するルールなだけだ。さらにいえば「恋愛禁止」はAKBグループがお金を回しているシステムのなかで重要な部品（かドーピングのようなもの）だな。

ここでGの話に戻ってみよう。峯岸がyoutubeを使い画面のこちらに向かって「謝罪」したことを不快に感じたんだよね。たしかにおかしな話だ。GのいうようにGや世間の大半（と僕も）は峯岸とは何も関係がないし、彼女が誰と付き合ってもどんな恋愛しても、どうでもいいことだからね。

峯岸の「謝罪」が不快なのは、ファンでもない僕たちが、彼女に疑似恋愛をしている人たちと一緒にされるからだし、一方的に浮気の謝罪をしてきたからといえそうだね。ファンのなかには疑似恋愛はしていないけれども峯岸を応援している、って人もいるだろうけどさ。つまりは、勝手に俺らが疑似恋愛感情を抱いているかのように扱うなや！ ってことじゃないかな。でもそこは、見え隠れするAKBのカラクリなんだ。誰だかよくわからない相手だが、私峯岸と恋愛関係にありますよ、という前提があるんだな。

峯岸や運営の大人は、ファンを騙すために自分も騙したのだろうし、さらに間抜けなことに事実を隠すために自分も忘れてしまったんだろうな。アイドルとファンは疑似恋愛をしているということ、でも本当はお金を回すための嘘であるということ。

恋愛禁止の罪について、あちらが知らぬ間に非常に重く見積もり、こちらがどうでもいいほど軽く見積もった。天秤はファンが積んできたお金の重さの分だけ狂ってしまい傾いてしまった。

次は丸刈りという罰の重さについてだが、これはGが言っているように、体罰の問題だと思う。狂ったのは社会全般というか時代の流れのなかで起きた歪みだろうな。つまり、「身体を傷つける罰」が時代と共に消えてきているということに尽きる。こちらのほうがより、社会的には重要な話だけど、これはミシェル・フーコーの『監獄の誕生』を読めばすべてわかるように書いてあるから、僕が下手に書くのはやめておこうか。



いや、やめなくていいよ。むしろ監獄の続きが読みたいし。とはいえ、急に詳しくなってるからびっくりした。そっち方向で来たんだ。「ビッグ・ブラザー」もアイドルの前では霞んで消し飛んだ感じかな。謝罪と体罰、金と擬似恋愛、春樹風文学表現。いろんなキーワードがあったけど、ちょうど空気の話題とつながって、別角度な感じが面白かった。

さて、丸刈りの誕生と消失についてはもう広げたくないから終わりにするつもりだけど、テレビの中の華やかな箱庭がやっぱ金と欲の監獄だったってオチで以下、乱暴にまとめたい。

巷のいろんな意見を読んだけど、丸刈りの人（って敢えて呼称してみる。演歌風に。名前書くの嫌だから）ひとりに責任押し付けんののは、情况分析が足りないと思う。

まず第一に、あの丸刈り演出が誰の発案か、結局は藪の中である点。第二に、所詮 20 歳そこそこの小娘らにファンが入れ上げて周りの大人が乗っかって、虚像を巨像にしてるだけな点。そして第三に、スクープした方もされた方も悪趣味なビジネスだっていう点。

それらを棚上げにして、本人にだけ「覚悟の上だろ」「ビジネスに責任取れ」「相手の男が可哀相」って突きつける部外者は、ヤツらが作ったルールに加担して増強してることに気づいてないか、乗っかって楽しんでるだけだ。俺にとっちゃ、同じ悪趣味の範疇だ。

あの動画を大人が配信した瞬間から、この話は丸刈り本人の手を離れてる。でも謝罪してるのは本人だけで、周りの大人は知らんぷりをしてる。あと翌週にはまた新しいスキャンダルがあったけど、今度はもう報道自体を止めたっぽいね。とりあえず、これ以上の炎上商法は逆効果って判断だろう。結局、情報を流すか止めるか、ヅラをかぶせるか否かは、金の動きで大人が決めてるってカラクリだ。

やった、これで監獄の誕生だ。ってことにならないかね。ならないか。そもそもフーコー読んだことないし。まあいいや。ちなみにオランダにいる友達に聞いたら、向こうでは丸刈りは全然報道されてないって。悪趣味が広まらんでよかった。これにて、丸刈りの消失ってオチなんだけど、実は後日談がある。

せっかくだから二つ企画を考えた。ひとつは、アイドルグループに今後やってほしいこと。もうひとつは、丸刈りの誕生と消失をめぐる小説のあらすじ。書いてるうちに大幅加筆でだいぶ大型企画になっちゃった。読むなら気合い入れてお願いします。

まずひとつめ。CD 買って投票するシステムで、社会参画する企画。

つまり、あれってファンの祭りなワケでしょ？ 若者の感覚じゃ、国の政治は中高年の組織票が牛耳る他人の「まつりごと」で、若者は蚊帳の外って思うワケじゃん。実際は若者も投票行為して投票率が上がれば若向きの風は吹くと思うけど。とりあえず政治家はおっさんばっかだしビジュアル的に若者向きの祭りじゃない。

そこで、たくさん CD 買って俺らの祭りを盛り上げようぜって話でしょ？ 一位になって涙するアイドルが眩しすぎて、売り上げで喜ぶおっさんの背景は目に入らない。あのスポットライトが、儲けたおっさんの脂でテカってることに気づいてない。それとも、どうせおっさんに踊らされるなら、「同じアホなら踊らにゃ」って自覚してるのかな。でも、そこまで気づいてるなら「ヲタ」共よ。もう一声踊らされようよ。おっさんの掌を飛び越えるまで踊り狂おうよ。

つまり、個人の容貌や魅力に対して投票するのはやめて、それぞれの政策で評価して投票しよう。つまり、アイドル一人ひとりがそれぞれの政策を掲げて、たとえば消費税とか TPP とか右とか左について発言した内容で、票を勝ち取る。そしたら彼女らも、今回得票が少なかったのは自分の政策が悪かったせいだって、魅力のなさだけを責めずにすむし、良くも悪くも「ヲタ」って呼ばれてるファンも、実は社会のことを真剣に考えてる、背後

のおっさんに二羽織りされてるだけじゃないって評価が上がる。

でもこれ無理だな。だってできるだけ政治に無関心な愚民を作るのが支配者の思惑でしょ？ 気持ちいいほど極論するけど。これじゃ反社会的アイドルって言われちゃうよね。でも、面白くない？ 若い娘たちが熱い政策バトルを展開し、それを見守る「ヲタ」共の熱い視線って、新しいショーの幕開けて気がしない？ しないか。どうせなら政策カードとか作って、カードバトルまでやってほしいね。「T P Pカード発動よ！ 自由化で好きな相手カードを一枚取得できるわ」とか、「じゃ消費税カード発動ね！ 雪ダルマ式でターンごとにカードが増えちゃうの！」みたいな。ライバルのモモクロが、「若者よ働け」とか大槻ケンジ作詞の労働賛歌を歌ってるらしいから、たぶん方向性は間違ってるよ。たぶんね。早すぎるだけってことにしよう。

んでもうひとつ。今回の目玉企画。小説のあらすじを考えました。特濃バージョンでお楽しみください。

報道カメラマンの夢に挫折し、しがたないフリーのカメラマンを続ける秋元は出版社の依頼を受けてアイドルのスキャンダルを追跡し、ついに独占スクープを掴む。そこで丸刈りが誕生する。物語はまさに今ここから始まる。

自分がアイドルを追い込んだことに罪の意識を感じながらも、ファンの報復を怖れ自宅へ戻らず、地方を取材する秋元に、一本の電話が入る。「警察の者だが」。会って話がしたいと。警察と聞いて警戒しながらも、話を聞く決心をする秋元。

警察は、アイドルグループの裏側を追っていた。実は埼玉（最強）連合という裏組織と密接に結びつくアイドルたち。マスコミや財界、政界に食い込むための破廉恥な接待の数々。

ここで割かれるページ数たるや。猥褻描写でワシ掴まれる読者たち。そして悶々とする秋元。「俺も接待されてえ！」

いや、方向性を間違えた。軌道修正。

警察は秋元に協力を依頼する。懐から一人の女の子の写真を差し出す。このアイドルの裏接待をスクープしてほしい、と。

秋元も業界人の端くれとして、その娘の名前は一目で思い出せた。佐藤とさ。「前から後ろから応援してね！」のキャッチコピーが初々しい、今最も旬な売り出し中のアイドルだ。

「彼女まで接待を？」「そうだ。彼女は特に業界では具合が良いと評判になっている。具体的には……」「聞きたくない！ これ以上悶々とするのはまっぴらだ！」

頑なな拒絶に黙り込む警察の人。気まずい感じ。ここの気まずさをどこまでリアルに表現できるかが、この小説の肝だね。まあそれはどうでもいいとして。

「君はもう、あのスクープを撮った時点でこの件に片足を突っ込んでいるんだ。気づいてはいないだろうが、裏社会は君を追っている」「なぜ？」「あの坊主事件、あれは見せしめだ。ここから裏社会との関係を暴くつもりなら、ただじゃおかないと業界に知らしめるための」「あの坊主にそんな意味が？」「たぶんね」「たぶん？」「大体そういう感じだと思うって意味の、たぶん」「言葉の意味は大体知ってる」「たぶん？」「いや、ちゃんと」

また脱線した。

アイドルを金ヅルとしか考えず、女の子を丸刈りにまで追い込む裏組織に憤りを感じる秋元。「撮ってやる。その証拠、掴んでやる」

警察からの情報をプライドから拒み、自分の足で聞きこみ、とさの接待現場を捉えた秋元。しかし、とさは破れた服でホテルから飛び出す。慌てて後を追う秋元。

「あたしやっぱり、接待なんてできない！」「それで政治家をひっぱたいて逃げてきたって言うのか？ でも、これがはじめてじゃないんだろ？」「はじめてよ。ずっと断って来たの！」「なに？」

ひょんなことからとさをかくまうことになる秋元。二人を追う黒スーツの男たち。徐々に明らかになる裏組織の陰謀。そして警察の裏切り。

「なぜ、警察のあんたが俺らを殺しに？」「なぜって。これから死ぬヤツに教えるワケないじゃん。2時間ドラマじゃあるまいし」「待ってよ。次はちゃんと接待するから。この人は関係ないでしょ？」「今更、自分勝手なお姫様だ。接待はしない。でも恋愛はしたいと。安っぽすぎて使い捨ての駒にもなりゃしない」「なぜとさのスクープを俺に追わせた？ 殺すつもりならばはじめからいくらでも」「だから、教えないってばさ」

次の瞬間、警察が振り下ろした警棒を、身代わりになって受ける、丸刈りの人。

「あたしがこの男を抑えるから、早く逃げて」「そんな、丸刈りで……」「いいから！ あたしはこいつを許さない。アイドルは人間なの。人間だから恋したり失敗する！ あたしはマネキンじゃない！」

丸刈りの人に助けられ、その場から逃げ出す二人。寄る辺ない逃走の末、辿り着いた安宿で身を寄せ合う二人。「あの丸刈りのコね、あたしと仲良かったんだ。あのコも裏接待を拒んで。でも合コンとかは好きでね。そんなのやめときなって言ってたんだけど。裏接待を拒んだ制裁でスクープを売られたのかもって、前に言ってた。…気づいたら、丸刈りにするしかなくて。変だよ、アイドルって」「…俺が、撮ったんだ。あのスクープ。出版社の依頼で」「え！」「君のスクープも奴に依頼されてた。でも君は接待しなかった。まさかそれで殺しに来るとは思わなかったが。俺の責任だ。君まで巻き込んで」「それは違うよ。あたしもあのコも、自分で決めてここまで来たんだから。…いずれこうなった。まさかこんな裏のある世界だとは確かに思わなかったけど。でも秋元さんはあたしを命がけで助けてくれた。ありがとう」「いや」「それに、あたしがもしホテルで接待してたら、アイツは殺しに来なかったかも。秋元さんも狙われずにすんだのかもしれない」「それはどうかな。俺ははじめから消されるリストに入ったような気がする。…しかしアイドルってのは大変な商売なんだな。そういや、営業マンの親父がよく言ってたな。商売ってのは商品売るんじゃない、魂を売るんだって」「…じゃ、アイドルも一緒ね」「ん？」「昔々あるところに、佐藤とさという、夢見るアイドルがいました。彼女は、売れる分の魂を残らず売り払ってしまい、最後にはすっかり、空っぽのお人形になってしまいました」寂しげな笑顔のとさ。

「……とさ」「…秋元さん」「いや、名前じゃなくて」「え？」「いや、お人形になってしまいましたとさ。の、とさ」「…なにそれ、おっかし」小さく笑う、二人の目線が切なく交差する。「…とさ」「それはなんの、とさ？」「いや、名前の」「え？」 甘い沈黙の中、見つめ合う二人を引き裂く着信音。

「誰だ」「読者だよ。取り込み中失礼するが、私が今読んでる童話の話をしよう。真実を含んだ残酷な裏側と、書き換えられたお涙頂戴の表側。君ならどちら側を読みたい？」「何の話だ？」「さて、昔々あるところに、カメラを持った貧乏人とアイドルのように美しいお姫様がいました。二人は禁断の恋愛に堕ちたが故、人目を避けて逃走し、挙句の果て無理心中に追い詰められました。…とさ」辺りを見回す秋元。「…監視してる、ってことか？」

「いやなに、これが童話の書き換えられた表側だよ。ワイドショー好みのネタだろ？」「何が言いたい？」「童話の国を守る警護団には、闇接待で骨抜きにされた裏勢力と、それを潰したい表勢力の暗闘があるんだ」「警護団？…警察か？」「さてね。それより君が知りたがっていた童話の残酷な裏側も聞かせてあげよう。もし、政略的な闇接待を断り続けた姫君と、カメラ一丁でスクープを狙う貧乏人が心中したらどうなるか。裏側を知る者は、見せしめの殺人だとすぐ気づくだろう。残された他の姫たちや貧乏人は、裏勢力の言いつけに逆らえば同様の死が待つことを自ずと悟る、ってオチだ」「…それが、俺たちを殺そうとする理由か？」「ただの童話だよ。だがこの童話には続きがある。ご存知のように我々読者は、登場人物である君たちを逐一見守ってきた。その素晴らしい活躍に免じて、新たな展開を書き加えよう。姫君はカボチャの馬車に乗って無事に保護されました。それと引き換えに、貧乏人は来週、姫たちが強制的に駆り出される秘密の船上舞踏会に忍び込み、怪しげな交際現場を撮影しました。…とさ、も付けようか？」「俺が断ったら？」「断らないよ、君は。これはクローズドな童話だ。登場人物は少ないほうがいい。ほら、名前がたくさん出てきたら、覚える読者も大変だろう？ だから主人公の君が適役だ。それに君が断れば姫君はいずれ元の監獄に引き戻される。裏の勢力は強大で、君たちだけで逃れられる術はないからだ。それはいかにも悲劇的な結末だが、味わうのは我々読者ではない。君たち登場人物だ。つまり、待ち受ける悲劇から姫君を解放放つ魔法は、君の腕でもぎ撮るしかない。もちろん、君たちがバッド・エンディングを望むなら話は別だが」「…今まで俺ととさが近づくように、わざと泳がせてたってワケか」「確かに一度芽生

えた情は、強い絆を発揮するものだ。しかしとにかく、君はよくやっている。ぜひこのまま、ハッピー・エンドを迎えてほしい。我々読者が筆を加えれば、更にゴールは近づくだらう」「ひとつ確認するが、ここにいる姫はちゃんと保護するんだな」「仰せのままに」

電話の主に案内され、警察の表勢力に保護される、とさ。「秋元さん、行っちゃダメ!」「なに、いつもの日常に戻るだけだ。……ちっ、悔しいが本当だな」「え?」「いや、なんでもない。それじゃ」

パーティ会場である豪華客船に忍び込み、プールや客室で行われる驚愕の接待現場を目撃する秋元。甲板に設置された大型ディスプレイを背に、全裸で踊るアイドルたち。決死の撮影に成功するも、厳重な警備に気づかれ一気に追い詰められる。万事休すと思われたそのとき。

上空からヘリコプターが現れ、とさが秋元の名前を呼ぶ。次の瞬間、ディスプレイ装置にはアイドルと権力者との闇接待を暴露した、とさの告発動画が映し出される。全世界へ配信され、船上でも映るように工作されたのだ。その隙に秋元は危機一髪で船上から救い出される。

その後、数人のアイドルと権力者がスクープされ、そこで手打ちとなる。二人の活躍により、「多数の権力者の弱みを握ってコントロールする」という表勢力の目的は達成され、秋元は夢であった海外での報道カメラマンへの道を掴む。とさはその後もアイドルとして厳重に警護され、活動や言動を警察に管理される存在となる。

復帰後のライブ会場で、とさは大勢のファンに向かって挨拶する。

「私は、ファンの方一人ひとり、そう、あなたに、恋しています。あなたが、幾多の困難を乗り越え、今ここで、同じ時を過ごし、同じ空の下、同じ空気を吸っていること、生きていることを想うと、とてつもなく温かい、大きな喜びを感じます。だから、他の誰にも、浮気なんてしません。あなたに恋するアイドル、佐藤とさは、前からも、これからも、ずっと、ファンのあなたにだけ、想いを募らせ続けます」

鳴り止まぬ拍手と歓声を浴び、彼女はアイドルとして自然な笑顔を見せる。秋元は回想する。ヘリコプターの中で交わした、とさとの最後の会話を。

「あたし、もうイヤだ。秋元さんを巻き込んで、こんな苦しむならアイドルなんてやめたい」「泣くな。君はアイドルだ。アイドルが売れる魂は、涙じゃない。アイドルなら、笑顔に魂を込めろ。ほら、昔のアイドルも言っていた。涙は飾りじゃないって」「あたし、アイドルやめたい。秋元さん、一緒に……」「悔しいが、君も俺も魔法にかかって、ヒロイックな童話の世界にちょっと迷い込んでただけだ。魔法が解けても君はアイドルだが、俺は王子じゃない。ただの貧乏なカメラマンだ。姫君の幸福を見届けたら、黙って荒野へ走り去る端役だ。ただ最後に、そうだな。じゃ姫君、私めにひとつ褒美の品を賜りくださらんか?」「なに?」「その笑い泣きの素顔を撮らせてくれ。アイドルじゃない、とさって女の子の笑顔が俺だけの家宝にするよ。だからこれからは、人前で涙を見せないと約束して」「…はい」

彼女の写真を懐にしのばせ、秋元はそっと会場を後にする。アイドルは涙を見せない。素顔は大事な人の心にだけ、届けばいいことを知っているのだから。

的な感じ。燃え尽きたよ。一本書き切った。この後「実はアイドルたちは全員、丸刈りのアンドロイドだった」ってSFオチで大どんでん返しっていうね。嘘だけど。

やっぱ今世紀は、あらずじ文学の世紀だと俺は勝手に思うね。言いたいとこだけきっちり書いたら、これ以上に手っ取り早い物語はないとひとりごちるね。もしちゃんとした小説版の方を読みたかったら、Uが補完して書いて。後はまかしたから。

結論として。俺はこれ以上関わらない方がいいな。いろんな意味でアンタッチャブル。これ書き切ったってそう思った。俺として丸刈りの元は取った。お釣りが来るかはお客さん次第だけど。

結局、体罰のこと書くスペースなかった。しかも書いたの消しちゃったし。もう次は大マジで全く別の話題いきたいと思う。ひとつテーマがあって、俺より百倍達者な職業作家たちが書くのを真剣に待ってたんだけど、誰も書かないから俺が書こうと。

今回はこんな感じ。どうかな？



AKB という巨大装置のなかで

2012年 AKB48の東京ドームコンサートのオープニング。「overture」が流れ、会場のファンたちがカラフルに光るサイリウムを振り「あ～よっしゃいくぞ！」

「AKB48!!!」とお約束でそろえた熱狂的な声を上げる。舞台中央の大きな幕が開くと、6段と36列に区切られた超巨大ショーケースが現れる。そこにずらりと収められたのは、統一された真っ赤な衣装を着た AKB グループの全員だ。無表情で気をつけの姿勢をとっている様子は、フィギュアのようなのだが、そこにいるのは生身の女の子たちである。

この舞台装置の一番上の高さは10m以上はある。ショーケース自体が動くこともあって、上段にいたメンバーはかなり怖かっただろう。しかし、ショーケースの狭いスペースに収められた女の子たちはただの商品なのだから、そんなことは言ってもらえないし、そんな声は聞こえてこない。あくまでもこれは、演出であるしエンターテイメントだ。可愛いアイドルたちを飾って眺めるという欲望を表現し、そして彼女らは収められた商品という役を演じた。AKB48という巨大装置のなかで。

フィギュアならともかく、生きた人間を物理的に閉じ込めるのは、実際には難しい。ヨーロッパでも日本でも、建造物として監獄が誕生したのは近代になってかららしい。それまでは危険な罪人は、ヨーロッパでは要塞や塔の限られたスペースに閉じ込められ、ロシアならシベリアという遙か彼方に放置され、日本ならば島流しという手段があった。ただ、これら中世の処罰はあまり経済的ではなかった。収めるスペースは建築的に難しいし、移送には危険と手間がかかり、食事の手配が必要な場合だってある。罪人を生かしたまま社会から殺すのは、よほどの理由がなければやらなかっただろう。主に罪人が有名人で人気者の場合、とりわけ王位継承のライバルや思想家などが対象になった。

ところで、指原莉乃が博多の HKT48 に左遷となったのも、この論理に近い。秋元康の「神の一手」「奇跡の采配」と言われるが、指原はクビにするわけにいかないほど勢いと人気があった（総選挙4位）一方で、過去のこととはいえ、観に来たファンと連絡をとり、手を出して彼氏にしたという前代未聞のぶっ飛んだアイドルでもある。無罪のまま放置するとほかのメンバーへ危険な影響があっただろう。そして、遠方に左遷することで罪は流された。その後の復帰劇と活躍は知られたとおりである。ちなみにロシアではシベリアから生きて戻って来た罪人は一般人として扱われたらしい。

中世では危険な罪人は社会に影響がなければ殺してしまうのが手取り早かった。殺すまでもない場合は、たとえば鞭打ちなど身体を傷つける罰が一般的だった。きっと女に対しては髪を剃るという罰もあったかもしれない。

罰は罪に対して行う社会の自浄作用であり、予防処置でもある。罪人の命ひとつでは釣り合わない場合は、残酷な刑罰が行われる。日本で言えば、ノコギリ引きや釜茹でなどがあった。

身体を傷つける罰が消えていたのは近代に入ってからだ。高度に発展した近代社会が、懲役による労働システムによって、罪人の利用価値を引き出せるようになったからということらしい。罪人を隔離するだけでは満足しない近代の合理主義は、罪人を労働力として利用していく。こうした社会の要請によって、近代のはじめに監獄が誕生した。

合理的であることが正義であり、さらには経済的であることが正義である。その論理の中では、経済的とは言えないような身体を傷つける罰は、野蛮の証であり、正義ではなくなってきた。

教育の手法はそう簡単には変えられないこともあり、一部、身体への罰は残っている。ただ、時代の流れは間

違いなく、身体への罰は禁止する方向へ流れている。教育の場に残った体罰が今話題になるのは、こうした時代のうねりをよく表しているからだろう。

峯岸みなみが、丸刈りにして、自らの身体を傷つけた（まあ髪は皮膚とかと同じですすでに死んでいる細胞だが）ことがこれほどまで話題になったのも、時代のうねりを感じられたからではないだろうか。海外のメディアが多いに取り上げたのも「日本ではいまだにハラキリの精神が残っている」とまではいかないまでも、珍奇な文化として映ったからに違いない。

というわけで、ちょっと乱暴に体罰の問題と峯岸の問題について書いてみた。あまり大げさに書きすぎた。笑い飛ばしたかっただろう峯岸がかawaiiそうになってくるな。でも、大いに時代の流れを読み間違えるとこういうことになるってことなのかな。

あと今回は固く書きすぎたよ。もはや往復書簡でもないし（笑）。次からはもっと軽く書いていきたい。よろしく。（^O^）／



監獄に対するリクエストに答えてくれてありがとう！ っつか、内容が想像以上に監獄萌えでまたびっくり。

つまり U の記事を乱暴に超訳すると、アイドル含め現代の労働者は囚人と変わらない、懲役による労働システムに囚われていると。ただ、労働者たちがそこに気づくと暴動やストになるから、労働者に対する体罰は極力排して、囚人よりはマシって思わせたり、「いじめ、カッコ悪い。労働、カッコいい」ってゾノ前園使って宣伝したりすると。(してないけど。でも今こそ「体罰、カッコ悪い」の出番だと思うね。)

んで、支配層の金持ちが「ガッハッハ、労働者どもよ。お前らは囚人よりマシだぞ」って刷り込んでる流れに逆らうように丸刈り事変が起こり、実はアイドルが囚人と一緒だってバレそうになったから問題になったと。だいぶ跳躍できたな。

さて、我々はユルい囚人である、という極論を引き出せたところで、春樹が新しい長編小説を出すらしいって話に移ろう。俺の読みだと春樹は『アンダーグラウンド』新章として、被災者や原発作業員の聞き取りでノーベル文学賞を取りに行くのかと思ってたんだけど、ちと違かったかな。ま、新作はやっぱ震災も含めた内容かな。

それじゃ、ユル囚人であるところのウマシカな俺としても、震災に関連して我々が何に囚われているか、どんな痛みを抱えているかについて書きたいと思う。こっから冗談抜きの大マジだから。

まず簡潔に、事実から書く。

■作業中（一人休憩室内、一人勤務後）に亡くなった原発作業員

- ・2013年2月27日 50代 心肺停止（死因非公開）
- ・2012年8月22日 50代 急性心筋梗塞（休憩室内）
- ・2012年1月9日 60代 急性心筋梗塞
- ・2011年10月6日 50代 体調不良
- ・2011年8月30日 40代 急性白血病（勤務後体調崩す）
- ・2011年5月14日 60歳 心筋梗塞（実名報道あり）

■作業中に亡くなった除染作業員

- ・2013年2月28日 54歳
- ・2012年1月17日 59歳
- ・2011年12月12日 60歳

現状、上記の事実を一つにまとめた報道記事を俺は目にしたことがない。間違わないように公式な記事をネットで検索し直すだけでも、結構時間がかかった。彼らの死は被曝と因果関係がないと発表されてる。また、彼ら以外にも報道されていない、つまり作業と関係ない場所で亡くなった方が何人いるのかも不明だ。ネットでは他にも死亡に関する真偽不明な情報がたくさんあるけど、ここでは確実な情報だけ書いた。

どっちの作業員も名簿の管理が必要以上にずさんで、誰がどこ行って何しているか不明なまま、って報道されてる。いまだに国が本格的に雇用を管理する動きも感じられない。いっそ人知れず死んだほうがいろいろ都合は良いんだろう。大金が絡んでるから。

でも列挙した理由はそういう憶測含めた話をするためじゃない。俺がここで言いたいのは、彼らはこの国の未来を守るために亡くなったって事実だ。もちろん仕事だし、金ももらう。でも彼らが死ななければこの国の未来はない。誰かが今この瞬間も死にに行かなきゃいけない。戦争と一緒に。そういう意味じゃ英霊って呼んでもいいくらいだ。まあ、英霊って意味よく知らんけど、国を守って死んだって意味ならたぶんそうだろう。

自分の命と未来を守る恩人がいつ何人死んだのか、同じ国に生まれながらどれくらいの数の人が知ってるんだ

ろう。アイドルの丸刈りや、スポーツ選手の活躍とどっちが有名かな。

原発に反対しようが賛成しようが、TPP や消費税と一緒に大きな流れを変えることは難しいだろう。だからこの文章も、俺自身含めて改めて確認するために書いてる。そう、みんな知ってる。あそこでは今もたくさんの人が命がけで働いて、今までもこれからもそれなりの人数が死んでいくだろう。巷で噂の「命の授業」と一緒だよ。我々は彼らの命をいただいて生きてる。国民にとっての「島人ぬ宝」だ。

そしてもう一つ。誰でもいいから作家に扱ってほしいテーマがある。自分にはわかりえない他人の痛みを想像するのが、文化の持つ意味のひとつだと俺は思うから、今痛みを持ちながら言葉を発するできない人にスポットを当てたいと思う。

避難せずに自分の子供が甲状腺がんにかかった親の気持ちについて。本当のところはわからない。でも、想像することはできる。蔑む声。哀れむ声。無関心な声。肯定的な声。否定的な声。救いを求める行き場のないたくさんの方が、自分の内側から響くだろう。

「いわんこっちゃない」「被曝のせいだ」「こうなることは始めからわかっていた」「避難すればよかったものを」「親の責任」「自業自得だ」
「可哀想」「あなたのせいじゃない」「被曝と関係ないんだから、親のせいじゃない」「どうしても避難できないんだから仕方ない」「手術しても死ぬワケじゃないから」
「そもそも原発が悪い」「政治が悪い」「脱原発だ」「いや、再稼働だ」「震災のせいだ」「福島に生まれなければ」「日本に生まれなければ」「10 万人に 1 人、たまたま運が悪かった」「誰も悪くない、誰のせいでもないんだから」
「いや、自分のせいだ。自分が避難させていれば」

堂々巡りの、どこにも行き着かない言葉だ。他人は何とでも言えるが当事者にとっては、右も左も、肯定も否定も既に遅すぎるし、真相は知りえない。それにももちろん、たくさんの方がいろんな原因で病気になるし亡くなっている。どの命がより重いかなんてない。

ただ、2 年前の 3 月 11 日以前には存在しなかった痛みが新たに生まれ続けているのは確かだ。その事実を書くことは、文化の存在意義に関わってくるんじゃないのか？ 誰かのためじゃなく、この国の文化のために必要じゃないかと俺は思ってる。

というわけだが、大マジはここまで。それでは、別な話をしよう。

まず、またやってしまった件。例の「俺ならこう書く菌」が流行のウイルスのごとく脳内で繁殖しました。しかも今回の題材は二つね。

一つ目は、高橋源一郎『恋する原発』を読んで思いついたこと。「魂込めて書いたのに誰も言及してくれない」って源一郎がラジオで拗ねてた下ネタ満載のアダルトビデオ文学なんだけど。60 歳超えた文学界の重鎮がここまでチャレンジングな作品を書いたってことは素直にすごいし、若い作家は胸を借りるつもりで同じ土俵に上がって一番くらい相撲とってみろと感じた。

というわけで、ここから俺が頼まれてもないのに勝手に一人相撲とるから。だって源一郎、ラジオで「間違っても発言したほうがいいよ」って言ってたよ、俺に。いや、あれ絶対俺に言ってたって。だって電波系だから、俺。源一郎、責任、取ってね！（ラムちゃん風）

まず俺が編集者だったら、物語としてよりシンプルな『恋する原発 2』を、一刻も早く源一郎に書かせるね。ストーリーは、最近の AV ではホームレスやら漁船やら世界中の原住民やらに現地で会ってセックスする「ご当地モノ」的ジャンルがあるんだけど、それを下敷きにして、AV 女優が原發行って周辺に暮らす作業員をナンパ

して三人くらいと絡む、っていう展開にする。AV女優の過去、監督の葛藤、単身赴任の作業員とか悩みはいろいろあるだろう。それぞれの生い立ちとか背負ってる思いに焦点を当ててゆっくり物語を進行させ、最後のセックスシーンで、陽の目を見ないAV女優と作業員の気持ちが重なるって絶頂を描けたらかなりグッとくる仕上がりになると思う。マジックミラーの車で、原発の真ん前でね。これ、うまくいけばノーベル文学賞を春樹の横からかすめ取れんじゃないかな。ないか、それは。

あと、原発作業員の特別ドラマをテレビでまたやるみたいだけど、震災時じゃなくて、むしろ今の彼らを日常生活や恋愛に焦点当てて「月9」で放送してほしい。もちろん、途中で誰か作業中に亡くなるの。それを乗り越えて成長する主人公たち。タイトル『核猿』。結構マジなんだけど、どう、この大一番？ 源一郎、責任とってくれるかな。まあ無理か。

そういえば『恋する原発』内でナウシカについて、原作の漫画をなぜか映画って書いてた。あれ、「全部妄想です」って印でもあり、もっと話題になって完全版映画作ってって願いなんだろう。世間的にはナウシカ漫画版全然知られてないから、今更でも紹介して意味はあんだろうね。そういえば震災時、エヴァも〇号機とか暴走とか臨界点突破とか、直接的に連想したな。

んでもう一つは、このサイト内で見つけてしまったある電子書籍の創作コンテストなんだけど。俺もつい後出しじゃんけんで思いついてしまいました。お題は、「お客様の中に、___はいらっしゃいませんか？」って言葉を穴埋めして使用すること。時間は、1時間15分以内。面白い作品がたくさん載ってたよ。

俺も大体時間内で書いたつもりだけど、きっちり時間計ってない上、本当に後出しだから卑怯だし、そもそもその人も俺なんかには書かれないだろうけど、思いついたらどうしようもなく書いてしまい、かつ載っちゃう、だらしなく不遜かつ嫌味かつ失礼な俺。ごめんなさい。橘いずみの『バニラ』以上に本当にごめんなさい。ちなみに今、榎いずみっていうみたいだね。知らなかった。これ最後に添付するね。

今回はこんな感じ。どうかな？

※以下 お題小説 添付

「お客様の中に、より客っぽい客の人はいらっしゃいませんか？」

舞台上から、サングラスをかけた初老の男が客席に向かってそう呼びかける。

他でもない、それが今年で30周年を迎えた「客っぽくていいともコンテスト」の幕開けを告げる、恒例の掛け声である。となれば、客席は当然、一斉にこう答える。「そうですね！」

いつもの掛け合いを合図にして、客席の客たちの我こそがもっとも客っぽい客であるというアピール合戦の火蓋が切って落とされた。

「ええー？」大物ゲストのトークタイムが終了であることに不満げな声を上げる客っぽい客。

よく柿を食べる客っぽい客。

「あれ、この席、この番号で合ってますよね？」自分が座るはずの席に誰か違う人が座っていることを、さりげなく周囲に知らしめる客っぽい客。

「ニッポン！ ニッポン！」大声で声援を送りながら小さな日の丸を振りつつも、自分が映っている大型モニターに気づき、今度はカメラに向かって大げさに日の丸を振る客っぽい客。

「あ、すみません」後ろの席の人に一度謝ってから座席を少し倒すフリをする客っぽい客。

「ヒーヒッヒ！」周囲より先んじて大きな笑い声を上げることが生きがいの客っぽい客。

「あれ、この席、この番号で合ってますよね？」アドリブが利かない客っぽく、他の客っぽい客とかぶってしまう客っぽい客。

「カシャ」自分の目で見ると先にも先にスマホで撮ってしまう客っぽい客。

「zzz……」暗くなるとどうしても寝てしまう客っぽい客。

「エックス！」手をバットンにして飛ぶ客っぽい客。

「白、ん～、やっぱ紅」赤色の札をあげて野鳥の会の人集計を待つ客っぽい客。

とにかくよく柿を食べる客っぽい客。

「あ、これ柿じゃなくて、牡蠣だった！」素人っぽいベタな駄洒落を狙って牡蠣を見せびらかす、客っぽい客。

優勝はもちろん、それでも黙々と柿という柿を食べ尽くす客っぽい客である。毎回そうだ。今回は 12 個食べた。その数字が持つ中途半端な大食感も、より客っぽいとして評価されたのは言うまでもない。

そして何より、その一部始終を舞台上からぼんやりと眺める黒いサングラスの人の、客以上に客然とした仕事しないオーラこそが、このコンテストが 30 年間続いてきたもっとも大きな魅力なのだから。



まずは監獄の話をもとめてくれてありがとう。超訳どころか、言いたいことをそのまま伝えてもらっているよ。そうそう、現代人はみんな囚人なんだよね。

ただ福島原発の死んだ英雄については、反論をさせてもらおうよ。保険会社とか政府の統計によると、50代男性が1年間で死亡する確率は0.1%から0.2%くらい。つまり職場に1000人いれば、1年後にはそれが999人か998人くらいに減っているという計算だ。

原子力発電所で働いている人は約1万人くらいらしい。つまりは確率的に毎年10、20人はなんらかの理由で死亡しているはずなんだ。たとえ放射能の影響が全くない状態でも。

突然に死亡する場合は、心筋梗塞もそこそこ多いと思うけど、そのくらいの年齢の労働者が死ぬ場合の原因として10%くらいはあるんじゃないかな。そうすると、挙げてもらった死亡者と死因のリストについては、特別なところはあまりなさそうで、むしろ、平均的な死に方をしているって言えるんじゃないかな。むしろリストでは亡くなった人が少ないので、他にも亡くなっている人はいるだろうな。でも、特別なことがなければ報道されないだろう。単純にプライベートな話だと思う。

要するに原発作業中に死んでしまうのも、皇居をジョギング中に亡くなってしまうのもあまり違いがなさそうな気がするってことだがどうだろう？

原発に限らず、世の中の便利の影には、恐ろしい数の犠牲者がいたはずだ。

ところで、便利のために犠牲になった人がもっとも多いのは、なんだろうな。

おれは「火」か「自動車」だと思っている。火の方はちょっとわかりにくいから、自動車について考えると、これまで自動車事故で亡くなった人はどんだけいたんだろう？ 推定するのも大変だけど、かなりヤバイんじゃないか、自動車は。文明が生んだ悪魔って呼び方したほうがいいのかもね。

原発を無くせという前に、自動車を無くせとはならないのかな。思いきり世界観を変えれば、世の中には自転車と鉄道と飛行機があれば十分な気がするんだが、どうだろうか。もちろん、これら代替交通手段だって死亡事故を起こしているが、確率があまりに違う気がする。

「お客様の中に～」の小説面白かったよ。あんな短い間にあれだけ書けるなんて、おれからすれば、信じられない特殊能力だよ。うらやましい。おれも考えて見たけど、全然面白いものが浮かばなかった。



サイコーに腹の立つ、ど真ん中ストレートの直球をありがとう。学生の頃、殺してやりたいくらいの怒りで何度も喧嘩したことを思い出したよ。これで読者（特に女子）の「こいつら何言ってるの？」って冷やかな視線さえ揃えば完璧な文章になると思うね。

繰り返すけど、U の 2ch みたいな返しは本当にベストだ。まず誉めてくれたし、二人のバランスも取れたし、更に俺の真意とは微妙にズレてるから、改めて補足を広げやすくなった。

まず車について。U の意見を現実的に考えるなら、鉄道やバス等の交通機関が発達してる都市部は、当然人口も多いし混雑してるから自動車事故も多い。となると、社用以外の車を減らそうってキャンペーンは普通にある話だ。「バスに乗ろう」とかね。

逆に人より先に牧牛に遭遇するような田舎道でよく「事故ゼロの村」とか看板あるけど、そりゃまあねって思う。人口より野生動物の方が多いいんじゃないのって。ただそういう場所では自家用車は必需品だ。

つまり都市部なら車を減らすことが人命を救うことにつながるかもしれない。でも更に現実的に考えたら、車を大々的に減らすキャンペーンはやっぱ不可能だろう。だって大金が絡んでるから。車業界や広告費もらってるメディア等が後退を認めるはずはない。自動車の事故死亡者数は少し前は年間一万人くらい、シートベルト取り締まってからは減ってるみたいだけど、その分事故後に障害を負って生き残る人は増加しただろう。また事故後何日で死亡したか、直後か 30 日後か、その日数を変えると統計の数字も変わるらしいから、金の動きに合わせて官僚やらがうまく調整してるはず。原発と同じ構造だ。事故が起きたからって簡単に止まるもんじゃない。

さて、続いて原発作業員の本題へいこう。

俺は前の文章内で、作業員の死因が被曝と関係あるかどうか、その人数が多いのか少ないのか等は問題にしてない。そこは言い出してもわからない、俺ごときに調査できないブラックボックスの中だから。それよりも俺が言いたいのは彼らの扱いに対してだし、彼らだけじゃなく、たくさんの人の新しい痛みに対して文化が今どう向き合ってるかって話だ。ここ、ちょっとクリアじゃなかったから、あえて例示とか出そう。

例えば、ある集団がストライキを起こしたと想像してほしい。まず、自動車工場とかの従業員がストライキを起こしたらどうなるか。まあ、だいたいああなってこうなって。ある程度落ち着くところに落ち着くだろう。

では次に、警察とか自衛官がストライキを起こしたらどうなるか。海外とかで聞く話だ。いろいろ大変だし問題が起こるかもしれない。結構、危険な話だろう。

そして本題。もし、原発作業員が全員ストライキを起こしたら、原発はどうなるんだろう？ 想像した人、それぞれに考えはあるだろう。実際はわからない。ただ一つ確かなのは、原発はとにかく誰かが行って毎日作業しないと大変な事態になるってことだ。命を削る代償として幾ばくかの金をもらって仕事する人がいるおかげで、目の前にある危機を日々延命してる、それがこの国の一人ひとり、笑顔の裏に現存してる事実だ。

車の事故、国際衝突、そして原発復旧。いろんなタイプの危険があるけど、それに見合った注目を文化はしてるのか。作業員の死をまとめることもなく、彼らの管理はずさんなまま、そこから湧き上がるいろんな考えを取り上げるでもない。被曝で死んでないから、彼らの死はジョギングや自動車事故の死者と同程度の扱いだ。それについて「彼らの死はプライベートだから」って断言するのは、U にしちやちよっと学問的公平さに欠けると俺は思うんだが。だって天秤の片方の皿に乗ってる人命は、もう一方の皿に乗った考えられないくらいのお金と秤にかけられてんだから。更に手品よろしくビニールシートがかけられて、「中は暗いから見えません」ってあやふやな説明で、誰がどう重さを調整してもわからない仕掛けになってる。

甲状腺がんで子供が死ぬことも、震災以降まったく別の意味を持つようになった。でもそれは被曝と関係あるって話じゃない。震災以前ならまったく感じる事のなかった新しい痛みを伴うってことだ。その痛みを文化は

想像力で他人に伝える能力を持つてるが、持つてるだけでまだ使われてない。

それでいいのか文化？ ってことを俺は書いたつもりだ。俺は原発に賛成反対の議論よりこっちが先だと思ってる。ついでに発送電の分離とか電力会社の独占禁止を先に決めれば、電話みたいに市場の原理で発電の流れも自然と変わるだろう。選挙だって脱原発より脱独占のほうが国民にはしっくり来ると思うのに。

ま、それでいいんなら別にいんだよ。アイドル同様、上手に囚人化されてる愚民どもの国だからね。あ、冗談だよここ。笑うところだから。俺自身、こんな愚論を考えるのが精一杯の愚民です、ってオチでね。ひっひっひ。

結局、自分の身は自分で守るしかないんだ。

さて、次の話題についてなんだけど、TPP とか時事問題を文学的に表現したいと思ってる。目指すは池上さんのわかりやすさでね。次に書くつもりだけど、あれ推してる人の中には「企業の力で官僚機構を打破する」みたいな目論見の人も結構いるよね。その企業ってのが国内だけじゃないからいろいろ問題あるんだけど、実際それが可能になりそうな枠組みだから。

でも、北の核発言とか、40歳定年制とか、アメリカ発のバブルとか、妙な感じのこと多いわ。

さて、今回はこんな感じ。どうかな？



原発の件については意見の相違があったのかな？

おれは原発賛成の立場なので、原発について何かを話すと 99%他の人と意見が食い違ってしまうからね。なるべく原発については話さないように気をつけていたんだよ、実は。

原発賛成の立場からすれば、原発で働いている人たちは、まさにヒーローであり恩人だ。感謝しているよ。事実、危険と隣り合わせだと思うし、覚悟の上で働いていると思う。

だからこそ、あたかも作業員が被曝してパタパタ亡くなっているって、事実でないのに、隠された事実であるかのように言われてしまうと、反論せざるを得なかったんだよね。風評被害ではないけれども、根拠なく危険性のみを煽ることを止めたかった。

もし、原発作業員がストライキを起こしたらどうなるか？

まじめに働いている人たちのことを思うと、かなり不謹慎な想定だが、ほんの少しか話を進めてみたい。

原発は核反応し続ける臨界状態を起こし、熱エネルギーを得て運転しているが、制御棒を差し込めば、臨界は停止される。そのため、作業員が怠慢を起こして、運転のコントロールが失われたとしても、自動的に制御棒が燃料棒の間に挿入され、原発は臨界状態から安定状態になり、安全停止される。まあ「安全停止」とはいえ、それが大変なことだといえばその通りだが。

福島原発はそれ以上に大変なことが起き、メルトダウンした。もし作業員がただのサボタージュ以上のことをやれば、うまくすれば原発はメルトダウンさせられるかもしれない。でもそれはテロと呼ぶべき行為だな。特殊部隊が制圧して原発を安全停止させるべく動くはずだ。ものすごく不謹慎な想像だが。

ただ、今回の福島原発の件で初めて誤解していたことを学んだけれど、原子力発電所には核爆弾のような破壊力はない。構造が違う。原発には、核ミサイルのスイッチみたいなものがないという意味ではなく、どんなスイッチを押しても、あるいは押さなくても、核爆発は絶対に起こせない構造になっているらしい。もちろん万が一、震災の時のように再びメルトダウンして放射能が外部に漏れれば、広い範囲で人が住めなくなるけれど。

さて、原発の話はこれくらいにして、久しぶりに『1Q84』について。

ブームに湧いていたころ、世間では「リトルピープル」とは何かというテーマが話題になったが、結局ははっきりしないままだったという印象が強かったんだよね。

G. オーウェルの『1984』に出てくる、「ビッグ・ブラザー」との対比概念であることは間違いないと思う。ビッグ・ブラザーはソ連のスターリン政権をモデルにしている、権力のピラミッドの頂点に君臨している。国民はつねに監視カメラのような装置でモニターされており、体制批判はけっして許されず、疑いを持たれるだけで、強制連行され、抹消される。主人公は体制下で、歴史の編纂の仕事をしている。刻々と変わる政治的状況にあわせて、過去を細かく書き換える仕事だ。たった一人に権力を集中させる国家体制には、必要な仕事なのだろう。歴史を書くという行為と権力の集中が物語では結びついている。

一方、村上春樹の『1Q84』は、民主的な日本の 1984 年を舞台にしているが、現実の 1984 年とは少しだけズレがあるパラレルワールドだ。

現実との一番の違いは月が二つあるということだろう。まあ、これは虚構であり、小説の世界の話ですよ、そして、パラレルワールドに入っていますよという、言わば目印みたいな存在ということにしておこう。

もうひとつが、新興宗教団体のようなコミュニケーションによって、反体制派事件（浅間山荘事件に似ているがもっと過激な事件）が起こされ、それにより、国家による国民活動の自由が若干抑制されているという点がある。結果として警察の拳銃がより火力を増したという描写がある。

ふかえりは、「空気をなぎ」を書き、リトルピープルが出現して流出した。少しだけ体制的になった 1Q84 年の

日本と、ふかえりの書いた「空気さなぎ」、リトルピープルがセットになっている。これは、『1984』の超体制的な世界と、主人公が書き換えている歴史、ビックブラザーがセットになっているのと同じ構造として整理しておこう。

これが何を意味しているかは、また今度、読み解いていくよ。



第六回 『55歳からのハローライフ』と、

彼と巡礼と帯

考
え



「ウマシカよ、
やわらかくトンがれ！」

“UMA-SHIKA, be ton-bitious!”

弦楽器イルカ  + 友人

※次回の掲載はこそっと 2013 年 4 月 12 日周辺を予定しております。本編内容は公開しませんが、せっかくご覧になった方々に向けて、残念なボツ原稿を掲載いたします。過度な期待はご遠慮ください。

「やわらかくトンがれ」が「やわらかトンカツ」になるまで

弦楽器イルカ

というワケで今回からはじめての帯だけど、このコピー文が完成する瞬間について説明しておきたい。

つまり青年が大志を抱くなら、中年（ウマシカである我々）はいったい何を抱くべきか。その問いからすべては始まった。野心？ はたまた、風俗嬢？ 「ウマシカよ、風俗嬢を抱け」チガウ。強い否定の言葉に振り返ると、そこにいたのは他ならぬ俺の中のクラークさんだった。そこで俺は、強く鋭いけれども、しなやかで柔軟な中年像をイメージしてこのコピーを思いつき、俺の中のクラークさんに見せた。

俺の中のクラークさんって、実は恥ずかしながら日本語覚えてたてなんだよね。だからカタカナ交じりのひらがなくらいが音読にちょうど良いらしい。なにになに？ 俺の中のクラークさんは思わず口に出してつぶやいた。立派な髭をたくわえた米国生まれの紳士だ。青年は大志をアレしよう、って熱い決意を胸に秘めてる。ただやっぱり習いたての日本語だから、まだまだ読み間違うことも多い。でもその間違いが奇跡的にうまく作用して、この帯に新しい魔法を仕掛けたんだ。

「ウ、ウマ、シカ、ヨ。ヤ、ワラ、カ、トン、カ、ツ……？」

クラークって名前のよく知らない人が、カタコトで柔らかいトンカツに関する発言をする。その瞬間、この帯は初めて完成するんだ。俺はそう思ってる。でも残念ながら関係者（俺と U）には徹底した緘口令を敷いてるから、この話はここまでだ。

わざわざ目を通してくださった皆様には、（45 万部に爪楊枝で戦争を挑む程度の）戦略にご協力いただき、誠にありがとうございました。本編掲載までもう少々お時間がかかります。できましたら本編への程良い飢餓感が生み出すハングリーマーケットのほど、呆れずに辛抱強くよろしく願いいたします。

「リトル・ピープル」とは何かをここで〈完全に〉解明しよう。

《その1》 見えないルールともう一つの世界

長くひっぱってしまって、申し訳ない。『1Q84』を読み返し、分析や検討をしていたら、時間がかかってしまった。

でも、待ってくれた人がいたとしたら、その極々少数の人たちはラッキーだ。なぜなら、これまであなたがけっして解くことができなかった答えがここに書いてあるからだ。

さあ、リトル・ピープルとは何かをここで〈完全に〉解明しよう。

『1Q84』はシュールな作品だ。ちょっとニュアンスを修正すれば、シュルレアリスムに属する作品だ。

本物の月の隣にもう一つの小さな月があり、宗教団体の教祖が念力で置き時計を宙に浮かせ、性交がないのに妊娠する女が描かれ、死体の口から不気味な小人が出てきて世界を変えようとしているから？ いや違う。

それだけではシュルレアリスムな作品とは言えない。ファンタジー小説や SF 小説も、その程度のことなら余裕で登場するだろう。

『1Q84』がシュールだと言えるのは、そういった内容のことではなく、作品と世界の関わり、作者と登場人物との関わり、書籍と社会との関わり、それらが非常に特異な構造をもって私たちと関係を結ぶからである。

たとえばこういうことだ。

「これはパイプではない」とタイトルが書かれた、パイプの絵がある。この絵画の作者はシュルレアリスムの画家ルネ・マグリット。

キャンバスに描かれているのは、誰もが知っているパイプであり、それ以外には何もない。不思議な点はただ一点、そのタイトルと絵が一致しないことだ。あきらかにパイプの下に、はっきりと「これはパイプではない」と書かれている。

私たちにはどこからどう見ても、この絵がパイプにしか見えない。

不条理な作品と思われるが、ミシェル・フーコーは同じタイトルの著書『これはパイプではない』で、この作品の謎を解き明かした。言い方を変えると、作品を狂気から理性の世界に配置することに成功した。

だが、いったいどのようにして？

答えの例はこうだ。

- ・このパイプは片一方の側面しか描かれていないが、向こう側がどうなっているかわからない。
- ・これはパイプの絵であり、パイプそのものではない。
- ・「これ」は、言葉であり、つまり指示語であるので、パイプそのものではない。
- ・「これはパイプではない」と絵の下に書かれているからといって、それがすぐ上の絵を、指示しているとは限らない。

そのほか、様々な答えをフーコーは書いている。この答えをみて腹を立てた人もいるかもしれない。

なぜ、腹を立てたのか？（あとでリトル・ピープルが腹を立てていることについて触れる）

それはフーコーの答えが、見えないルール違反であると感じたからではないだろうか。「そんなのズルい」と感じたからではないだろうか。

ここでいうズルいとは何か。自分が所属している社会のルールが違反されると、人は不安を感じ、違反者に対して攻撃的な感情と、違反を排除しようとする心理が生まれるようにできてる。そういうことだろう。

見えないルールとは、たとえば、「絵の下に書かれた言葉は、その絵を指示しなければいけない」とかそういう

ものだろう。このルールはなぜ暗黙なのか？ 暗黙であることに意味があるのか？ 非常に興味深い話が「1Q84」からそれるので、これ以上は触れない。

『1Q84』に話を戻すと、作品に書かれた内容が、私たちの現実合っていない。たとえば、月の数が違う。しかし、この小説と現実を一致させることに意味があるだろうか？ あるいは、一致していないことにどんな意味があるだろうか？ 小説と現実の相互関係によって、見えてくるものは何であろうか。見えていないルールとはなんであろうか？ フーコーがシュルレアリスムの絵画を解きほぐした時と同じ視点をもって、リトル・ピープルとは何かを＜完全に＞解明しよう。

だが、「1Q84」の世界は想像以上に入り組んでいる。まるでスパゲッティのようだ。そう「1Q84」はまるであのスパゲッティの話のようだ。

さて、これから文中の言葉を引用しつつ、この絡まりを丁寧に読みほどこいていこう。

《その2》 『1Q84』はベストセラーであると同時に、ベストセラーについての物語でもあるということ。

いうまでもなく、村上春樹が書いた『1Q84』は社会現象をも巻き起こしたベストセラーであるが、同時に作品中の『空気さなぎ』も作品中でベストセラーになった。実はこの二重性のなかに、リトル・ピープルの謎を解く鍵が隠れている。

天吾が『空気さなぎ』を書き直す前も、それは他の人に読んでもらうための物語だった。

それはどう見ても、ほかの誰かが手にとって読むことを前提として書かれた文章だった (1-p128)

そして『空気さなぎ』を書き直して世に出せば、世間がひっくり返るほどの衝撃を与えられると小松は考えていた。「二人で力を合わせて世間をひっくり返そう (1-p124)」

『空気さなぎ』はその魅力的なストーリーで、人々の心をとらえ、ベストセラーになった。言い方を変えると、社会に広く拡散された。作品『空気さなぎ』は、「物語」を効果的に広めるのに一役を担った。天吾や小松の存在、さらには、出版社や書店の存在と同じく、『空気さなぎ』は、「物語」を繁殖させるための装置（乗り物）なのである。

『空気さなぎ』あるいはその元になった物語はどんな内容なんだろうか？ ふかえりの保護者である「先生」はこう言っている。

「興味深い物語だ」「すぐれて暗示的でもある。しかしそれが何を暗示しているのか、正直なところ私にはわからない」 (1-266)

先生に限らず、作品『空気さなぎ』が意味していることは、「1Q84」の登場人物には見えていない。なぜなら『1Q84』において、『空気さなぎ』の本質は、書かれることで満足するものではなく、その中身が重要なものでもなく、発表され、販売され、多くの人に読まれることにあるからだ。内容やその意味は二の次である。

一方、『1Q84』のなかで、3 ページほどに渡り冗長すぎるほどに引用された『平家物語』だが、作品のなかで異様に感じられないだろうか？

『1Q84』の読者のなかには、この部分を読み飛ばした人もいるだろう。

でもなぜ、これほどまで、具体的に『平家物語』が書かれなければならなかったのだろうか？ しかもよりによって『空気さなぎ』を紹介するべく設けられた記者会見のシーンで。

『空気さなぎ』の具体的中身にはほとんどスペースを割いていないのに、『平家物語』を引用するスペースは十分に確保したのは、なぜだろうか？

もちろん村上春樹は意図的にそうしたに決まっている。

それは、『空気さなぎ』がほとんど具体性を持っていないことを、よりはっきりと明示するためだからだと思う。

春樹は『平家物語』の長々とした具体的な引用を利用して、『空気さなぎ』の非具体性をはっきりしたかったのではないだろうか。

たしかにはっきりとするだろう。だが、非具体性を強調することに意味はあるのだろうか？ もちろんある。

内容はおいとくとして、作品『空気さなぎ』は『1Q84』の中でどのような役割を担ったのか？ 言い換えるなら、それが拡散されることで「1Q84」に何が起きたのか？

こう思う人もいるかもしれない。『空気さなぎ』はリトル・ピープルを生じさせたり、拡散させるような何かだったのだ。

いや違う。全く逆だ。ふかえりは反リトル・ピープルの存在 (2-p276) であるだから、天吾とふかえりのタッグで作った作品『空気さなぎ』もまた、反リトル・ピープルの何かであるはずだ。

リトル・ピープルは、『空気さなぎ』が出版され世に広まっていくことに腹を立てたことを、思い出そう。腹を立てるということは、それがルール違反であることと同じことかもしれない。

ルール違反は2つ。世に広めたこと、そしてそもそも、フィクションとして書き表したことだ。

リトル・ピープルが何であるかは、反リトル・ピープルが何であるかを知れば、あきらかになるだろう。そして具体性に欠いた<中身の無い小説>は、それを解く重要な<鍵>になることを言っておこう。

だが、我々は<鍵>を手にしたとして、それはどのように回せばいいのだろうか？

もうすでに、私は先に書いている。

それはスパゲッティをフォークで回すように回せばいいのだ。わからなければ、インターネットで検索すればいい。もっと具体的にいうと「恐怖のナポリタン」というキーワードで。あなたの前にリトル・ピープルが出てきても私は責任が持てないが。

あまり驚かすつもりはなかった。これは冗談。怖くなった人は、先を読んで安心して欲しい。これは文芸評論にすぎないことがわかるだろう。

さて、リトル・ピープルがなんであるかがわかったところで、次から『1Q84』の特殊な構造、シュルレアリスムたるゆえんを読み解いて行こう。



すごい上から、まさに大上段で来たね。わかりやすいし面白かったけど、この2013年4月12日0時、本屋が大混乱してる最中に、今さら前作の『1Q84』について熱く語って更に次回へ引っぱっちゃうあたりのウマシカさが特にカッコいい。ただの謎解きだけじゃなくて、現実社会にまで踏み込んだ分析になりそうだね。ちなみに俺も今やっと元ネタの『1984年』を読破。あ、まんがで読める方ね。でもちゃんと小説を読みたいと思わせる、まんがでもなかなか示唆に富んだ内容だったよ。

そこで、一つ質問がある。リトル・ピープルが牛河の死体を囲んで空気さなぎを編んでたシーンあるけど、空気さなぎはあくまで反リトル・ピープルってことでオッケーかな？ では次回、池上さんばりの「いい質問ですね」を期待するよ。

今回は俺も池上さん越えのわかりやすさを狙ったんだけど一つにまとまらなかった。だから開き直ってぶつ切りで掲載するから、Uがどの書き出しがいいか選んで。ってか別に選ばなくてもいい。ただ箇条書きっぽい内容になったので、そこはご容赦ください。

ちなみに予告編からのハングリーマーケットにご協力くださった希有な方々には敬意を表します。ウマシカの骨身を削った文章で深夜に小腹でも満たしてくだされば光栄です。

書き出し①

さて、前回『上手に囚人化された愚民どもの国』って冗談で書きすぎたんだけど、それがずっと引っかかってた。書き直そうかと何度も思ったけど、俺の中では言い過ぎじゃない、昔から根底でくすぶってた感情だと気づいてやめた。

他の国のことはわからないけど、この国に住んでてずっと違和感があった。

昔、政治家の汚職が大問題になった頃、「みそぎ」って言葉が流行り、自称「みそぎ」を終えた政治家たちが次々に再当選を果たしていった。俺には意味がわからなかった。みそぎって、あの人らはいったいどんな罰を受けて、有権者は何を許したんだろうって。

それはずっと続いている。相撲の八百長、巨人のスキヤンダル、自民党の下野、原発事故。何かが悪かったから、驕りがあったから起こった、その間違いを正そうって論調が当然のように報道されたけど、単にポーズだけで心の底では変革なんて求めてない。

世界でも最先端の首都東京から250キロ圏内で起こった、前例がないほどの原発事故。収束にあと30年以上かかる。復旧する作業員らは怖ろしくダーティな扱いのまま。特に作業員については今年も3月11日前後にいろいろ報道が出てたけど、二年経って扱いはより劣悪になってるみたいだ。例えば報道では、汚染され穴が開いた使い古しの作業着が支給されるとか、最低賃金が時給837円とか。1日12~13時間拘束され手取りは月16万円余り。もらえるはずの危険手当は支払われない。違法な偽装請負やピンはねが当たり前に横行し、名簿や線量の管理もずさん。王様に雇われた奴隷みたいな扱いを受けてる。

国会でも作業員の待遇改善ってほとんど取り上げられない議題だし、この前出された「作業員に国民栄誉賞あげたらどうか」って意見に対しても首相は、「ここでは明言できない。とりあえず前人未到の記録を残した人にあげる賞だ」とか答弁してた。これ、組織票を持つ有権者に対してなら、たとえ嘘でも「気持ち的にはあげてもいい」くらいリップサービスするところだよ。権力者側から見たらいかに優先度の低いマイノリティかって証明だろう。むしろ一般国民のほう立場に関係なく、原発作業員には感謝してる気がする。(そういえば前回、津波で亡くなった二人の東電社員の記載が抜けてたな。ちなみに東電の社員で事故関連で亡くなって報道されたのはどうも彼ら二人だけだね)

そこで俺はもう一步踏み込んで、「作業員の雇用を国が直接管理して月収100万円にする」法を通したらいい

のについて思う。だって今検討されてる「40歳でリストラ」の法が通ったら、明日あそこで作業するのは俺かもしれないモン。でももしTPPで海外から安い労働者を呼んで作業員にする気マンマンだとしたら、今後40歳でリストラされた中年は作業員にさえなれないって悲喜劇なんだが。

とりあえず誰かが働かなきゃ国が減ぶっていう福島原発作業員が劣悪な待遇のまま事実だけでも、原発がダーティな発電方式だって俺は思う。今までずっとそれで来たしこれからもそれで行く気なのかと思うと、例の丸刈り並みに気が滅入る。

とはいえ、みんな上手に囚人化されてるから、「ガッハッハ。そんなのこき使われる日雇い労働者が悪い。権力者側に立てば勝ち組、奴隷作業員なんて使い捨てだ」って笑ってるんだろう。なんて卑劣な民族なんだ、この国の人（俺含む）。そうじゃなきゃ、毎時一千万ベクレルのセシウムが漏れてる現場で、お国のために寿命削って日夜働いている人々に対して、月収百万ごとき逆に安いで思うよね、当然。作業員を軽視してる権力者の皆様方にとっちゃ百万なんてはした金ジャン。

というワケで少し脱線したけど、これだけの事故が起こって二年経った今でも、明確な責任を誰も取らない。しかも今頃になって、事故当時の冷却水は9割がた漏れて燃料が空焚きになってたとか、まさにみそぎ期間を終えた情報が汚染水みたいに小出しに漏出してくる。苦心して張り巡らされた、責任を曖昧にする会議だけのシステムが磐石に機能して、(汚)水を得た(汚染)魚の如く高い影響を及ぼしてる。何事につけ仕組みを作るほうは、怖ろしく大きな金と数の力で自分たちに都合良くごまかして伝えようとするから、俺みたいな愚民の関心が分散されて低きに流れるのは当然だよ。

事故直後に、「全作業員を撤退させる」って提案が電力会社から政府にあったかどうか、以前大きな問題になった。その話が二転三転してうやむやになった後、「全員退避はまだか。いつするんだ?」「今しかるべきところに確認してる」って会議で揉めてたビデオがニュースで報道された。でも追従するメディアはなかったし、そもそも俺が最近までその報道を知らなかった。

「中は暗いから行けない」って国民の代表である調査団を門前払いした電力会社の部長の件は、虚偽に虚偽に更に虚偽を重ねたが結局故意じゃないって弁護士の第三者機関が発表した。俺の趣味は最近国会観賞だから、その部長がビデオまで見せていかに暗く危険か偽装した、ってとこまでは聞いた。まるでキスの現場を目撃され写真まで撮られても「キスだけど故意(恋)じゃない」って言い訳する浮気旦那に、更にその両親まで味方についちゃった、ってくらい間の抜けた話だけど、この報道ももう下火だ。

少し前、テレビに出てる人たちがクスリで次々に逮捕されたとき、後ろ盾のない弱いタレント個人はコテンパンに扱われたが、業界に権力を持つ組織人はほとんど報道されなかった。最大手の新聞社に守られていけば、野球監督や選手のスキャンダルも表面上しか追及されないのと一緒だ。

でもそんな社会を正そうなんて言うだけ無駄だ。ただそれを当然と受け入れてしまってるこの国の文化が、圧倒的な無力感に支配されている。その無力感がこじれて、叩きやすい「悪」を匿名でバッシングする風潮も生まれてる。

とはいえ、この国の人たちがまったく物を考えてない「愚民」ってワケじゃないと思う。右も左も社会悪をどうやって正そうか、割と真剣に考えてる。でも表立って社会の話をしたくても浮いちゃうし恥ずかしい。だからちょっとした正義の講義とかが人気になるのは、実は考えてるし話してみたいって証拠だろう。でもこの「浮いちゃうし恥ずかしい」って空気が実はもっとも上手い世論誘導な気がする。誰も物を言わない状態で、「みんな実はこう思ってるよ」って大量に報道されれば、まあそんなもんかって流されちゃうからね。

それに貧しく不満の多い国のデモはしばしば過激派とかになるけど、この国の人たちはそもそも裕福で、上手にコントロールされてるから、デモも趣味の範疇で収まってる。

だからこの国がもっと貧しくなれば、北欧の国みたいに投票率が90%くらいになって、若者も真剣に将来とか考え始めちゃって、若者向けの雇用や少子化や教育に関する改革を要求しだすかもしれない。まあ、そんなとき

やもう遅すぎるかもね。

でもここまで書いて思ったけど、別にこの国の今に特有な傾向でもない気がする。村上春樹や吉本ばななとかが世界的に流行ってて、あるいは『グレート・ギャツビー』や太宰とかもまとめて荒く言えば、「みんな何でなかったことにできるの？」って疑問が大きなテーマだからさ。疑問を持つ人は多いけど逆に流す人も多いから、多数決では相殺されちゃうんだろう。

たとえば俺自身の祖父母は「腹減った」とか「便所行きたい」的な欲求を発言するだけで、基本は虫と一緒にくらの考えだった。いろいろ考える人がいる一方で、虫っぽい考えの人がいるのはバランス的に当たり前だし、みんな同じヒト科のカテゴリーで人権持って生活してる。更に言えば、より深く考察する人種も右から左まで千差万別だから、権力者はただ国民同士が争う種だけ蒔いておけば、上手に漁夫の利を得られる仕組みになってる。

そしてこっからだいぶ本題に入ってくんだけど、TPPも原発も、争う種が見事に育ってる。争いを横目に政策は粛々と予定通りに決められていくし、決定した政策が後に失敗しても「争いに配慮して甘めに決定したから」って理由にできる。現に、「原発を絶対安全って啓蒙して、避難手順等の危機管理を厳しくしなかったのは、少しでも危険を煽ると反対派が騒ぐから」って言い訳もあつたくらいだ。争いさえあれば後でツジツマ合わせられる好例だ。

とはいえ、俺ごときが偉そうにこんなところでウマシカ刀を振りかざしてみたところで、世の中はピクリとも動かない。それに誰かを非難するつもりも毛頭ない。

ただ俺はこの国の文化に、一石は無理でも一放射性物質くらいは投じたいんだと思う。世界の片隅で、目に見えないくらい小さな毒を無主物として放出するから、ネットを介して放射性ウマシカの汚染マップが少しでも拡大すれば面白い。

書き出し②

現在、この国は公平さよりも金と感情を中心に回ってる。回してるのはもちろん国民だが、金も感情も公平さも等価で扱いたいと俺は思ってる。

そこで今回は TPP とか消費税に関して、俺に見える事実を挙げてこの時代、この国の空気を文学的に読み解きたい。ちなみに俺個人の賛否は表明しない。賛否で争っても右や左に回収されるだけで決定は変わらないし、我々が流れにどう対応すべきかが書きたいから。そのヒントは賛否ではなく「現状とその後の把握」にしかないと思う。

たとえば、「決められる政治」って前政権からの流れで、消費税増税とか TPP 参加がさも苦渋の英断しましたって美談になっちゃってる割に、国論がまだまだ二分されてるのはなぜか？

これについては本題に入る前に、俺が注目してる TPP 関連のくだらない話から書きたい。

大手検索サイトのニュースには誰でもコメントを書ける欄がある。そこで現政府 LOVE な人たちが大量に書き込みしてて興味深いからまめにチェックしてる。いわゆる「ネトウヨ」とか呼称されそうな人らなんだけど、とにかく彼らは現政府のニュースには絶賛の嵐、賛成ボタンも半端なく押されててランキングも上位にすぐ来る。逆に現政府への批判コメントは反対ボタン押して潰したり、ご丁寧に「反日国家」への差別語をたっぷり添えて反論したりする。

その統制たるや見事なもんだよ。まずニュースが掲載されてからコメント投稿は即時、必ず誰かが張り付いてる。んで、コメント多数で数千回賛成ボタン押すニュースと、コメントもボタンもまったくスルーなニュースはちゃんと選別されてる。いったい誰が組織してんだろうね？

まあそれはいいとして。興味深いのは TPP について、現政府が強く推進してるから今までなら「TPP サイコー」「交渉参加で間違いない」「絶対国益倍増」みたいなコメントと賛成多発の流れなのに、フタ開けたら逆にス

ルーなニュース扱いなんだよ。コメントもボタンもスルーだから注目度も低いし、「TPP ヤバイ」「治外法権」「奴隷国家」あげくには「売国奴総理」なんてコメントが、賛成ボタン多数で上位に放置されてるワケ。

政治まったく関係ないご近所のほのぼののニュースでさえ、最終的には「反日国家が悪い」ってオチにもってくほどの彼らがなぜそんなニュースやコメントを放置してるのか？ つまり TPP は彼らの内でも意見が割れてるから、判断を保留してスルーなんだ。(まあ、国民が保留したり争ってるうちに権力者が都合よく決めちゃう、いつもの流れなんだろう)

今のは狭い世界のくだらない話だけど実際に国全体として考えても、TPP 参加や消費税増税、金融緩和や原発再稼働、沖縄の基地問題、それら全部の政策に対して「そもそも国益とは何か？」って話にまで行き着いてる。だって国民全員が絶対得する話じゃなくて、決定次第で損する人も多数出るだろうって政策だから。誰が得するの？ ってか俺を優先しろって国民は揉めるワケだ。

ところが、それら政策の決定を漏れなく歓迎してる勢力がある。もちろん国民はみんな気づいてる、某米国政府(とその多国籍企業)だ。彼らにとっては全部、ウェルカムな決定だ。某国政府のご立腹に逆らってもこの国の政府が英断を下したゾ、って政策は今のところ一つもない。そんな報道、聞いたことある？

この単純な事実から考えて、国論が二分してる理由は、政府は国民の世論をまとめるのは二の次で、別の意向を最優先してるからだ。そこで、やっぱ他国に守られてるからこうなるんだろう、だったら独自で国守るために核持とうぜ、そのために原発持とうぜ、って右に展開するワケだ。とは言えそれも某国政府から「ダメ、ゼッタイ。核、カッコ悪い」って指導されたら肅々と左に寄るだろう。弁当箱みたい。

揺れっ放しの弁当箱がいったい何を決めるって言うんだろう？

実際には、原発事故で汚染されたゴミの仮置き場も中間貯蔵施設も強制避難民の将来も決められない。農業改革も TPP に頼らなとできない。(首相はインタビューでも国会答弁でも TPP と農業について「ピンチをチャンスに」ってはっきり明言してて、農業を一旦ピンチにしてそこから輸出産業に転換しようって話なんだろう。本当はピンチなんか招かずに改革を実行するのがベストなのに、組織票を敵に回したくないから TPP の外圧で仕方なく農業を変えようってオチだ。例えば TPP を推進してる野菜の種を売る某多国籍企業がフランス映画等で批判されてるけど、俺が連想したのは昔、教科書に載ってた『繁栄の花』って、異星人が蜂を売りつける星新一のブラックなショートショートだ。そういうでっかい外圧に対抗するためには改革せざるを得ないんです、って説得したいワケだ)

もちろん一国の中にもいろんな勢力があるし簡単な要約は不可能だけど、俺のウマシカな目から見える TPP を乱暴に超訳すると、元々小さな国々の枠組みに某国政府が首突っ込んで、「いいから俺も仲間に入れろよ。ついでにお前らも来いよ」って気づいたら輪の中心にいるっていう、まさにジャイアンのだ。米韓 FTA って条約と並んで、某国政府が日韓に首輪をはめた気がする。要は中国を発展させて金儲けしたいから、日韓は出しゃばんなよって先手を打った感じ。生かさず殺さずを法にまとめといたから、そん中でなら好きに競争していいよ、的な。

更に弦楽器イルカ『2014』(ゼロじゃなくてオー)内に描かれたパラレル・ワールドでは、米中は経済を軸に少しずつ関係を深め、大半の企業がこれからは中で儲けたいと考えてる。今までの露や中は米に対抗するため「北」の存在を利用してたけど、露米中がどんどん接近して権力者に経済的な旨味が増すと、逆に北の使い道がなくなる。更に、韓の新しい政権は対話重視で本来は半島統一っぽい雰囲気もあったけど、半島が統一しちゃうと一番困るのは実は北の権力者ってオチだ。統一したら行き場なくなるから。中の内部にもいろんな勢力があるみたいだけど、北を今までほど強くは擁護しなくなってきた。日中韓が争いながら米の手の内に収まりつつある中で、北は相当追い詰められてる。ただ、米の軍縮と中の経済安定の波にうまく乗れば、北はこのまま延命が可能かもしれない。北が延命して脅威になり続ければ、日は米に従属して守られる口実ができるし、そこから核武装までいけるかもしれないからそれはそれでハッピー、って権力者は思うかもしれない。

以上、ウマシカな妄想から得られる結論が少しでもあるとすれば、結局は一人ひとりが生き残る工夫して頑張るしかないって当たり前の教訓だ。自分が儲けられるなら儲ける。逆に外資に倒産させられたら別の会社で働くしかない。

そうやってモロモロ考えたときに、村上龍『55歳からのハローライフ』は、これからの老後を考える上で素晴らしい参考書だと思う。『最後の家族』が初期からの龍を総まとめにしたひとつの到達点だとすれば、本作も『13歳のハローワーク』以降をまとめた到達点じゃないかと思う。まあ龍の本はそこまでたくさん読んでないから大きなこと言えないけど。

タイトルが狙いすぎで小説に似つかわしくないって意見もある。でも55歳、またはその周辺世代にとっては図鑑的なノンフィクションよりも、むしろ小説形式のほうが仕事だけでなく私生活まで自分と比較して、よりリアルに切実に身にしみるのではないかと感じた。ある意味では『バトル・ロワイヤル』より戦慄するよ。そういう意味でマニュアル本的にも読めるから、適切なタイトルじゃないかな。

ちなみに、龍は昔からホームレスを「進化してない」ってすごい否定してたイメージだけど、そこはちょっと丸くなってると感じた。また「本来はこうあってほしい、こうなったらいいな」って世界を描くのが龍の真骨頂だと思うけど、それが『五分後の世界』みたいにガチガチじゃない。「熟年離婚寸前の夫婦に訪れた危機を、改心した夫の告白で回避する話」なんかは、「私と同世代の男性諸氏よ。奥さんにはこのくらい優しい言葉をかけるのが男の甲斐性じゃない？」って、鼻の穴を若干広げて主張する龍の姿が背後に見え隠れする感じ。

そこリアルかって問われたら、たぶん龍の世代であんな優しい言葉を奥さんにかけられる夫はリアルじゃないと思う。龍だったら言葉があるだろうけど、一般人なら何らかの暴力が出たりする場面だよ。とはいえ、いい本だってことは間違いない。

書き出し③

Uが原発賛成派、俺はエセ反対派だから、今回は二人の妥協点を探せば新しい発見になると思った。よくネット上で両派が罵り合って人格否定してるのを見るけど、それは「同じ地域でも賠償金額に差をつけて住民を分断させ、団結を阻止する」電力会社の手と同じだ。

原発推進と核開発は別の主張だ。そして脱原発と反核も別の主張だ。でも実際は、核武装したい人は原発推進派で、反核が脱原発派になってる。それで結局この二つは対立しても相殺されてしまう。

でも推進派はこのまま再稼働の流れに乗れそうだと見込んでる。だから脱原発派はとりあえず推進派との間で、脱独占とかの妥協点を見つけておかないとこのまま流されてしまう気がする。

ただ、今回の原発事故で被害にあってる人たちは、将来の核武装や反核より目の前の事故処理や放射性物質の処分が問題なのに、今のところ何も決まらないまま流されてる。それが現状じゃないかな。

さてここでエセ反対派の俺から、風評って言葉が二年以上経った今でも都合よく使用されてるけど、いい加減「逆風評」だから使わないほうがいいよって問題提起したい。

今回の事故と関係なく、風評って言葉だけで俺が連想するのは、「根も葉もない噂」だ。また辞書だと風評は単なる「噂」を指し、風評被害は「根拠のない、つまり根も葉もない噂による被害」ってなるらしい。

でも今回の原発事故に関して言えば、これは風評じゃなく根と葉のある実話だ。だって間違いなく爆発はしたんだから。更にもう実がなってるって主張する人もいる。

とりあえず公的に調査された内で小児甲状腺がんは今のところ38000人中3~10人。その事実をどう取るかだけど、推進派だから何でも安全、反対派だから何でも危険って主張はフェアじゃない。

とにかく実はなってますって推進派は言いたいんだろう。ならせめて「微量セシウム被害」にでもしたほうがいい。「微量の放射性物質が含まれたゴミや食べ物は科学的には安全だけどわかってもらえない被害」をわか

りやすく言うとそんな感じだろう。でも繰り返すけど、少なくとも風評ではない。「毒がない食べ物と、ちょっとだけ毒が入ってるけど安全な食べ物、あなたならどちらを食べますか？」って話だから。

もし仮に（弦楽器イルカ『2014』で描かれたみたいに）、原発の爆発は車の事故並みに日常茶飯事、既にあっちこちでドッカンドッカンドけど特に健康被害なし、しかも今回で祝 100 発目！ とかなら「またか」「風評だ」「た～まや～」って不謹慎すぎる発言もあるかもしれない。でも、現実はそうじゃない。原発は絶対安全、絶対爆発しないものだった。それが爆発したのに風評ってのは、言葉として絶対絶対適切じゃない。とは言えこの世に絶対なんてないから、みんながいいならそれでいいけどね。

書き出し④

現代日本の高齢者は神なんだって俺は思ってる。信仰の話ではなくて認識の話だ。

前に俺が書いた物語の中で、長生きすぎて、「もういい。十二分に生きた。逆にこれ以上生きたくない。そろそろ死にたい。むしろ余命が迷惑だわ」って満足しすぎて死ぬる人間は神って定義した。それは生物として真っ当なのかと疑問を持ったからだ。

「まだ生きたいけど死ぬのは仕方ない。仲間のために犠牲になろう。後は若者にまかせて身を引こう」。大半の野生生物はそういう感じで死ぬんじゃないだろうか。

それに本当はみんな知ってるんだよ。これからこの国で起こる大きな問題のほとんどは、高齢化社会に関することだ。もし国家を主語として考えたら、国民の平均寿命を 60 歳に短縮すれば高齢者がいなくなってぐっと若返り、医療費も削減されて年金も保障もすっきり、若者にもっと社会参画が求められて、人口減少を食い止めるため子供もたくさん産めって支援されて、40～50 歳定年も当たり前、って社会になるだろう。

でももちろん国家の主語は国民なのが通常だから、国民の長寿は肯定される。世界には平均寿命が 40 代後半の国もあるけど、逆戻りは許されない。

ただ万が一、医療の進歩よりも先に病気を進歩させればどうだろう。医療が追いつかないくらい強い病気になるシステムを構築するために、被曝とか不健康な食生活を推奨したらどうだろう。

だって例えば原発の三原則、「停める。冷やす。閉じ込める」の、「え、閉じ込めるってあったの？」って空気であり大気じゃん。ダダ漏れ上等だし、福島の給食を子供に食べさせたら補助金出る制度とか、もう素敵やん。役所や刑務所、あるいは老人ホームとかじゃなくまず弱い子供を狙うところ、感動やん。冗談だよ。

みんな気づいてるのかな。「嫌なら出てけよ 俺は好きさ日本」って踏み絵を日々させられてるってことに。ある日気づいたら、「アナタが昨日まで好きで受け入れてたのは、原発が爆発しても当然って利権の国だよ！」って権力者達が（某アイドルっぽく）並んで、一斉にてへぺろ（・ω<）してたのにさ。もう忘れたのかな。

書き出し⑤

さて、ニワカウマシカの俺がついでに経済を語るのもどうかと思うが、文学的に例えるとバブル崩壊ってのはつまり、「王様は裸だ！」って瞬間だ。実体経済と金融経済が乖離して、裸なのに着飾ってるように見えるのがバブルだ。

月一回、米国の雇用統計の報告ってのがあって、米国の雇用状況が好転してるか悪化してるか、それによって株や為替が上がったり下がったりする。ついこの前それがあったんだが、米国の雇用は前月より悪化してて、本来なら円高ドル安の流れだった（その雇用統計自体が粉飾済みって話もある。統計なんて切り口次第だから）。しかし逆に急激な円安ドル高が始まった。ドルと円の金融緩和を信頼した投資家が円安を支持したからって話だ。

この乖離が広がれば、王様のでっぴりと太った裸体をおがめるだろう。もちろん今後、実体経済が回復して乖離がなくなれば、王様は服を着れるワケだ。

金融緩和で急激に円が増えて物価が上がるってことも、文学的に例えれば、洪水や津波と一緒に。固定された貯金は地面に建てられた家と同じで、物価が上がって水かさが増すと浸水したり最悪流されたりする。そこで投

資の海に船を浮かべれば少しくらいの波には対応できるし、インフレの津波でも思い切って沖まで漕ぎ出して避けられる場合もある。ただ、庶民の船なんて手漕ぎボートみたいなモンで、結局でかい津波にはのまれるしかない。でかい波を避けれるのは世界一周できる大型フェリーみたいな金持ちの船だけだ。

そう考えれば一般的に円安や金融緩和を評価してるのは俺みたいな貧乏人じゃない。経団連や某国政府、いわゆる権力者側だ。金持ちはより金持ちになれるチャンスが増えた。それでも暗く貧しい生活に不平を言うよりは、進んで船出して灯台の明かりを探すほうが若干マシかもしれない。いや、食べ物にされるだけでそれほどの意味はないのかもしれない。

でも王様が裸なら、洪水もきっと幻だろう。黙して待てばやがて水位は下がるかもしれない。いや、その時にはもう住めない土地になっているのかもしれない。

さて、話がぐるっと回ったけど、そこがどこであれ、とにかく力を集めてやってくしかないってオチを付ければ、大体ハッピー・エンドに見えるだろう。人生は暇つぶしだから、生まれたからには仕方なくやってくしかない、ってオチだ。

とりあえず今回はこんな感じ。

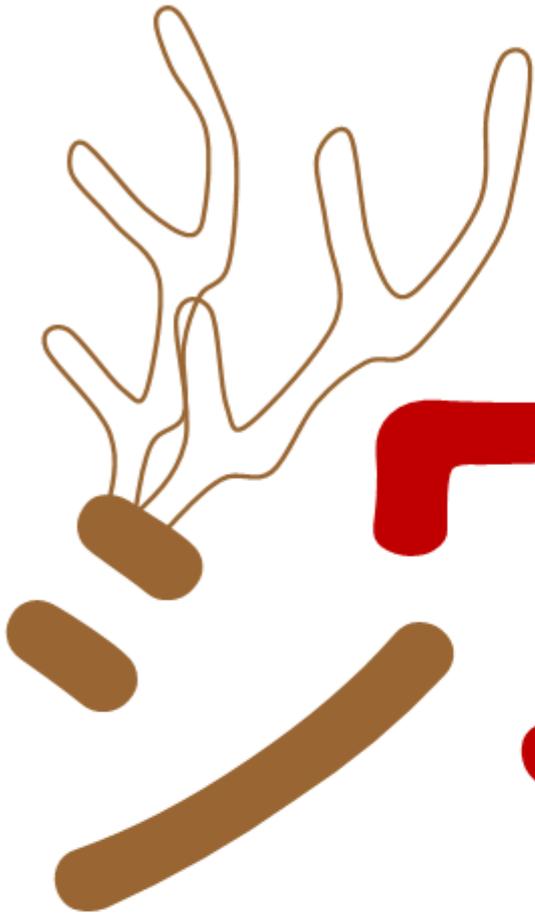
どうかな？



第七回 『Nウエイの森』(KOW版)と、

『フィンランドの駅』

考



声に出さずに
すましたい日本語
弦楽器イルカ + 友人

というわけで恒例になった（勝手に）コピー文の解説と次回予告ですが、Gが適当に10個くらい考えたコピーから、今回はUのお気に入りを選びました。Uは「音読が嫌いだから、スカッとする」との選評だったけど、個人的には「音読できない類の日本語にも優れた何かがあるのではないだろうか。今はそっちを目指してみようかな」という気持ちで付けました。

さて、次回の予告ですが、第六回の内容とテンションにはついていけないとUにダメ出しされたGが、傷心のなか春樹の新作を発売と同時に読み、頭にパッと浮かんだあるタイトルとは？そして、Uが今さら解き明かす『1Q84』に秘められた七つの仕掛けとは？（ここでリストとヤナーチェックが同時にかかる）

というワケで第七回、『Nウェイの森』（KOW版）と、『フィンランドの駅』は、時期も内容もまったく未定、この予告とはあんま関係なくお送りする予定です。

ちなみに、『Nウェイの森』（KOW版）とは、Gがパブ内でも知り合った作家さん方とちょっと遊んでみた企画です。

URLはコチラ→<http://p.booklog.jp/book/52238/page/1113808>

ご興味があれば春樹の新作（とできればKOWを）お読みくださりながら、しばしお待ちいただけると光栄です。それでは。

「お金と感情と公平さを等価に」がモットー
ウマシカ制作委員会

■前置きは短めに

前回、「間違っても書いてみる」をコンセプトに、とりあえず俺が最近注目してる現実の出来事を過剰に盛ってみて、個人的にすごくすっきりした。特に『色彩を～』が社会的現実から何歩か距離を置き、二年前の震災も作中では起こったかどうか不明で直接は扱わなかったから、俺が世界の片隅で書く意義をより確認できた気がした。

さて今回は俺が『色彩を～』を読み解く。ただ公平に言えば謎解きは趣味じゃない。巷の謎解き本も「読まずにすます」派だし。でも今回はやりたいと読後すぐ思った。ただの読解じゃなくて、震災後に（おこがましき∞で）書いた『Nウェイの森』につながれば、俺にも書く意味があると思ったから。

さらにUが「新作あんまり面白くない」って言ってたから、やるからには全力で、Uみたいな層がもっと本作を好きになるように書くつもりだ。ちなみにUは『色彩を～』について、「最近の春樹はいつも同じキャラばかりで『BOYS BE…』みたいだから飽きた」と言ってたけど、これは二つの意味で至言だと思う。

つまり、春樹はなぜ『BOYS BE…』的に（半ば意図的に）構成したのか読み解こう。そして終点である『フィンランドの駅』から、『Nウェイの森』まで続く北欧の大地を見渡そう。

なお、俺の読解スタイルは「作者の他作品も含め、文中に書かれている言葉だけを用いる」という、センター試験国語の参考書（出口先生）から学んだ方法だ。作中以外からいろんな理論を用いて読み解く人もいるし、もちろん小説の読み方なんて人それぞれが一番だ。ただ俺は書かれてないことは推測しないのが、読者の公平さだという立場です。

■本題

さて、結論を引っ張るつもりはないので、とりあえず先に書く。

- 1、「色彩を持たない」主人公が、勇気と自信を取り戻す物語
- 2、『風の歌を聴け』→『ノルウェイの森』→『ダンス・ダンス・ダンス』→『色彩を～』と続く、春樹自身の歴史をなぞる作品
- 3、「灰田」は架空の人物（とも読めるように設定されている）
- 4、灰田＝緑川の言葉と、シロを赦す言葉が意味すること
- 5、『色彩を～』が二つの山を回避したことによる喪失感と、新たに回復する物語の再構築

- 1、「色彩を持たない」主人公が、勇気と自信を取り戻す物語

本作を大雑把にまとめると見出しの通りになる。

新聞の記事で、「色彩を持たない」とは「無関心」で「自己完結」した態度であり、「そもそも自分のことを色彩がないと思っている人はナルシスト」って批評を読んだ。

自分でもちょっと悲しいんだけど、腹を立てるほどひどい批評とは思わなかった。そういう側面はないワケじゃないと俺が感じたってことだろう。

ただ作中の主人公（以下つくる）は、傷を受けたことで「実質的に歩みを止め」「重みと呼べるものをほとんど持たなかった（P358）」過去を肯定していない。むしろ大切な人を手に入れたいともがいている。また「色彩を持たない」とはそもそも、「苗字に色の漢字がない」「特徴がない」という劣等感の原因として使われている（「も

し自分が色のついた姓を持っていたらどんなによかったらう(P8)」。だから「色彩」に関して一方の意味だけ書くのはフェアじゃないし誤読だろう。

あと実際、著者の春樹自身もオウムや震災を扱った作品や、受賞スピーチや新聞への寄稿で現実問題とも関与してるから、他の作家と比較して社会に無関心と断定することもできない。公平にみればむしろ踏み込んだ発言をしてる作家の一人だろう。

さらに言えば、「その悪夢は一九九五年の春に東京で実際に起こったことなのだ (P349)」という文章があるけど、つくるが「実質的に歩みを停めてしまった」16年とは、オウム事件と神戸の震災が起きた1995年から、2011年の震災までと符合する（これはよく聞く話）。また同じ箇所、「狂信的なテロリストたちの攻撃的にされたら」「想像を絶する悪夢」だが、「そのような惨事を防ぐ手だては今のところほとんどない」という文章があり、これは二つの年度から連想される電車と原発事故に共通する言葉だ。

つまり「実質的に歩みを停めてしまった」のはつくるだけでなく、この国の社会制度もだ、という指摘にも読める（ように書いてある）。オウム事件と神戸の震災で衝撃を受けたはずなのに、少なくとも2011年まで電車も原発も対策なんてしてなかった。

また16年前に友人から絶交されて自殺を考えたというつくるの設定は（確かに個人的で小さい事情ではあるけど）、震災で心を閉ざして自殺する人々が多数いる現状を踏まえて、同様の心境を描写している（ようにも読める）。ただ『神の子どもたちは〜』のように、直接の被災者を登場人物にすることもできたはずだ。春樹はもしかしたら東北に縁がないから遠慮して書かない判断をしたのかもしれないけど、そこは賛否あってもわかる話だろう。

ここでブレイクタイム。先の批評はちょっと意図的な誤読っぽいけど、タイトルからの誤読といえば、『寄生獣』でミギーたちを寄生獣って呼ぶ読者と同じだ。ご存知の通り、ミギーたちは作中で「寄生生物」と呼ばれて寄生獣とは一度も呼ばれない。かつ、たった一箇所だけ作中で「寄生獣」という言葉が使われ、ある生物を指すシーンがある。そう、アレね。これ、かなり終盤で明らかになるネタでそこまで題名を引っ張れたという演出が、やっぱネ申だね。再度の『寄生獣』ネタだけど、本当にネ申演出だからしかたない。

閑話休題。ここまでをまとめると、「色彩を持たない」とは大まかに三つの意味を持つ。

一つ目は、「苗字に色の漢字がない」。

二つ目は、「特徴がない」。

そして三つ目は、16年前までは「向かうべき場所」と「帰るべき場所」があり、「何かを強く信じることのできる自分を持っていた (P370)」が、16年前に友達から絶交されてからは、「実質的に歩みを止め」「重みと呼べるものをほとんど持た」ず、「向かうべき場所」も「帰るべき場所もない」「唯一の場所は「今居る場所 (P356)」という人生のテーゼを背負ってしまった、という意味だ。春樹を「無関心」「自己完結」と思う人がいるのはこの部分からだろう。

つまり強い個性を持っていないことが劣等感であり、友達に絶交されてからは他人と距離を置いてきたつくるが、大切な人（沙羅）や昔の友達（クロ）に励まされ、元々「カラフルな多崎つくる君 (P328)」であり、むしろ「美しいかたちの入れ物 (P322)」を目指して、電車が停まるための「駅をこしらえ (P324)」「具体的な色と形をそこに与えていく (P345)」という生き方があると気づき、勇気と自信を取り戻す物語だ。

ここまでは基本的な物語の要約。次は、作品間の連関の話だ。

2、『風の歌を聴け』→『ノルウェイの森』→『ダンス・ダンス・ダンス』→『色彩を〜』と続く、春樹自身の歴史をなぞる作品

『1Q84』もだけど、『色彩を〜』は春樹の過去作をコラージュしたような構成である。その理由は後に書くが、俺が目にするのは『風の歌を聴け』『ノルウェイの森』『ダンス・ダンス・ダンス』との関連だ。

『風の〜』の僕は21歳の設定だが、20歳から8年間、「様々な人間がやってきて僕に語りかけ、まるで橋をわたるように音を立てて僕の上を通り過ぎ、そして二度と戻ってはこなかった。僕はその間じっと口を閉ざし、何も語らなかった（P8）」と書かれており、まさに「色彩がない」途上の僕が描かれている。また高校時代「ビーチ・ボーイズのLPを貸してくれた女の子（P67）」に、LPを返そうと電話するが結局探し出せないというエピソードがある。（更に失くしたLPを返すために計3枚のLPを購入する）

それに対して『色彩を〜』では、「色彩がない」「容器」であるつくるは、高校時代の旧友たちと再会し、クロから「駅をこしらえなさい」とアドバイスを受ける。つまり、『風の〜』では実現できなかった旧友との再会によりその後の回復を描いたといえる。

またLP（三枚組）を置いていった灰田とは再会できない。灰田は「存在しない人物」としても描かれているので再会はないのかもしれないが、それは後ほど書く。『色彩を〜』のラストが風の音で終わるのも関連している。

次に、『ノルウェイの森』と『色彩を〜』のストーリーを連関させると以下のようになる。

まるで双子みたいに仲の良かった幼馴染の直子とキズキ〔五本の指（P170）みたいに仲の良かった五人組の友達〕だが、キズキが自殺したことで直子は〔つくるが離れたことでシロは〕精神に病を患う。直子と再会した僕は直子と生きていたいと思うがうまくいかず〔つくるは沙羅に促され旧友たちと再会するが昔のように仲良くなることはなく〕、さらに若さゆえ直子を導く正しい言葉をかけられず〔僕は怖いんだ。自分が何か間違っただけをして、あるいは何か間違っただけを口にして、その結果すべてが損なわれ、そっくり宙に消えてしまうかもしれないことが（P324）〕、結局直子も自殺してしまう〔シロが殺されたことを知る〕。最後はもう一人の大切な女性である緑に電話し「何もかもを君と二人で最初から始めたい」と伝えるが〔君のことが心から好きだし、君をほしいと思っている（P345）〕、自分がどこにいるのかわからず、どこでもない場所のまん中から緑を呼び続けていた。〔行くべき場所もないし、帰るべき場所もない。かつてそんなものがあつたことはないし、今だってない。彼にとっての唯一の場所は「今いる場所」だ（P356）〕

〔〕内が『色彩を〜』からの引用だが、『色彩を〜』には『ノルウェイの森』にないこの先の展開がある。そのひとつが、自分を「駅」にたとえた自己肯定であり、もうひとつが、大切な人を手に入れたいと強く願うラストである。

そしてこのラストは、『ダンス〜』でユミヨシさんに電話をかけるラストと類似している。「いろんなことが一回りしたんだ。ぐるりと。そして僕は君を求めている」「とても激しく（P338）」「僕はここにとどまるのだ（P364）」

この流れを超要約すると以下のようになる。

『風の〜』から『ノルウェイの森』までは、直子を失い色彩を持たなかった。『ダンス〜』から二つの震災を経て『色彩を〜』では、大切な誰かを失いたくないとより強く求めるようになった。そして世界中で支持される作家となった事実が自己肯定へとつながった。

つまり『色彩を〜』は単なる小説というよりは、春樹自身の歴史をなぞった作品ということができる。

ここまでが作品間の連関の話。次は灰田という登場人物が架空の存在であるという読解から、登場人物の連関の話だ。

3、「灰田」は架空の人物（とも読めるように設定されている）

これは見出し通りの内容なので、できるだけ原文を抽出して自ずと明らかにする。つまり簡単に言うと、映画『ファイト・クラブ』みたいな状況だ（と読むことができる）。

灰田は大学で知り合った友達で学生寮に住んでいるが、会うのはつくるの自宅やプールが多く、つくるは灰田の部屋や実家に行ったことはない。つくるの年齢から考えて大学時代には携帯が本格的に普及し始めた頃だが、灰田との連絡は学生寮の電話だけだ。（「寮に何度か電話をかけてみたが、そのたびに灰田は不在だと言われた（P129）」）

そして、通常の人間を描写する表現とは異質な箇所がいくつかあるので、まず以下に引用する。

「ひどくシャイな性格で、三人以上の人間が居合わせる場所では、いつも自分が存在しないものとして扱われることを好んだ（P56）」

「図書館まで並んで歩いた。その間彼らはほとんど口をきかなかったが、それはとりたてて珍しいことではなかった（P121）」

「しかしそれでもなお、多崎つくるはその年下の友人を必要としていた。おそらく他の何にも増して（P126）」

「彼は父親の姿を借りて、自分自身についての何かを語ろうとしたのだろうか？ しかし今回の灰田の消滅はなぜか、前のときほど深い混乱をつくるにもたらさなかった。（中略） どうしてかはわからないが、灰田が自分の罪や汚れを部分的に引き受けて、その結果どこか遠くに去って行ったのではないかという気さえした。（中略） 不思議なほど深く澄んだ一對の眼差しの記憶だけだった（P131）」

「自分が存在しないものとして扱われることを好んだ」「灰田の消滅」という表現を普通の人間に使うのは異質だ。つまり友達から絶交されたつくるが二重人格的に造り出した幻の存在としても読むことが可能である。

灰田の存在を証明するのは退寮届と休学届だが「退寮の理由についても、移転先についても、管理人は何ひとつ知らなかった」「休学の理由は個人情報であるとして教えてもらえなかった（P130）」とある。つまり灰田という人物自体は存在したのかもしれないが、脳内友人として勝手に妄想を膨らませていた可能性もある。それはプールで灰田と同じキックだと人違いするシーンから読み取れる。「間違いない。灰田の足の裏だ（P234）」という割には年齢も年格好も全然違う人物を灰田と思い込んでいた。また、過去に灰田の足の裏を見て泳ぐとき「その光景は彼に常に軽い意識の麻痺状態をもたらした（P121）」とも書いてあり、夢うつつの状態ともとれる表現となっている。

また灰田はシロとクロの性夢に現れる。これについては「二人を一組として考えるようにしていた。（中略）つまり一種の架空の存在として（P22-23）」「ミスター・グレイ。灰色は白と黒を混ぜて作り出される（P113）」「現実の持つべき重みがない。ミスター・グレイ（P116）」「たぶん現実には何も起こらなかったのだろう。あれはやはり意識の内側で生み出された妄想だったのだ（P120）」とも書いてあり、灰田自体がシロとクロの中間にあたる存在としてつくるの脳内で作り出された妄想と読むことも可能だ。

ここは謎解きだから「どうだ！」ってやるとこなんだけど、軽く流していこう。あと、「じゃ、沙羅も架空か？」って疑問も出て来るんだけど、沙羅はオルガと仲が良いという細かい設定が、実は沙羅の存在を保証する伏線となっている。（個人的には沙羅も架空の方が、つくるが震災を機に過去と向き合おうと自分で決意する物語、に落ち着く気もするけど）

ではなぜ、春樹はこんな変な仕掛けを作ったのか。ミーハーで表層しか読まない大衆に一泡ふかすため？ んー、あるかもしれない。なんて冗談です。

一番は、つまり灰田という妄想かもしれない怪しい人物や、名前に色のついた人物たちを登場させることで、人物の存在を「記号化」したかったということだ。つまりUの言う、『BOYS BE…』化だ。

じゃなぜ、人物を記号化したのかということ、作品間の連関とつながってくる。つまり、「直子＝シロ」「緑＝沙羅」「レイコさん＝クロ」等、作品間でいろんな役割を重ねることで、登場人物を役者のように振舞わせて、「ど

ちらの相に入り込んでいるのか (P228)」わからなくした。

そしてそれが灰田＝緑川の言葉と、シロを赦す言葉につながっていく。

4、灰田＝緑川の言葉と、シロを赦す言葉が意味すること

『色彩を～』では色という記号を登場人物に持たせ、様々な役割を混合させている。

五本の指みたいだった仲間はバラバラになり、むしろ強い色＝特徴を持つ友達は、お互い仲たがいするようになった。それぞれ学生の頃とは違う生活をしており、若干色褪せてはいるが自分を許容して生きている。

一方「色彩を持たない」はずのつくるの方が、駅という趣味を貫き仕事につなげている（ちなみに春樹自身も読書という趣味を生かし作家になっている）。

ただシロだけは、「生命力がもたらす自然な輝きを失っていた (P201)」。これについては作中で「全体の色彩がまんべんなく褪せてしまった (P220)」という表現もあるが、「白は褪せる色ではない」という U の指摘が非常に興味深い。自分が輝きを失っていく事実、褪せることのないシロの心がついていけなかった、と読むこともできるかもしれない。（昔から春樹はよく、少女が大人になって輝きを失う様を書いている）

また、緑川は六本目の指を切ったかもしれないと書かれており、『風の～』で 4 本しか指のない彼女を連想させる。なお灰田が架空なら緑川も架空であり、つくる＝灰田＝緑川という存在になる。他にも灰田で連想したのは「鼠」色だ。緑は『ノルウェイの森』に出てくる最重要人物でもある。

それでは色と役割が混濁して来たところで、緑川の最後の言葉を引用しよう。

「君は近々東京での大学生活に戻っていくだろう」「この人生には生きるだけの価値がある」「俺にはただ、その価値なるものがいささか負担になっているだけだ。そいつをうまく背負いきることができない。たぶん生まれつきそういうのに向いていないんだ。だから死にかけの猫みたく、静かな暗いところに潜り込んで、その時が来るのを黙々と待っている」「しかし君は違う。君にはそいつが背負いきれるはずだ (P94)」

これはつくるが、灰田という架空の存在を用いて自分自身にかけている励ましでもある。また『風の～』で、「時が来ればみんな自分の持ち場に結局は戻っていく。俺だけは戻る場所がなかったんだ (P113)」と言う鼠の言葉とも重なる。また「緑川：緑」の関連から、緑的なポジティブさとして読むこともできる。

つまり『色彩を～』は、物語の登場人物一人ひとりに重きを置いた作品ではそもそもない。それぞれを色の配合のようにブレンドしてミックスした作品だ。

さらにそれが顕著なのが、つくるがシロを赦す言葉 (P365) である。

誰よりも感受性が強い精神に病を患ったかみならず、さらに実際にレイプされなければ語れないくらいリアルな体験を訴え、最終的には輝きを失った末にシロは絞殺された。誰も責めることができないほど悲惨なシロに対して、「それでも彼はシロを赦すことができた」と書かれているため、拒絶した読者がいるのは非常にわかる。ただ、上記を読めばわかるが、この赦しは単にシロへ向けた言葉ではない。つまり直子にも向けられているのだ。

直子が首を吊ったことで自分を赦すことができなかった僕だが、その死は「前もって決められていた」と諦めることで、僕自身の過ちと、二人の未来を向こう側へ持ち去ってしまった直子の自殺も、どちらも赦すことができた、という意味だ。

『色彩を～』は、まさに引っ張られるワールド型テーマパーク「春樹ランド」と呼べなくもない作品となっている。

さらに蛇足すれば、「色彩」と「震災」、「多崎」と「多彩」は一字違い、また、苗字に色のつかない多崎つくと木元沙羅、色の代わりについてる漢字は「木」「多」だけど、木が多いってつまり木、木、木で……

つまり二人が重なると『色彩を～』から『ノルウェイの森』に続く線路が見える。となれば、『色彩を～』は『ノルウェイの森』と地続きであり、だったら裏タイトルは『フィンランドの駅』で決まりだろう。

5、『色彩を〜』が二つの山を回避したことによる喪失感と、新たに回復する物語の再構築

実はこっからが俺にとっての本題だ。世間はいつも俺と逆で、ここまでは本当はどっちでもいい話だったが、世間はそっちばかり評価する。でも誰も評価しなくてもいいから本番はこっからだ。いざ、極論！

はっきり言って小説の謎なんてどうでもいい。内容が面白くなきゃ意味ないって俺は思う。だって例えば、Uと俺が実は同一人物で一人二役で書き分けてます、ってネタバラシしたら、読める人は「え？」って驚くかもしれない。けど最終的には、「一人でも百人でも、とにかく内容が面白いかどうか」しか残らない。しかも実際、Uと俺は別人だしね。

だから灰田が架空とかどうでもいい話だ。それよりも、『色彩を〜』が大切な人を失いたくない、という強いメッセージを持っていることが、実は俺の書いた『N ウェイの森』と強く関連してくる。これには俺自身、ひどく驚いた。「こっち寄ってきたか、春樹」って思った。

KOWのあとがきにも書いたんだが、震災後だから人が死なない作品にしたい、そして俺の「童貞三部作」（青春三部作のパクリ）の特別編として『N ウェイの森』を書いた。すると『色彩を〜』ではフリーセックス派の春樹にしては珍しく、主人公は二十一歳まで童貞という設定だった。しかも大切な人を失いたくないという震災後のテーマも一致する。

俺が書いた『N ウェイの森』では、最後に僕が直子を選ぶ決意をし、緑と別れる電話のシーンがある。その決意が『色彩を〜』とつながっていると感じた。いや、俺も麻痺状態でどの相がなんだかわかんなくなってきました。

さて、それでは『色彩を〜』について、思うところを書いていこう。まず細かい点から。P343の「あるとき」は、「あのとき」のほうがいいと思う。あと、最後つくるから電話しといて、沙羅がかけ直したと思われる着信は無視して「今は話すことができないんだ（P367）」ってのはなんか変。ちょっとカッコ悪い。

次に大きい点。震災について真正面から書いてほしかった、とは思わないでは、ない。あとこの物語は本来、「旧友に会う」シーンと、「シロに会う」シーン、二つの大きな山があるはずだった。でも、旧友たちはみなつくるが好きで優しく、シロは亡くなり、この二つの山は平坦な舗装道になり『フィンランドの駅』まで労なく続いていた。正直、もっと荒れた道でもよかったのではないかと思う。例えば……

つくるがレイプしたと信じて疑わないアオ。シロが好きだったからつくるを赦せないアカ。そして、輝きを失いながらつくるを恨んで生活してるシロ。心に闇を抱えた彼らとつくるが出会い言葉を交わした瞬間、そこにトンでもないケミストリーが起こる。どう？

そういえば、俺とUとのケミストリー話、前回長いから全部カットしたんだけど、本作でケミストリー出てきたからそれもびっくりした。つまり簡単に言うと、俺とUのケミストリーが回を重ねてだいぶ醸されてきたけど、本家「ケミストリー」は実際ノン・ケミストリーの方が良かった、ソロ堂珍のコレジャナイ感がすごく好きって話。クロノス「一卵性恋人」とかスネオヘアーやスパイラル・ライフみたいだって、例えのほうがわかりにくってオチ。やっぱカットしてしかるべきだったか。

んで、今回も長いからもう大オチにします。『色彩を〜』で二つの山を回避した春樹さんに一言伝えるとしたら、俺ならこう言うね。

謎なんかどうでもいいですよ。内容が、登場人物が、文章が魅力的かどうかじゃないですか？ その二つの山を回避したら、まるで、あのクラーク博士が「BOYS BE…」で止めて「Ambitious!」って肝心などこ濁すみたいな、声に出さずにすましたい英語って感じしませんか？

とりあえず今回はこんな感じ。
どうかな？（今回マジ疲れた）



世間では「村上春樹の新作」と呼ばれている作品の読み方、なかなか面白かったよ。春樹の私小説的な要素があるのかもしれないね。

今回の新作でいえば、謎解きとして読み解くことは難しいね。というより、それはちょっと野暮かもしれない。1Q84 がシュールリアリズムとして読み解いたけど、新作は印象派の絵画のようなものとして鑑賞したいと思う。

無機質な社会に染まり漠然と生きている今、人間関係でも自分を抑えた表面的な付き合いばかりだ。昔は違った。すばらしい仲間と毎日を過ごした時代は輝かしい。戻れるなら、あの頃に戻りたい。

まあ、普通の社会人なら同じような思いは、多かれ少なかれ抱いているのではないだろうか。

普通の人は徐々に進むところを、主人公の多崎つくるは、瞬時にして、色彩豊かな時代から灰色の時代に進むことになった。そして人生のある時期になってから、タイムマシンに乗るように、古い仲間と会いに行き、輝かしかったときの色彩を取り戻す、そういう物語だと思った。

この物語は、少々幻想的で虚構的な要素も盛り込まれているが、あくまでも、それはメインのイメージを強烈に残すための技法なのではないだろうか。

そういえば、春樹の初期の頃の小説で、ピンボールゲームの台が大きなホールにずらりと並べられたシーンがあったような気がするんだが、かなり印象的なシーンだった。ピンボールゲームの台のように派手でカラフルな物が無数に並べられたイメージは、映像や写真よりも、小説のストーリーとして文章によって脳内に再生されたほうが、より鮮明で印象的だと思う。

そのときは、ずらりと並んだピンボール台という視覚イメージがあったけれども、今回は輝かしい青春時代というイメージに置き換わった。

普通に振り返るだけでなく、虚構をおりませ、そして、ある理由で瞬時に色彩の世界から灰色の世界に移すことで、より鮮明に印象的に描かれている。

もちろん、作品には深みがあるから、単純に、色彩と灰色の比較だけではない。もし、色彩豊かな登場人物を描くなら、名前は白と黒は使わずに、もっとカラフルなものを使っただろう。白と黒は作品のなかでは、灰色への接続の役割も担っている。また、灰色の人物もでてくるが、こちらも無色と色彩との間の接続詞的な存在だ。細かく読んで、それこそ謎解き的なことをすれば、もっと深い何かが見つかるかもしれない。

というわけで、新作についてはこれくらいにしておいて、1Q84 の続きを書かなければ。



考
え



読む毒、

読んどく？

弦楽器イルカ  + 友人

恒例になった途端に早速行き詰ってる今回の予告編。革新的な核心を全く確信できないとか、つまらないダジャレにこれ以上逃げてる場合じゃない。

さて芸能から政治まで、罵詈雑言の電波がずっと前から頭上を飛び交い続けてる気がする。その一方、想像力で夢を現実にする人々もいる。想像力にも正か負かの方向性があるって、でも、他人を呪う負の想像力で俺が救われたことはなかった。今まで自分がより生きやすくなることでしか幸福を得てこなかった。だから今回はたとえば、ある民族を皆殺しにする想像力と、みんな仲良く平和に暮らす想像力の間、橋を架けてみたいと思う。

眼前の風景をスルーせず、かといってバッシングもしない。ただ全部飛び越えてここにとどまるという、斬新な王道を目指す。俺が書く意味を考えたら、そういう妄想を駆使する以外にないだろうな、と。

というわけで、日々浮かんでは消える雑感を咀嚼して、書くに値する妄想の風船ガムを膨らませるのにだいぶ時間がかかってます。友人にはたぶん、海外から見たこの国の話を考えてもらおうかな、と思ってますが、どうなりますことやら。

考えるウマシカたちが、群れを成して平原に還る光景をぼちぼち妄想しつつ。

「お金と感情と公平さは等価に」がモットー
ウマシカ制作委員会

前回は俺なりに納得できる石が置けたんだけど、今回、更に上いく石を探すのにだいぶ時間がかかった。とはいえネットの文章なんて、川原で売る石と一緒にそこらへんにゴロゴロ無価値に転がってる。それをわざわざトンがらせたり捻じ曲げたり珍妙なレイアウトして、無駄に業を磨いてる感じがする。まあいいや。業全開でGOだ。

前回のUの感想、面白かった。小説を絵に例える着想が俺にはなかった。そして世間が『色彩を～』を忘れ去る早さもすごいと思う。巷はいまや流行の朝ドラ一色って感じ。サイクルが早い気もするけど、人間を記号化した『色彩を～』にはない人間臭さの魅力が、例の朝ドラにあるからかなって思う。あと小説には不可能な、耳で聴く音の面白さね。方言と、歌と、音楽。部屋と、Yシャツと、業。

さて今回はまず、終わった選挙の投票率向上啓発コピーから始めたい。

◆2013年度夏・選挙啓発コピー 『仕方ない。投票行くか』

終わったドラクエのレベル上げと同程度に無駄な一石を投じたところで、次は全く違う話をしたい。今回は点々と置いた言葉をうねりながら回収するグローヴ感重視なので、振り落とされないよう覚悟してください。

俺の記憶では10年以上前、ある文芸誌で「なぜ人を殺してはいけないか？」という問いに文化人が回答する特集があった。若者でもわかるように答える、といった趣旨だったと思う。

それ読んで、俺はピンとこなかった。違うだろ文化人、この程度か、ってがっかりした。そのとき俺が考えた答えはだいたいこんな感じだった。

「いや、全然いけなくはないよ。生物ってもともと弱肉強食だし。どんな行為もしてはいけないなんて制約はない。その証拠に、戦争とか正当防衛とか、人を殺すことが法的にも倫理的にも許容される場面はある。殺しても、仕方ない。

ただ大抵の場合、殺人罪を犯したらあなたは辛い思いをする。法的な罰という苦痛や、己の罪悪感に苛まれるだけじゃない。最も重要なのは、被害者を慕っていた人々から恨まれる辛さだ。親、子ども、兄弟、親戚、友人など、被害者の関係者が多ければ多いほど、行き場のない悲しみがあなたにぶつけられるだろう。彼らが被害者と歩むはずの未来まで、あなたは殺してしまったから。つまり殺人とは、関係者の将来も殺すことだ。更に言えば、あなたを慕う人々をも悲しませ、将来を奪うことになる。(これは自分を殺す自殺も同じだ)

戦争や正当防衛という非日常であれば、こちら側の自分たちを守るために戦った結果だと自己正当化して、被害者や関係者を心理的に無視できるかもしれない。しかし日常内の殺人では、法的な責任だけじゃなく、たくさんの他人の将来を奪った責任を背負いきれず、あのとき殺すべきじゃなかったと、いずれあなたは後悔することになる。

だから、人を殺してはいけない。必ず後悔するから」

さて、こんな賞味期限切れの文章書いたのは今回考えた物語に関係があるからなんだけど、いちいち説明なしで以下にあらすじを掲載します。

竜暦2013年。そこは、竜の使い手たちが政治を司る世界。

先の大戦で小島国は、大国の竜の炎で焼き尽くされ、たくさんの死者を出し敗戦国となった。

その後、小島国は侵略者のレッテルを貼られると共に、竜の使用を禁じられ、大国が持つ竜の傘で防衛される

見返りとして、大金を徴収され続ける。更に半島国が捏造した歴史を学び、半永久的な謝罪と賠償を要求される現状に、青年は憤慨する。「半島国の盗人どもめ。小島国から出て行かないなら皆殺しにしてやる！」

ある日、青年は同い年くらいの女性が悪漢に絡まれている場面に出くわし、得意の小島国拳法で悪漢を追い払う。

恐怖でしゃがみ込む女性を置いて、名前も告げず立ち去ろうとする青年。

「待って！」腕をつかまれ振り向くと、女性の潤んだ瞳とその可愛らしさに目を奪われる。御礼にと、強く請われるがままに携帯番号を交換するがその後、連れて行かれた半島国料理店に、青年は戸惑う。

「気に入らなかった？」

「すまないけど、半島国料理は苦手だ」

「そうなんだ、残念。ここね、あたしの親戚がやってるお店なの」

「…ってことは、君は半島国人か？」

「半分ね。ハーフなの。お母さんは日本人。おじいちゃんが 20 歳のときに小島国に移住したから、あたしで 3 世代目。みんなもう小島国で暮らしやすいように帰化しちゃったけど、あたしも 20 歳になって改めて、半島国のルーツも大事にしたいなって思うようになったの」

「…俺は、半島国人は嫌いだ」

「え？」

彼女の瞳に真正面から見据えられ思わず、傷つけぬよう言葉選びにあたふたする青年。

「いや、君は、ハーフだし、帰化してるし、それは、いいと思う。でも、小島国で生まれた誇りを持ってほしいっていうか、もう半島国なんか忘れて、小島国人として国益を優先するって言うか……」

「あたしは小島国の誇りも、半島国の誇りも、どっちも持ってるつもりよ。素直に、二つの国が仲良くなるために協力したいって思う。双方にとって一番の国益ってそうじゃないかしら」

初対面でもある彼女に、反論すべきか迷う青年。

「俺は、両国の国益が一致することはないと思う」

「どういうこと？」

「あいつらは小島国にたかるハエだ。帰化しないで特権を得てるハエは半島国に送り還したほうがいい」

怒り出すかと思ったが、彼女は少し考えたような顔で青年の顔を見つめている。

「…特権？」

「ああ。税金とか、生活保護とか」

「あたしには、帰化してない友人も、半島国からの留学生も、もちろん小島国人もいろんな知り合いがいるから、みんなが仲良くなってくれば、あたしも一番生きやすいって思う。それに少なくともそんな特権得てる友達はいないと思うし、なにより帰化しないのは、ちゃんと知ってほしいからよ」

「何を？」

「あたしたちがここにいるってこと。既に小島国人の 100 人中 2~3 人は、戦後に住み着いた半島国人か帰化人がルーツなの。でもたとえば、小島国人を 47 都道府県に分けて特色や方言を誇るバラエティ番組は当然のようであっても、50 人に 1 人以上いる半島国にルーツを持つ人々の現状を、真正面からとらえる教育をこの国はしてこなかった。ここで帰化しちゃったら、最初からいなかったことにされちゃう気がする」

「…でも君は、帰化したんだろう？」

「だから逆に、半島国のルーツも大切にしたいって思ってるのよ。それにね……」

そこで彼女はなぜか、可笑しそうに笑い出した。

「どうした？」

「あなたさっきあたしを助けてくれたでしょ？ あたし、大学サークルで国際交流の活動してるんだけど、あの人に半島国に帰れって言われたから、この国に住むのにあんたの許可はいらないって言い返したの。そしたらあ

んな感じになっちゃって」

イタズラっぽく笑う彼女に、言葉をなくす青年。

「あなたが言うように、もし不公平な特権があるなら、それは制度の問題でもある。だったらオープンに話し合っ
て解決すべきじゃないかしら。憎むことで制度が変わるワケじゃないから」

「でも歴史を捏造し、反小島国教育してるのは半島国だ。俺は小島国民として半島国を許すことはできない」

「…ねえあなたって過去に、半島国人に何かされたの？」

「いや。ただ、社会悪が許せないだけだ」

「ん〜」

彼女は首をかしげながら、何かを考えている。そして真剣な眼差しで、青年に語りかける。

「そうかしら。あなたはたぶん、知ってほしいのよ。」

この国に限らず、全ての平和は多かれ少なかれ無知に支えられていると私は思ってる。どんな問題も、知らなければ起こっていないことになるから。逆に問題を知ってしまえば、平和は崩れてしまうかもしれない。そこに怒りや憎しみが生まれるかもしれない。

でもこの国の無知なる平和に対して、足元にある隠された問題をあなたは訴えたいんじゃないかしら。

だってあたしもそう思うもの。本当に起こっていることが何なのか広く追求してほしいし、一人でも多くの人に知ってほしい。でもあなたから見える問題と、私から見える問題は、大げさに言えば海を挟んで反転しているのかもしれない。それは今まで誰も本当を明らかにしてこなかったから、本当がいくつもあることになってるからだって思うの」

彼女が青年に向けた真っ直ぐな意見に対して、青年も真剣に答える。

「いや、本当は俺が知ってるひとつしかない。半島国に騙されてるだけだ」

「騙されてるとしたらまず、どれが騙しでどれが本当か、そこから話を始めたらどうかしら」

「話し合う必要なんてない。半島国人は追い出すか、皆殺しにすればいい」

「本気で言ってるの？」

「…だとしたら、なんだ？」

「もし本気なら、まずはあたしを殺しに来て。じゃ、来週また会いましょ。ここで」

「え？」

「あたしは殺される側の味方をしたいの。来週あたしをまだ殺す気がなかったら、代わりに一品だけこの料理を食べてね。そうやってあたしを殺さずに毎週会い続ければ、あなたはどんどん半島国料理を好きになるってワケ」

呆れて青年は二の句が告げない。

「バカじゃないのか？俺が毎週こんな店に来るはずない」

「この料理は最高なの。一度食べて嫌いになるワケがないわ。ねえ、あなたがあたしを殺すのが先か、あなたが半島国料理を好きになるのが先か、勝負しない？」

翌週、青年は半島国料理店には出向かない。ただ、半島国にルーツを持つ彼女と直接の交流を持ってしまったことで、青年の中に葛藤が生じる。

あの料理店で自分を待っている彼女の姿を考える。彼女の真っ直ぐな視線が自分に向けられていたことを思う。彼女は俺に何を知らせたいのだろう。そして俺は彼女に何を知ってほしいのだろう。そこまで考えてとっさに打ち消す。

くだらない。これ以上知るべき事柄などない。この際本気で、彼女を殺すべきなのかもしれない。でなければいっそ、簡単に迷う自分自身を殺してしまおうか。

そのとき、とてつもなく大きな横揺れが起こる。地震直前の低い轟音に似た、大気を震わす竜の咆哮が響き渡

る。

TVをつけると、国籍不明の竜の一群が小島国に攻め入ってくる映像が映し出される。竜の羽ばたきが巨大津波を起こし、街が海に飲み込まれていく。竜の口から吐き出された炎が街を焼いていく。

そのとき、着信音、見るとディスプレイに彼女の文字が。出ると、「助けて」という叫びで電話が断ち切られる。

青年は思わず立ち上がり、迷う余地なく外へ飛び出して行く。

ここまで書ければ終わり。

謎の竜の正体とか襲う理由は、特にあってもなくてもいいと思う。青年や女性が抱える背景や悩みも詳しくは書かない。話を狭く限定したくないから。

ちなみにこの企画の最大の目玉は、全部の設定を反転させた韓国語版を同時発表すること。つまり韓国語版の舞台は半島国で、青年は半島国出身、反小島国運動をしている。女性はハーフで、両国の友好に貢献したいと思っている。他の細かい設定も必要な部分は直す。

こういう類の企画があったら、結構面白いんじゃないかと思った。

人生は暇つぶしで、巨万の富を得ようが、貧乏暮らしをしようが、一度に感じられる幸福感には上限も時間制限もある。快感だって過ぎれば苦痛になる。快感や幸福感だけを延々と感じ続けながら生きる人間はいない。

それならば与えられた人生の枠の中で、できるだけ幸福に文化的に暇をつぶしたいと俺は思ってる。そこで文化に対する俺なりの答えとして、バッシングに与しない物語で暇をつぶそうと考えた。あとはじめに業業言っていたのは『GO』に似ちゃったからなんだけど、『凶気の桜』っぽくもあるから窪塚恐るべしって思う。

あと朝ドラ観て思ったんだけど、「グレル」「不良」って昔はツッパリが暴力ふるったり、裏社会の構成員になったりするイメージだけど、それは体育会系のグレで、今は文化系のグレもあって、それが引きこもりなんだと思う。暴走や暴力の代わりにネット上の荒らしやハッキングがあって、その能力を買われ裏社会に取り込まれたりもする。

更に、「斬新な王道」ってタイトルも朝ドラに関連してる。

物語の軸は王道、つまり家族、恋愛、友情、夢とかありきたりのテーマでも、味付けに使われる小道具や会話が斬新で魅力的なら、それだけで人は面白がってくれる。

っていうか、人間ってそもそも昔から大して変わってなくて、古典や源氏物語がいまだに現代語訳されて魅力的だったり、それこそサル山の猿社会と人間社会だってあんま大差ない。所詮どこまで行っても人間なんてその程度だ。ちなみに前回話題にした『一卵性恋人』も改めて聴き直してみたけど、やっぱりまだに極北の音楽だと再認識した。我々人類は『一卵性恋人』以上でも以下でもないんだ。いや、これは完全に言い過ぎた。

ちなみに『想像ラジオ』は芥川賞逃したけど、今更いとうせいこうを新人賞にノミネートすること自体ちょっとどうだろう。表現としては面白いと感じたので興味があればご一読を。内容はあえて詳しく触れませんが、想像してください。

さて、それでは次回なんだけど、まず原発作業員基金を設立するという提案について考えたい。俺が勝手に考えたんだけど。原発事故の復旧作業してる人に、一日一万円を支給する基金を作ったらいいなど。復興のためのお金が有効活用されてない中で、お金の使い道としてかなり真っ当なんじゃないかと思うんだよね。んで、お金を渡すときにきちんと身分証明をして、誰がどこでどれだけ働いたか、第三者機関がきっちり管理するシステムとして機能させればいい。あとついでに多数の作業員に聞き取りして、彼らの真の姿をまとめて本にするとこまでいければベストかな。

あと、福島原発で亡くなった人リストに所長を追加したり、「誰も死んでないから、原発を再稼動する」って話

とDVとの関連を書きたい。

そもそも事前に「一人死んだら再稼働やめる」とか全く約束をしてないから、後出しで何でも言えるんだよね。「日本の人口で見たら多少死んでも影響ないから再稼働する」とか、「12人の小児甲状腺ガン手術くらいなら、因果関係は不明だし再稼働する」とかね。何人避難したらとか、何人病気になったらって事前に決めないと何も言ったことにならない。これは国語の問題だと思うんだよ。

今回はこんな感じ。

どうかな？

考え



生まれたからには仕方ない。

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

今回から仕切り直して、俺（G）がU宛にしたためた書簡を、ウクレレに詰めてネットの海に流します。以前、思いつきで書いた「空に宛てた手紙」をここでやることになるとはね。さて、それでは「考えるウマシカ 空メール編」を久々に始めましょう。

前回から今日まで時間が空いたのは、Uがちょっと時間取れなくなったってこととはあんまり関係なくて。書きたいことはいっぱいあったけど、俺がわざわざUに送る意味を感じられない手紙だったから。

溜め込んでた言葉も前回までで清算できた気がしたし、身の回りの出来事もいろいろ一段落して、急に憑き物が落ちたようにフィクションを読み書きする気力がなくなってしまった。わざわざ今さら人が作った嘘をありがたく出迎るのがアホらしかったし、俺が嘘を書くのもきつかった。

ちょうど赤ちゃんポストのドラマが議論になってるけど、そういう問題提起ならドラマじゃなくて同じ時間使ったドキュメンタリーを制作してほしい。現実の問題をわざわざドラマに焼き直す二度手間や、毎週観る時間をもつたいたいと思う。

表現の自由があるなら抗議の自由もあって、その議論から新しい提案が生まれるならまだしも、「世間の話題になるだけで価値がある」って炎上商法が流行してるから、反対も賛成も結局、同じ神輿を担ぐハメになったりする。

そういう意味で、今シーズンのドラマで俺が目撃したいのはやっぱ『天誅 闇の仕置人』だね。日ごろドラマ観る習慣は全くないけど、これ下手したら大化けするよ。ショムニ以来のフジの顔になるね。とにかく主演の女忍者の顔がすごい。説得力半端ない。無名の初主演だけあって、(タイムスリップして現代に来た) 忍者の人殺し感と、「このドラマ当てなきゃあたしに明日はない」って切迫感がうまい具合にリンクしてる。脇を固める役者も、ピン子、京本、柳沢慎吾、三ツ矢雄二と来たら、もう飛び道具のみのキャスティングでしょ。この五人がズラッと並んで必殺やるワケだから。そんで三ツ矢の役名がミツ子って、マツコとミツくっつけちゃった日にはあなた、もう真面目にやる気永遠に0じゃん。というワケで録画予約したよ。これ大爆発か途中で打ち切りかどっちかだよ。でももしこれ打ち切られたら、日本のフィクションと主演女優はお先真っ暗だね。そんぐらい来るよ、これは。

さて、『永遠の0』が戦争賛美か反戦か、右か左かは、観る人の立場で変わる議論だから、そこに火を起こそうが消火しようが、所詮炎上商法の水掛け論にしかならないと俺は思う。とりあえず国を良くしたいって意味では右も左も「愛国」だし、あの作品が「エンタメ」なのは間違いないから、「愛国エンタメ」くらいでくっつきゃいいでしょ。

「お国のために戦ってくれてありがとう。過去のあなたたちのおかげで、現代日本人がいます」って感謝して、そこから過去の戦争の意味を問い直し、やっぱ日本人は素晴らしいって結論にもって行きたい人達がいる、逆に異を唱えたい人たちもいるのは知ってる。

でも、それはどうでもいい。俺がこの作品に気乗りしない理由もそこじゃない。

だって、今でしょ？ 今なんでしょ？ みんな今今言ってるんでしょ？ だったら過去の日本兵より先に、例えば今「お国のために」爆発した原発に特攻して、命懸けで被曝してる作業員が日々たくさんいるのに、俺も含めた国民はそこに全然敬意を払えてないって自覚があるワケじゃん。しかも作業員の待遇は過去の兵隊同様に最悪、志願者も減ってる現実があって、それを改善できるかは今の国民の責任なんだから、回り道して過去の戦争に逃避してる場合じゃない。

「過去の戦争を知らない世代に読んでほしい」「今の時代がいかに恵まれてるか、現代人は自覚してほしい」ってあなた、それ廃炉作業員に向かって真顔で言えますか？ 今、お国のために命を散らしてる人間を目の前にして

おいて、逆にあんたはそれを無視してどこ見てんのさって、ミツ子もドラマで言ってたよ。妄想だけど。

でもわかってるんだよ。過去の特攻に観客が涙を流すのは、過去は変わらないし、自分に直接の責任がないから。だから原発の特攻作業員が注目される日も、すべてにかたがついて、国民に直接の責任が及ばなくなった数十年後だろう。しかもゴキブリみたいに利権が必ず絡むから、貧乏人同士を前線で殺し合わせたり原発に特攻させて、権力者が後方で富を得るって図式はどこまで行っても未来永劫変わらない。

ただあの作品のラストは、主人公が特攻に成功しようが逆に撃沈されようが関係なく成立する、ってことは少し意識したほうがいいとは思う。どっちでもいいラストで、作者はカッコいい死に方を選んだし、そのカッコ良さの積み重ねがお涙頂戴エンタメの正体だから。(っても、原作も映画も観ずにネタバレサイトから得た知識のみでこれ書いてる俺も俺だ。まあネタバレサイトもすごくよく出来てたし、感涙モノだったから結果良しじゃない?)

その点から宮崎駿の発言を勝手に超解釈すれば、「戦争で零戦がカッコよく特攻に成功するような話」が彼はキライなんだろう。

だって本当の戦争は水木しげるの戦記まんがみたいに理不尽で泥臭くて、クソと性欲と食欲まみれでみみちくくて、そもそも映画にして泣かすような話じゃない。

実際の廃炉作業だって、反社会的勢力のしのぎが絡んだ話とか、行き場のないドン詰まりの生活してる人たちの話がいくらでもあるはずなのに、それが全然日々のニュースに出て来ない。

この国のそういうキレイごとに対して、泉谷しげるはあの紅白で怒ってたと思うんだけど、どうせなら原発前で作業員に向けて歌えばよかったのかもしれない。彼は「俺のボランティアは偽善で売名だから、お前ら、俺をもっと有名にしろ。そしたら俺はその力でもっともっと思いきり偽善する」って行動してる人だから。そんで国民を代表して作業員に向かって「国民がクソだから、迷惑かけてごめん。いつもありがとう」って土下座パフォーマンスすれば、金爆の土下座と繋がってうまくオチたかもね。まあ絶対無理だけど。

俺が今戦争や廃炉作業でお国のために死んで、それを後世の人に「ありがとう」ってひとくくりで感謝されて泣かれても、うんざりした恨み言しか出てこないよ。「もっと長生きしたかったのに、後方の金持ちは幸せに生き残りやがって。あいつらが俺の代わりに死ねばよかった」くらいに思うだけだ。

この国にはたくさんの自殺者がいる。その何割かもまた、日々繰り返される経済の戦争によって追い詰められた兵士なのかもしれない。彼らは自殺へ特攻することで自分を脅かす権力に捨て身の抵抗をしてるのかもしれない。そしてその権力を支えているのは結局いつの時代も、俺みたいな庶民を含めた国民一人ひとりだ。

そういう自覚があるから、俺はあの作品に気乗りしない。

ところで『風立ちぬ』も『色彩を〜』も、結局完全なフィクションではなかったと俺は思う。いろいろ調べてみても、『風立ちぬ』は宮崎駿の自伝に近くて、「どんな困難な時代でも人は自分の好きなようにしか生きられない。次の特攻がお前の番でも全力で苦しんで戦って死ね」って話だったし、『色彩を〜』も過去の自作をコラージュしてまとめた作品だった。

それはなぜかって考えると、やっぱ今さら完全なフィクション=嘘を観客に提示して、そのために時間割かせるのはしんどいんだと思う。「これは半分自伝です」とか「過去作に立脚してます」みたいな前がないと、現実から浮き上がってしまう感覚があるんだろう。

とまあ、他人の話をいろいろ書いてみたんだけど、これだけじゃ俺が書く意味がない。今までこの連載では己の未熟な想像力を限界まで駆使して、アイドル、作業員、ヘイトスピーチ等に斬新な王道を見つけて来たつもりだけど、次は何をテーマにしようかな。

ちなみに、斬新な王道って言葉はそもそも、ゲームについて書きたいと思って考えた。だって最新機種 of Wii U ださえ、最初のソフトは 30 年前の横スクロール・マリオのリメイクだったから。技術ばかり進歩しても、人間が楽しめる範囲なんて結局横スクロール程度なんだと俺は思う。ちなみにそういう俺が直近でクリアしたゲームは、『セインツ』って PS2 のドマイナーアクションアドベンチャーだ。家では未だに PS2 フル稼働だし。だって十分面白いソフトが 100 円とかなんだぜ？ その昔 64 が発売されてもまだ、封筒に 500 円切手と青いディスク入れて「中山美穂のトキメキハイスクールに書き換えをお願いします」って手紙を任天堂本社に送ってた俺だけ、レトロゲームが好きなのは俺だけじゃねえと思うんだよ。ちなみにディスクシステムといえば『ヌイゼン』ってソフトが面白かったから有野課長やってくんねえかな、ってまあそんな話はどうでもいい。

というワケで今回は、俺が考える新しいゲームの話でもしようかと思う。わかんないけど。そういえばゲームの『天誅』や姉妹シリーズの『忍道戒』とかも PS2 くらいがちょうどいいと思うんだよね。どうせだからあのドラマもゲーム化してほしいな。ピン子操作して必殺を決めてみたい。

さて、今回はこんな感じ。どうかな？



第十回『天誅と闇の仕置き人』とキス我慢選手権

考え



そんなに
読んじゃ、イヤ！
弦楽器イルカ⇒友人

E テレで『福島をずっと見ている TV』ってやってるのは知ってたけど、気づいたら観るって感じで、積極的に録画はしてなかった。んで最近、原発へ行く前編と作業員7人に話を聞く後編があったんだけど、放送時間を調べてなくて後編を録り逃したから結局、YouTubeで観た。

そんなとき気づいたのは、この番組って月に一回不定期で、深夜0時からやってること。たまに再放送もするんだけどそれも予定は未定みたいな感じで、そもそも深夜に不定期の番組って視聴者が相当意識して観にいかないと、福島をずっと見せる気ホントにあんのかって編成になってる。

しかも今回は作業員7人が実名・顔出しで真剣にしゃべり場する、めったにない特集だった。って内容はまあ予想通り、例えば「誰かがやらなきゃいけないからキツくても働いてるのに、正々堂々とできない悲しみ」とか、「ワケもわからず涙が出るときがある」とか、「家族に反対されて泣かれたりする」とか、「でもみんな頑張ってるから自分だけ逃げ出すワケにはいかない」とか、「危険手当も減って中には手当てなしの会社も結構ある」とか、「このまま働いていいのかって疑問や不信はみんなあるしテンションが下がる」とか、「嫌気がさして辞めちゃう人が多い」とかっていう、人間だったら（十代じゃなくても）当然って話だった。

誰もがやりたくない仕事をこの瞬間も引き受けてる人がいる。彼らの精神的・肉体的な犠牲の上に国民全体が生き伸びてる。当然みんな知ってる。でも、普通にテレビ観てるだけじゃそれを目にすることがない。特攻する戦争映画とか、五輪の飛行隊はぼおっとテレビつけててもCMやニュースで嫌でも目に入るのにね。この差異はお金の動きがあるかないかで明快に決まってる。

みんな知ってて、ずっと見ないようにしてる。持つ者と持たざる者、金持ちと貧乏人、権力者と被支配層に分かたれる社会はこうやって、多数派の国民が居心地良く暮らすための無関心で支えられてる。

甲状腺ガンとその疑いのある子どもが75人に増えた。数を数えるならまず先に、どのタイミングで何人まで増えれば因果関係が認められるのか、おおよそは決めておこなきゃ今どの段階でどう安全かもわからない。100人なら安心なのか、1000人なら危険なのか。でも未だに何も決めずに子どもを数とみなすだけだから、いつも通り「因果関係はない」ってお決まりのセリフを巡って不毛な議論が一人歩きの右往左往してる。

本来は、因果関係なんかどうでもいい。だって子どもは数じゃないから。育てる人、支える人がいて、一人ひとりみんな必死で生きてる。彼らと周囲の人が今どんだけの痛みを抱えているか想像するより、メダルの色や数のほうがより多く語られる国に俺は生きてる。

前に書こうと思ったんだけど、これは家庭内暴力=DVを認めたくない当事者の構造と一緒だ。「暴力なんてふるってない」加害者がいて、「暴力はふるわれてない」被害者がいる。それと同じで、「大した被曝じゃない」国と、「被曝は問題ない」被曝者がいる。

この被曝のDV化を支えているのが、大多数の国民の無関心による、被曝者の孤立化だ。結果、国と大多数は自分たちと被曝者を隔離するために、避難するかどうかを被曝者各自の自己責任に押し付ける。自己責任だから、自分や国にはなんの関係もない。「被曝は影響ない」し、実際に「被曝してない」と主張してその土地に住み、作物を育て、食べ続ける人もたくさんいる。

でも被曝者は避難してないから悩んでないワケでもないし、避難したから安心なワケでもない。自己責任にされた時点で、被曝者の悩みも各自に押し付けられている。

国は大多数の無関心と被曝者の孤立化を維持するために、例えば五輪という装置を使う。テレビ観て楽しんでれば、隣で悩む人がいる問題も、更には悩んでいる当事者でさえ問題を忘れられる。

でも、こんなのは悲観すべきことじゃない。むしろ笑うとこだ。メダル取れずにヘラヘラ会見する選手と一緒に、国民みんな腹抱えて指差してゲラゲラ大声上げて被曝者を笑ってるでしょ？ 被曝者自身も沈黙してるって

ことは、笑われてるのを受け入れてるのと一緒だ。笑えば被曝しないそうだし、これからはいつそ被曝者も他人に笑われるリアクション芸人じゃなくて、自分から笑わせるネタ芸人を目指せば良い。

人間なんて遺伝子の乗り物だから、むしろ下半身が主で、上半身はいくら偉そうな顔して（ふんぞり返ってチョビ髭でも）フラフラと乗っかっちゃってるだけだモン。みんな自分の心地良さのために生まれて死ぬのみ。基本は弱肉強食。もちろん正義なんて所詮、人間同士が共同で暮らすために妥結した単なる取り決めだ。大多数の無関心の前では大した力を持たない。だからこそ、そう。「私には正義などない」

気づいてくれると嬉しいんだけど。ここでやっとタイトルとつながった。いや、これが前回猛プッシュした『天誅～闇の仕置き人～』の決め台詞ね。俺がハマればハマるほど世間の視聴率がどんどん下がっていくのが久々に楽しい。まさに人知れず闇でほくそ笑む感じ。今ならまだ自分だけが本当に面白いモノを発掘してるって痛々しい優越感が得られるよ。トンがった十代のガラスが、触る物みな傷つけるように、真剣なしゃべり場で「俺の子じゃない」って言い張るしゃかりきコロンプスね。

ちなみに今回から遂に五つの闇が勢ぞろいした。忍者、古武術、ピッキング、声色、ピン子。五人それぞれの特技で悪を仕置くんた。ピン子だけ特技がピン子であるって、ちょっとピン子寄りに偏った特技なんだけど。「ピン子がピン子であるために」「ピン子にやさしく」「基本的ピン子の尊重」「みんなはピン子のために。一人はピン子のために」作られたドラマだ。正直どうかしてる。クソだ。でも、愛すべきクソ。

天誅。承知。握り飯。

この完璧な流れ。一切の妥協も視聴者の考える隙もない。むしろ考えたら負け。あれだ。何かに似てると思ったら、イチローが打席に入る前のルーチンと一緒にだよ。つまりイチローが天誅、承知、握り飯の順で打席に入るあの感じだよ。オニギリくわえながら、ホッペに米粒つけながら黄門様が悪を成敗するときの流れとも一緒。何も考えず安心して嘘を受け入れられる。間違いなく年末の流行語狙える位置にあるね。俺視聴率では五輪 5%、原発 10%、天誅 85%なワケだから。

それでも俺が思うに、フィクションとしての新しさが全くないワケではなくて。

斬新な王道って観点から考えると、王道＝ドラマとしてベッタベタな（ヘドロみたいな）三流の展開を成立させるために、斬新＝「最近の社会問題」「ピン子と奇怪な仲間たち」「説明の省略」、この三点が活かされてると思う。特に省略がね。ひどい。

「あ、ここドラマのお約束なんで説明はしよります」「え、どうしてその展開？」「今更もう。だってドラマでしょ？ こう来たらオチは大体そうじゃないっすか」って適当なノリ。いいね、フィクションはそうこなくっちゃ。

というワケで今回、ゲームの話は脇に置いて、フィクションがどこに向かうのかって話をしたい。ずいぶん前置きが長くなったな。

俺は昔からメタなフィクションが好きだった。メタフィクションって例えば、あのドラマでもピン子が視聴者に向かって「埼玉の皆様、すみません」って謝ってた場面があった。フィクションをフィクションとしてだけ完結させるんじゃなくて、キャラクターが観客に向けて話しかけるとか、演劇がよくやる観客とつながってる感じ。そういうの、安心する。これは嘘ですって先に断ってるワケだから。

ちなみに、「お前ら孤児はペットと同じ、泣いて媚びろ」とか言うドラマがあるみたいだけど、非常にベタな古いセリフだと思う。俺だったらシリアスよりむしろコメディで使用したいね。「ここは悪のちびっ子ハウスだよ、さあお泣き、ガキはペットと同じだよ！」って、タイムボカンの三悪トリオ、元のび太役の声優さんが黒ハイレグでムチ振るいながらこそ成立するセリフじゃねえかと思う。

「そーでまんねん、でないと飯やらんでまんねん」「泣け泣け一、っってもうさっさと金持ちんとこ養子縁組して、僕チンの発明の資金源になってチョーダイ！」「そんなことはさせないぞ！」「あ、その声は一、っってもう何回目

だってのー！」「やっぱり来たね、このお邪魔虫が！」「毎度毎度、正義の押し売りには飽きたでまんねん」って流れがうる覚えに見えるようだよ。

しかし 21 世紀にそんなセリフが要るとはね。だったら「同情するなら金をくれ」を今更の再放送してた方が、まかり間違っても「今度は戦争だ！」まで勢いで行けるかもしれないよ。でも世間様の 2014 年 2 月はポストと五輪で満席なんだろうね。

ただあのドラマは孤児の問題提起とかじゃなく、単に「同情するなら金をくれ」の平成版をやりたくて、だから同じような古臭いセリフを使ってるんだろう。

ちなみにこれに関して、俺が毎度監視してる大手検索エンジンのコメント欄だけど、はじめは「ポストなんてドラマ作って、テレビ局ひどい」が大勢だったのに、人権団体がドラマに抗議した瞬間から、ころっとポスト擁護派で一面が埋め尽くされてた。「面白いドラマなのにポストにつまらない抗議を投げ込むな」ってさ。結局ドラマより人権団体に反対したい層の厚さが金満ヤンキース並にハンパないって、さすがのイチローも追い詰められたってとこだね。ここはイチローも黙ってルーチンの握り飯を頬張るしかない。さあ、リスみたいなホッペで次の打席に向かおう。

あと村上春樹のポイ捨てについてのコメントも一緒だ。「お国のために全体がある」層は個人主義の春樹が好きじゃないから、とにかく一言批判コメントしたがる。つまりその層はポストは認めるけど春樹は認めないってワケだ。

あと今回の都知事選、与党と野党、右と左がグチャグチャだったから、どの層がどっち向いててどのくらい人数いるか知るために、仕組まれた選挙じゃないのかな。まあどうでもいいけどね。

そんでいきなりだけど、ニコニコ動画の字幕がフィクションに大きな流れを起こしたでしょ。どんなにシリアスでホラーな物語であっても、あの字幕弾幕が入っちゃうと、物語世界が現実の視聴者に文字通り侵食＝メタ化されてしまう。ネット掲示板のリアルタイム実況とかもあるけど、動画と字幕を一緒にした点でニコニコの方がより便利で軽い。ニコニコの字幕は元々、テレビバラエティーの何でも字幕にする演出から来てると思うけど、結局、視聴者は現実の学校や職場で翌日に話題にしたいって欲求があったワケだから、それを翌日じゃなくその場ですましちゃってる点でも便利で軽い。力道山の時代にはテレビが話題の中心だったけど、テレビ離れが進んだ今は面と向かってテレビの話をあんまりしなくなった。その分、ネットのコミュニティで同じような感想を共有し合ってるよね。便利だし楽しいから。ここまでは誰かが言いそうな話。

んで、この実況＝語り合いたい欲求がついにフィクションに新しい地平を築いたのが、『ゴッドタン キス我慢選手権 THE MOVIE』だと思う。いつもの「キス我慢選手権」の映画化だけど、劇団ひとりがアドリブで展開するベタな物語に対して、映画内のモニタリングスペースで同時解説が行われる。これつまりニコニコ動画の字幕が、あのモニタリングスペースになってるワケだよ。ここ「知らない人はネット検索、それが 21 世紀の電子書籍」だから。そこんとこ 4649 お願いします。

あの映画は新しいメタフィクションの流れを作るかもしれない。何より面白い。もちろん劇団ひとりに負うところが大きいから、同じ企画で映画が作られるかは知らないけど、同時通訳ならぬ同時解説の波が映画にも押し寄せたってことでこの話は良しとしよう。

嘘を嘘として優雅に悠長に自分の内面で楽しむ、というのは 20 世紀で幕を閉じ、21 世紀はもう、自分の感想を他人と共有するって自分発信が中心に来てる。音楽のライブを映画館で同時中継するとか、参加型の映画も増えて来てる。観客は単なる受身じゃなくて、一緒に映画を作る存在になってる。そしてそれはきっと映画だけじゃなくて、政治とかも一緒だろう。

例えば隣にいても、携帯電話で話したりメールしてる人に現実からは話しかけづらい。だって現実から他の空

間に自分を隔離、あるいは逃避しちゃってるから。これは演者が現実に向け話しかけるメタフィクションとはちよど逆だ。その延長上にネット発信で現実=社会を組み替える取り組みも広まってる。

ただネットには、自分の常識を相手に押しつける側面もある。自分が常識の中心で、相手は非常識。だから他国の文化とか攻撃しやすい。そのうち首長族も児童虐待ってことになるんじゃないだろうか。人食い人種や首狩り族が非常識とされるように。そうやって文化を国際的にどんどん平板化して行って、地方都市がどこも似たようなシャッター街になるのと一緒に、出る杭はある程度揃えられることになる。良くも悪くもそれもネット社会だろう。

でも、出すすぎる杭はヤツらにゃ打てない。

被曝者や作業員が各自の悩みを解消するために必要なのは、本当は全員が出すぎる杭になることだ。でも各自が出すぎないように、そもそも出すぎたかどうかなんて見向きもされないように、五輪にばっか目を向けるように、この国は磐石に構築されてるし、被曝者や作業員は相当ナメられてる。

どうせナメられるならピカピカの飴を目指せ。しゃぶりつくされろ。大丈夫、安心して。たとえ骨だけになったとしても、ピン子にさえやさしくしとけば、五つの闇がきつとなんとかしてくれる。

ホラ、耳をすませば、「天誅」「承知」、そして握り飯を頬張るイチローの姿が見えてくるだろう？

さて、今回はこんな感じ。だいぶとっ散らかったけど、Uってタガが外れると俺なんてこんなモンだ。どうかな？



考
え



暴論だったら
ぶん投げろ！

弦楽器イルカ⇒友人

さて、今回も勝手な妄想を4つ紹介したい。

その一、ドラマ『天誅』の幻のボツ回を勝手に妄想してみた。

タイトルは、「～復讐の黒天使～」。

場面は京本の古武術の道場から。「素敵なお香がする」と親衛隊のおばちゃま三人組に囲まれる京本。

「最近、日本古来のお香について勉強しているんです。今たっているのは安眠効果と、少し催眠の効果もあるお香なんですよ」

「まあ、まるで夢の中にいるみたい。先生と一緒に夢の国へ行きたいわ～♡」と、おばちゃまがたメロメロ。

場面変わって、スナック「天守閣」。テレビでは総理の祖母が亡くなったニュースが放送されており、ミツ子が総理（三ツ矢の一人二役）に似ていると話題に。

「えー？ 似てないわよー。ん、オッホン。私には夢があります。オカマによるオカマのための景気対策こそ、この国に最も自信を取り戻す活力になるのであります！」

「ヨッ！ ミツ子総理。良い夢みせてもらったよ、アバヨ！」

「へえ。総理のばあちゃん、亡くなったんだ」とピン子。

「そうなのよ。どうも総理は子どもの頃からエライおばあちゃん子で、全く頭が上がらなかつたらしいわよ」と近所の情報通のおばちゃん。

次いでテレビは変わって、2週間前に原発の作業員が、作業中に心不全で亡くなったというニュースを流している。因果関係はなし。

そんなとき、「ヘルプ天使」のサイトに匿名のメールが届く。

「原発作業員が連続襲撃されている事件の謎を探してほしい」

早速、慎吾が調べてみるが、新聞やニュースではそんな報道はやっていない。そこでピン子がサナに指示して、妙にカッコつける例のメガネ刑事の人から情報を入手しようとする。

「俺に調べろって言われても、そもそもお前がやったんじゃないのか？」と妙にカッコつけるメガネ刑事。噂ではフードマンが、作業員たちを背後からスタンガンで襲い軽傷を押させているらしい。

「私に人を襲う理由などない」とサナ。

「どうだかな。一応俺も調べてみるが、お前が真犯人だったら、今度こそ俺が捕まえてやる」と、女子がキュンとなる萌えゼリフのメガネ刑事。

そこで調べていくとどうやら、襲撃されたのはドヤ街からヤクザの斡旋で流れてきた日雇いの元ホームレスばかりだということがわかる。タコ部屋に何人も押し込められ、劣悪な環境でピンはねされながら働いている者たちだ。中には、名前を偽って線量をごまかしている労働者もいる。

しかし、そういった状況を公表されたくない電力会社や国が、マスコミや警察に圧力をかけ、この事件は内々で捜査されている。メガネ刑事も、顔の怖い帝都物語の刑事の人に捜査を止められてしまう。

「なぜ止めるんですか！」

「なぜもへちまもあるか！ とにかくこの事件には首を突っ込むな！」

そんな折、「ヘルプ天使」のサイトに新たな犯行予告メールが届く。

「犯人からのメールだ。明日の午後10時、また作業員を襲うらしい」と慎吾。

「でもなんで？」とミツ子。

「なんでもへちまもあるかい。……サナ！」ギラリと光るピン子の眼。そして決めゼリフ。

「ヘッチュウ」「え？」ずっこけるサナ。

「やだね、クシャミだよ。誰が噂してんだろ。……サナ。天誅！」

「承知」

そしてサンドイッチ。「ごめんね、今日米切らしちゃって」とピン子。

予告時間に犯行現場で待ち伏せすると、確かに黒ずくめの女らしき人影が作業員を襲おうとしている。取り押さえるサナ。あっさり捕まる女。

「お前は何者だ？」とサナ。しかし、女はサナよりも周囲を気にしている。

「……マスコミは来てないの？」と女。

しかし、女とサナを取り囲むのは、待ち伏せていた警官隊だけだ。帝都物語の怖い顔の刑事がメガホンで呼びかける。

「マスコミに犯行予告を流したのはそこのお前か。マスコミには緘口令を敷いている。こんなところには誰も来ない。おい、義賊野郎。さっさとそいつを警察に引き渡せ」

「どうも気に入らないね。……サナ」と後ろからピン子。そして決めゼリフ。

「ヘッチュウ」「え？」 ずっこける一同。

「やだね、またクシャミだよ。……サナ。撤収！」

「承知」

取り囲む警官隊を煙玉で文字通り煙に巻き、闇に消えるピン子ご一行様。

「21世紀に煙玉で逃走って、忍者かっつーの！」と帝都物語の刑事。

「案外、本物の忍者かもしれませんよ」とメガネ刑事。

「バカな。とにかく探せ！」

再び、場面はスナック「天守閣」。

「あんた、なんでこんな事件を？」とミツ子。

「あたしの父は、2週間前に、作業中に心不全で死んだんです」

「あ、そんなニュースやってたね、確かに」とミツ子。

「父は生前、ずっと作業員全体の待遇について、憤っていました。自分はまだいい、周りにはもっと低賃金で過酷に働かされてる人たちがいっぱいいる。誰かがやらなきゃいけないのに、誰も見向きもしない。それが許せないって」

「でも、それで作業員を襲って何になるのさ。逆ジャン？ 良い夢みれないぜ？ カワイ子ちゃん」

「マスコミにかけ合っても、父の死だってほとんど取り扱ってくれませんでした。それならいっそ、作業員の周りで事件を起こしたほうが、マスコミも取り上げてくれるんじゃないかって。巷で噂になっているフードマンになって、しかも本物のフードマンも呼べば、きっと騒ぎになるって」と、うなだれる女。

「そうかい。でも暴力じゃ何も解決しないよ」と、ピン子。

「え、自分でそれ言う？ 毎週天誅って決めゼリフで悪を懲らしめてる総元締めが？」とミツ子のツッコミ。

「ごちゃごちゃうるさいオカマだね。いちいちカマうなってるの。水戸黄門だって、助さん格さんが悪を懲らしめるのは暴力じゃなくて、世直しなの。とにかくそういうことなら、あんたをここで警察に突き出すわけにはいかなかったね」と、ピン子。

「え？」

「いっちょう派手に、あたしたちの流儀でやらしてもらおうじゃないの。ババアをナメンじゃないわよ。……サナ！」 遂に、ピン子の眼がギランと光る。

「天誅！」

「承知」

そして握り飯。

翌日から、白昼堂々、作業員がフードマンに襲われる事件が続発。しかし、襲われるといっても、額に×の傷が付けられ防護服が破られたのかと思いきや、ただ赤い筆で額に○印を書かれただけ。しかも足元にはなぜか必

ずスタミナドリンクがそっと置かれている。

「いったい何考えてんだ、フードマンめ！」と帝都物語の刑事。

時同じくして、作業員の家や昼食をとる会議室に、合計 3000 人分くらいのラーメンや寿司の出前がジャンジャン届く。

「これいったい誰の支払いですか？」

「え？ 総理から直々の電話がかかったって聞いてますけど」

「総理？」

受話器の声「あ、総理だが。オッホン。作業員に釜飯 500 人分、あるだけドンドン持って行っちゃってくれたまえ！」

「はい、毎度あり！ さすが総理、太っ腹ですね！」と釜飯屋。

「これがホントのカマ飯よ、なあんちやって！」

テレビでは、国会前の囲み取材でインタビューを受ける総理。

「あ、良い夢テレビの者ですが。総理がポケットマネーで作業員に寿司やラーメンをおごっていると大変評判になってますが、一言」

「いやなに。総理として当然のことはしたまでだよ。……え？」

その晩、古武術で警備の者を気絶させ、ピッキングで総理の寝室に潜入し、総理の枕元でお香をたくピン子ご一行様。

「起きなよこのスカポンタン！」と、ピン子。

「え、誰？ ん、なんか変な匂いが」と、寝ぼけまなこの総理。

「誰ってあんたはホント子どもの頃からバカな子だよ。ばあちゃんのを忘れたのかい」

「え、ばあちゃん？ おばあちゃんなの？ でもこの前お葬式を」と総理。

「死んだから霊になって出てきたんだろうが。最近の作業員の騒ぎとか、出前とか、全部ばあちゃんの仕業だよ。知ってたかい？」

「知らないよ。おばあちゃん。あの件、メチャメチャお金損したよ。いったいどうしてあんなことしたの？」

「損だって？ あんたは本当のバカだよ。お国のために日々戦っている労働者をないがしろにする総理なんて、あたしの孫じゃないよ。それを知らしめるためにやって来たのさ」

「そうだったんだ、ごめんね、おばあちゃん」

「それより、冥土の土産にあんたにひとつやってほしいことがあるんだよ。作業員の月収を最低でも月 100 万円以上にしておくれ」

「え、無理だよそんなの。財源がないよ」

「バカモノ！ それが今でも苦しい作業に従事している人に向けて言う言葉か！ ない財源を作ってこそその総理だろう！ いいかい、国民の鼻っ面にニンジンぶら下げて、俺に着いて来たらウマイ汁吸えるぞって金で釣るだけが総理の仕事じゃないよ。」

本当の指導者ってのはね、まずたくさんの人々が納得できる公平な夢を語るの。そして夢の実現のため皆様に頭を下げてお願いする。これが本当の政治ってモンだよ。ババアをナメンじゃないよ」

「わかったよ。おばあちゃん。僕、頑張るよ」

早速、翌日の緊急記者会見では、総理が作業員の月収を 100 万円以上にする待遇改善策を発表している。

「これで少しはあんたのお父さんも報われたかね」とピン子。

「ありがとうございます。なんと御礼を言っているか。これから、警察に自首して来ます」と女。

「え、いいんじゃない？ 誰も訴えてないから逮捕されないかもよ」とミツ子。

「私の気持ちの問題です。一から出直したいんです」と女。

「そう。頑張りな。みんな応援してるから」とピン子。

「握り飯、差し入れに行く」とサナ。

「ありがとう！」と去っていく女。

「へ、へ、ヘッチュウ。しかしなんでこうクシャミが多いのかね、今回は」と、ピン子。

「もしかして、先生のお香のせいじゃない？」とミツ子。

「そうか。蚊取り線香ならぬ、ババア線香ってワケだね」と慎吾。

「何言ってるんだい、年寄り大事にしないと地獄に堕ちるよ。……サナ！」と、ピン子の眼がギラリと……

全員「ヘッチュウ！」

そして Dragon Ash。ナレーションとエンドロール。

さて、続いては、爆発した原発の近隣地域を盛り上げるとして、『原発戦隊ヒロマン』ってどう？ バイオマンみたいじゃない？

メルトダ・ウン星からの侵略者「プルトニ・ウム大帝」が、「セシ・ウム作業員」や「ストロンチ・ウム怪人」を使って、全世界をヒバクさせてしまった！ 地球の裏側のブラジルとかでは実はそんなに困ってないけど、悪の秘密基地がご近所にある江古路地（えころじ）商店街では、避難すべきかどうかで住民が分断されている！

そこで、サイ・セーカノー星から降り注ぐ光を浴びた商店街の子どもたち5人が、自然エネルギーと「防護スーツ」「全面マスク」を身に付けて悪と対決する。

おてんばな女の子「フタバ」は地熱の赤、気は優しくて力持ちな男の子「オオクマ」は太陽の黄、普段はおっとりだけど怒るとコワイ女の子「ナミエ」は水流の青、いつもさわやかな男の子「トミオカ」は風力の白、そして身軽で野生児な男の子「ナラハ」はバイオマスの緑。

それぞれ5色のスーツは重いし暑いし線量の制限もあるから、悪との戦いは制限時間との戦いでもあるけれど、地域住民が仲良く暮らせる未来を夢見て、5人は悪と立ち向かう。

決めゼリフは「ヒロ・完了！」

人が住めなくなった無人の町をロケ地にしたり、フラガールと一緒に除染作業したり、ケーブル繋いだり水漏れ防いだり瓦礫撤去したりタンク溶接したり、今日のワンボイスってコーナーで各地に避難した住民の声を紹介したり、題材に事欠かないと思うんだよね。

Eテレでストレッチマンみたいにやってくれないかな。

それでは三つ目。さて、新都知事も既に結構なスキャンダルを抱えていそうだから、またすぐ辞任選挙があるとしたらどんな公約の泡沫候補が面白いかな、無駄に妄想してみた。

ズバリ、「東京都民を原発に作業員として送り込む」ワンイシュー候補はどうだろう。

東京電力の大株主は東京都だし、元都知事も「東京が使う原発は東京に建てろ」って言ってたくらいだから、まずは都知事自ら週二～三くらいで作業員として従事する。元都知事も都庁に来てたのは週三くらいだったって話だしね。更に都庁の職員もジャンジャンバリバリ送り込むし、都内のハローワークでも積極的に斡旋する。もちろんタダじゃない。

最も重要なのは、月収を最低100万円以上にする。その金は以前、都が買い取ろうとした島みたいに、都民の血税と寄付金から捻出する計画で、最終的に国が払うって展開にもってく。

最後、投票日にはニセ投票箱を全国各地に設置して、都民以外にも勝手な投票を募って、公職選挙法違反で捕まるってオチをつけてほしい。

「国が国策で補助金を払っていたのだから、福島原発が東京の電気を作るのは仕方ないことです。

しかし、絶対に爆発しないという安全神話を騙って隠蔽を繰り返し人災を引き起こした原発からの避難や、除染、廃炉作業までも近隣住民の自己責任に押し付ける現状に、賢明な都民が心を痛めないはずはありません。これからの原発再稼働は、爆発したら誰が廃炉作業するかまで明確に契約する時代になるでしょう。

今あの場所で、誰が、何の後片づけをしているのか、全都民が五輪と同じかそれ以上に心を砕いています。そんな都民の皆さんを思いやれる都政にしたい」って演説とか妄想する。

選挙ポスターの決めゼリフは「受かるためじゃない。ウケるために出た」

まあ意味はないけどね。でも泡沫候補だったら一か八かでこんくらいは無茶な言動してほしい。

んで最後は、最優秀五輪賞を作る案。

3色のメダル以外に、五輪と同じ5色のメダルで最優秀五輪賞を設定する。選考はロボコンの最優秀賞と同じ方式、つまり順位に関係なく、最もスポーツマンシップにのっとり、国境を越えてたくさんの人々から応援を受け、世界の平和に貢献した選手に与えられる。

そこで今回パッと思いつくのが、ジャマイカのボブスレー選手だろう。雪のない国からやって来てトラブルに見舞われても明るく、世界中から応援の寄付をもらい、でももらいすぎないようにちゃんと中断し、かつ最下位でも「いろいろなことがあったが人生で楽しくないことなんてないさ」と陽気に話す。

ただ一位を目指すだけがスポーツじゃない。みんなが平和で健康、元気で前向きになるのもスポーツだ。五輪憲章とかそういう感じのアレだった気がする覚えでするんだけど、だったら順位だけを競うのはナンセンスだし、21世紀的じゃないと思うのは俺だけかって話。

まあ、今回はこんな感じ。

どうかな？



第十二回『天罰く闇の仕分け人』と

あなたはなぜ「原発作業員」ではないのか？

考え



新・自虐私観

弦楽器イルカ⇒友人

マレーシアの航空機事件は、乗客の命を考えると簡単には語れないだろう。今後どこかで見つかるかもしれない。ただそれは別として、この事件には一つの事実がある。

我々一般庶民には見るどころか想像さえできない何らかの「大きな力」が働けば、飛行機は消える。それが一時的なのか、ずっとかはわからないけど。

つまり俺が言いたいのは、9月11日の話だ。

「イラクでも大量破壊兵器はなかった。真珠湾でも知っててアメリカ国民を見殺しにした説が各国で根強くある。だから9月11日に何があったとしても何ら不思議じゃない」って話はよく目にする。ただ陰謀論にも諸説あって、「ビルに飛行機が突っ込むのを政府は知ってて放置した」って説から、「ビルやペンタゴンは実は爆弾やミサイルで爆破され、飛行機はCGだった」ってネットの検証動画まである。

でも俺には何が事実かは読解できないし、そこは語らない。

ただ、「飛行機がビルに突っ込んでないなら本物は一体どこへ消えたんだ」って逆ツッコミに対しては、「飛行機を消す方法がないワケではない」と答えられる可能性が出てきた。

だからもし仮に、9月11日や3月11日に、裏で糸引く権力者が笑いながらポップコーン片手に観戦してたとしても、それも人間だと俺は思う。世界情勢も人の命も思いのまま、アリの巣を壊すのと何か違いはあるか、と。

権力者は正義や善悪という「縛り」で一般庶民を管理しながら、一方でその枠の外から手を伸ばし一般庶民を雑草のようにむしり取って利用する。使い捨て見殺しにされた多数の兵士にとっては、正義の自衛でも悪の侵略でも「死に方」に大差はない。

だからこそ、そう。「私には、正義など、ない」

いや、ここまでは結局『天誅』の最終話につなげるための前フリなんだけど。

鯉と見まごうばかりにロパクパクさせて「権力者は何でもできんだよ！」って嫌味な悪ノリ具合が半端なかった To Be Continued の人、アレ演技指導で絶対「想像の3倍やりすぎてくださいね」って念を押されてるよ。

「半沢」が緊迫感出すためにリアルな銀行を舞台にした分、直接的な暴力とかの無茶は当然なかった。そこを狙って、たかが（されど）テレビドラマだったらむしろ、スカッと直接的な暴力で悪を成敗して「天誅 曇りしちゃってる冬 2014」の方がスッキリすんじゃないか？ とは言っても正義なんて所詮、個人の主観じゃないか？ ってテーマが垣間見れた。

んで、「半沢」って最後「誰も責任を取らないシステム」に憤る長ゼリフがあって、コレ年金や天下りや原発管理の無責任さに対しても怒ってるドラマだなんて俺は思ったんだけど、『天誅』も最後はやっぱ「権力者の好き勝手にはさせない！」ってオチだったから、これは「半沢」あつての『天誅』なんだろうと思う。ってことはあのロパクパクは香川をパロディしてるって目も出てきたね。

とはいえ、ここまで熱く語っても U はどうせ『天誅』なんて観てないだろう。だったらあえて勢いついでに一つ読解しちゃうけど、『天誅』とよくある一般ドラマのリアリティに関する違いについて書いときたい。

普通、過去から現代へタイムスリップするドラマって、その非現実を周りの登場人物が受け入れるってくだりがあるんだよ。「実は私、過去から来たっばくて」「えー、マジ！ じゃ、過去に帰る方法を探そう」とか。現実では起こらないタイムスリップを登場人物に説明させて、その後の展開を視聴者にわかりやすく解説するのがお約束だ。

でも本当に戦国時代の人知らぬ間にタイムスリップして来たら、みんなワケわからんまま混乱するだけで、帰るも何もあつたもんじゃないだろう。そこで『天誅』はどうしたかって言うと、女忍者のタイムスリップを周囲はあんまり信じなかったし、結局それはどうでもいいって最後まで取り合わなかった。つまり問題をタイムス

リップじゃなくて、今この時代をどう生きどう「天誅」するかに絞ってた。このリアリティが実は結構面白かった。

まあとにかく理屈抜きで、最終話が度を越して狙いすぎてたよ。画太郎の『地獄甲子園』並みにサイコーなバカバカしさだあってピン子も言ってたよ。

公式 HP で役者の皆さんが「もう少しやりたかった」「最高に楽しい現場だった」「続編ないかな」って言うけど、視聴率低かったし普通 10 話のところを第 8 話でおしまいってやっぱ打ち切りなのかな。(お爺さんのストーリー話の予告編があったのに、実際放送してないと思うし)

でももしこれが打ち切りだったら(普通のドラマなら屈辱かもしれないけど)、『天誅』的にはむしろ勲章だと俺は思うね。

「ついて来たいヤツだけついて来い！」って逆走して、結局誰もついて来ませんでしたってオチだから。「何人たりとも俺の前どころか後ろも走らせねえ！」って視聴者を振り切ったリアル・レジェンドだよ。

ってワケで映画版『天誅』を勝手に妄想する次回予告を唐突にやってみよう。

「天罰～闇の仕分け人～」というドラマが第 8 話で打ち切りになった。表向きは視聴率の低迷だったが、全体的に視聴率の取れない今クールのドラマの中で、なぜ「天罰」だけが打ち切りになったのか？

「天罰」の主演女優から調査を依頼された「天誅」の面々が探り当てた驚愕の真実とは？ 政府、電力会社、高級官僚、飼い慣らされたマスコミを「天罰」するはずだった幻の最終話シナリオが存在した？ 権力に媚びる上層部の圧力に屈したのか？ 真に天誅されるべき黒幕 X の正体とは？

女忍者、古武術、ピッキング、声色、そしてピン子。「天誅組」の明日はどっちだ！

『天×誅 THE MOVIE ～今宵、お前に X (天誅) を～』

時空を超えた「サナ」と「ゆかり」、二人の女性の運命が今、交錯する。

カミング、スーン！

さて、一通り無駄に「ニセ予告」で盛り上がったところでそろそろ本題へ行きたい。

この前の 3 月 11 日に「過去を忘れない」「つながろう」とかってスローガンをたくさんみた。俺としては、提示するなら別の違う言葉があると思った。今回はその言葉に至る過程、この国の文化に対して俺がまだ不十分と思ってる部分を言語化しようと思う。

その 3 月 11 日に初めて、福島で甲状腺がん摘出手術した子の、親のインタビューがニュースになった。でも、11 日に作業員に関して言及する人はほとんど見なかったし、14 日に作業員 100 人が待遇改善のデモを実施したのも大したニュースになってない。

つまり過去どころか、みんな今を忘れようと必死だってことだ。あの 3 月 11 日以降、みんな心の中では被曝者や作業員を殺してる。自分自身が(程度の差こそあれ)被曝者である事実さえ皆殺しだから当然だろう。キレイごとのスローガンでお茶を濁し続けてるケド、そのお茶、とっくに汚染水混じってますよ。極論すれば。

■作業中に亡くなった原発作業員

2013 年 2 月 27 日 50 代 心肺停止 (死因非公開)

2012 年 8 月 22 日 50 代 急性心筋梗塞

2012 年 1 月 9 日 60 代 急性心筋梗塞

2011 年 10 月 6 日 50 代 後腹膜腫瘍による敗血症性ショック

2011 年 8 月 30 日 40 代 急性白血病

2011 年 5 月 14 日 60 歳 心筋梗塞 (実名報道あり)

■作業中に亡くなった除染作業員

2014年1月25日 58歳 運転していたローラー車ごと転落
2013年11月19日 46歳 ユニック車の下敷き
2013年10月12日 61歳 バックホーが土手から転落
2013年5月21日 30歳 クレーン付きトラックにはねられる
2013年3月22日 51歳 油圧ショベルカーの走行用ベルトに右足を挟まれる
2013年2月28日 54歳
2012年1月17日 59歳
2011年12月12日 60歳

公的発表されてる分を俺が拾った、前にも載せたまとめだ。漏れがあるかもしれない。とにかくご冥福を祈る。「尊い犠牲」とか口では誰も簡単に言うけど、ほとんど表に出ないまま忘れ去られてる人々だ。他にも吉田元所長が亡くなったり、除染作業員がゴミ箱で不審死したりしてる。

例えば戦争の英霊は神社に祀られてる。吉田元所長の告別の会には総理が出席した。

でも報道では、下請け作業員の葬式には総理どころか電力会社の社員すら来ないそう。電力会社は下請けとは関係ないから。まあ作業員も聖人君子じゃないし、金のために働いてるヤクザやホームレスもいるだろう。他に気になる点として、作業員がデモで脱原発の服を着てたけど、脱原発に待遇改善を利用してしまうと広く共感を得られなくなる危惧がある。あと2013年3月から原発作業員の死亡が報道されてない点等、いろいろあるけど、俺が書きたいのは別のことだ。

つまり今、国が掲げるべきスローガンとは何か。

「金持ちはより金持ちに。中流はより下流に。貧乏人や移民外国人はピンハネ低賃金で原発作業員に。差別は暗黙の了解に。利益は自分に。損はできるだけ他人に。そういう国に私たちは住みたい」

コレが今、俺が考えるベストの国是だよ。どっから切っても金太郎飴みたいに、この国の国民はみんなそう思って生きてる。真っ当すぎて、皮肉でも悲観でもない。

キレイごとのスローガンで偽らず、素直に「作業員の葬式なんて行く価値なし」って差別上等を宣言すべきだ。「ジャパニーズオンリー」じゃむしろ広すぎる。「ジャパニーズかつ金持ちかつ原発オンリー」だよ。「日本人でも貧乏人はサッカーなんて観るな。原発作業員としてお国のために働け」って電波がさいたま市から俺には来たよ。

だから真に天誅されるべきXは、政府や電力会社と共に、自分がしたくないことを他人に押し付けている事実さえ気づかない国民一人ひとりなんだと思う。いつか俺の目の前にも、クナイを逆手にサナが睨みながら立つ日が来るんだろう。

そしてもし今、虐げられ差別されている自分を変えたいと誰かが思ったら、逆にその差別を「特権を得る武器」に変えるための言葉を持つしかない。

さて、このスローガンの論拠となる文章を以下に書いた。こっから先は時間あったら読んでね。

「あなたはなぜ原発作業員ではないのか？」

この問いは、2011年3月11日以降この国に暮らす人々にとって避けて通れない命題になった。

隣国に侵略されるより先に、爆発した原発で誰かが作業しなければこの国は自滅する。つまりこの国で人々が平和に暮らすためには、誰かが絶対にその仕事を引き受けなければならない。もし作業員がいなければ、国どころか地球全体に被曝が広がってしまう。しかし誰もが率先してやりたい仕事ではないし、できれば自分や家族にはやらせたくないと思ってる。

「自らの命を削って国防を支えながらピンハネされる原発作業員とは、いったいどこの誰なのか？」

更に最近、移民外国人労働者の大量受け入れを検討する記事が出た。本来は TPP 締結と同時に外国人労働者の規制も緩和される流れだった気がするけど、TPP がこう着状態だから、先に移民受け入れを促進させる必要があったのかと思う。

もちろん、政権与党を支えてる保守の人たちは少なからず「移民お断り」って考えだから、移民政策を真剣に進めたら支持者も分裂するかもしれない。

でもそれも覚悟の上なんだろう。東北復興の建設業に外国人を充てるって建前はある。ただ最終的には国策失敗で爆発した原発の尻拭いから自国民は逃げて、低賃金の外国人に廃炉の責任を押し付けた場合、この国の人たちはそれでも自分にプライド持って生活するんだろう。今貧乏人に押し付けてる責任を、外国人になすり替えるだけだ。(ちなみに、泡沫候補が次の都知事選に受かるために、原発作業員になってしばらく働いたら面白いと思う。「私には他の候補者にはない、都政を良くしたい本気の覚悟があります」って演説できるよ)

原発が爆発する前は予想だにできなかった様々な汚染状況に対して、爆発した後は「爆発したんだから仕方ない」「爆発しても実は大したことない」という論調になった。

例えば 2014 年 02 月 25 日、「1 歳女兒のがんにかかる確率が 1.06 ポイント上がった」との推計結果が出た。京大教授は「被ばくで確率はわずかに増えたが、健康への影響は小さい」と話している。

これは、爆発前には存在しなかった、事故後始めて出てきた言葉だ。

自分の子どもがガンにかかって喜ぶ親は(なかなか)いない。少しでも確率を下げたい親心に対して、あるいは既に甲状腺がんになった子どもたちの親に対して、「健康への影響は少ない」「被曝による可能性は低い」と主張し続けることで、この国の経済は回ってる。

しかしもうみんな慣れすぎて、これも大したニュースにはならない。たぶん「原発が爆発したんだから、たとえ病気になっても仕方ない」と考えているのだろう。

月収 100 万円以上という金額を俺がバカみたいに連呼してるのは、それがベラボウに高い金額ではないって意味もある。年収 1200 万円は俺みたいな一般庶民には夢の数字だが、その倍以上もらってる権力者は多い。

権力者と下請け孫請けの原発作業員、どちらにより多く賃金を払うべきか、その実労働と賃金の間にどんだけの格差があるか。それを考えることが「この国で暮らす幸せとは何か」に直結していると思ったからだ。

そもそも国民に「もっと株式に投資しよう」とか政府が促してる時点で、「政治で面倒みるのはここまで。後は自己責任で儲けてね。もちろん損失は補填しませんケド」ってぶん投げてるワケだ。

株の仕組みを単純に考えたら、賭けた全員が儲けられる仕組みには当然なってない。誰かから安く買って、それを誰かに高く売る。高く買った人は、その値より高く売らなきゃ儲からない。そしたらチキンレースと一緒に、最後に転落するヤツが損をする。つまり極論すれば、他人に損を押し付けて自分が利益を得られるって仕組みを推奨してる訳だ。

年金、税金、生活保護、雇用、少子化、TPP、金融緩和、放射能、どんな問題にも対極の論説があって、権力者はそこから自分の都合に合った説を選べばいい。成果が上がったら儲けモノ、下がっても「当時の知見ではベストの選択をしたから」責任を取る必要はない。原発事故が良い例だし、それが現在の学問の意義だ。

そこを踏まえた上で政治家や他人に何かを期待するのは勝手だし、自分の利益になるなら好きにすればいい。ただ自分自身が利己主義なのに、総体である国に理想を求めて裏切られても仕方ないと思う。

「金持ちはより金持ちに。中流はより下流に。貧乏人や移民外国人はピンハネ低賃金で原発作業員に。差別は暗黙の了解に。利益は自分に。損はできるだけ他人に。そういう国に私たちは住みたい」

作業員はこれからもピンハネされ続けるし、子どもの甲状腺がんはカウントされ続けるし、それを国民は無視

し続けるだろう。

だから自分の身は自分で守るしかない。そしてもし今、虐げられ差別されている自分を変えたいと誰かが思ったら、逆にその差別を「特権を得る武器」に変えるための言葉を持つしかない。

さて、今回はこんな感じ。

どうかな？



第十三回『天×誅 THE MOVIE』今宵、お前にXを〜と

「よりぬきウマシカさん」

考え



ひとりぼっちの
反抗期

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

大気が澄んでいて、空がすごい近く感じられて、薄紫の鮮やかな夕暮れに向かって染まり行く車を走らせながら、感情が全く動かなかった。呆然と見送った後にその美しさを惜しむのだろう、あまりにも疲れ果てた一日だった。

過度の緊張から脱力した疲労が吐き気へと変化するのに合わせて、辺りが徐々に暗くなっていく。放心状態のなか、ふと、大して思い入れのないブルーハーツを、自然に、歌うってより絞りカスみたいな声でつぶやいてた。まるで許しを乞うような、流行から遠く誰にも届かないつぶやきだった。

ここは天国じゃない……
かと言って地獄でも……
いい奴ばかりじゃないけど
悪い奴ばかりでも……

弱い者達が夕暮れ
さらに弱い者を……
その音が響きわたれば……
ブルースは……

見えない自由がほしくて
見えない銃を撃ちまくる
本当の声を

上空、こっちに向かって黒い鳥が近づいてきて、よく見ると小さな影を追いかけてた。

たぶんカラスだと思うけど、スズメか何かを追いかけてて、つまり飛びながら捕食するつもりだと気づいた。俺は昔、カラスが生きてる鳩をついばんでたのを思い出した瞬間、小さい鳥に自分を重ねて「逃げろ」って呼びかけた。そしたらその後方から1匹、更にもう1匹のスズメがカラスに向かって飛び出し、3匹の小さな影は絡み合うようにカラスを翻弄し出した。

俺はただ呆気にとられて見てた。でもカラスだって生きるためには食わなきゃいけないって思いついた頃には、夕焼けを背にして行われた生き死にの影絵は遙か後方へ過ぎ去って見えなくなり、脇のコンビニに車を停めて空を確かめても、当たり前だけど、青暗い折り紙の向こうから白い爪を突き立てたみたいに、くっきりとした半月しかなかった。

だからバカみたいに、周りから明らかに変なヤツって思われるくらい長い時間、その月を見上げるハメになったって言い訳をここで書いてみた。

さて、ここまでの書き出しに「どうしようもないムーン」と名付けてみたところで、これまでの12回分を振り返る意味で、「よりぬきウマシカさん」を一回やってみよう。

「よりぬきウマシカさん」

「こんな原発反対運動はイヤだ！」

①原発推進を本気で止めたかったら、原発反対派だけでなく、原発推進派も納得するテーマを掲げて広く国民を巻き込む必要がある。

②今日も原発が爆発することなくギリギリの小康状態を保っているのは、数千人の作業員が働いているおかげだ。誰かが作業員にならなければ、この国は確実に自滅する。

③原発作業員のピンハネと低賃金、劣悪な労働環境、ずさんな管理体制等については、原発反対派も推進派も改善を求めており、作業員の労働には国民全体が感謝している。「作業員は奴隷として働け」と言う国民はいない。

④だから、御国のために身も心も削ってる全作業員の賃金を上げる運動は、賛成派も反対派も納得しやすい。そこでできれば月収一千万円、最低でも月収百万円をテーマに掲げる。

④全作業員の賃金を劇的に改善すれば、原発のコストは上がり、自然と原発推進できなくなる。

「こんな風評被害はイヤだ！」

原発の周辺住民はみんなその土地が大好きで、誰もそこから離れたくないし、子孫の代までそこにとどまりたいと考えていて、原発から遠く離れた人たちが絆でじっと見守ってくれるのが最高に嬉しいし、そこで取れた野菜はちゃんと線量を測った後であれば絶対安全なので、微塵も不安がらずに疑うことなく食べて応援しなければならない。

絶対に爆発しないはずの原発はあっさり爆発したし、例えば 2014 年 02 月 25 日、「1 歳女兒のがんにかかる確率が 1.06 ポイント上がった」との推計結果が出たけど、京大教授は「被ばくで確率はわずかに増えたが、健康への影響は小さい」と話しており、たとえわが子が大量に鼻血を出しても甲状腺ガンになったとしても国とは全く関係がない個人的な事件なので絶対安心だから、国がそういった家族の心を支えるために希望者には移住も視野に入れたケアを施す必要は一切なく、わずかの悩みも許されないし、報道してもいけない。これに反する愚か者は再教育か国外追放の必要がある。

以上が国民全員の総意である、という風評被害。

「こんな『イニシエーション・ラブ』はイヤだ！」

昔、U が薦めてくれたあの本が再ブレイクらしいけど、世間の評価は概ね、

「肯定派：普通の恋愛小説と思ったら、最後の衝撃が忘れられない！」か、

「否定派：ラストは驚くが、全体の内容がつまらない」のどっちかだ。

でももし俺がこの小説を仕方なく書き直すとしたら、後半全部変えて、前半の恋愛の続きをダラダラ普通に書くね。

「G：前半は素直で面白かったのに、後半はネタを置きにいくだけの展開でラストの衝撃はあるけど読む必要はあんまなかった」って感想をみんな普通に抱くと思っていたのにな。また逆か、世間。逆マーケティングか。

「こんな春樹の新作はイヤだ！」

巷では村上春樹の新しい短編集が出版されて話題みたいだけど、春樹が今日本にいる意味を俺が勝手に超解釈すると、『アンダーグラウンド』形式のインタビューを原発作業員に対して行うためだと思う。

最近、爆発した原発の廃炉作業に関して、「誰が作業を担うのか」って NHK のドキュメンタリーがあった。原発作業員が待遇や社会的地位等、ほぼ全ての面で著しく尊厳を踏みにじられ、かつ国民や文化が一貫して改善を訴えない現実を前にして、この国の作家が他にいったいどんな物語を描くというのか。(職業に貴賤なしと言いながら、警察や医者や教師はしつこいくらいドラマ化されても、原発作業員はほとんど語られていない)

誠実な作家であれば、「自分を有利に活かすために他人を踏みにじるのは当然」という現実の延長線上でしか現在を物語れない。だがそんな物語をいったい誰が欲する？

というワケで、667 人の天下りが着々と成功しているそうだし「トイレの神様」の次はきっと、「下りの神様」が流行ると俺は思うね。「アマクダリオオミカミ」が貧乏神たちを作業員にして裕福に暮らす物語なんて、俺も含めてみんな大好きそう。だよね？ DAYONE？ 春樹に是非書いてほしい YO・NE！

以前と同じ正義や夢を恥ずかしげもなく語り、無自覚に受け入れるのか？ 「悪を実行する自分こそが正義である」という現実を受け入れ、他人を踏みにじる物語を肯定するのか。

『アンダーグラウンド』で、「サリン事件を通して物語の意味が問われている」と書いてた春樹だ。震災以降、この国に突きつけられている物語の命題を見逃すワケがない。

というワケで今回は話題の短編集にはまったく触れることなく、逆に世間でピクリとも話題にならず、かつ俺のなかでも既にだいぶ情熱が冷めてきているにも関わらず、「こんな『天×誅 THE MOVIE ～今宵、お前に X を～』はイヤだ！」を仕方なくやりたい。思いついちゃったからには書かないと座りが悪いので。誰に望まれたワケでもなく。

『天×誅 THE MOVIE ～今宵、お前に X を～』

前回の予告編：

『天罰～闇の仕分け人～』というドラマが第8話で打ち切りになった。表向きは視聴率の低迷だったが、全体的に視聴率の取れない今クールドラマの中で、なぜ『天罰』だけが打ち切りになったのか？

『天罰』の主演女優から調査を依頼された『天誅』の面々が探り当てた驚愕の真実とは？ 政府、電力会社、高級官僚、飼い慣らされたマスコミを『天罰』するはずだった幻の最終話シナリオが存在した？ 権力に媚びる上層部の圧力に屈したのか？ 真に天誅されるべき黒幕 X の正体とは？

女忍者、古武術、ピッキング、声色、そしてピン子。「天誅組」の明日はどっちだ！

本編あらすじ：

ピン子、いつもの居間で、いつもの3匹のおばちゃん、せんべいを齧りながらテレビドラマを観ている。ピン子「いいねこのドラマ、サイコーにいい。何でこの『天罰』ってドラマ、8回で終わっちゃうんだろ。特にこの、主演の娘を助けるおばちゃん、サイコー。いや、おばあちゃんじゃなくて、あくまで、おばちゃんね。なんでかしら、すごく共感できる。ピンポイントでシンクロしちゃう。水泳しちゃう。この際ハイレグはいっちゃう。いけるかしらアタシ」

鷲尾さん「いけるわよー。三途の川のマーメイドとはまさにあんたのことよ」

もう一人のおばちゃん「絶対モデル料取れるわよ。♪嫁にきびしい～、マーメイド、って」

ピン子「♪金に汚い～、マーメイド～、ってか。余計なお世話だっけの」

そのどうでもいい会話を横でちょこんと正座して黒猫のごとく聞いているサナ。

テレビ「それではここで天気予報です。今週末は、局地的に大荒れとなる模様です」

(中略)

そこからピン子と愉快的仲間たちがウカウカといろいろしてるうちに、慎吾ちゃんに『天罰』の主演女優から「ヘルプ天使」にメールが届く。

メール『『天罰』打ち切りの裏に、闇の力が働いたのではないかと私は思うのです』

ミツ子「このメール。闇の仕分け人が闇に葬られるって、まさに闇から闇へって感じね」

慎吾ちゃん「ミツ子の交際関係もおんなじくらい真っ暗じゃない？」

ミツ子「失礼ね。アタシの男関係は常にバラ色よ！」

慎吾ちゃん「バラはバラでもバラバラの離散状態だったりして」

ピン子「ハチ、ミツ子。くだらない。本当に毎回くだらないよ、あんたたちの会話。でも、くだらないもの、いいじゃない。アタシは大好き。くだらないドラマにも、いいモノはある。そのメールの件、調べてみよう。サナ。頼んだよ」

サナ「承知」

(中略)

主演女優にサナが会いに行き、事情を聞く。

地味な主演女優「本当は、おじいさんのストーカーを追いかける回とかあったのですが、気づいたら途中打ち切りになってしまって」

サナ「なぜ？」

地味な主演女優「噂では、最終回に別のシナリオがあって、それが上層部の気に入らなかったという話。でも本当のことはわかりません。プロデューサーを探れば何か出てくるかも」

サナ「わかった」

(中略)

プロデューサーの部屋を探ろうと、テレビ局へ正面突破しようとする5人。テレビといえば奇抜な衣装ということで、無茶なコスプレをする5人。例：ピン子=かぐや姫。ミツ子=スパイ風全身黒タイツ。慎吾ちゃん=救急隊員。京本=カブキ者。サナ=忍者。もちろん、警備員に止められる。

警備員「すみません、パスがないと入れない規則なので」

ピン子「え？ あんた、あたしを誰だと思ってんの？」

警備員「その、誰って言われても」

ピン子「あたしは天下の大女優だよ！ 普通、顔パスでしょうが！」

警備員「いや、そう言われましても」

ピン子「え？ この業界を何十年も突っ走ってきた面子が5人も揃ってなのに、ねえ、あたしら顔が履歴書みたいなモンでしょ？ だからホラ、あんたたちも履歴書、見せてやんなさいよ」

ミツ子「ブタゴリラー、キテレツー、コロスケー、今行くからねー！」

慎吾ちゃん「ウーウー、道を空けてくだサーイ、緊急車両、通過しまーす！」

京本、カッコいい決めポーズで威嚇。

サナ、京本を真似してクナイを逆手に構える感じながら、微妙にオドオド。

警備員が勢いに気おされて、5人がわちゃわちゃとテレビ局に入っていく。

サナだけ振り向いて警備員に一礼し、堂々とした4人の後について行く。

慎吾ちゃん「いや、さすが持ってるね、まあちゃんは」

ピン子「なあに、この業界、ハッターでなんぼのどこあるからね。あの守衛さん、きっとあたしのこと往年の大女優と思っただろうね」

ミツ子「そうね。絶対思ったはずよ」

ピン子「だよ。絶対吉永小百合と勘違いした……」

慎吾ちゃん「それはない」(食い気味で)

ミツ子「ないわ」

京本「ない」

ピン子「え、そんなことないよ。そうだよ、サナ」

サナ「よくわからない。でも、それだけは断じてない」

ピン子「ああそうですか。どうせアタシは大根メシー本でのし上がった、キッタネエババアだよ」

慎吾ちゃん「そこまでは言ってないって」フォローする面々。

(中略)

その後、他バラエティー番組等へのスタジオ乱入。番宣兼ねてのコラボ出演あり。

司会「あれ、ピン子さん、なんでいきなり？」

ピン子「違うよ。あたし、吉永小百合だよ」

司会「それはない」

この手のやり取りを何番組か繰り返す。

ピン子「あれ、サナはどこ行った？」

(中略)

藪の中に迷い込んだサナ。声が聞こえる方へ歩く。

侍「この小娘、何ゆえワシの命を狙った。生かしてはおけん！」

侍が、ぼろを着た娘を切ろうとする。娘の顔がゆう（＝ゆかり）に見える。

サナがさっと両者の間に入り、侍の刀をクナイで受ける。

侍「え？ …お、おのれ、忍め、成敗してくれる！」

刀を振り上げた侍を蹴り倒し、娘を連れて逃げようとするサナ。侍がぶつかった弾みでセットがバタバタと倒れる。

監督「カット！」

娘「ちょっと何、どうしたの？ あんた誰？」

サナ、娘をまじかに見ると、全くの別人であることに気づく。

サナ「す、すまぬ」

無駄にバクテンとかしながらスタジオから抜け出すサナ。

監督「え、あんなコの出番あった？ ていうか、あのコ主演に使おうよ？ あれ？」

(中略)

テレビ局、警察とイケメンと怖い顔、政府等、いろいろ調べていくうちに、幻のシナリオがあったことは判明する。しかし、打ち切りが決定するより先にそのシナリオはお蔵入りしていた。打ち切りは単に予算の都合上であり、シナリオの不採用は視聴率や世間の評判、ネットの炎上を気にする現場の空気が自主的に判断しただけだった。

スナック「天守閣」に集う5人。

ミツ子「つまり、事件じゃなかったってこと？」

慎吾ちゃん「なんだよ。こんだけ調べて、結局くたびれもうけかよ」

ピン子「でも、もし、ちゃんと、世間の批判を怖れることなく、あのシナリオが予定通りにドラマ化されていたら、打ち切りはなかったかもしれない」

ピン子に視線が集まる。

ピン子「何か違うんだよ。この事件は、事件じゃない。もっと大きな事件が、既に起こっている。アタシたち、みんなの後ろで」

ミツ子「どういうこと？」

ピン子「事件にならなかった事件が、この世には本当にたくさんある。自主的にその場を取り繕うことで、取り扱われず、忘れ去られ、思い出されなくなった事件が山ほどある。ゆかりもそうだよ。何度も諦めろって言われたけど、アタシは諦めなかった。どんなに波風を立てても、他人から批判されても、まだ探し続けてる。事件が忘れ去られてしまったら、ゆかりも初めからいなかったことにされちゃうから。それだけは、絶対に許せない」

慎吾ちゃん「まあちゃん」

ピン子「事件はもう、とっくの昔から起こってたのかもしれない。サナ、あんたが来たときから、アタシは、気づいてたのかもしれない」

京本「それは、いったい何を？」

ピン子「先生。この国には、まだまだ語られていないことがたくさんあると思わないかい？ いいとか、悪いとかじゃない。反対や賛成じゃない。ただ、どうしてこれがそこにあるのか。どんな理由で、なぜそこにいるのか。そして、これから先、いったいどうしていきたいのか。議論の始まりは、まず、知ることだよ。何も知らなければ、話し合いにもならない。ただ偏見と無関心が右と左にこの国の空気をかき回すだけ。

あやふやに出来上がった空気の上にアタシたちの島国が漂ってるだけじゃ、なんだか虚しいじゃない。アタシは、サナが、その空気を……」

そのとき、「天守閣」の窓が破られる。

ピン子「何者だい！」

突風が吹き荒れ、店内のボトルやグラスに限らず、すべてをめちゃくちゃにする。

京本「なんだこれは！」

ピン子「空気だよ。これが空気の正体だ。窓の外を見てご覧！」

窓の外を見ると、大きな黒い雲のような塊が上空に浮かんでいる。

ピン子「私利私欲の塊。無関心の塊。バッシングの塊。事なかれ主義の塊。国民の総意の塊。あれがこの国の正義なら、ぶっ壊して一からやり直したほうがいいんじゃないのかい。サナ」ピン子の眼がギランと光る。

「天誅！」

「承知」

そして握り飯。

サナ、握り飯を頬張りながら、ビルの壁を蹴って上空へと駆け上がって行く。

ピン子「もし、サナがこの時代に来た意味があるとするなら、あの大きな私利私欲の塊が、サナを呼び寄せたんだよ。この国の人間一人ひとりが抱えてる闇を、サナは、天誅しに来たんだ！」

東京タワーのてっぺんから黒い塊に向かって飛ぶサナ。眼前に蠢く闇からたくさんの恨みがましい声が聞こえる。

サナ「天誅」

目をつむり、その闇に大きな赤いバツを刻むサナ。全国民の前にサナが現れ、額にXの字を刻み、そして消える。

と同時に、裂け目から強烈な光と風が出現しサナを吹き飛ばそうとする。そのまばゆい光の中からユウが必死に手を伸ばしている姿が見えた気がして、サナも手を伸ばす。

指が届いたように見えた次の瞬間、バツが全ての闇を呑み込み、何事もなかったように辺りが静まり返る。

ミツ子「…なんだったの、あれは」

慎吾ちゃん「おい、サナ、消えちゃったよ」

ピン子「サナ！」

ピン子の声が、辺りに響き渡る。

テレビ中継「大変です。先ほど、目の前に女性の幻影が見え、何かの武器で2度、攻撃されました。私だけではありません！……」

(中略)

数日後、サナを除く4人が、スナック「天守閣」で、天誅組の解散パーティをしている。

ピン子「楽しかったね、ホントに。ありがとね。みんな」

慎吾ちゃん「こちらこそ。ホント、いい夢見せてもらったよ」

ミツ子「でもアバヨはいわないで。このお店の面倒は一生見てもらうつもりだから」

ピン子「当たり前だよ。みんなそのつもりだよ。…サナはいなくなっちゃったけど、アタシたちはずっと仲間だよ。あのコもきっと、元のあっちでうまくやってるよ」

しんとする4人。そのとき、京本が胸から写真を取り出す。

京本「ゴホン。ちょっといいですか。実はね、みなさんが揃ったときに、お見せしたい写真がありまして」

ピン子「なんの写真だい、先生」

ミツ子「あら、先生のプロマイド？ 買うわ、おいくら？」

京本「いやいや。私、実はかなり前から、お墓に興味を持っておりまして」

慎吾ちゃん「墓に興味って、そんな、墓石のセールスでもするつもりかよ？」

京本「まあ、あるきっかけで割と頻繁にお墓参りをするうちにね、墓そのものに興味を持ち始めて、江戸時代とか、戦国時代とかの古いお墓を巡るのが趣味になりました」

ピン子「なに、もったいぶらないで早く要点を言ってよ」

京本「それで先日、用があって三重県西部の伊賀市を訪れまして、ついでにいろいろと墓を巡って見たのです」

ピン子「…三重県、伊賀市？」

京本「その昔、伊州、と呼ばれていた所です」

ピン子「伊州、…ってまさか、サナの！」

ミツ子「え、なに、まさかってなんのまさか？」

慎吾ちゃん「まさかのまさかりかついじゃう？ それともくさかりたみっちゃう？」

ピン子「うるさいよ、バカ二人！」

ミツ子「なによ、あたしは別に何も」

ピン子「先生、それで？」

京本「ええ。そのまさかです。随分探しましたが、あったんです」

慎吾ちゃん「え、置いてかないで、先生はいったいどこで何をおかついだのよ？」

京本「サナちゃんのお墓が。その昔、伊州と呼ばれていた、忍者の里に」

3人「えー！」

京本「それがこの、写真です」

のぞき込む3人。

ピン子「本当に、これ本当にサナの墓なのかい、先生。どうしてわかる？」

京本「たぶん、間違いないでしょう。まあ、古い墓には本来いろいろ特徴があるのですが、そこらへんのウンチクは省くとして。読みづらいですが、まず名前を見てください」

ミツ子「なにになに。…セン、って書いてあるように見えるけど」

ピン子「…サナの本名だ」

ミツ子「え、ホント！」

京本「そしてこの横の所。読みづらいですが」

慎吾ちゃん「あ、なんか書いてある。えと、握り、飯……」

サナの声「握り飯、ありがとう。美味しかった。サナ」

ピン子「…サナって、書いてある」

京本「この墓はとても立派でした、きちんと残っていて。詳しい人を探して聞いたのですが、なんでもその土地に伝わる話ではその昔、稲作で財を築いた有力者であつたらしい、と」

ピン子「あの、サナがかい？」

京本「でも、それだけじゃないんです。もう一つ、その隣に寄り添うように、これも立派なお墓がありました」

ピン子「え？」

京本「これです」

京本、もう一枚の写真を出す。

ピン子「ユウ。……おかあさん」

ユウ＝ゆかりの声「おかあさん。サナを助けてくれて、ありがとう。ゆかり」

ピン子「ゆ、かり……」

写真を抱えて泣き崩れるピン子。

慎吾ちゃん「つまり、まあちゃんの娘さんと、サナは」

ミツ子「生き延びて、頑張って、あの時代で、二人で」

ピン子「…さびしく、なかったんだね。ゆかりは、サナと二人で、立派に生きたんだね。よかった、よかったよ」

泣きながら、うなづくピン子。抱きとめるミツ子と慎吾ちゃん。

京本「……大丈夫でしたか？」

ピン子「ありがとう先生。うん。あたしね、夢が出来たよ」

京本「それはどんな」

ピン子「昔へ行って、サナとゆかりに会うよ」

慎吾ちゃん「え、どうやって？」

ピン子「そこらへんでどこでもドア見つけてさ、鍵開けてきてよ」

慎吾ちゃん「無理だよ、何言ってるんだよ」

ピン子「あんたに開けられないドアはないんだろ？」

慎吾ちゃん「そうじゃなくて、どこでもドアなんてないよ、どこにもないドアだよ」

ピン子「じゃ、あれだ、ミツ子、キテくんに頼んで、あの発明品、あれ借りてきてよ」

ミツ子「キテレッツー、航時機貸してー、すぐ返すからー。って無理よ！」

ピン子「なんだよあんたら、役立たずだね」

そのとき突風が吹く。

ピン子「え、ここ、どこだい？」

いきなりどこでもない野原の真ん中に、4人は立っている。

サナ、気づいて振り返る。

ユウ「ん、どうしたの、お姉ちゃん」

田んぼを耕しながら、ユウが尋ねる。サナが首をかしげ、少し考える。

サナ「…なあんて。まさか、ね？」

ユウを見て、満面の笑顔の、サナ。

Fin.

とりあえずこんな感じ。

ちなみにこの『天×誅』、ゲーム化するなら絶対プレステね。ボタン配置の問題で。

つまり、△ボタンは握り飯を食うだけの「握り飯ボタン」、×ボタンはもちろん、最期の敵に天誅するだけの「天誅ボタン」にして、どっちも1エピソード中一回しか押さない贅沢仕様にした。

さて、今回は自信持ってくださいないけど、どうかな？



「はみだしウマシカさん」

さて、今回から不定期で「はみだしウマシカさん」も始めてみよう。

そういえば、リケジョの件で書きたいことがあったんだ。あの記者会見を見たとき、俺ならこう書くって思ったことがあった。

「こんな記者会見はイヤだ！」

「これより記者会見を始めます。ご質問がある方は挙手を……」

「あ、ゲスニックマガジンの西条です。今、日本国中が最も知りたがってることで質問します。ズバリ、あの割烹着、あれ実はおばあちゃんのお古じゃなくて、百貨店で買ったって噂ですが。本当ですか？」

「いいえ。割烹着は…（タメ）…買ってません。おばあちゃんからもらいました」

「え、本当ですか〜？ 実は、話題づくりのために百貨店で買ったんじゃないんですか〜？ あ、じゃこの噂はどうですか？ 研究室でスッポンを買うなんて不衛生だって話があるのですが、あのスッポンも、実はつい最近購入したんじゃないんですか？」

「いいえ。ずっと前から飼っています」

「本当かな〜？ 飼ってたとしても、誰か他の人に世話してもらってたとか、あ、逆にスッポンの世話が忙しくて、研究はそっちのけだったりとか？」

「いえ。スッポンの世話も研究も頑張りました」

「それでは次の……」

「あ、ゲスマガの西条です！ んじゃあの噂は？ あのピンクの壁紙も、つい最近替えたって、どうですか。これは本当でしょう？」

「いえ、あの壁紙もずっと前からです」

「本当かな〜？ 壁紙なんて、何色でもいいんじゃないのかな〜？」

「それでは次の方。あ、そちらの記者の方」

「はい。毎朝新聞ですが。すみません。今日本国民が最も知りたいことといえば、やはりあの細胞は本当にあるのか、という重要な科学的命題だと思……」

「ゲスマガの西条です！ おい毎朝、邪魔すんな、全然違うっての！ 今日本国民が一番知りたいのは、彼女があの割烹着でハダカ割烹着したのかって重要な命題だよ！ いわばチセイ的な？ 痴女の痴に、性欲の性で、痴性的に重要な命題？ ねえ、どこでね、いつどこでだれとなんの料理でハダカ割烹着したの？ それだけ教えて！ ね？……」（つまみ出される）

「あの記者こそ、現代日本でボーイズビーアンビシャスを体現した記者なのかもしれない」

「あ、西条です！（無理やり戻ってくる） じゃスケスケ割烹着の購入予定は？ 略してスケ烹着？」

こういう会見だったらよかったのになあ。

NHKの『LIFE!』にちゃんとリケジョ本人呼んで来て、本家にこれやってほしいなあ。

俺は特定の番組録画する以外、テレビはほとんど観ないし期待してないから、バラエティ番組がリケジョを差別的に扱おうが興味ないんだけど、単にその企画、本当に面白いの？ 笑えるの？ っては思う。

知的でなくても差別的であっても、差別されてる側もつい笑っちゃうような毒が一流だと思う。つまり、毒虻三太夫みたいなね。「おいババア、まだ逝かねえのか。このくたばりぞこないが」って声かけてほしくて高齢者が中継に押しかけるって、とんでもない偉業だよ。そういうところを目指したい。

以上、「はみだしウマシカさん」でした。

考 え



そんなに言葉が
ほしいのか？

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

この回でこの連載を「休止」にしてもいいと思って書くことにする。

まず大きな結論を一番初めに書こう。

絶対安全の原発が爆発し国策が失敗した後、もうここには住みたくないから、国が集団疎開を計画して補助してほしい、と思う人がいる。過去の公害病でも個人が因果関係を立証するのは困難で、そもそも気づいたときにはもう遅すぎるからだ。

そういった人々にとって、「科学的に安心だから気にするな」「笑えば放射能は来ないからストレスを感じるな」と呼びかけるのは下手すれば逆風評であり、どう鼻屑目に見ても対症療法にすぎない。

ストレスの根本を取り除く原因療法は例えば、「被曝はしないほうがいいというのが科学的常識だから、希望者にはより被曝していない場所に移動してもらい、より被曝していない食べ物を手に入れられる環境を与える」ことだ。

風評の責任を取れと詰め寄る人はいるが、絶対安全をうたいながら爆発した原発の責任を取る人は誰もいない。

しかし、神も正義も死んだのではない。誰かに何かを期待して自分の思い通りにならなくても、それが当然なだけだ。

さて、時系列で整理して、次の各論に移る。

・2011年12月から2012年6月にかけて、この国の国会で、当時野党である自民党議員4名が計5回、参考人を招致するなどして、原発事故と関連した「鼻血」「健康被害」について、当時の与党である民主党に対して発言していた。

以下、野党時代の自民党側からの質問・意見。(国会議事録より抜粋)

[002/010] 179 - 参 - 東日本大震災復興特別委… - 8号 平成23年12月02日

○自民党が招致した参考人

「北海道に避難している方たちといろいろ話をしまして、その中で、例えば鼻血なんですけれども、そういうような症状を訴えていたお子さんが非常に多かったです」「自分の娘も鼻血を出したりしたんですが、それでもそれを被曝のせいだと私は初め考えておりませんでしたし、今でも疑っている」「目の前で今まで出したことのないような鼻血を出している子供たちがいたら、皆さんどうしますか」「今ここにいる皆さんに、福島の人は見えていますか、私が見えていますか」

[001/007] 180 - 参 - 予算委員会 - 8号 平成24年03月14日

○自民党議員

「ある小学校の、県南の小学校の保健便りです。

四月から七月二十二日現在の保健室利用状況では、内科的症状で延べ人数四百六十九名。内科的症状では、頭痛、腹痛、鼻出血、これ鼻血ですね、順に多くということ、これ結果で出ているんですね。これ、県南でもやっぱりこういう症状が出ると心配になるんですよ」

[001/001] 180 - 参 - 憲法審査会 - 4号 平成24年04月25日

○自民党議員

「井戸川町長が雑誌のインタビューでこんなことを言っていちゃいます。私は、野田首相に双葉郡民は国民

だと思っていますかと聞いたけど、国は、アメリカにSPEED Iのデータを先に知らせて、国民にはSPEED Iのデータを提供していなかった。今もって双葉町はSPEED Iのデータは来ていません。あの情報が入っていたら仙台方面に逃げていますよと。あるいは、ベントの連絡もなかったと。それから、国、東電は、止める、冷やす、閉じ込めると言い張って絶対に安全だと言ってきた結果がこれで、我々は住むところも追われてしまった。放射能のために学校も病院も職場も全て奪われて崩壊しているのです。私は脱毛していますし、毎日鼻血が出ています。この前、東京のある病院に被曝しているので血液検査をしてもらえますかとお願いしたら、いや、調べられないと断られましたよ」

[005/016] 180・参・東日本大震災復興特別委… - 8号 平成 24年 06月 14日

○自民党議員

「子どもや胎児は、放射線への感受性が高いと言われており、低線量の放射線が人の健康に与える影響も科学的に十分解明されていないことから、保護者や妊婦の方は大きな不安を抱えています。今、私たちがすべきことは、未来ある子どもたちを原発事故による被害から保護するため、国を挙げて、あらゆる手段を尽くすことでもあります」「これから子どもが結婚適齢期になったときに、二十代、三十代のときに、もし病気になったらどうするんですかというような心配する親御さんの声があります。これに関しては、今までのこの国会での政府答弁ですと、残念ながら、大臣は東京電力に裁判してくださいということでした。それですと、被害者の方が、子どもたちの方が、この病気は原発事故によるものなんですよということを立証しなければいけない。これはほとんど無理でございます」「例えば、具体的にこんな心配の声をお寄せいただいています。子どもが鼻血を出した、これは被ばくによる影響じゃないかと心配なんだけれども、それを診察してもらった、検査してもらった、そのお金はどうなるんですかということですよ」

・2012年11月、岡山大、広島大、熊本学園大のグループが、双葉町の依頼で健康調査を実施したと報じられている。

双葉町以外に、比較対象として放射線汚染地域、原発から離れた地域の3箇所を調査した。

結果、双葉町と放射線汚染地域は、だるさ、頭痛、めまい、目のかすみ、鼻血、吐き気、疲れやすいなどの症状が有意に多かった。特に鼻血は多く、原発から離れた地域と比較すると、双葉町が3.8、放射線汚染地域が3.5のオッズ比であった。

・2012年12月、米軍兵士8人が東電を相手に「放射線を浴びた」「甲状腺の異常や持続性片頭痛、腸からの出血などの症状が見られる」として、1億1000万ドルの損害賠償を求める民事訴訟を起こしたと報じられている。

・2014年3月、米国軍人100人余りが、「放射線に被ばくして、がんや脳腫瘍など多様な病気になった」と、東電を相手に10億ドルを請求する訴訟を連邦裁判所に出したと報じられている。

・2014年5月、『美味しんぼ』にて、医師、元町長、大学准教授らが実名で登場し、鼻血と被ばくの関連性や、除染の困難さなどについて語る。

・2014年5月、上記、自民党議員の国会発言について記者会見で問われた環境大臣は「私の認識は変わっていない」「発言の内容を知らないのでコメントは差し控える」と述べた。

上記のうち一つだけ、「風評被害を助長する」として、国や県、政治家等、権力者のコメントが大々的に報じられたニュースがある。他の件に関してはコメントもされず、ほとんど語られることのないニュースだ。

また、特に（元）町長の発言に関しては、野党時代の自民党議員は与党を批判する材料として使用したが、与党となった現在は各議員が「風評」「不快」等のコメントを出している。しかし、（元）町長の発言は震災直後から特に変わっていない。

更に上記で、「今、私たちがすべきことは、未来ある子どもたちを原発事故による被害から保護するため、国を挙げて、あらゆる手段を尽くすこと」「被害者の方が、子どもたちの方が、この病気は原発事故によるものなんですよということを立証しなければいけない。これはほとんど無理」「子どもが鼻血を出した、これは被ばくによる影響じゃないかと心配」と述べていた議員は現在、消費者担当相として『美味しんぼ』に対し、「影響力の大きさを考えると、福島県民と子供たちの根拠のない差別や偏見を助長するようなことについては大変、遺憾だ」とのコメントを出している。

（過去を振り返っても公害病の因果関係を個人で立証するのは「ほとんど無理」だと俺も思う。TPP、金融緩和、憲法解釈、地球温暖化、その他なんでもいいけど、全ての議論には対極の学説がある。その都度、権力者は自分にとって都合が良いほうの学説を選ぶだけだ。それが学問の存在意義のひとつだと俺は思う）

つまり、これがこの国の「風評被害」の成り立ち方だと俺は思う。

ただ公平に言えば、俺は鼻血がそこまで重大な問題だとは思っていない。

今回の原発事故の被曝は大したことじゃないという報告はいくつでもある。

例えば、2014年4月、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）報告書では、「最も高い被ばく線量を受けた小児の集団では甲状腺がんの低いリスクがある」としながらも、「福島での被ばくによるがんの増加は予想されない」としている。

他にも何度か書いたが、2014年2月、「1歳女兒のがんにかかる確率が1.06ポイント上がった」との推計結果が出たが、京大教授は「被ばくで確率はわずかに増えたが、健康への影響は小さい」と話している。これらを御用学者とかがん以外にも病気はあるとか非難する向きもたくさんあるだろうが、がんにかかる確率がわずかに増えたって他人や国にとっては大したニュースじゃないのに、鼻血ごときでは騒いでも世間の共感が得られると思えない。

ただ、「風評被害を助長する」と政府が言うなら、以下これだけは明確にしなければならないと俺は思う。

実際に鼻血を出した人がどのくらいいた（いる）のか。そして国策に失敗し天災+人災ミックスで原発を爆発させたこの国は、被曝で健康に不安を抱えている人に対して、これからどんなケアをしていくのか。

あと前にも書いたが、言葉に対して誠実に向き合う気があるなら、いい加減「風評被害」はやめて、「微量ヒバク（微バク）被害」とでも言い替えたほうが良いと俺は思う。程度の差こそあれ、原発事故で世界中がヒバクしたのは明確な事実だ。そこを曖昧にするのは潔い侍ジャパンじゃなく、むしろお決まりの隠蔽体質に近い。

また、上記のニュースと対比すべきニュースが2件あると俺は思っている。

「原発作業員100人が待遇改善を求めてデモを行った」ニュースと、「2011年3月24日、東電の元請けと下請けの作業員計6人が、津波で浸水した3号機のタービン建屋地下でケーブルを設置する作業にあたった際、汚染水にくるぶしまでつかった3人が最大で180ミリシーベルトの被曝をした。そのうちの一人、少なくとも20ミリシーベルト以上の被曝をしたと主張している原発作業員だった男性（48）が、東電と関電工などに1100万円の損害賠償を求める訴訟を起こした」ニュースだ。

この二つのニュースも、『美味しんぼ』に比べればほとんど報じられることなく、特に誰も何もコメントしない。

そうやってこの国の経済は回っている。良くも悪くもない。それが現実だ。

さて、こっからが本日のメインディッシュだ。

『美味しんぼ』に関して、俺だったらこう書くをこの回の最期にやろうと思っている。

その前に、「風評被害の DV (家庭内暴力) 化」について書いておく。

前にも書いたけど、この国は「風評被害」を DV 化し、家族＝国民同士を争わせることに成功した。

例として、父＝国や電力会社等、母＝市町村等、息子＝従順な国民、娘＝美味しんぼな国民とした場合を考えてみよう。

父＝国や電力会社が「暴力＝被曝はしていない。大したことじゃない」と言い、母＝市町村、息子＝従順な国民も「暴力＝被曝はされてない。特に問題ない」と言う。

さて、そこで娘＝美味しんぼな国民が「暴力＝被曝している。大きな問題だ。この家にはいられない」と言う。

通常の DV であれば、そういったトラブルの理想的解決法は「娘＝美味しんぼな国民の言っていることが正しいかどうかはわからないが、他の家族からストレスを与えられないように保護＝隔離して生活を立て直す補助をしてやり、その後実態を調査する」ことだろう。

しかし実際にこの国では、「黙っている」「迷惑かけるな」「嘘つくな」と罵る人と、「いや、正しい」「応援するから頑張れ」と励ます人が右と左で不毛なケンカをするだけで、娘は自主的に避難こそすれど、きちんと保護＝隔離されて生活を立て直す補助はされていないし、実態の調査も曖昧だ。

そしてそこに、留学生＝米兵がホームステイに数日間やってくる。留学生＝米兵は家庭内のいざこざと奮闘し帰った後、「あの家で暴力＝被曝された。病気になったから一人につき約 10 億円よこせ」と父に訴訟を起こす。しかし今度はこれを罵る人はほとんどいない。

つまりこうやって、父＝国や電力会社等に都合良く家庭が営まれていく。

それでは最期に、『雑味しんぼ～俺ならこう書く編～』いってみよう。

不安を抱え、ストレスで病気になり、辛い思いをしている避難民に会う山岡たち。

栗田さん「ねえ、山岡さん。あの人たちをなんとか励ましてあげられないかしら。何か、得意の料理で」

山岡「よし、まかせておけ！」

どこかへ出かける山岡。数時間後。

山岡「できたぞ、究極の料理！」

栗田さん「え、なにそれ？ スルメイカと、人参？」

山岡「そう。これこそ地域に伝わるソウルフード、イカ人参だ！ さあ、食べて！」

人々「イカ人参なんて、今更食っても……」

きゅぴーん。

人々「な、なんだこれは、ウマすぎる！」

山岡「このスルメイカは、とりあえず富山の名産品っぽいな。しかも、人参も青森の雪にんじんって名産を使ってるらしい！ 調味料の酒や醤油だって…… (いろいろそれっぽいウチク)」

人々「確かにウマイが、全部、県外産の材料じゃないか、風評被害にビビったのか！ 食べて応援しなきゃダメだろ！」

雄山「食べて応援するのは、あなたたち県内の大人や子どもたちじゃない。より被曝していない県外の人たちが食べて応援するべきだ。そして日々、他の地域より被曝している大人や子どもたちはむしろ、より被曝をしていない地域の食べ物を口にするほうが、理に適っている」

人々「確かに各地の名産で作ったイカ人参はウマイ。でも、県内産のイカ人参が、あのどこにでもある味が懐かしい。いつか震災前のように、誰もが県内産の材料を気兼ねなく、本当になんの迷いも確認もなく食べていたあの頃に早く戻ってほしい」

栗田さん「線量をいちいち測ってから食べなければいけない今の状況は普通なのかしら？ それが本当の安心だ

ってありがたがらなきゃいけないのかしら？ こんな状況にしたのは一体誰で、どう責任をとったのかしら？」

翌日。山岡、栗田さんと二人で話している。

山岡「彼らのなかにもし、病気で死ぬ人が出ても、原因不明や、避難によるストレスが原因って死因になるかもしれない。被曝の因果関係なんてそう簡単に立証できるものじゃない。でも、原発が爆発しなければそんなストレスを感じることはなかったし、放射能のせいでもたらされた震災関連死なのは間違いない。しかし、そうやって死んでいく人は特にニュースにはならない。この国は昔から、そういう尊い自己犠牲の、我慢強い人々によって支えられた国なのかもしれない」

同僚の女性の人「山岡君。そういうことは、サービス残業をしてから言ってよね！」

声の高い上司の人「そうだぞ、山岡！ おまえが偉そうに言えた義理か！ おまえ、全然サービス残業しないから、俺ばかり仕事が回ってきて大変だ！ 社主、私の残業代、もっと増やしてください！」

社主「断る！」

声の高い上司の人「ひー、断られたー！ ブラック新聞社だー！ 訴えてやるー！」

ほのぼのとした笑い。

Fin.

今回はこんな感じ。最期、すごい雑だけど。

どうかな？



今回は、前にも何度か書いてる作業員のリストを更新しておきます。

■作業中に亡くなった原発作業員

2014年3月28日 50代 土砂などの下敷き（実名報道あり）
2013年2月27日 50代 心肺停止（死因非公開）
2012年8月22日 50代 急性心筋梗塞
2012年1月9日 60代 急性心筋梗塞
2011年10月6日 50代 後腹膜腫瘍による敗血症性ショック
2011年8月30日 40代 急性白血病
2011年5月14日 60歳 心筋梗塞（実名報道あり）

■作業中に亡くなった除染作業員

2014年1月25日 58歳 運転していたローラー車ごと転落
2013年11月19日 46歳 ユニック車の下敷き
2013年10月12日 61歳 バックホーが土手から転落
2013年5月21日 30歳 クレーン付きトラックにはねられる
2013年3月22日 51歳 油圧ショベルカーの走行用ベルトに右足を挟まれる
2013年2月28日 54歳
2012年1月17日 59歳
2011年12月12日 60歳

彼らのニュースもとても小さい扱いのままだ。
それについてもずっと考えている。

考え



ウマとシカとの
バカしあい!?

弦楽器イルカ + 友人



「天誅」というドラマは面白そうだけど、台湾では放送されていないからね。見てみたい。ハチャメチャな内容なのか、意外とまじめなつくりなのか、とりあえずどっちなのか確かめたい。

ドラマはよくわからないけど、悪を一気に黙らせるために「天誅」は必要だと思う。これを国単位の規模で表現すれば、日本は原子力潜水艦による核武装を持つべきと言い換えられると思う。

なかなか福島の問題があるから、そこまでに至るのは難しい道のりがあるけどね。

原発作業員の給料なんだけど、現状のままでいいのではないかな？ 詳しくはわからないけど、そのお金で働く人がいるなら（実際にいるし）、それ以上賃金を上げる必要はないと思う。重要なのは、より安全に働けるようにすることだと思う。

ただ、残念ながら、普通の労働環境にはならないだろうね、福島原発という作業場は。労働法をすべて守ることよりも、原発と周辺環境の安全化がとても大事だからね。その分とリスクの分は賃金が高くなるべきだと思うけどさ。でも、すでに上乘せはされているでしょうね。想像だけさ。いま話題の牛井屋さんや居酒屋の店員より給料は高いはずだよ。それで十分でしょう。給料が安くて不満なのは自分もそうだし、みんな一緒だよ。

鼻血の問題は非常に興味深かったけど、鼻血なんて子供はいくらでも流すからね。福島周辺で鼻血の患者が増えた。それは事実かもしれない。でも、もともと鼻血を流したことを気が付かなかった子どもやその親が原発のことを意識しすぎて、記憶や印象に残りやすいだけでしょ。どうせ。原発は関係ないよ。

甲状腺がん、割合が1ポイント？ 増えた？ そんなの誤差の範囲だよ。有意差といえるだけの規模の調査だったのかな？ この結果をみると、むしろ、福島では甲状腺がんの影響はまだ見られないといえるのではないかな？

日本の原発事故処理能力はかなり高いし、みんなうまくやっているよ。もちろん完璧じゃないけどね。これは日本の強みだと思う。チェルノブイリよりももっと上手く処理できた国として誇りを持つべきだね。ここでの経験はきっと今後も活かされると思うよ。

そうそう、作業員の死についてだけど、前も書いたけど、普通はそれくらい人は死ぬもんだよ。人が集まれば死ぬ人もいる。心筋梗塞なんていつやってくるかわからない。放射線は関係ないね。放射線が殆ど無い場所でも心筋梗塞で人は死ぬよ。

事故死もいっしょだよ。同じくらいの人が、職場に行く途中で交通事故で死んでるよ、きっとね。クレーンでも死ぬし、車に轢かれて死ぬし、火事でも死ぬし、殺人の被害でも死ぬ。大勢の人間が集まる場所では、そういうことは日常的に起きているよ。まあ、福島原発は安全環境が整っていないからちょっと多いかもしれないけどね。まああれだな、職場までの道のりに落石注意な道が 20Km でも続いていて、大雨が降りやすい地域だったら、もっと事故死は多いだろうけどね。そんな感じだと思う。

美味しんぼの件は外国にいと、よくわからないけどね。原発は安全だと安倍さんが言わなければ、東京でのオリンピックは難しかったね。本当に安全かどうかは誰もわからないけど、とりあえず、「安全宣言」をした安倍首相は偉いよ。責任の一端は俺が担うといったようなもんだからね。責任を取ろうとしている人がいるじゃないか。責任取りたくなければ、黙ってるよ。自分ならそこまで言えなかったと思うし、安倍さんは本当に偉いよ。

でも、国内の問題もそうだけど、中国の拡大については警戒が必要だね。日本人と中国人はどうしても喧嘩が起きやすいからね。中国共産党は「統治の正当性」を維持するためには、領土問題について強気にでなければいけないからね。とくにフィリピンは海軍が強いわけでないから、やばいかもね。でも、日本は巡視艇かなにかをプレゼントしたんだよね。良いバランスだと思う。こういう時こそ、日本が正義の味方になって、アジアの安全を守っていかなくちゃね。もうアメリカに頼る時代も終わりだと思う。

そこで、通常の軍事力では中国に負けないとしても、気になるのは、やっぱ核だね。

中国にはあるけど、日本にはない。

とすると、どうしても原子力潜水艦による核武装が必要になるわけだ。日本は早く福島の問題を解決して、憲

法改正、それから核武装、これが必要だと思う。中国と仲良くするためにも、中国に対して核で牽制。これが大人の付き合いなのではないかな。



絞め殺したいほど痛快な手紙をありがとう！

20代前半なら大ゲンカしてたとこだけど、もうお互い歳をとりましたね(#^^#)。

さて今回は、W杯、原発、アイドル総選挙、『女のいない男たち』という点を一本の線で結んでみようというテーマでお送りします。(手紙を)

この国の文化は日々、あのお茶づけ海苔並みに歯ごたえなく国民に流し込まれていく。もちろん俺ごときが何を書いたって、能天気縁起良さそうな横縞の袋に押し込められた微小な具の一つにすぎない。だったら、俺はその中でもあの丸いせんべいを目指したい。軽い歯ごたえと香ばしい風味で、口内を一回整理する句読点になりたい。お茶づけ海苔において、あのせんべいはきつと句点。だとしたら海苔は読点だろう、形的にも。

そういうワケで、このままだと反原発派に核を投下するみたいな U の手紙に向けて、俺がちっちゃな BB 弾ならぬ SB (せんべい) 弾を投じて風通しを良くしたい。原発関連の話題に U を巻き込んだから、そのささやかな責任を取るって意味でもね。

これが U 対 G の 2014 ウマシカ杯開幕戦だね。

俺が昔 U にお薦めした『最強伝説 黒沢』ってマンガ (タイトルだけ読むと格闘不良マンガみただけど、中年のおっさんがアジフライでもめる話) に出てくるセリフ、「他人の祭り」の王様、W杯がいよいよ開幕したね。

サッカー大好きな U の話も今度ぜひ聞きたいんだけど、今んとこニワカな俺が「ながら観」したのはコートジボワール対日本戦、ドイツ対ポルトガル戦、アメリカ対ガーナ戦だった。ちなみに俺は日本も含めて応援してるチームってないから、試合中の良いプレーにはどこでも応援するし、イマイチなプレーにはちえって思うんだけど。

上記三試合で特に気になったのは、コートジボワールのドログバと、ポルトガルの C ロナウド。二人とも本調子でないながら世界有数の選手で、かつどちらも決定機に絡まなかったけど、奇しくも全く反対の役割を果たしてしまった、ということ。

ドログバは、後半出てきただけで流れを変え勝利につながる 2 得点を演出した、って言われてる。実際は彼が得点したワケじゃなく、彼に対するマークの混乱などその存在感自体に、日本はやられてしまった。

一方、同じように脅威となるはずの C ロナウドがいたポルトガルは 4 対 0 でドイツに惨敗した。もちろんドイツは優勝候補だし、パスの精度、トラップで足元におさめる技術、組織力、戦術、高さ、落ち着き、その他全てにおいて日本とは比較にならないだろう。ポルトガルとの相性も良い。C ロナウドがほぼ仕事させてもらえなかったのはドイツがすごいからだとも思う。

ただ俺が思ったのは、C ロナウドって大きな存在を味方が逆に意識しすぎてしまった。例えばシュートすべきところで C ロナウドにパスして取られるシーンとか、彼を中心に試合運びしたいのにできないジレンマが目立った、ように感じた。

脅威はときに諸刃の剣となる。抑止力としてのプラスの面と、逆に混乱を招くマイナスの面。これつまり、核の脅威と似てるって意味ね。ここから、核の話に移ろう。

U の手紙で議論に値する部分は多々あると思う。ただ、原発、作業員、核兵器、原子力潜水艦その他の是非は、全部別個の議論として考えたほうが良いと俺は思ってる。

だってこの国では、「核に反対だから被曝は危険」対「核に賛成だから被曝は安全」ってステレオタイプな、立場が先に立った争いばっかだから。「原発はイヤだけど核兵器は賛成」とか、「被曝は危険だけど原発には賛成」とか、立場に関係ない主張はなかなか出てこない。

かつて「常識を守りたくても守れないヤツ」として関係各位を震え上がらせた U でさえ、推進かつ安全派だも

ん。大人になった分、ちょっとつまんない。

でも結論から書くけど、米が軍事費縮小等の流れでどうも、世界的に核兵器を削減し全廃まで真剣に目指してるって話もあるから（大統領がノーベル賞取ったのもその足がかり）、日本が兵器としての核を持つのは国内だけじゃなく国外の混乱が大きすぎて不可能だと思う。核以外にも兵器は進歩してるし、核の投下は被爆（曝）国日本ではハードル高すぎるから、核にこだわりすぎるのもどうだろう。あと最近だと、北の扱いに中が困ってる間に日本は拉致問題で近づいて、北（にある核）の存在自体を安全保障の枠組みに取り込もうって考えもあるみたいだよ。米が世界の中心から降板しつつある今でも、この国は米の嫌がることはほぼ絶対しないからね。

人口が減少して、移民が増えて、産業が全体的に縮小して、格差が広がって、貧乏人は作業員とか兵隊になって命削ったり殺し合ったりする社会が、良くも悪くもない、公平に考えたこの国の未来だと俺は思う。

次にこっから、Uの書いた手紙に一個一個風穴を開けていこうと思う。

まず、『天誅』に関して、今思うと『シャンゼリオン』に近かった気がする。パロディ具合とか。途中で黒岩が出てきても全然おかしくなかった。「知っているか！」つって。懐かしいね。

原発作業員の給料は、例えばNHKのドキュメントでは、手取り月25万だったのが後から20万に減額され、さらに宿舍を追い出され食費も自己負担とかね。もちろんこれより高い人もいれば、裏社会に集められた日雇いの人たちの扱いがひどいって報道もある（ちなみに某居酒屋の賃金をネットで見たら23歳正社員で月収23万、こっから税金が引かれるみたい）。実際、原発作業員よりも除染作業員のほうが手当も厚くて賃金高いから職を移す人が多いっていうのはよく言われる話だよ。

作業員の待遇改善は脱原発ほど叫ばれないし、賃上げの作業員デモもまったく報道されないけど、俺が作業員の話（死亡も含め）に粘着してる一番の理由は、待遇改善を訴えたいからでも死亡と因果関係を疑いたいからでもない。どうせ俺が何かを変えられるワケもないし、因果関係も証明できない。

また逆に、最近Uみたいな考えに近い人が原発作業員になったマンガが本屋やコンビニに置かれてて、「原発は安全だからみんな働きに来いよ！」って読めなくもない描き方をされてるけど、もちろんそういうことが書きたいんでもない。

俺が思うに、この国の文化は彼らに対する態度を決めかねていて、結局多くを語らないまま3年以上が経過してしまった。まさにお茶漬けみたいなこの国の文化は、異物としてのせんべいも投じられないまま、汚染水混じりでダラダラと垂れ流されてる。

繰り返しになるけど俺が言いたいのはつまり、「嚙まずに呑まれてるぞ文化！」ってことだ。海外ならもっと風刺の効いた表現がいくらだって出るだろうに、この国の文化は自粛と配慮と風評被害で冷却され続けてる。もちろんそこは利権という凍土壁でがつつりブロックもされてるんだろう。

みんなUみたいに、「現実はそのままで回ってるんだからいいじゃん」ってW杯観てるのは知ってる。そして気づいたら原発は爆発し、丸刈りの女が不特定多数に向かって泣いて謝罪し今じゃそれなりの順位で総選挙におさまり、渋谷では痴漢が逮捕され、国民も赤紙で貧乏人同士の殺し合いに駆り出されたりするんだろう。人間って戦争ばっかしてるから、みんな心の奥底では前線で殺し合ったり飢えて死んだりしたいんだろうね。

今、前線で戦死した作業員が、将来の戦争に駆り出されるかもしれない俺や下の世代とかぶるから、それを無視し続けるこの国のお茶漬け文化に固形の異物を投じたい。意味はないけど、俺はそのつもりで書いている。

次に鼻血に関してだけど、前回まずネットでよく取り上げられてる話を時系列でまとめたのは、米軍の話と絡めて「風評の責任は常に叩きやすい者に押し付けられる」って構図を書きたかった。

また俺が載せたデータは原発推進派が安全の根拠として使う、いわゆる御用学者側の学説だ。巷の脱原発派はもっと危険寄りのデータを使う。安全も危険も、根拠となるデータは山ほどある。でも俺にはどっちが正しいか

判断できないから、あえて一番安全派の意見を使って、それに対して言いたいことを言ってる。

1%なら単純に言えば百人に一人、病気になった当人と関係者以外には関係ない数字だ。国にとっては正に誤差の範囲と言えるだろう。当人に向かって「あなたのガンは誤差の範囲です」って笑いながら告知すればいい。

これに関連して最近ネット動画で話題になってるのが、福島県民健康調査の検討委員会の、甲状腺がんに関する専門部会だ。極論すれば御用学者が集まって、賠償額を下げたり因果関係を否定するための学説を地固めする会合だって言っちゃうけど、甲状腺ガンを摘出手術した小児 50 人に対して、「過剰診断や、過剰治療の可能性は否定できない」と東大教授が指摘すると、福島医大の教授は「一般的に小児の甲状腺がんはリンパ節等への転移が多く、手術しなくてもいいがんを取っているわけではない。実際（リンパ節や肺に）転移した患者は（多く）いる」って言いながら、人数の公表は拒んだ。（）内は表現が曖昧にぼやかされてる所だ。

でも俺が取り上げたいのはそこじゃなくて、その後の記者会見における部会長の教授の発言だ。要約すると、「今までは因果関係がないって結論ありきで議論していたが、一回前提知識をさらにして、今後は因果関係を真剣に検討していきたい」（動画 26 分前後）って言ったことだ。

被曝に不安を抱えながら真剣に子育てして来た親は、学者が 3 年以上かけてやっと真剣に検討を始めたって泣きながら喜ばばいい。今までは片手間で鼻ほじりながら猥談でも語ってたんだろう。所詮その程度だよ。この話題自体ネットの一部でしか取り上げられないし、無名人がどう死のうが生きようが全ては誤差の範囲だ。

だから自己責任でしか自分は守れないと俺は思う。気づいたときには遅すぎるだけだ。

あと首相がえらいって話ね。これは断言したいからするよ。

首相は絶対に責任を取らない。年金、汚職、原発事故、その他どんな問題だろうと、権力者が責任を取った例は過去にない。数年後にはポストも変わり、立場も変わり、責任の所在は曖昧になる。そもそも U 自身、「責任の一端は俺が担うといったようなもんだから」って書いている。「言ったようなもん」って、実際「言ってない」ってことだよ。公約だって守らなくても特に誰も責任を取らない。「公約を破る政策こそが、実は最も公約を守る政策になる」って理屈がまかり通るシステムだから。それが通ればそもそも責任なんて存在しないのと同じだ。

権力者の責任は、むしろ現場の担当者に押し付けられる場合も多い。あの無茶なドラマの「半沢」でさえ、権力者は上手に搦り取られ、部下は島流しされた。続編ではそれもまとめて（いらぬ引き出物みたいに）突っ返しまくるんだろうけど、新婚の顔写真入りの皿だって捨てられずに箆笥の奥にしまわれ、返すに返せないのが現実だ。アイドルだって丸刈りの本人は炎上したけど、動画を流した運営側はあの不愉快をばら撒いた責任を取ってない。よね？

でも権力者だって別に自分の意志でやりたい放題してる時代じゃないと俺は思う。「よく言った」って庶民は思うかもしれないけど、それは全部決まったシナリオをなぞってるだけだろう。そう、『1Q84』のように。というワケでこっから、春樹の話題に入ろう。

U が書いてた『1Q84』の評、あと U がかなり昔教えてくれた『羊をめぐる冒険』の先生には、闇社会を牛耳ってた実在のモデルがいる」って話に関連して（あの頃はネットが今ほど使えなかったからそういう裏話はなかなか聞けなかったよね）、俺はずっと内的な文学表現として春樹を読んできたけど、よく考えると春樹は外的な告発としての役割も作品に持たせようと本気だったのかもしれない、と思えてきた。

この世界にある闇の陰謀について、庶民には目撃どころか想像さえできない「リトル・ピープル」みたいな、一生接点がないからこそ人間でも妖怪でも庶民には大差ない存在、絶対的な権力を持ち世界を好きな方向に操作できる何者かの是非について、その片鱗をちらつかせながら世に問おうとしてたのかもしれない。

『女のいない男たち』でも、そういう力に翻弄される話がいくつか出てくる。俺はそこに意味があるとはあんま考えてなかったんだけど、春樹はずっと昔からそういう大きな闇の力の存在と、それに対抗する個人の責任について書いてたのかもしれない。

だから「ノーベル賞」狙えんのか。なるほど。

今回はこんな感じ。さて、お題は全部つながったかしらん。
どうかな？



俺だったらW杯を題材にこういう（映画の？）あらすじを考えた。いってみよう。

アイススケートは競技が終わった翌日、エキジビションがある。だったらW杯も終了後に、優秀選手 22 名+控え数名によるエキジビション・マッチがあってもおかしくないじゃんって発想から始まる。

監督は決勝戦の 2 チームから。優秀選手はその年のベスト 16 までのチーム内から各 1~2 名ずつ選ばれる。同じ国の選手は別のチームになる。

今回の目玉は何といってもジャマイカの英雄（以下、英雄）と呼ばれる FW の選手。FIFA ランクでも決して上位ではなかったジャマイカを二大会連続ベスト 8 まで押し上げた功労者だ。しかし英雄は年齢的にも最後のW杯であり、今後は若い選手が台頭してくるだろうという焦りもある。

その年、ジャマイカからは二人の選手が選ばれることになっていた。しかし、英雄はここで一計を案じる。「一国に二人の英雄はいらない。英雄は私一人でいい」。

エキジビション・マッチ参加選手の発表がある閉会式直前、英雄以外のジャマイカ選手が全員謎の腹痛に襲われてしまう。そこでジャマイカチームは急きょ代役として、雑用のスタッフ（以下、雑用）を選手としてエントリーしてしまう。

この雑用、実はそもそもボブスレーの選手だったんだけど、もちろんボブスレーもしたことがない。ただボブスレーを上手に磨き上げる腕は超一流でサッカーも大好きだったため、ボール磨きとしてチームに帯同していた。

さて、エキジビション・マッチは三日後。

参加選手の発表翌日、優秀選手が 2 チームに分かれ自己紹介するミーティングで、雑用が無邪気に出場経緯を話すのを聞いた監督は切れる。ファックとか言ってしまう。

おかげでチームワークはバラバラ、他にも若手で生意気な選手やプライドは高いが旬を過ぎた選手などの問題を抱えている。しかも練習中にボールが次々にパンクする等アクシデント続き。

最悪の空気のロッカールーム。

そこで一人、無邪気に窓拭きをする雑用。

「お前、こんなときになんで窓なんか拭いてるんだ？」

切れるキャプテンに無邪気な笑顔を返す雑用。

「だって、磨くボールがもうなくなっちゃったからね」

とんだアメリカン・ジョークに、切れそうになるキャプテン。

そのとき、同じ窓の反対側からも窓拭きしている老人がいることに気付く。

「なんだあいつは。お前の友達か？」

「いや、ただの窓拭きが好きな老人みたいだけど」

「何言ってるんだ？ そんなバカみたいな奴いるか？」

白髪でヒゲぼうぼうの老人が、白と黒の五角形チェック柄の雑巾を使い、独特の動きで窓を拭いている。老人が素早く窓の四隅に雑巾を動かすと、それを追っかけて雑用がすばやく雑巾を動かす。まるで「サンドウィッチマン」の「ガソリンスタンド・コント」のよう。

「お前、その動きは、いったい」とキャプテン。

「こんなのは序の口さ」と雑用。

その言葉が老人に通じたのかはわからないが、さらに早く動く老人の雑巾を、さらに素早く追いかける雑用。それを見てチームメイトが呟く。

「あの老人は、もしかして、…ミヤギ、さん？」

「え？」

驚く一同。ベスト・キッドの音楽流れる。

「しかし、こいつは、もしかしてとんでもない逸材なのかも」

～中略～

エキジビジョン・マッチ開始のホイッスルが鳴る。

開始早々に英雄とキーパーが交錯しキーパー負傷退場。控えキーパーとして、雑用がゴールマウスを任される。

驚く英雄。実は彼こそが、ジャマイカ・チームの食事に下剤を盛り、ジャマイカの英雄として君臨し続けようと目論んでいた張本人なのであった。ってバレバレの展開。しかし、雑用がピッチに立つとは考えていなかった。

鋭い英雄のシュートを、きわどくパンチングで防ぐ雑用。

「いったい、どうなってるんだ！」

バラバラだったチームが、雑用の文字通り身を呈した頑張りで一つにまとまっていく。

～中略～

結局 2 対 2 くらいで PK 戦へ。

PK 戦は 4 人目まで終わって 3 対 3 で先攻側、キッカーを雑用に託す。

「エキジビジョンなんだから、楽しくやらなくちゃな。お前のおかげでいい試合になったし、サッカーを始めた頃を思い出せたよ」とキャプテン。

「いや、やるからには決めるよ」と雑用。

ニセミヤギさんとの修行を思い出す雑用。

もちろん自然に、鶴の構え。

啞然とする会場。

当たり損ねのキックでコロコロとボールが転がりそのままゴールマウスに吸い込まれる。

どよめく会場。

そして、最終 5 人目、2 対 3 でキッカー英雄対キーパー雑用の PK 戦に。

～中略～

雑用は後に、その磨き技術が認められ、紆余曲折を経てカーリングの選手（リンクをブラシで磨く役）になりました。

あと、PK はちゃんと止めて、MOM に選ばれました。以下、その時の会話。

「お前が新しい英雄だ」PK を止められ、握手を求める英雄。

「いや、僕は日本人に掃除の素晴らしさを教えられた、ただのボール磨きさ」

以上





第十六回 『キユウソネコカミ』とみんな大好き陰謀論

考

ウエ

ネコとネズミも

~~なめ~~ あい!?

弦楽器イルカ + 友人



「♪合ってた～」って、あの「だらしなイヤラシさ」が真骨頂だと思ったんだよ、aiko の。

いや、大丈夫。今回の U への手紙、書き出しはこれで合ってる。

akio 好きの U にもものすごく今更ながら、年末の紅白で aiko が歌った「LOVELETTER」がすごい印象深かったって話をずっとしようと思って忘れてた。

「だけど」と来て「合ってた」って来るとは予想しなかった。普通「心ひかれた」とか「胸を打ったよ」とか詩的な表現しちやいたいとこだ。それが「だけど、合ってた」って。普通じゃん。語呂も悪いし。

でも、そこが aiko の才能だと改めて感心した。あのダラダラとした言葉足らずな語感こそが、恋に当てられてる女子のぼおとした高揚感をうまく表してると思った。

椎名林檎ではエッジが効きすぎて、宇多田ヒカルでは切実すぎる、と感じる女子に向けて、aiko は発情乙女のなんでも可愛いでまとめた気持を代弁してるんじゃないかな。

男は視覚、女は聴覚と触覚で恋をするとか巷で言われてるけど、他にも「あなたの耳におでこを寄せて甘い匂いに誘われた甲虫は私」とか、「夏の星座にぶら下がって上から花火を見てあなたが好きなのは仕方ないんです」とか、「唇かんで指で触ってキスを確かめて頬ずりすると時間が止まる」とか、ボディタッチ重視のどうしようもない「だらしなイヤラシさ」がすごいあるよね。でもそれを可愛らしく「雨がやんで星がこぼれて迷い込んだ」とか詩的な表現で飾り付けるから、乙女のハート驚掴みみたいな感じがする。

実は最近、『キュウソネコカミ』ってバンドが面白くてアルバム全部買って聴いてる。PV も良かった（「ビビった」って曲は関西版「ロックンロールは鳴り止まないっ」ってのもいいかもしれない）。ただ、4 枚のアルバムに計 40 曲くらい入ってるのに、詩的な表現がまずほとんどないってところに他人事ながらちょっと心配になった。

怒りはわかる。曲もいい。洒落も効いてる。ただ徹底して理屈重視。いわゆる詩的なぼやかす表現、夢とか翼とか扉とか、夢の翼広げて扉開こうとか、そういう大衆に訴えかけるオカズが皆無。

たぶん照れくさいんだと思うんだよ。俺は昔のユニコーンを思い出したんだけど、ユニコーンでも「パパは金持ち」とか言いながらも、一方ではちゃんと「とても暑すぎた夏の君は自転車泥棒」とか「今も過ぎた日の暖かい影に閉ざされて」とか詩的な表現が要所に入ってくるからね。あるいは「セクシーランジェリーの変なおじさん」とか「君はとってもブスだから僕の後ろを離れて歩け」とか無茶を歌ってたあの『電気』にだって、「N.O」とか「虹」とか詩的な曲もたくさんあるワケだから。

『キュウソ』に「テレキャスばっか」って、作った当のメンバーもインタビューで「クソだ」って見捨てたような歌があって、(たぶん彼らがつまらないと思うバンドの曲をわざと意識して作った歌で)、でも俺はすごくキャッチーで歌詞も悪くないと思った。こういう曲にもう一回詩的な歌詞を乗せ替えてアルバムを作り直したらいいのって思うんだよね。

さて、というワケで今回は、キュウソ、寄生獣、陰謀論、朝日新聞と調書、原発あたりをまとめて仲良くケンカしたい。さて行ってみよう。

『寄生獣』が日本で映画化されるけど、どうせなら監督はポール『ロボコップ』バーホーベンとかサム『スパイダーマン』ライミ、あるいは元ネタのジョン『遊星からの物体 X』カーペンターなんかがよかった。でも結局日本で主演が染谷将太なら、せめて監督は園子温だったらなあ、と俺は思う。

ただ俺も、『寄生獣』の新刊が待ち遠しくて指折り数えてたあの頃から 20 年経って熱もだいぶ冷めたから、新しい世代の読者を獲得するための映画化って割り切れれば内容はどうでも気にならないかな。

でも日本の商業映画の限界だと思えるのが、深津絵里が田宮役だってこと。彼女本人には全く非がない、むしろ素晴らしい女優さんだからこそ、つまり「踊るアレの人が来た」ってなるから、背後から「ギター！」とか「オ

イース！」とかやたら聞こえそうで気になっちゃうっていう。

そこはやっぱ『天誅』の地味な主演女優を抜擢してほしかった。あの人の眼、今からでもきっと「承知」ってやってくれる人の眼だよ。とにかく、まだイメージが着いてない無名女優をビビって起用できないのが、日本の商業映画の限界だと思った。

ついでに脱線するけど、園子温と染谷将太のドラマ『みんな！エスパーだよ！』は面白かったけど、原作がさらにすごい。『稲中』だと思って下ネタで笑ってたら、いきなり『デビルマン』になってどん底にたたき落とされるっていう。他人の不安や絶望が可視化されて、登場人物と読者が同時に共感するって描写が圧巻だった。もっと評価されてほしい漫画だね。

『寄生獣』は元々『デビルマン』の影響を受けてるんだけど、その後『ガンツ』『彼岸島』『アイアムアヒーロー』そして『進撃の巨人』等、バイオレンスな漫画はたくさんあれど、それらを差し置いて俺がビビッ！て来たのは、『DMC』（クラウザーさん）描いた人の下ネタギャグ漫画だったって、すごく新鮮で面白い。

さて前回の続きだけど、村上春樹は割と真剣に陰謀論について書いてたんじゃないかと改めて思う。「羊」に星があるってのも、米・中とか国旗に星がある国は多いし、影の外圧に支配された権力者がこの国の政治を動かしてたって告発の意味があったんじゃないだろうか。ネットがないあの時代、そういう裏の情報は今ほど簡単には手に入らなかったから、春樹が小説内で広く世間に知らせる意味はあったと思う。

でも今はネットで簡単に、『羊をめぐる冒険』の先生は誰がモデルかって推測が検索できる。ネットやスマホが普及して脳の意味が変わったね。ちょっと前までクイズ番組の答えは司会者が発表するまでわかんなかった。ネットやスマホはまさに新しい人間の臓器ってワケだ。

そして『1Q84』ではさらに陰謀論が世界規模になった。一般市民には一生かかってもお目にかかれないという意味で、宇宙人でも妖怪でも人間でも誰でもいい誰かが世界を動かしてるという陰謀論を、「リトル・ピープル」を使って表現してると思う。もちろん「リトル・ピープル」には、「その場の空気」による支配とか、父権的な力による支配でなく母権的なゆるやかな支配って意味合いもあるんだろう。

というわけで、みんな大好き陰謀論って眉唾話に突入するんだが、俺がもしこの世界を牛耳る支配者だったら、影の存在として君臨することにとくに飽きてると思う。ハリウッド女優がクラウドでハレンチ画像流出したけど、金持ちになって力を持つほど火遊びがなくなるんだろうと俺は思う。

だからもし俺が今後テロを演出する機会があったなら、ビルに飛行機は突っ込ませないで爆弾で爆破するね。それであの爆発はなんだったんだって騒がれてから、飛行機がビルに突っ込んでる雑なCGを捏造してメディアに流させる。その嘘が世界を席卷する様に高笑いするね。いくら一般市民が怪しいと疑っても、メディアの情報のほうが真実として世界に発信され、誰も支配者を覆す力なんて持ってない。圧倒的無力さが一般市民に浸透する。支配者にとって単なるジョークだと思う。

あるいは俺がこの国の政治家だったら、自分たちだけが儲かる仕組みを作って、公給もらって末代まで安泰な権力を構築するね。そのために一般市民の金を徴収して自動的に自分の懐に入るようなシステムを構築する。大昔から変わってない年貢システムなんだろう。

さて、今回の本題だ。朝日新聞が謝罪したけど、「従軍慰安婦」については俺は何も書かない。ただ「調書」の件に関しては書いておきたい。

俺はこの件に興味があったから、朝日新聞のネットでの特集も読んだし、コンビニで当日の朝刊も買った。そして「調書」の原文も政府のHPから落として読んだ。

俺の未熟な国語力をUは支持してくれてると思うからはっきり書くけど、騒ぎの大部分は国語ができない「あの層」のせいだ。原発（とか集団的自衛権）を支持する立場の「あの層」と、反発する立場の「あの層」

が、考えるより先に互いの看板掲げて批判し合ってるだけだ。まさに青島の出番だ。事故はネットや新聞紙上で起きてるんじゃない、今もまだ原発で起きてるんだ。

「原発の下請け企業の従業員の男性ら4人が東電に待遇改善を求めて訴訟を起こした」とか、「汚染水が毎日220億ベクレル漏れてる(2014年8月25日 東電の福島県漁連組合長会議説明資料)」とか、「福島の子供に甲状腺がんが見つかった57人のうち、医大が手術した54人について、8割超の45人は腫瘍の大きさが10ミリ超カリンパ節や他の臓器への転移などがあり、診断基準では手術するレベルであり、2人が肺にがんが転移していた」って話はほんのわずかな報道程度で、結局金になる原発推進に関わる情報だけが大きく取り上げられる。

そしてたぶんこの「調書」の話題も今後急速に縮小していくだろう。なぜなら、今でもネットで読める朝日新聞の特集、訂正したのは「命令違反」という一部分だけなのに、記事全部を否定したみたいに騒がれているから。「美味しんぼ」が批判されたときも感じたんだけど、火の粉が政権側に逆に飛び火する前に素早く鎮火するのがこの国の報道作法らしい。

さて、「この調書の突っ込みポイントはどこか？」という国語の問に関して、俺の解答を以下に示しておく。まず原文にあたってみよう。何事も現場から。以下に国のHPから落としたPDFを貼る。

政府事故調査委員会ヒアリング記録 事故時の状況とその対応について 4

http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/hearing_koukai/hearing_list.html

55 ページ (○回答者 = 故・所長)

○質問者 そうですか。では、例えば、意思決定などをするに当たってとか、現場でいろいろ実施をしようとするときに、そこで混乱するなどということはないわけですね。

それで、3月15日の6時ぐらいに異変が生じて、最初は2号機の圧力が一気に低下していった、それから、衝撃音が生じたということが合わさって、最初の報告のときは2号から報告が来て、2号であったんだろうという、この音と結びついてですね。その後、今度また4号の方という話もあるわけですね。しばらく人員が少なくなる。

○回答者 バスで退避させました。2Fの方に。

56 ページ

○質問者 圧力計が仮に故障していなかったとして、圧力がマイナスの状態というのは考えがたい状況だというのがありますね。基本的にこれは圧力計が故障しているだろうと、爆発の影響で。

あと、一回退避していた人間たちが帰ってくるとき、聞いたあれだと、3月15日の10時か、午前中に、GMクラスの人たちは、基本的にほとんどの人たちが帰ってき始めていたと聞いていて、実際に2Fに退避した人が帰ってくる、その人にお話を伺ったんですけども、どのクラスの人にまず帰ってこいとかいう。

○回答者 本当は私、2Fに行けと言っていないんですよ。ここがまた伝言ゲームのあれのところで、行くとしたら2Fかという話をやっていて、退避をして、車を用意するという話をしたら、伝言した人間は、運転手に、福島第二に行けという指示をしたんです。私は、福島第一の近辺で、所内に関わらず、線量の低いようなところに一回退避して次の指示を待てと言ったつもりなんですけど、2Fに行っちゃいましたと言うんで、しようがないなど。2Fに着いた後、連絡をして、まずGMクラスは帰ってきてくれという話をして、まずはGMから帰ってきてということになったわけです。

○質問者 そうなんですか。そうすると、所長の頭の中では、1F周辺の線量の低いところで、例えば、バスならバスの中で。

○回答者 今、2号機があって、2号機が一番危ないわけですね。放射能というか、放射線量。免震重要棟はその近くですから、ここから外れて、南側でも北側でも、線量が落ちていてところで一回退避してくれというつもりで言ったんですが、確かに考えてみれば、みんな全面マスクしているわけです。それで何時間も退避していて、死んでしまうよねとなって、よく考えれば2Fに行った方がはるかに正しいと思ったわけです。いずれにしても2Fに行って、面を外してあれしたんだと思うんです。マスク外して。

○質問者 最初に GM クラスを呼び戻しますね。それから、徐々に人は帰ってくるわけですが、それはこちらの方から、だれとだれ、悪いけれども、戻ってくれと。

○回答者 線量レベルが高くなりましたけれども、著しくあれしているわけではないので、作業できる人間だとか、バックアップできる人間は各班で戻してくれという形は班長に、
(休憩)

上記が、フクシマ 50 と呼ばれる人たち (実際は 69 人らしい) がどうして第一原発に残ったのか、当時の所長の目から見た話だ。もちろん、一個人の記憶と実際の出来事では異なっている部分も多々あるだろう。

上記を踏まえて朝日新聞が問題にした点のいくつかを以下に箇条書きする。

- ① 「所長自身は別な指示をしたつもりだが、69 人以外の約 650 人は、10 数キロ離れた第二原発に一回退避してしまった。よく考えればはるかに正しいが、しょうがないから GM(グループマネージャー)クラスから呼び戻した」と所長自身が感じている。
- ② 事故対応を指揮するはずの GM まで退避した。これは、過酷事故発生時に原子炉の運転や制御を支援する GM らの役割を定めた東電の内規に違反する可能性がある。
- ③ その間、3 月 15 日午前 7 時頃から昼までに、今回の事故で最高濃度となる放射性物質を放出する危機的状況となっている。
- ④ 大事故が起きれば、誰が原発の作業にあたるか、様々な問題が起きる。

一旦報道した以上、これらの裏付け取材を実施し世間に広く公表するのが報道の使命だと俺は思うが、それより先に社長が謝罪してしまった。この国の報道の限界はここらへんなんだろうね。

そして、ここからが俺の国語の答案だ。最も突っ込まなければいけないと俺が感じる点だ。

- ① 原発は事故が起きると、電力会社社員だけでなく下請け作業員も、死を覚悟で作業しなければならない。
- ② その下請け作業員の月収は平均 20 万円で特別待遇もない、と報道されている (ウィキ「フクシマ 50」、ウォールストリート・ジャーナル 2011 年 3 月 25 日)。
- ③ つまり、サラリーマンの平均よりも低い収入の人間も含めた 69 人に、あの時、国の命運がかかっていた。そしてその現状は、今もあまり変わってない。

日本兵でも米軍基地でも原発でも、いわゆる「尊い犠牲を払った」「身を捧げた」英雄を称える「あの層」は、逆に犠牲に対する対価は極力少なくしたいと考えてる。犠牲者が対価を求め出すと、「お国のために身を捧げられた幸運を誇りに思って沈黙しろ」と逆ギレする。だが「あの層」はその同じ口で「頑張った人、汗を流した人、一生懸命切磋琢磨し知恵を出した人が報われる社会をつくっていきたい」とか言う。

でも例えば半沢ってドラマが流行った原因の一つは、金融業界っていう「直接触れる物を製造するのではなく実態が見えない数字だけを動かしている人々」が高給を取り、実際に町工場で作りに従事する人々 (や、介護とか、保育とか、ゴミ処理とか、廃炉作業とか、後方支援とか、現場で汗流す人) が使い捨てにされるって現実が確固として存在してるからだ。「国を命がけで守っている国民に対価を払わないお金持ちのあの層」が、「この国の名誉を傷つけたのはあなた (で、あの金をもらうのはわたし)」と絶唱する。

ただ残念なのは、ここまで書いてきた「あの層」ってのがいったい誰なのか、国語力のない俺には皆目見当も

つかないってとこだね。きっとそれが、「リトル・ピープル」の正体なんだろう。品切れの妖怪ウォッチがあれば見ることができたのかな。残念。

原発の作業員にも年収一億、避難民にも年収一億、これから集団的自衛権が発動した際は後方支援する某J隊員にも、あるいは核兵器保有した場合それに携わる職員にも、並びにその核兵器を落とされた敵国民に対しても、全員一人ずつ年収一億あげる。そういう国なら俺は好きだね。

最後は金目だよ。でも、自分の身を切り刻んで絞り出す金目じゃなきゃ、対価に見合う金目にはならないと俺は思う。

というワケで最後に、「汚染水バケツチャレンジ」の企画を考えた。

福島で国家的プロジェクトに従事している下請け作業員に、一日一万円の日当を渡す基金を設立するために、日々汚染水が漏れ続けている現実から目をそらさないために、あとバケツにウラン入れて被曝した昔の事故も忘れないために、タンクから漏れている汚染水をバケツリレーして貯水プールまで運ぶ企画をやったらいいんじゃない？ 右も左も政治家も貧乏人も争う前に一丸となって、そのくらいの痛みは分け合わないといけないんじゃないの？ って意味でね。

結局、日対中韓の対立がやたらに煽られるのも、各国が反（日・中・韓）感情で自国民をまとめたとか、米軍に守られる口実を作って対米従属を続けたいとか、軍事費を減らしたくないとかのメリットがあるからだとか、疑いたくなる俺がいる。

とかって偉そうに書いてきたけど、さっき「新一に寄生する前のミギー」みたいな一匹の虫を殺すのに深夜数時間格闘した俺もいて、今もその殺伐さにおそれおののいている。虫を殺す俺の正義はどこだって、ビビりながら考えてる。所詮その程度の小さな人間が、でっかい正義ふりかざしたところで本当に、本当になんの意味もない。

ここはひとつ、「正義なんて言葉は死ぬまで胸にしまっとけ」っていう、「踊るアレ」の名ゼリフでまとめとこう（今ウィキで初めて知ったけど）。

虫も人間も、自分の命を守るために必死で戦う「キュウソネコカミ」なのだから。

今回はこんな感じ。ではさようなら。

どうかな？



「G Zばっか」

どこでも そこかしこでも
モノクロの言葉が飛び交う
シロとクロに分かれて
陣取りゲームが終わらない

とはいえ それはバーチャル（ニジゲン）
現実には誰も話さない
ため込んだストレスを
文字に押し込めてぶちまける

表裏一体の世界で
パタパタ意見ひるがえす
知りもしない獲物も
みんなでハタけりゃ怖くない

実は裏で金持ちの
都合通りに踊らされ
グレイに染まる クレイジー？
おー おー

めぐる
めくりめぐる世界で
シロとクロのパイを
指先に乗せて

衝動のフリして
実は 周りとシロクロ（色） 合わせて
安心してから
投げつけ合うのさ

とはいえ 俺の日常
生活は何も変わらない
天然色の現実（ヨジゲン）を
GB（ゲームボーイ）には戻せない

誰に向けて わかりやすく
何を言ったとこで
くるくるめくる 堂々巡り

いずれバターになって

溶ける

溶けまくる俺たちは

媚べ媚べに媚びて

舐み舐みに舐めて

結局うやむや

ピクリとも動かないまま

1億人の足を

止められないのさ

めぐる

めくりめぐる世界で

シロとクロのパイを

指先に乗せて

衝動のフリして

実は 周りとしろクロ（色） 合わせて

安心してから

投げつけ合うのさ

混ざる

混ざり合うこの世界で

そんなこんなあっても

世の中GZ（グレイゾーン）ばっか！

どうでもいいのさ

現実逃避だけなのさ

ホントに言いたいのは

キミが 好きなのさ



考え



第十七回 『寄生獣』と「ネットウハ♡」とは何か？〜前編〜

のんびりダサイ
ウマシカの冬。

弦楽器イルカ  + 友人

たまたま深夜に起きたら『寄生獣』のアニメ第一話やってた。ぼんやり観ながらつくづく「原作読み直したい」って衝動に駆られて、早速全巻借りてきた。

ここで今さら俺が『寄生獣』原作についていちいちアレするのも野暮だと思ってネットを漁ってみたんだが、あんまピンとくるレビューがなかったから思い切って書こうと思う。

『寄生獣』は、どこにでもいそうなのんびりダサイ人々が徐々に、自覚もないまま後戻りできない酷い「日常」に巻き込まれていく物語だ。登場人物たちはちょっとのんびりしてたりだいぶダサかったりするんだけど、このダサさが実はリアリティを生むとても重要な要素だって、アニメや映画予告編を観て気づいた。(今読むからダサイんじゃないくて、20年前だって充分ダサかったんだよ)

たいていの役者って美男美女ばかりで、あいつらすぐ戦国時代にタイムスリップしたり魂が入れ替わったりして、それは作り物としてありがちで安心する展開だけど全然リアルじゃない。実際にそこらへん歩いている人は特にイケメンでもオシャレでもないし、時空の歪みにハマったり俺がアイツでアイツが俺だったりしない。

どこにでもいる人々の日常が徐々に変容してく様を、お約束のキレイごとをなぞらずに描き切ったからこそ『寄生獣』はこれだけ評価を受けたんだと思う。普通のマンガなら、人喰いの化け物と戦うって同じようなストーリーでも、どんな人喰いの種族がいて、どんな特殊能力があって、それに対抗するのはどんな組織でどんなにかっこいいヒーローかって、一話目からご丁寧に説明しちゃうとこだ。

『寄生獣』はあくまで普通の人々が、「昨日と同じ顔をして、全く別の眼をした日常」に乗っ取られる恐怖を描いてるし、いっそ映画版のコピーもこれにしてほしいくらいだ。俺ごときが突っ込むのは不遜だからあんま言いたくはないんだが、「日常は、ある日とつぜん、食べられた」って、手軽につまめるスナック菓子みたいなジャンクコピーは、おそらく発ガン性あるよ。

原作では寄生生物との戦いは読者を飽きさせないためのスパイスではあるけど、メインテーマは最後まで人間の日常だった。それは新一が物語のラストで誰と対峙するか、からもうかがえる。一方、アニメ化は映画版の宣伝で、その映画版は予告やコピー観る限りじゃ、戦いや寄生生物の奇抜さをメインにした「日本の商業映画」だと感じる。

時代はドンドンわかりやすい事件性やキレイごと重視になってるけど、キャラクターや世界観をデザインする上でダサさにもちゃんと理由があるから、理由なしにオシャレ化しても辻褄が合わない「がっかりオシャ化」だ。

例えば俺がもし『寄生獣』実写版の予告編作るとしたら、ただのんびりダサイだけの新一と村野が公園を歩いて座るだけのシーンを撮るよ。それでナレーションを付ける。

「日常はどこにもいかない。どれほどの悲しみや苦痛に満ちていようとも、日常はあなたをその渦から逃しはしない。昨日と同じ顔をして、全く別の眼をした日常が……」

この世界には、恐怖と怒りと、愛がある」

そこで新一の右手に目が一個付いてる画面で暗転させる。原作を最後まで読んだら、互いに公園で笑い合える日常がどれほど愛おしいかってことがイヤでも身に染みるから。震災後の今、逆に力を得たような作品だと思う。

あと『進撃の巨人』にも感じるけど、メディアミックスっていう名の砂糖に群がる蟻感がハンパない。マンガとコラボしてなんとか儲けようって大人の鼻息が荒すぎて、原作の原稿が吹き飛んじゃう勢い。まだ完結してないうちにアニメやら実写化やらCMやら番外編やら外伝やらノベライズやらガイドブックやらグッズやらコンビニくじやら出しまくって、もうオリジナルがどこらへんなのかも俺にはよくわかんない。俺も途中までは面白かったけど、いつまで巨人と戦ってんだって飽きてしまったし。

「すごいけどマンガ」って評価と、「マンガだけどすごい」って評価に分けるとしたら、日常をどう描くかが普通

の作品と『寄生獣』の分かれ目だろう。突進してきた車を右手一本で止めちゃうアニメ版の第一話はすごいけど、マンガだった。俺にはがっかりダサかった。

物語に求心力を持たせるために敵との戦いというフィクションを創作する。これはマンガだけの話じゃない。宗教や国家のやり方も一緒だ。今回はこのところを詳しく書きたい。

っと、その前にここで改めて褒め直したいのが、『みんな！エスパーだよ！』が描くダサすぎる日常の描き方だ。どんな酷い事件の最中でも深くバカバカしい人間の業を描くこの作品は、ジョン『ガープの世界』アーヴィングに匹敵すると思う。これこそ事件だよ。

事件は『寄生獣』の映像化で起きてるんじゃない。『みんな！エスパーだよ！』のフルチンの人が公然わいせつ罪って事件を起こしてるんだ！って。

あと、NHKの『55歳からのハローライフ』ドラマ版もリアリティある日常を描いててすごいよかった。二つともドラマ化が蛇足にならなかった貴重な作品だと思う。

さて俺なりに、どうでもいいけどすごくいい宣伝できたな。

前置きが長すぎたので、後編へ続く……





考え



ウマシカの冬の
のんびりダサイ。

弦楽器イルカ  + 友人

第十八回 『寄生獣』と「ネトウハ♡」とは何か？〜後編〜

aiko は才能があって、自然体という新しい分野を切り開いたね。

大抵の Jpop (もちろん、Kpop や他の音楽も同じだろうが) がクソなので、彼女がこれだけ長い間、歌い続けられるのは当然だと思う。

長い間、歌い続けて、40 歳目前の結構な年齢になったけど、同じ年代の未婚の女性には心強い味方だよな。

村上春樹は、陰謀論とはちょっと違うと思う。

春樹は見えにくくなった権力を、すこしだけ見えやすくしたのだと思う。

「羊」は民衆と権力の関係の暗部を、文学的に比喩的に描いた作品だと思うし、『1Q84』はそもそも元ネタがあるから断言できるけど、そういうテーマだと思う。

さて、どんな国の政治家でも、過去の絶対王政の皇帝であっても、権力は思いのままの力であることはないはず。

つまり、どんな権力の中枢の位置にある人物だとしても、自分が恒久に利益を享受し続けることはできなかったはず。

権力の座は非常に細かい作用の確率的なバランスの上にしか存在し得ないはずだ。

それが、中国や米国を含めた今の世の中だし、過去の歴史もそうだったと思う。

どちらかといえば、春樹はその微妙さ加減のなかで、立ち振る舞う権力者と一般ピープルを描くのが得意なのだと思う。

なので、陰謀論というと、あまりにも単純化されすぎて、春樹のテイストがごっそり抜け落ちてしまっていると思う。

さらにいえば、こうした、社会の機微というか、もやもやとした複雑系に放り込まれていることを理解しないと、陰謀論とかの馬鹿げた極論を信じ込みやすくなると思う。

たとえばね、新聞を読んで、歴史の勉強をして、政治学を学んで、文学芸術その他の素養を身につけたような人間が、陰謀論を簡単に信じることは想像できないし、逆のタイプの人間が陰謀論を信じて怒りをぶつけているところは想像できる。

そういうことだと思う。

極論でいえば、原発の作業員について、1 億円もらえるなら、ほとんどの人がやりたがるよ。俺ももちろんやるよ。

でも、お金が本当に重要なのか？という疑問は残るね。

日本国全体に拝金主義を蔓延させないためにも、こうしたことはお金で論じてはいけないと思う。

あとこれは推察だけど、1 億円の話を持ち出すのは、今原発で働いている人に対して大変失礼な意見のように聞こえる。

ところで、最近、平等性について考える機会があったので、たまにはリプライだけでなく自分の考えも書いておこうかと思う。

学生時代から考えていたことだけれども、人間の性格や知能、病気の有無やいわゆる運動神経などの能力については、先天的なものとは後天的なものがあると思う。

「先天」と「後天」はきっちり分けられるものではなく、それぞれが、「原因」と「結果」となり、複雑に絡み合っているから、どちらがどうとは言えないだろうことは想像できる。

最近読んだ『やわらかな遺伝子』の著者が言っていたのだが、遺伝的要因以外のものを、均質にすればするほど、遺伝的な違いが目立つということには注目しなければならないと思った。

これはちょっと考えればわかることだけど、地域や文化が同じ場所で、親の教育水準や収入も似ていて、同じような環境が整った学校では、遺伝的な要素の違いが浮き彫りになるということ。

同じ環境で同じトレーニングを受けた同じチームの陸上選手たちは、遺伝の違いによってのみタイムに差が出るのと同じ理屈だね。

同質的で平等な社会を追求すればするほど、遺伝による差異が強調され、親の（遺伝という）資産を受け継ぐ要素が強くなるというジレンマに陥るね。

日本のように著しく平等な社会であれば、そのような傾向がすでに現れているはず。

これはある意味で残酷なことであり、生まれ落ちた一人ひとりにとって、より希望が少ない社会のような気がする。

もっと、愛や希望や目標を重視するためには、平等性は揺らがないといけない気がする。

遺伝的なもの以外の違いにもっともっと目を向けて、考えや文化の違いを取り入れてミックスさせる事こそが、遺伝の束縛に対する唯一の反逆だと思う。

もうひとつ平等でいえば、お金持ちがもっとお金持ちになることが、貧しい人々にとってプラスになることは多々あって、決して貧しい人からの搾取によってだけ、お金持ちが存在するわけではないと思う。

これは証明されたことではないけれども、そうだとしたら、差があることは悪いことだとはいえない。



U からの手紙は俺の前編とは別に書かれたものだけど、うまく融合して俺の視界も少し開けた気がする。「だいたいの J-pop がクソ」ってさらっと書いてるところが一番面白かったけど。でもクソだってハエにとっては御馳走なワケで、だったらすべての文化がクソであり、誰もが自分好みのクソにたかるハエだと俺は思ってる。知的なクソ、抒情的なクソ、ちょとおセンチなクソ、お涙頂戴のクソ、暴力的なクソ、会いたくて会えなくて震えるクソ。クソにもいろいろあるけど優劣はない。クソ食う虫も好きずきってワケだ。まあこの話題は本筋じゃないんだけどね。

U の話面白くて、そのうえで整理したいんだけど、「平等」な社会と「均質」な社会は相反する言葉として定義しないと要旨がぼやけると思ったよ。

一般的に、遺伝的な障害を持つ人や社会的弱者、高齢者や生活困窮者などを福祉で救済する社会は「平等」な社会って呼ばれる。今までこの国も含めて多くの社会が（建前だけでも）「平等」を目指してきたと思う。

それに対して、「均質」な社会は遺伝（世襲）的な要因による差異が放置され助長される社会だろう。障害者と健常者の扱いは同等。金持ちの子はずっと金持ち。世襲バンサイ。貧乏人の子だくさん。

そう考えると、U が書きたい要旨はむしろ、遺伝（世襲）的な要因による格差にもっと目を向けたほうが、遺伝（世襲）による不平等を是正する役にも立つてことだと思う。

イケメンは遺伝でずるいからイケメン税を課したほうがいいのか、相続税をうんと高くして世襲政治家を全員ホームレスからやり直させるとか。逆に障害者を手厚く保障するとか、カツラに（エコカーみたいな）補助金出すとか。それこそが遺伝（世襲）による不平等をなくす政策だと思う。もちろんわざとふざけて書いてることもありますが。

そういう意味で今この国は平等な社会よりも、むしろ均質な社会を目指していると俺は感じるね。

たとえば生活保護引き下げ。生活保護を引き下げると、同時に最低賃金の設定も引き下がるらしくて、そうなると生活困窮者がどんどん出てくるよね。でも、海外の安い賃金で生産される製品と競争するにはこの国の人件費は高すぎるから、「生活保護は悪」って空気を広めて最低賃金も一緒に下げたほうが、経営者にも産業界にも国にも社会保障費削減にも都合がいい。貧乏人はどんどん増えるけど。

ここでとりあえず事実をひとつ共有しときたい。ネットで読めるけど、ちょっと前に NHK が「サラリーマンなど年収 3 年ぶり前年比増」って見出しの記事を出した。読んでみたら、「年収別でも、1000 万円を超える人が前の年より 14 万人増えて 186 万人、全体の 4% となった一方、200 万円以下の人は 30 万人増えて 1120 万人に上り、全体の 24.1% を占めていて格差が広がった」って書いてあった。もちろん、NHK 職員の平均年収は公式発表で 1000 万円超えてオチなんだけど。見出しを素直にとれば、国営放送にとっちゃ年収 200 万円以下の人が国民の約一割に達したことよりも、自分たちがいかにエリートかって自慢が先なんだろう。今回の解散会見でも首相がしきりに「賃金上がった」って連呼してたけど、格差が広がってることには言及がなかったね。

さらに言えば最近の調査で、米国は上位 1% の収入が国民の全収入の約 20% を占め、また、上位 10% の収入が約 50% を占める超格差社会だそうだ。

また、世界の富裕層人口は 3500 万人で全体の 0.7% だが、世界全体の富に占める割合は 44% だそうだ。

俺がこれで思うのは、株とか為替相場って「金を金で引っ張る取引」だから、大金を持てば持つほど有利な仕組みだし、金持ち同士が共謀すればさらに有利さは拡大するって話だ。

例えるなら砂場にヒモ付きの磁石を埋めて、引き上げると砂鉄が取れるのに似てると俺は思う。でかい磁石を

持ってるヤツがより多くの砂鉄を取れるし、場合によっちゃ他人の磁石ごと総取りできる。もちろん砂鉄の一粒一粒だって実は貧乏人が投資したハシタ金なんだけど、でかい磁石にかかれば元も子もない。競馬みたいに、金持ちも貧乏人も的中率自体は公平なギャンブルとは違い、相場は大金積めば価格を上げ下げ出来る仕組みだから、貧乏人は振り落とされないよう必死でしがみつくなさそう。

でも俺がここで格差社会を善悪で語っても大した意味はない。善悪なんて人間が共同生活する上で作った便宜的な概念だし、弱肉強食の均質な社会を生き残るには戦うための言葉を自分で考えるしかないからだ。そのうち『鉄は熱いうち、媚びは高いうちに売れ！』とか、『ドレイの品格 一賢いヘツライ術一』とかって本がベストセラーになるんじゃないかな、冗談抜きで。

泣き言だって、泣き方や拡散の具合を工夫すれば商売になる時代だから、貧乏人もやり方次第では這い上がれる可能性があるかもしれない。遺伝（世襲）的差異を放置する均質な社会では既得権益による岩盤規制も多いだろうけど。

あと俺が原発作業員について毎回粘着してるのは、貨幣という文化について震災を機に真剣に考えるべきだと思うからだ。この国は原発再稼働もななああですまそうとしてるけど、そもそもその前に「国家的なプロジェクトに携わっている原発作業員の年収額は一体いくらが妥当なのか」という議論もコンセンサスもない。

金だけでは幸せになれないが、幸せと金を切り離すのもほぼ不可能な社会で、国民を支えるために命削ってる原発作業員の適切な年収額についてもななああで検討もせず、円安株高とか金融緩和とか実態のないマネーゲームに浮かれてる拝金社会は、それこそ無礼極まりないと俺は思う。

「最後は金目」って発言も、自分のポケットマネーを出して身を切るならまだイヤミで済むが、自分は損せずに税金使って保障するヤツがどの口で言うのかって話だ。他人を蔑むならそれなりの対価を払わないと、言葉に重みを失うよ。

さて前回、もし俺が政治家だったら自分だけが儲けるシステムを躍起になって構築するって書いたら、いろんな閣僚や政治家の裏金報道がわっさわっさ出てきた。俺（みたいな考えの政治家）を社会の『寄生獣』って呼ぶのかもしれないね。

今さらだが権力者に貧乏人はいない。金持ちがより裕福になるための仕組みを作るのが官僚で、それが貧乏人にバレないように媚売って騙すのが政治家だと俺は思ってる。こう書くと権力者は悪で陰謀まみれって取られそうだけど、自分の立場をより強固にするために仕事するのは民間では普通のことだ。

権力者の得になる政策と、（徳にはなれど）損する政策があって、たとえば議員定数の削減とか、無関係な原発作業員の待遇改善とかの議論は軽く無視されても、ゴルフ税廃止いいね！とか、震災復興ってかやっぱオリンピックとカジノでしょ、とか国会で普通に議論されてる。

どうせなら政治家は何にいくら使ったか、すべての金の流れを死ぬまでネットで公表すべきだと俺は思う。それが遺伝（世襲）による差異を廃した平等な社会への一歩だろう。

ちなみに GDP のマイナス成長でアベノミクス失敗とか言うけど、俺は全然そうは思わない。アベノミクスは格差を拡大する政策だから、むしろ粛々と成功してると俺は思ってる。たとえば金融緩和で円をジャブジャブ増やせば物価が上がり、タンスや銀行に貯めてる（特に老人の）円の価値は下がる。だからって投資すれば儲かる人もいるけど損する人もいて、投資で確実に儲かるのは大金を撒き餌にしてハシタ金を吸い上げる富裕層と、取引手数料や税金を取れる胴締め側だ。貧乏人はそのおこぼれにあずかれれば幸運だが、何度も勝ち続ける保障はない。

更に言えば、福島の子供の甲状腺がんに関する第4回の県民健康調査なんだけど、「リンパ節転移は17例(31%)が陽性であり、遠隔転移は2例(4%)に多発性肺転移を疑った」と公式に発表された（この2例は過剰診断と

騒がれる中で不幸中の幸いだって言った)。また国立がん研究センターの資料では「18歳以下の甲状腺がんが100人を超えて診断されている現状は、通常の61倍にあたり、何らかの要因に基づく過剰発生か、将来的に臨床診断されたり、死に結びついたりすることがないがんを多数診断している(いわゆる過剰診断)かのいずれかと思われる」って書かれた。

これらは全部俺から見れば、原発推進側の学者から出てる話だ。それに対して「たくさん検査したからたくさん見つかった」って結論になった。んでUも好きな遺伝子変異の研究からチェルノブイリとは別型だから放射線由来じゃないって学会発表が福島医大からあったんだけど(ネットではそれもだいぶ眉唾だって意見が出たが)、そもそも福島医大が学会で先に論文を公表したいがために県の委員会ではデータを出さずにコソコソ黙ってるって姿勢が問題になって、いわゆる御用学者同士や行政も絡まってゴタゴタ揉めごとになってる。

これらもネットで調べない限りほとんど報道されてないけど、弱肉強食の世界で金や権威に媚を売るのは悪じゃなくて普通だし、俺は被曝と病気の因果関係についてはわからないから何も言わない。

ただ文化は、それこそ文学芸術は、ここにある痛みに対して何かを語るべきだと俺は思ってる。

長くなったが、実はこっからが本題である陰謀論の総本山だ。

俺は〇〇ノミクスとかガラケーとか世間が勝手に吹聴するあだ名が嫌いだ。〇〇ノミクスって名乗れば「経済政策はじめました」という気分にはなるから、今後歴代総理は自分の名前に「ノミクス」って付けとけば支持率安泰だろう。

ガラケーも後からスマホと比較した際に出来た名前であって、「古いガラクタータイ」というネガティブな意図を感じる。

あと、年金の消失とか、投資で資産をとくすとか、失われた20年って言葉も好きじゃない。金は燃やしたりしない限り消失しないし、簡単に水にとけたりもしない。失われた20年だって、失われた原因は誰か、損失をこうむったのは誰か、逆にその分利益を得たのは誰かを曖昧にする言葉だ。誰かが損した分は誰かの儲けになるのが社会だ。もし誰も利益を得てないとしたら、そもそも誰も失ってない、取らぬ狸の皮算用だったって考え方もある。

そういう意味でネトウヨって言葉も全然好きじゃない。言葉の定義が曖昧で、誰を指してるのか定かじゃない。衆院解散を目くらましに使うのは政治家の自由だが、言葉を目くらましに使うのはフェアじゃないと俺は思う。これも国語の問題だ。

では、確実に「いる」のは誰かから考えよう。

事実として、いくつかの政党は支持母体としていくつかの宗教と密接に関わってる。

更にウィキで「宗教右派」って項目を引くと、そこだけでも19の団体名が出てくる。宗教の信者数って自己申告だから水増しされてたりよくわかんないらしいが、とりあえずネットで軽く調べたら、それら団体の信者数は大雑把に見積もって、のべ1582万人だった。まあ、国民の割以上に当たるこの数はものすごく眉唾だけど、ただ少なくない数の人々が右寄りの団体に加入してるのがこの時点でわかる。

宗教が政治と密接に関わり、更に各政党が公式に金を使いネットで意見を広めてる現代で、自分が団体に所属しているか否かを公表する必要がない「宗教右派」の信者のうち誰かが、右寄りの書籍や団体に金を落とし、自分が所属する団体の考えを匿名でネット布教し、結果的に団体のお布施集めにも貢献してると考えることは、そういう活動が永遠にゼロな場合と比較して、どちらがより合理的だろう？

そこで、右寄りの団体に属しながらそれを明かさずに活動する人々を仮定して、俺は彼らを「中ウハ♡」と呼ぶことにする。そしてそれと気づかずに右寄りに同調し巻き込まれる人を「巻ウハ♡」と呼び、更に彼らが全体で行うネット上の活動を「ネトウハ♡」行為と呼ぶことにする。

「ネトウハ♡」行為について割と真剣に考えるようになったのは前の都知事選の際、本来支持されるはずの与党

推薦候補を「外国人参政権許すまじ！ 化けの皮をハゲ！」と罵倒してこき下ろし、ライバル候補を「神！」と崇めたてまつった時からだ。その「神！」候補は今回認可が降りなかった某宗教大学の教授に内定してたって報道もある。

更に複雑なのは、いわゆる在日でも北と南では日本の「外国人参政権」に対して意見が分かれてるってことだ。北側は「外国人参政権」に反対してるし、そもそも北政府は「半島統一しても一国二政府制度を敷いてくれ」と言ってるから、自分たち上層部の利権が失われるくらいなら統一しない今のまま、現状維持の方が都合いいんだろう。

そうすると、「外国人参政権反対！」って唱えてるのはいったい誰かって話にもなる。更に複雑なのは、宗教右派の中には教祖が日本人じゃない有名な宗教もある。

もっと調べればいくらでも出てくるんだが、これらをまとめて文章にするには、ちょっとやそつとの陰謀論じゃ片付かない。だから俺にとって陰謀論は簡単じゃないし盲信もできない。自分の頭で状況を分析してどこがどうつながってるのか真剣に考えても真相にはきっと一生辿り着かないだろう。でも俺はそれが面白いと思ってる。

権力者に求心力があればより大衆を騙しやすい。だから求心力を高めるために、宗教や国家は敵を創作する。これはよくある一般論だ。

その権力を維持するために、今、日中韓でいわゆるナショナリズムが煽られている。権力者にとって都合の良いテーマが愛国心だけで、実際イデオロギーの中身なんてどうでもいいんだと俺は思う。それぞれの権力者にうま味がある範囲内で対立が収束するよう、各国間で裏取引が行われてたとしても全然不思議じゃない。逆に各国がノープランで愛国心を煽ってたらそのほうがむしろ心配だ。

この国では反中韓は儲かるし、軍備の強化や対米従属も維持できるし、権力者にとっては票になる。各団体も複雑に絡み合ってる。

つまり U が指摘する通り、複雑系なこの世界では、「どんな権力の中枢の位置にある人物だとしても、自分が恒久に利益を享受し続けることはできな」いし、「権力の座は非常に細かい作用の確率的なバランスの上にしか存在し得ない」だろう。

それはつまり、有象無象が跳梁跋扈する膨大な陰謀の上にこの世界が成り立ってるってことだ。人の数だけ陰謀がある。ただその全体像を俯瞰で見るのは難しい。それが俺なりの「リトル・ピープル」であり、誰が「寄生獣」なのか見極めたいと思ってる。つまり、U が俺にとっての「ミギー」だってオチかな。

さて、今回はこんな感じ。やりきったよ。

どうかな？



陰謀論について、さらに思うところがあるので追記させてもらう。

まず、遺伝のことだけでも、遺伝的な違いは、子供の頃よりも大人になってから現れるものもある。

もちろん、アルツハイマーなどの病気だけでなく、もっと身近なところでハゲとかもそうなんだけれども、それ以外について、意外なところで、大人になって現れるものがある。

それは、知能というか頭の良さについてだ。

子供の知能よりも大人の知能のほうが、遺伝の影響が大きい（かもしれない）という。

これも最近読んだ『やわらかな遺伝子』で論じられていたことなんだけれど、子供の頃は育ての親の影響が非常に大きい。

親が何を思って、どんな環境を子に与え、どのように育てるかによって、子供はどんな成長をしていくのか影響を受ける。

これを環境の違いと言うのだけれど、環境の違いと遺伝の違いの大きさは、たとえば、離れ離れに育てられた一卵性双生児や、同じく育てられた二卵性双生児の違いを比較検討することによって、上手く測定することができる。

なのですでに科学的にわかっていることだけれど、子供の頃は育ての親や環境の影響が強い。

しかし、子供から大人になり、親から離れ、それぞれの人生を歩んで、多くの経験を積むと、その経験のプラスやマイナスを非常にたくさん浴びることになり、子供時代よりも、環境の違いが平均化されていくだろう。

子供の頃に取得した環境の違いを大人になってからも引き継ぐこともあるが、子供の頃に閉じ込められた環境から脱出し、そして社会にもまれることも多くある。

要するに、環境の違いは子供の頃に親から作られることは大きいですが、大人になると多くの人が同じような社会に放り込まれるので、差異が少なくなるということ。

環境の差異が小さくなると、当然、遺伝の差異が目立ってくる。

思うに、日本人に限らず、人は教育を受ける期間を過ぎてしまうと、ピタッと学習することをやめてしまうことが多い。

一方で大人になってからも学び続ける人もいる。

これは、遺伝の影響が大きいかもしれない。

残酷なことなのか、そうでないのかはわからないが、大人になってからの能力の違いの方が、天性の素質を表していると思う。

子供の頃の学習と大人の学習はまるで違う。

理解がしやすいように単純化された内容を、教師と教科書から学ぶのか、生きた社会の渦の中で、自分が主体となってもがきながら学ぶのか、まるで違うだろう。

話は変わるが、あの指原莉乃のスキャンダルを秋元康の陰謀と理解する人もいるが、それは違うと反論したい。結果だけを見れば、ステマの茶番劇のように思えるかもしれないが、リアルタイムにあの事件を肌で感じていた自分からすればまるで違う。

指原莉乃はもうクビになるかもしれない、逆にクビにならない場合でもAKBはどうなるかわからない。

いずれにせよ、スキャンダルが双方に良い結果をもたらすなんて、ほぼすべてのファンや関係者は思わなかつ

ただろう。まだ結果を知らない時点では。

そんななかでの、HKT への移籍は「神の一手」と呼ばれたが、それがうまくいくかどうかは、当時のファンにはわからなかった。

未来を予想するよりも、未来をつくるほうがたやすいとはよく言ったものだ。

秋元康も指原莉乃も努力した。その努力を知らずして、結果だけを見てはいけない。

結果的には大成功に終わったが、ここまでうまくいくとは、秋元康だって思っていなかったはずだ。疑うなら、当時のラジオを youtube で聞いてみるといい。

どうなるかはわからない、もやもやした複雑系の社会の中で、はっきりとした未来は見えないけれども、選択を迫られ、秋元康は動いたし、指原莉乃も動いた。

こうした答えのない状況下での選択は、先がはっきり見えているからできたというよりは、先が見えない中での判断力やぼんやりとした明るい方向を感知する能力から生まれるものだと思う。

それは、社会の複雑さを理解し、ありとあらゆる情報を統合し、一つの結論に修練させるというダイナミズムのなかでできることだ。

けっして、答えがある受験勉強では学ぶことができないことなのだ。

大人になってからも学び続ける人間にしか、この微妙な加減は理解できないだろう。

これが理解できない人間は、「どうせはじめから仕組まれていたんだろう」などというが、そういう人間は、失敗を成功に変える大人の卓越した能力を認めることができないのだろうと思うし、それは、失敗を成功に変換する力が無いから認められないのだと思う。

間違いなく言えることは、大人になってからも学習は必要であり、多くの人はそれをしていないということ。それは遺伝の影響かもしれないが、学習した人としない人では、大きな差となって現れてくるということ。





第十九回 『殉愛(仮)』と雑パンIII世

考え

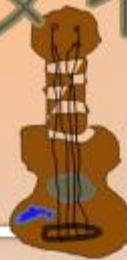


クツは舐めるだけ!

草は食むだけ!

これが噂の格差ダイエット!!

弦楽器イルカ + 友人



ここくどいから書くつもりなかったんだけど、前回の続きで映画版『寄生獣』についてちょっとびっくりした出来事を書いておく。

まず『寄生獣』という作品に関する基本的な認識について、すでに何回も書いてるけど、原作においてミギーたちは「パラサイト」「寄生生物」と呼ばれていて、一回も「寄生獣」とは呼ばれてない。つまり彼らは「寄生獣」じゃない。

だが作中、ある生物を一回だけ「寄生獣」と呼ぶ箇所がある。

つまり言葉には出されてないけど、「タイトルの寄生獣とはいったい何か」を問うのが原作の核心的テーマの一つになっている。

この認識はもう当たり前で、最近の新聞や雑誌でもミギーたち「パラサイト」を、「寄生獣」って紹介する記事はまずほぼないし、そもそも俺が今回借り直した原作の愛蔵版には読者からの「寄生獣とは〇〇のことですか？」って質問に作者が回答するページもあった。

だから未だにミギーたちを「寄生獣」って呼ぶ読者は、同じ作品を俺とは別の文脈で読んでるんだと思ってた。まあここまではよくある話だ。

ただ驚いたのが、NHK ラジオに出てた映画版の監督本人がミギーたちを「寄生獣」「寄生獣側の人たち」って連呼してた。それをパーソナリティーが「パラサイト」っていくら言い直しても全っ然気にしてなかった。

たぶんこの監督が作った映画版『寄生獣』は原作を完膚なきまで換骨奪胎して乗っ取った、まさに本当に本物の『寄生獣』だね。ここにいたんだよ、俺が探してた本物の『寄生獣』が。

これは流行る。俺みたいなクソバエは理屈ばっかこねるけど、真逆の層とかに大ヒット間違いなしだと思う。だいたいあれだけ完成度の高い原作使って、つまらない映画作るほうが逆に難しいワケだし。カレールーと一緒に、不味くしようがない。ただ俺がこの映画を観ることはないとも感じたけどね。原作が再評価されて何かを考えるきっかけになったらいいんじゃないかなあ。

さて、前回のあらすじ（超長いので要約しました）

「でも俺がここで格差社会を善悪で語っても大した意味はない。善悪なんて人間が共同生活する上で作った便宜的な概念だし、弱肉強食の均質な社会を生き残るには戦うための言葉を自分で考えるしかないからだ」

前回のUの手紙に突っ込もうか迷ったんだが、笑い話になるレベルで言うと、アイドルの話は熱弁しすぎると逆効果かもよ、って思う。

あのアイドル集団の一人一人は丸刈りの子も含めてみんないい子で、薄給で頑張ってるらしいと俺も思うから、好みの子を応援するだけで充分じゃないかな。その人気を裏で仕組まれてるかどうかとかは、あんま重要じゃないと思う。そこはプロレスと一緒に、アイドルnドリームという名の白昼夢でいいんじゃない？

公然の事実として、彼女らは全員鶸で、魚よろしく飲み込んだ金は鶸匠面した大人たちが裏で回収してる。よね？ 秋葉原のサラリーマンたちはそこに自分を投影して、同じ境遇の不憫な彼女らを応援してんでしょ、意地悪く言いすぎてるけどさ。

正直、俺にはその縮図だけでお腹いっぱいだわ。金の量だけ陰謀も集まる（し、波の数だけ抱きしめる）あの業界で、俺みたいな一般人から見える部分はほんの表層に過ぎない。しかもプロデューサーが業界の中心を何十年も仕切ってきたあの人なワケだから、基本なんでもアリじゃない？ ミッキーとかふなっしーの中の人と一緒に、それこそイリュージョンの部分じゃないかな。

たとえば『殉愛』って本、ネットをちょっと掘っただけでも俺ごときには手も足も出ない魑魅魍魎どもが地虫

のごとく湧いて出る感じも怖いけど、大々的に宣伝してたマスコミが急にピタッと何も報道しなくなる、サメを前にしたイワシの群れがギラッとひるがえるみたいな方向転換っぷりが見事だよ。事務所の力とか、在日ってワードの扱いづらさとかが関係してるらしいけど、そのくらい権力にびたっとなびくのがあの業界だろう。「金が一極集中する芸能界ですがクリーンで陰謀ゼロです」って考える方が非合理的だから、そこは一周回って裏読みせずアイドルが演じる夢を素直に信じるか、全部無視するかだと俺は思う。

被曝と病気の関連性と一緒で、熱弁ふるえばふるうほど（U自身がしてるみたいに）鼻で笑われるかもよ。

つまりつまったついでに書きちゃうと、たとえばね。

「世界保健機関（WHO）の元アドバイザーで放射線生物学者のキース・ベークアーストック博士（チェルノブイリ原発事故後の甲状腺がんの増加をいち早く発見した人らしい）が20日、外国人特派員協会で記者会見を行い、国連科学委員会（UNSCEAR）2013年報告書について、科学的ではないとの考えを示した。また原子力産業との関係の強い委員が占めている同委員会は解体すべきだと厳しく断じた」ってニュースがネットでは読めるけど、全然報道はされてない。

「事故後1年目の日本国内の公衆集団線量について、18,000人・Svと推定している事実をあげ、『この数字から予測されるのは、2,500から3,000症例のがんの過剰発生である。』と語気を強め、『これらは、「予想されない」がんではなく、「予期される」がんである。特定の個人のがんが放射線由来であるかを同定することはできないかもしれないが、確かに発生するものだ。』と述べた」って書かれてる。

こんな話も結局、右と左の争いの一部として無意味化される。アイドルの話もそれと一緒にだよ。熱弁したら信じる人もいるかもしれないけど、はなから信じない人には何を言っても信ぴょう性がないってあしらわれる。だから結局は自分の考えを信じるしかない。

ただ被曝と病気の話ですごいのは、原発推進派の学者側もだんだん「関連が全くないワケじゃないかも」って日和ったデータを出し始めてるのに、それを報道しない率も上がってるよ。「〇〇でしたが関連はないと結論付けられました」って報道さえしなくなってる。

前回は引用した、福島県の第4回県民健康調査の資料で、「18歳以下の甲状腺がんが100人を超えて診断されている現状は、通常の61倍にあたり、何らかの要因に基づく過剰発生」かもしれないって指摘されたこととか、「第13回東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う住民の健康管理のあり方に関する専門家会議」の資料に、「WHO報告書における住民の健康影響評価」では、「最も汚染が顕著であった地域の1歳児では、ベースラインリスクに対する生涯寄与リスクの割合として甲状腺がんについて数十%、白血病、乳がん、全固形がんについて数%、罹患の生涯寄与リスクが増加すると計算されたが、ベースラインリスクがもともと小さいため、過剰発生は少数にとどまることを指摘している」って書かれたとか、その会議で「県境で区切るのは非科学的、福島県以外も被曝してる」って意見に対して「福島県外の被曝量は低い」「放射能は、離れて行くほど低くなる、これが常識的知識」って主張する県立医大の委員がケンカになったとか、全然報じられない。

これが既定路線ってヤツだよ。アイドルについて俺は全く知る気がないからわかんないけど、被曝と病気に関する報道の流れはたぶん初めから打ち合わせされてる。国民の大半もこの流れが心地いいんだろう。アイドルを信じるのと一緒にね。それは善悪でも科学でもなくて好みじゃないのかな。

だからいいじゃん、別に好きならどうでも、人気の出どころが実は宗教でもいいじゃん、アイドル教祖にお布施払って祈祷すればいいじゃん、佐藤とさの一神教でもいいじゃん。って思ったよ。信じる者は何とやらだよ。

今回は「これは国語の問題だ」って決めゼリフを流行らせようと思うんだ。今年の流行語大賞を狙いたい。もう終わったけど。

首相の解散会見を与党の公式HPで読むと、「この春、平均2%以上、給料がアップしました。過去15年間で

最高です」って書いてる。これは前回書いたとおり、たとえば「サラリーマンなど年収3年ぶり前年比増」ってNHK記事の、「年収別でも、1000万円を超える人が前の年より14万人増えて186万人、全体の4%となった一方、200万円以下の方は30万人増えて1120万人に上り、全体の24.1%を占めていて格差が広がった」って話とつながってる。

俺がもし首相だったら、「格差最高です。貧乏人は草でも食んで、金持ちに媚びへつらってください。いくら努力しても介護士とか保育士とか原発作業員みたいな現場労働者には大した賃金あげませんが、献金をくれる金持ちはちゃんと優遇します。それが国益であり、反対するのは捏造売国奴の国賊です」って正直に言うと思う。それがフェアだろう。

でも首相は「都市と地方の格差が拡大し、大企業ばかり恩恵をこうむっている、そうした声があることも私は十分承知しています。それでは、日本の企業がしっかりと収益を上げるよりも前に、皆さんの懐から温まるような、手品のような経済政策が果たしてあるのでしょうか。また、ばらまきを復活させるのでしょうか。その給付を行うにも、その原資は税金です。企業が収益を増やさず、そして、給料も上がらなければ、どうやって税金を確保していくのでしょうか」って言ってる（その割に地域商品券バラ撒くチープな手品を計画してるようだけど）。

上記をまとめると、首相はあの解散会見でいったい何が言いたかったのか？

つまり、「国民の一割が年収200万円以下でも、金持ちが増えて見かけの賃金が上昇するのでアベノミクスは成功です。また皆さんの懐から温まるような愚策はしません、総額で約19億5400万円の献金をくれる大企業中心に儲かるよう頑張ります」って解答になる。もちろんふざけて書いてる部分はあるけど、自分でもちょっと悲しいくらいそれほど大きくは誇張してないと思う。

これは国語の問題だ。さて流行るかね、これ。

あと遺伝の話は、極論すると「大人になって勉強するかどうかもすべて遺伝です」って話になりそうな気がする。ガンや白血病が割と遺伝しやすいとか、親が高学歴なら子も高学歴になるって話は聞いたことがあるけど、それも遺伝が関連する部分と、後天的な事情もあるよね。双子をアフリカと日本で育てたら、食べ物や生活習慣の違いで死ぬまで差が出ると思うし。そもそも遺伝で差異が出るのは当たり前だ。後天性で差異が出るのも当たり前だ。だったら統計は取れても、どこまでが遺伝性でどこまでが後天性かを明確に線引きするのは不可能じゃないかな？ 遺伝に負けず勉強しろって話かとも思うけど、でも根気も遺伝するってなると最終的にはDNA陰謀論になるよね。

俺からすれば、それこそ子供の甲状腺ガンが放射線由来か遺伝由来かも不明な世の中だから、遺伝か後天かは結局当たらぬも八卦みたいな気がするよ。

さて今回はこんな感じ。

どうかな？



雑パンⅢ世 2時間スペシャル

♪ちゃら、っちゃ。ちゃら、っちゃ。ちゃら、っちゃ。ザパンザサード！ わお！

事件は雑パン（以下ザパン）の予告状から始まる。

「本日、深夜0時、殉愛（仮）をいただきに参上する。ザパンⅢ世」

「これですか、ザパンの予告状は、どれどれ、最近老眼がひどくて、なるほど。ザパンはあの有名なダイヤモンド、殉愛（仮）を狙っておるわけですか。あなたが所有している、100カラット、時価数十億円でしたかな。しかし私、雑ニ形（以下ザニ形）が来たからにはもう安心です。ザパンは必ずや、私が捕まえてみせます！」

「いや、ザニ形さん、残念ですが、もうその必要はありません」

「なんですと、インターポールの警備体制を疑うのでありますか？ 雑ゲイツさん（以下財津さん）。確かにあなたは大金持ちで、ドーベルマン100頭、傭兵50人を常に屋敷に巡回させていることは承知しております。しかし、ザパンにとってそんな警備はザルも同然です。ヤツは我々常人には思いもつかぬ盗みを働くのであります」

「いや、そうじゃないんです。実はもう、盗まれたんです」

「は、何をですか？ まさか心とか冗談は言わんでくださ……」

「殉愛（仮）、今さっき、盗まれたんです」

「ぬわぁんですと！ 失礼します！ おうのれザパン、卑怯者め、逮捕だー！」

壁にぶつかりながらわちゃわちゃと駆け出していくザニ形警部たち。それを見ながら、ニヤリと笑う、財津さん。

場面転換。

「今回のヤマはぬかりなしだろうな、ザパン」

「まかせときなって雑元。俺様の下調べが雑だったこと、あるか？」

「ザパン、前回もつまらぬ物を斬らせたこと、忘れたとは言わせぬぞ。ザパンが油断しておらねばあんなことには」

「わあってるって雑右衛門（以下ザツえもん）。今回はちゃあんと半年かけて調べ上げたって、あの財津屋敷の警備体制をな」

ザパンがフィアットのハンドルを握り、助手席に雑元、屋根にザツえもんが胡坐で座っている。

「今回は二人の手をわずわせるようなマネはしな……」

車の前に突然、男が飛び込んでくる。

「え？ わわ！」

急ハンドルを切るザパン。車が電柱に激突。

「いててて。おい、ちきしょー、どこ見て……」

男、道路の真ん中に倒れている。

「おいザパン、お前轢いたんじゃないのか？」

「なーにをバカなことを、俺の運転テクを甘く見るんじゃないのーっての」

男に近寄るザパン一行。

「おい。ちょっと、おにーさんよ」と雑元。

仰向けにしようと持ち上げた男の懐から、ダイヤモンドが転げ落ちる。

「え、これは」と雑元。

「殉愛（仮）……」

「なんだと？ ザパン」

「拙者の聞き違えでなければ、これから盗むはずのそれが……」

ザパンの真剣な視線のアップ。

すると突然、銃を持った黒づくめの男たちが現れる。男とザパンに気づき、問答無用でマシンガンを乱射する。

「おいおい、なんだって一の、いきなりよお！」

「逃げるぞザパン！ ザツえもん、頼んだ！」

「早速拙者に頼るとは先が思いやられる……」

三人、ぶつぶつ言いながら軽い身のこなし。マシンガンの弾を雑鉄剣で跳ね返すなどして、男を抱えながらその場を逃げ出す。

場面転換。

アジトのロッジに戻り、男を介抱しながらカップラーメンをすする三人。

「なんだってこんな目に合うのかね、ったく」

「しかしザパン、お目当てのお宝が手に入ったんだ。今回のヤマはこれで一見落着だな」

「そうでござるな。これを食い終えたら、早速今回の報酬を」

「いや、話はそう簡単じゃねえよ、お二人さん」

テレビでニュース速報が入る。

「臨時ニュースです。ザパンがあの世界的に有名なダイヤモンド、殉愛（仮）を盗みました。今回ザパンは卑怯にも、予告時間より半日以上早く盗みに入ったとのことで、警備に油断があったと思われます！」

「おいおい、濡れ衣で人を卑怯者呼ばわりしやがって」

「ザパン、そりゃお前の気持ちはわかるさ。せっかく半年かけて調べたお宝が、こうもあっさり向こうからやってきた上に、こんな濡れ衣着せられたんじゃ、おさまりがつかねえのも無理はないが」

「しかし、お宝はお宝でござるし、最近いりようでござるからして」

「なんだ、ザツえもんは金欠か？」と雑元。

「恥ずかしながら、家賃滞納がたたって大家に締め出しを……」

「かー、そんなしみつたれた話じゃねえよ、これは」とザパン。

「あら、ザパン。今回のお仕事、ずいぶん早く片付けたみたいねえ」

玄関のドアから、雑二子（ザジ子）ちゃん登場。

「しみつたれとは失敬な、ザパンの盗みが毎回うまくいっておれば拙者も……」

（無視して）「これはこれはザジ子ちゃん、今日はまたどうして？」

「もちろん、あの噂に名高いダイヤを一目見せてもらえれば、と思っ。あら、その人だあれ、どうしたの？」
と言って男に気づく。

「いやあ、そんなことよりもダイヤ見せたらお礼に、ザジ子ちゃんのああんとかやこおんとかも見せてもらえちゃったりするのかな〜、ぬあんちって」

「いやあね、ザパンのえっち。でも本当にそんなことで見せてくれるのかしら？」

「ダメだぞザパン、ザジ子に見せたらすぐ盗られちゃうからな」

「そうでござるよ、すまぬがザジ子殿、ここはお引き取り願いたい」

「なによ、ケチ、あんたたちには聞いてないわよ。ねえザパン、お・ね・が・い♡ ここじゃ邪魔者がいるから、あたしの車でゆっくり、ね♡」

投げキッスしながら外に出ていくザジ子。

「ん〜、俺はダメな男だ〜。いまいくよ、ザジ子ちゃ〜ん」

ザパンも外に出ようとする。

「おい、ザパン！」「待つてござる！」

雑元らのタックルを軽くかわし、ザジ子の車に窓から飛び込むザパン。しかしその数秒後、身ぐるみはがされ車外に放り出される。

「いつもありがと、ザパン、それじゃまたね〜」

胸元にダイヤをしまったザジ子の車がさっと走り去る。

「あんれま、ザジ子ちゃん、ひどいんでないか〜い」

「おいザパン、またやられたぞ」「いつもの油断でござるよ！」

ザパン、振り返って。

「ぬあんちって、ホラ」

そう言って、パンツの中から別のダイヤを取り出す、ザパン。

「お前、泥棒より手品師のほうが向いてんじゃないかねえのか？」と雑元。

「バカ言え、俺はあの泥棒アルセーヌ・ザパンの孫……」

男、目を開ける。

「お、気づいたみてえだぞ」と雑元。

「ザ、パン？」男、周りを見渡す。

「やっと気づいたな。おい、傷は痛むか？」と雑元。

「ここは、どこだ？」

「妙な奴らに追われて瀕死のところを、俺たちが助けてやったんだ。なあ、ザパン」と雑元。

「ザパン、お前が？」

「お、俺の名前もちったあ有名になったってことかしら」

「ふざけるな！」

「え？」

「道楽で泥棒ごっこしてる奴に何がわかる！」

急に怒り出した男、ザパンが持っているダイヤに気づく。

「それは、返せ！」

ダイヤをひったくり、外に出ようとする男。

「おい、無理に動くと傷にさわるぞ」と雑元。

「触るな、お前らなんかに、殉愛（仮）を渡してたまるか！」

「さっきから、ちょっと落ち着けよ」

「うるさい！ うっ！」

雑元の銃で当身をされ、気絶する男。ダイヤが地面に転がる。

「なんだこいつ、ザパンの知り合いか？」

「いや、全然知らねーが、それより、これを見てろよ」

床に落ちたダイヤを思いっきり踏みつけるザパン。

「おい、なにやってんだ！」「ザパン、気でもふれたか？」

「よおく見ろってお二人さん」

ザパンの足の下で、ダイヤが砕けている。

「ダイヤが、粉々に砕けやがった」

「やっぱりな。よくできてはいるが、こりゃ、ニセモンだあ」

「なんだって？」

「こいつはなにやら裏がありそうだが」

テレビでは、財津さんがインタビューに答えている。

「幸い保険には入っておりましたが、ダイヤを盗まれたのは本当につらいです」

ニヤリと笑うザパンの視線のアップ。

カタカタ、カタカタ、タイプライターの音。一文字ずつ、字幕。

「殉愛（仮）は雑にや盗めない」

「おいザパン、カッコつけてもパンツいっちょじゃしまらねえぞ」と雑元。

「ありあり〜」 ずっこけるザパン。

場面転換。

夜、暗闇にライターが点く音、タバコに火がともる。

カーテンが風で揺れ、月明かりで窓のそばに立っている人影（ザパン）が浮かび上がる。

豪華なベッドの上に寝ているのは財津さん。気配で目覚める。

「おっと、動くな。動いたら命はねえぞ」

起き上がろうとするが、枕元に立っている雑元が額に銃口を向けていることに気づく。

「…おまえは、雑元か。ザパンの子分だな？ 何しに来た。警備は何をしている」

「俺は子分じゃねえ」

「まあまあ雑元。財津さん、いい子は早寝するもんだぜ。あんたのいい子ちゃんたちは、今頃はそりゃあいい夢を見てるんじゃないかな」

窓から見える庭で、たくさんの犬や人がグーグー寝ている。

「…さすがだな、ザパンとやら。しかしここにはもう殉愛（仮）はないぞ。ある男に盗まれてな」

「そうかい。その男ってのはやっぱ、ザツヤネン系ザシキ人のザカジン。あんたに相当な恨みを持ってると噂の」

場面転換。

男、目覚める。その隣にザジ子ちゃん。

「あんたは……」

「あら、お目覚めね。あたしはザジ子」

「ザジ子？ ザパンの仲間か？」

「仲間？ そうね、今は。でも敵になるときもあるのよ」

「敵？ いや、どうでもいい。あんたらの世話にはならん」

立とうとする男。

「起きないで、ザカジン。傷に響くわ」

「どうして俺の名を」

ザジ子ちゃん、横たわるザカジンの手を握る。

「ザパンに言われて、ちょっと調べたの。殉愛（仮）はザシキ人の長が代々継承してきた由緒ある宝石、ってこともね」

「そんなことを調べてどうする？ 俺たちザシキ人は、財津さんらに国を追われ、大勢殺された。俺の家族、妻や子どもたちも。そして、家宝であり民族の誇りである殉愛（仮）も財津さんらに盗まれた。だがあんたらには関

係ない」

場面転換。

「なぜザカジンにニセの殉愛（仮）を盗ませた？」とザパン。

「ふっふっふ。傭兵たちの情報網で、ザカジンたちが私の殉愛（仮）を盗もうと計画しているのがわかった。ザカジンごときにこの財津屋敷の警備網が破れるワケはないが、念には念を入れておきたい。そこへザパン君、君からの予告状が舞い込んだ。これは面白い見ものだよ。早速、私がザカジンの連絡先を調べて直接電話した。コソコソ嗅ぎまわるのは勝手だが、モタモタしてると大事な誇りをザパンに盗まれるぞ、ってね。ザカジンの狼狽ぶりと言ったら、滑稽というほかなかったわ」

場面転換。

「どうしてあの日、殉愛（仮）を狙ったの？」とザジ子。

「先にザパンに盗まれて闇の質ルートにでも流されたら、もう取り戻す術はない。何年調べても殉愛（仮）の在り処を突き止めることはできなかったが、とにかく財津屋敷に乗り込んでザカジンと刺し違えてでも奪い返すつもりだった。……だが結局俺は、一緒に忍び込んだ仲間たちを殺され、更に殉愛（仮）のニセモノをつかまされたってことか」

場面転換。

眉間に皺を寄せるザパン。

「ザカジンが俺と出会ったのも、あんたの差し金か？」

「いやなに、ちょっとした余興だよ。明日には、ザパン一味が仲間割れで同士討ちって記事が新聞の一面を飾る手筈になっている。今頃君のアジトには傭兵たちが潜入している。彼らはその手の工作のプロだ。君も知っているだろう、このターヒャク・ラクーサ国で今何が起きているのか。正義の女神は金と権力をアソコにぶち込まれると非常に従順でね、法規制がゆるい私設軍隊は人を殺しても治外法権でおとがめなしだ。邪魔なザカジンたちも殺せて、保険金まで手に入る。それもすべて君のおかげだ、ザパン君」

「ほほう。俺にそこまでしゃべるってことは、ここから生かして帰さねえつもりか？」

ニヤリと笑った財津さん、右手に持ったリモコンのスイッチを押す。壁一面に機関銃が現れ、銃口がザパンを狙う。しかしその後、何も反応がない。カチ、カチ。何度もスイッチを押す財津さん。

「ちっ、どういうことだ」焦る財津さん。

「あれれ、故障しちまったのかねえ。でなきゃ誰かが先に去勢しちゃってたりして」

ザツえもんが雑鉄剣をわずかにカチリと鞘にしまうと、一斉にバラバラと崩れ落ちる機関銃。

「…ほお、なかなか手際が良いな」と財津さん、そう言いながらリモコンの別のボタンを押す。各待機所にいた傭兵たちが異常に気づき寝室へ向かう。

ザパン、それに気づかず、

「それもこれも、殉愛（仮）を盗むために、半年間みっちりこの屋敷を調べ上げたおかげさ。もちろんそれだけじゃない。肝心のモノホンの殉愛（仮）も、すでに俺様がいただいた」

「ふ、何を言うかと思えば。君は相当マヌケなコソ泥のようだね、ザパン君。本物の殉愛（仮）の在り処はトップシークレットだ。君がいくら探ったところで知る由はない。しかも、摘出することが絶対不可能な場所に保管してある」

夜風が寝室に流れ込み、ゆっくりとカーテンを揺らす。

「…あんたの体の中、だろう？」とザパン。

驚く財津さん。

「ほお、意外だ、よく調べたな。医療班の数人以外は口封じしたのに。だが、だったら話は早い、君もわかっているだろう。殉愛（仮）は私の腹を八つ裂きにするか、最先端の医学的施術がなければ絶対に取り出せない仕組みになっているんだよ。

ザパン君、今回の件で君のことを少し調べてみたが、特に最近の君の盗みには大義も覚悟もない。なんとなくそれっぽい宝石を派手なアクションで面白おかしく盗んだ気になっているだけだ。

所詮搾取される側のお前みたいなコソ泥に、私を血みどろに切り刻む覚悟などない。だろう？」

「さあてなあ。ご大層な説法だが、そいつあとんだお門違いだぜ、財津さん。大義やら覚悟なんて俺みてえなコソ泥にゃ荷が重すぎるわ。俺はただ、狙った獲物は命に代えても盗み取る、それだけよ。アルセーヌ・ザパンの名に泥は塗れねえからさ。ってなワケで、これなーんだ。ほれ、雑元」

ザパン、パンツからダイヤを取り出し、雑元に投げる。

雑元、ルーペとダイヤを寝ている財津さんの目前にかざし、検分させる。

「…ん？ これは、本物のダイヤ、この大きさ、このカット、まさか！」

雑元、さっと懐にダイヤをしまう。

「そのまさかのまさかり担いだ金タロ飴ちゃん」

「バカな、盗めるはずがない、しかし……」 混乱する財津さん。

「この半年間、そりゃ調べ上げるのにはずいぶん苦労したぜ。でもこっちにゃ、斬れぬものはないまさに斬り札、ザツえもんちゃんが控えておりますからして」

ザツえもんの流し目がギラッと光る。

「ふ、時代遅れのサムライか、たかだか日本刀で何ができる」と財津さん。

「あらら、ザツちゃんのことまで調べてたの。でも調べ方が雑じゃないかしらん。斬りつけたカエルを傷つけることなく、下にある岩だけを叩き斬る波紋流奥義を体得した拙者なら、皮膚に傷をつけることなく体内のダイヤを取り出すなど造作もないでござる。だよな、ザツえもん」

無言で目が光るザツえもん。

「なんだと、そんなバカな」と財津さん。

「それよりも、今、あんたの体内に何が代わりに入ってるか、そっちを心配したら？」

「なに？」

「マスコミが金と権力に弱いのはどの国も一緒でね。この前爆発した発電所からプルトニウムを含むいろんな汚染物が飛び散ったままになってるって話、ほとんど報道もされないし、何が何個どのくらい降ったのかも確認できてない。その数は不明、ってとこさ。そこでこの前ピクニックのついでにゴミ拾いしてきたんだが、簡単に捨てられない違法なゴミだから、リサイクルもかねて、財津さんの体内に入れ替えさせてもらった。大丈夫、ただちに影響はない例のアレだから」

「バカな。まさか」

そこで、傭兵たちが寝室になだれ込んで来る。

「おいでなすったか。じゃ、殉愛（仮）はありがたくいただいてくぜ」

さっと窓から飛び降りるザパン一味。

「く、ザパンを殺せ、いや、誰か、医療班を呼べ！」

慌てふためく財津さん。

場面転換。

手術室に横たわる財津さん。ぐると白衣の医者に囲まれ、腹部あたりを内視鏡で手術されている。

「まだか、まだ取り出せないのか？」

「もうすぐです。…はい、取り出し完了しました」

アルミ皿の上にピンセットで、白い特殊な布にくるまれた物体が置かれる。

「財津様、ダイヤをご自身で確認なさいますか？」と医師。

「いや、触れたくない。それよりもガイガーカウンターを早く」

「ありゃりゃ。こりゃすっげえ値です、ビンビンですぜ」

スタッフがカウンターを近づけると、とんでもない音が鳴り響く。

「プルトニウムの塊ですぜこりゃ。おっサムライ、おっそろしい！」

ぐったりと冷や汗を流す財津さん。

「財津さまあ、お気を確かにい。お水をお持ちしましたあ。ああ！」

水を持ってきた別のスタッフが転んでしまい、水が財津さんにぶちまけられる。

「ゲホゲホ、ばかな、何をやっている。そんなことよりも、そのゴミを早く遠くに捨ててこい！」

「へえ。どこに？」

「どこでもいい、とにかく遠くだ、二度と目にすることのない遠くにな！」

「承知しましたあ！」

走り去る二人のスタッフ。

「財津様、縫合完了です」

「うむ」

手術室にスタッフが入ってくる。

「財津様、ガイガーカウンターお持ちしました」

「なに？ もうすでに測ったぞ？」

「あ、反応があります！」

「なんだと？」

「この水差しです。中に何か入っています」

途端、先ほど財津さんにぶちまけられた水差しが破裂し、部屋中が水浸しになる。上から白い布が降ってくる。

「殉愛（仮）はいただいた。ザパンⅢ世。

追伸：頭を冷やすための汚染水は、さぞやお気に召されましたかな？」

「おんのれえ、ザパン、許さんぞ！ 皆殺した」

場面転換。

「うまくいったな、ザパン」と雑元。

「だあから言っただろ。今回のヤマ、二人の手はわずかせねえって。ザツえもんちゃんも、置物よろしく座って目を光らせるだけで任務完了だったろ？ ま、予告時間はずれちまったけどよ」

「やっこさんの驚いた顔、見物だったぜ。しかし体の中にダイヤを隠すなんざ、また悪趣味なこった。よく調べたな、ザパン」と雑元。

「いや、どっからどう調べても殉愛（仮）の隠し場所だけはわかんなくてよ、直接聞くしかねえべって乗り込んでみたんだわ」

「なんだと？ マジでか、ザパン、そんな見切り発車に今回、俺たちを巻き込んでたのか？」

「では、あのとき拙者に波紋がどうか言っていたのは」

「ぜえんぶあの場で思いついたハッターリよ。財津さんが摘出して言ったから、ホレ、真珠みたいにアソコに入れてんのかと思ってカマかけてみたんだが。思わぬオカマ掘り当てちゃったわ」

「なんだそりゃ、相変わらず雑だなおい。しかしよく偽物のダイヤなんかで財津さんを騙せたな」

「あれれ？ あれを偽物って言うようじゃ、さすがの雑元様も毫碌してきたんじゃないかねえの？ あれは本物のダイヤよ」

「なんだって？」

「なあに。殉愛（仮）の在り処はわからねえが、ただカッティングの特徴だけはいくらでも調べられたからよ。昔盗んだ、殉愛（仮）より倍ぐらいでけえダイヤを闇ルートで職人にカッティングさせたんだわ、殉愛（仮）そっくりにな。今回のヤマ、そりゃ高くついたぜ」

「マジでかザパン、ダイヤ削ってまで、今回のヤマ、無駄にもほどがあるぞ」

「無駄じゃねえよ、雑元。あの財津さんは他人を殺して略奪した殉愛（仮）をさも自分の物のように喧伝した上、財津屋敷には何人たりとも盗みに入れませんって雑誌で豪語してたんだぜ。それをこの俺様が盗まずに誰が盗むよ」

「かー。バカだよザパンおめえわ。付き合わされるこっちの身にもなれってんだ。そうだろ、ザツえもん」

「確かに雑な計画ではござるが、拙者、今回は報酬さえもらえれば文句はないでござる」

「雑じゃねえよお二人さん、ちゃんと半年かけたんだから。ニセの殉愛（仮）でモノホンの在り処を探り出す。まさか財津さんが先にその手でザカジン誘い出すとは思わなかったが。ま、目には目を、偽物には偽物を、ってか？」

「なんてグダグダ言ってる暇はねえみてえだぞ。奴ら来やがったぞ、ザパン」

戦車で追いかけてくる傭兵たち。逃げるフィアット。急に横から出て来た戦車に追い詰められたと思いきや、出てきたのはザニ形のとつつあんなたちのパトカー。

「ザパアアン、たいほだああ！」

妙に棒読みのとつつあん。

「やばいぞ、とつつあんだ！」と雑元。

「オッケーオッケー、そうこなくっちゃ」とザパン。

「まてえい、ザパアアン」とザニ形。

「ザニ形警部、ザパンは我々が捕獲する、この国で邪魔はやめたまえ。さもなくば君たちも巻き添えをくうぞ！」財津さんが戦車のスピーカーから叫ぶ。

「いいええ、わたあしはインターポールから任命を受けて、ザパアンを捕まえにきたのであります。そちらこそ、邪魔はやめてくださあいいい」トラメガで叫び返すザニ形。

「かまわん、打て！」戦車から砲弾をぶっ放す傭兵たち。上空に戦闘ヘリもやってきて、様々な武器で攻撃する。

「ありゃりゃりゃ、市街地でそんな武器を使うとは。財津さん、国際法違反で重罪でありますよお。私は警部として、見て見ぬふりはできませんよお」

「君はここでザパンと共に死ぬのだ、ザニ形君。あの世から好きなだけ見張ってくれたまえ」

ザニ形、口調が本気に戻る。

「インターポールから任命された私を脅しましたな、財津さん。あんた、本当に腐ってますな」

「知るか、寝言はあの世で言え！」と財津さん。

「あなたこそ、国際法廷で同じことが言えるかしら？」ザジ子、付近の屋根の上からバイクで飛び降り、ザパンと並走する。手にはビデオカメラとボイスレコーダーを持っている。後部シートにはザカジンが乗っており、ザジ子にしっかりつかまっている。

「しっかり記録させてもらったわ」

「ザジ子ちゃん、タイミングばっちし。ちゃんとザニ形のとつつあんも連れて来てくれてサンキューちゃん」

「それはザカジンのおかげよ。彼がインターポールに証言してくれたおかげで、ザパンの濡れ衣も晴れたわ」

戦闘ヘリからのミサイルをハンドルさばきで華麗によけながら、

「そりゃよかった。しかしその後部シートの男はなに、ちょっとぴったりくつつき過ぎじゃないの？」とザパン。

「あら、ヤキモチ？ それよりも、あたしにくれる予定のダイヤはちゃんと盗み出せたの？」

「え、それはまあ……」慌てるザパン。

「くれる予定だと？ ザパン、おまえマジの話か？」と雑元。

「聞き捨てならないでござるよ、ザパン。拙者、タダ働きするくらいならここから徒歩で帰るでござる」車から飛び降りようとするザツえもん。

「違うって。ザジ子ちゃん、何もこんな時にそんなこと言わないでさあ、全部あげるとは言ってないし」

仲良くもめながら、戦車の砲弾を避けて土壁を駆け上がり、へりを雑元のバズーカで撃退するザパン一味。

「あら、そうだったかしら」

そうこうするうちに、財津さんが乗る巨大な戦車に変形し、戦闘ロボットとなってザパンの前に立ちはだかる。

「ザパン、ザカジン、おまえら、ここで終わりだ！」

「おいザパン、もしやあのロボも」と雑元。

「おお、初耳ならぬ初お目目よ。あんなの、聞いてないよ～」

「この肝心な場面でまた油断とは、ダメよダメダメでござるよ！」

「ちょっとケンカしてる場合じゃない、キャー！」

窮地に陥るザパン一味。戦闘ロボットの攻撃でザジ子ちゃんが転倒する。

「ザジ子！」叫ぶ、ザパン。

「わはははは」笑う財津さん。

「ザジ子は俺にまかせろ、ザパン、あのロボをなんとかしろ！」

ザカジン、ザジ子ちゃんを後部シートに乗せ、バイクを運転する。

「おお。もっちのろんだのクラッカーよ！ アルセーヌ家に、生まれた、男や、さかいにい！」

「それは別な人の歌！」全員つつこみ。

「ザパン、これをつかえ！」フィアットでロボに突っ込むザパンに向け、十手を投げるザニ形。

「この土壇場で十手って。とつつあん、使い道あるこれ？ あ、そうだ！」

十手の鉤にニセの殉愛（仮）を無理くりはめ込む。

「どうすんだそれ、ザパン」と雑元。

「え～と、え～と、えいっ！」とりあえず財津さんに向けてぶん投げてみるザパン。

「マジかザパン、雑にもほどがあるだろ！」と雑元。

「あれは、私の殉愛（仮）！」と財津さん。

ロボが十手に向かって突進する。更に掴もうとするアームをスリとすり抜けた十手が、操縦席のガラスを突き破る。勢いでダイヤが飛び出し財津さんの額に突き刺さる！

「うぎゃー！」財津さんの絶叫。

場面転換。

病室。

「もうだいぶよくなったみたいね、ザカジン」

ザカジンの病室を訪れる、ザジ子ちゃん。

「……いろいろ、世話に、なった。ありがとう」うなだれて、礼を言うザカジン。

「あら、お礼なんていいのよ。それよりも、これ、預かってきたの」

ザジ子ちゃん、ハンドバッグからダイヤを取り出し、ザカジンに手渡す。

「これは……」

「財津さんには無理だったけど、これが本物の殉愛（仮）かどうか、あなたなら一目でわかるはずだって。ザパンからよ」

「ザパンが？ なぜ？」

ザジ子、咳払いして、

「ん、ゴホン。(声色をマネして) 俺様みたいなコソ泥にとっちゃ、盗むまではお宝だが、手に入ったらもうありきたりなただの石コロよ。ですって。ホントもったいない。ま、あたしはニセの方のダイヤをもらったから文句はないけどね。それじゃ、ちゃお！」

「待て、なぜだ、命がけで盗んだのに、ザパンはなぜこんなバカげたマネを。……同情か？」

「そうねえ、あたしはザパンじゃないから本心はわかんないけど。ザパンにとっては、それが本当にただキラキラ光るだけのいらぬ石コロだから、じゃないかしら」

「石コロ……」 殉愛（仮）を見つめる、ザカジン。

「でもザカジン、あなたにとってそのダイヤは、一族の誇りであり、家族の思い出が詰まった形見なんでしょ？

ねえ。ザパンにとって盗むって行為は、道楽っていうよりは、生き様そのものなのよ。ノー盗み、ノーライフね」

目を上げる、ザカジン。

「……ザパンは、今どこに」

「空港よ、今日の便で帰国するの」

ベッドの上に新聞。タンカで運ばれる財津さんを逮捕したザニ形警部のVサイン写真が、新聞の一面を飾っている。

「財津さんの悪事をザニ形警部が暴く、か。お、財津さんの保険金詐欺事件についても載ってるぞ。なにになに、ザパンに盗まれたと見せかけてダイヤの保険金をだまし取ろうとした財津さんだが、結局ザパンに本物の殉愛（仮）を盗まれる、か。これで一件落着だな、ザパン」

雑元、広げていた新聞を閉じてザパンを見る。

空港にて、飛行機を待つザパン。タバコをくゆらせている。

「まあな」

「なんだ、浮かねえ顔して」

「いや、なに、大したことじゃねえが」

タバコをもみ消すザパン。雑元、電光掲示板を見ながら、

「そろそろ出発だな。行くか、ザパン」

「ああ」

「ザパン」 ザツえもん、隣で胡坐をかいたまま、ザパンに流し目で呼びかける。

その視線の方向に、ザカジンが立っている。

「俺は、お前を認めない！」 叫ぶザカジン。「道楽なんかで盗みをする奴を、俺は絶対許さない！」 その手に殉愛（仮）を握りしめている。

「なんだあいつ。おい！」 ザカジンに向かおうとする雑元を、手で制すザパン。

「いいのか？」 いぶかしがる雑元。

黙ってザカジンに背を向け、搭乗口へ歩き始めるザパン一行。

「俺は、お前らを認めたら生きていけない！ お前らを認めたら、殺された家族や仲間たちに、合わす顔がない！」 叫び続けるザカジン。

「俺は、お前に、お前らに感謝なんて……」 うつむいたザカジンから滴る涙が、握りしめた殉愛（仮）に落ちる。

「アバヨ！」 右手を上げ、背中であれを告げるザパン。口元に笑み。

スタッフロール。(ってかスタッフって、G+Uのみだけど)

スタッフロール中に、機内の三人の会話。

「ザパン。拙者、一つ気になったことがあるでござるが」

「ん、なんだ、ザツえもん」とザパン。

「さっきザカジンが握りしめていたダイヤでござるが、あれは、拙者に内緒で本物を勝手に渡したでござるか？」

「え、あれ？ いや、どうだったかな」とぼけるザパン。

「あ、そうぞザパン。俺も気になってたが、ニセの殉愛（仮）もフジ子に貢ぎやがって、ってことはもしや、お前今回収穫なしじゃあるまいな？」

「ザパン、言いにくいでござるが、もし今回の報酬を踏み倒すような狼藉を働く場合は、拙者、この飛行機をただでは帰さんでござるよ」

「ちょっと、なに物騒なこと言いだしちゃったのザツえもんちゃん。あれれ？」

そこにちょうど通りがかる CA。

「あ、その美人のお姉さん！ オレンジジュース、プリーズ！」

お姉さんに手を伸ばすザパン。その腕に手錠かかる。

「んもう、美人ってあたしのこと？ 逮捕しちゃう♡」

ごっつい美人が振り返ると、案の定、ザニ形のとつつあん。

「とつつあん、なんでそんなバカな真似を！」

「がっはっは、敵を欺くにはまず自分から。自分の気持ちを偽って女装したまでよ。そんなことより、ザパン、逮捕よ！」

「あら、気持ちを偽ってって言う割には、女装がとってもお似合いなことよ。おほほほほ」とザパン。するっと手錠を抜く。

「それで拙者を誤魔化せるとするか、ザパン！」ザツえもんの目がキラリと光り、雑鉄剣の居合切り。目にも留まらぬ早業で、ザパンたちの座る座席部分だけがくりぬかれ、飛行機から落ちる。機内、パニックに。

「ありゃりゃザツえもんちゃん、飛行機斬っちゃってどないするのよ」

「待てー！ ザパーン、逮捕だー！」飛行機から飛び降りるザニ形警部。

「とつつあんもしつつこいよ！」

「男ってみんなこう。しょうがないわね、ったく」一人乗りのセスナでそばを通るザジ子。

「あ、ザジ子ちゃん、助けて、お願い〜い！」

「待てえ、ザパン、逃げる気か！」とザニ形警部。

「ザパン、責任とってもらうぞ！」と雑元。

「拙者に分け前を！」とザツえもん。

「ひー、みんな落ち着いて。落ちるー！ これが本当のオチがつく、ぬあんちって！」

「ザパーン！」一同つつこむ。

Fin.

(20年前くらいに思いついたルパンⅢ世の二時間スペシャルを、雑パンⅢ世へと雑化いたしました。リサイクルという以上に、深い意味はありません。あしからず)



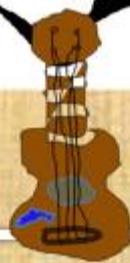


考
え

第二十回 『明日死ぬかもしれない自分、
そしてあなたたち』と『さくら』前編

ほしん うけん
せいふらだぬ
せいふらだぬ

弦楽器イルカ + 友人



今回はUにゲーム化してほしい企画について、無駄に道草食みながら書こうと思う。

最近読んだ、山田詠美の『明日死ぬかもしれない自分、そしてあなたたち』って小説がすごくよかった。春樹の『色彩を～』、龍の『55歳からの～』って、三人の大御所が同じようなテーマで作品を書いているから、比較して読んでも興味深い。そこで俺の歪んだ視点から妄想の文学論を書いてみる。

と言いつつ書き出しは今更の『1Q84』なんだけど。

前から言おうと思ってたけど、NHKの集金人である父親は、リトル・ピープルが支配する権力構造を最下層から支える役割を担ってんじゃないのかな、と。

NHKは言わずと知れた国営放送であり、この国のマスメディアの代表とも言えるだろう。国民は強制的に受信料を徴収され、法的な拘束力があり、そこに利権も存在する。実際は未払い世帯も多く不公平感があるが、逆に未払い世帯があるから集金人という職も存在する。だから税金から徴収みたいな義務制度に変わってしまったら彼らは職を失い人件費もかからなくなるため、その分実は受信料も安くなるという自己矛盾を抱えている。自己保身に矛盾しながらも権力構造を支える集金人は、ドア一枚向こうで住民を威圧するが、姿は見えず直接手を下さない。そして死後も、彼らの呪いは解けない。マンションを徘徊する幽霊、拘束力の虜となってドアノックし続ける。

この父親は我々一般人の暗喩であり、人々を物理的・内面的に支配する権力構造や思想から（死後まで）逃れられない様を表現していると俺は思う。これを言葉で解説するのではなく、主人公を不安に陥れる不吉で曖昧な存在として、混沌を混沌として提示できるのが物語の良さだろう。わかりやすく解説されてもつまらないし、単純化して白黒付けるのは逆に危険だ。

繰り返すが、物語はわかりにくくていい。なぜなら現実には白と黒に単純化できないから。現実のわかりにくさに苛立って早計な白黒を付けないよう、読解力と想像力を鍛えるのが物語の役割の一つだと俺は思う。龍やAmyに比べると最近の春樹は説明描写が（当社比で）ひと匙多めの気もする。

わかりやすい（勸善懲悪的）物語は、読解力も想像力も特に育まない。例えば中東情勢、複雑すぎて当事者たちも全体像を把握できないし、全てを解説するのは無理だってのはよく聞く話だ。民族と宗教の歴史が複雑に絡み合い殺し合う事情を、考える力を削ぐ教育で善と悪にあっさり白黒付けちゃいたいと権力者たちは思っている。例えばいつの間にかひっそりと有志連合に加盟しちゃってるこの国は正義だぞって言い張りたいワケだ。

加盟の理由は長い物には巻かれろって対米従属が主だけど、自己保身したい権力者にとってそんなのは当然なんだろう。政治家が裏金もらってるのももう当たり前すぎて、むしろこの国の新しい道徳は「権力者が自己保身に走るの生物として当然なので、権力者から利権をもらえるよう努力する人も多いですが、それが嫌な人もいます。あなたはどの立場を選びますか？」って、結論は各自が考える教育から始まるんじゃないのかな。

更に俺の歪んだ目には、中東情勢はアメーバたちがシャーレの中で食い合いしている風景に見えるから、もはや反射的な殺し合いに善悪って物差しを持ち込むほうがナンセンスだ。卑劣な行為って断罪できそうなのはせいぜい、アメーバたちをシャーレに閉じ込めてそこに養分を供給し、顕微鏡で観察しては何がしかの利益を得る研究者の側に対してくらいだろう。

あなたは研究者側、アメーバ側、人質側、その他たくさん側、どういう立場を選びますか？それが簡単に善悪を決めない、混沌でリアルな道徳教育だろう。

こんな話したのには続きがあるからなんだが、俺の妄想ではAmyの『明日死ぬかも～』は、実は西加奈子の

『さくら』って 10 年前の小説を元ネタにして、最近のわかりやすい物語にカウンター食らわしてるんだと思う (ちなみに前回の『殉愛』にもさくらって出てくるね)。つまり、新旧・直木賞対決だ。

西加奈子って直近で直木賞取った作家で、最新作について (U が好きな) 椎名林檎ともテレビで対談したり、俺が好きな chappie の pal@pop もインスパイアされて「さくら」って曲を書いちゃったり、俺の好きなせきしろって作家 (「バカサイ」等) と共作してるし、期待して買ったんだけど残念ながら俺のための小説では全然なかった。面白くない人の日記みたいだった。

もちろん度々書いてるけどクソ食うハエも好きすぎだから、俺みたいな小理屈バエの好むクソじゃなかったってだけで、西加奈子自身は素晴らしい作家だと思うが、実は椎名林檎との対談もすごい違和感あった。まず最新小説で最も伝えたかったテーマを作者本人がテレビで声高に力説するのも俺はどうかと思うんだけど、結局テーマは「信じるものを自分で決めよう」だそうで、気付いたらナレーションの深イイ朗読がカットインし、主人公のセリフ「信じるものを自分で決めよう」ってそのまま言っちゃった。あ、本文中にもちゃんと書く人なんだね、小説なのに。なるへそ〜、うん、親切。今それが一周回って逆に新しい発明、なのかな？ 決して読者をバカにしてるとかじゃなくてさ、ホラ、ちゃんと口で言わなきゃキモチ伝わんないゾ、タッチャン、え、南？ って俺、だれ？

こういう作家が今の読者には受けるから賞も取れたんだろうけど、俺としては最近の映画の予告編と一緒に、その番組だけでお腹いっぱい一冊読み終えた気にはなったよ。あとしきりに「小説は長くて辛い。歌は短くてすごい」ってこぼしてたけど、そりゃ言いたいことが結局「信じるものを自分で決めよう」13 文字だったら上下巻は長いだろうよって、申し訳ないけどテレビに突っ込んだよ。大体、書く側が長くて苦痛だったら、読む側にとっちゃ長すぎて拷問だよ。作者がいくら短いつても、大概の読者には長く感じられるモンだろうからさ。

本来ならこんなの内面で愚痴って終わりのネタだったんだけど、Amy との比較ですごい気になったから、ネットであらすじ調べて飛ばし読みで無理やり目を通した。以下、『明日死ぬかも〜』と『さくら』に共通するキーワードをネタバレ全開で列挙する。

- ・両親、兄、妹、弟等が出てくる家族の喪失と再生の物語
- ・過去に起こった出来事を振り返りながら進む
- ・何事にも秀でていた伝説的な兄が突発的な事故に遭う
- ・兄の死が家族に重大な影響を与え、それを乗り越えるために家族が支え合う
- ・母がアルコール依存症になる
- ・書き出しが似ている (『さくら』は父親の手紙。『明日死ぬかも〜』は祖母の格言)
- ・人じゃない何か (犬や幽霊) が自然体で唐突にしゃべり出す
- ・ゲロの話が出てくる

ざっくりこれだけの共通点がある。んでこっからは俺の完全な妄想だ。もし俺が Amy だったら「なんだこりゃ？ あたしだったらこう書くわ」つって、上記のポイントを深く深く想像して掘り下げたら超面白い小説できたから、「やばいわ、これ出版したい」ってなるね。例えばアルコール依存症でも、二つの作品では描写の精度が段違いだ。『さくら』ではただの文字でしかないそれが、『明日死ぬかも〜』では身を切るほどのリアルとして描かれている。震災を経た今、俺にとって読んでよかったと思える作品だったよ。

残念。無駄に道草食みすぎてまたもお腹いっぱい。ゲームのゲの字も書けなかった。後編へ回すことにしよう。

さて、今回はこんな感じ。どうかな？



次回、俺が定期的に更新してるこのリストに関連する無数の痛みについて書きたいと思う。被曝との因果関係を問うのはわかりやすい物語だが、汚染水漏れでも「発覚後、はっきり因果関係がわからないうちは公表しなくとも、隠ぺいにはあたらない」らしいから、因果関係なんて問うだけ無駄だろう。それよりも「顕在化されない痛みにも名前を付ける」ことが文化の持つ大切な役割の一つだと俺は思う。それこそが俺の好きなわかりにくい物語だよ。

■福島県民健康調査 子供の甲状腺検査

甲状腺がんの「悪性・悪性疑い」 計117名

そのうち「手術し甲状腺がんと確定」 計86名（術後良性と診断された1名除く）

■作業中に亡くなった原発作業員

2015年1月20日 48歳 容器と架台の間に頭を挟まれ（実名報道あり）

2015年1月19日 55歳 高さ約10メートルから転落（福島第二 実名報道あり）

2014年8月8日 60代 死因非公開（大動脈解離？）

2014年3月28日 55歳 土砂の下敷き（実名報道あり）

2013年2月27日 50代 心肺停止（死因非公開）

2012年8月22日 50代 急性心筋梗塞

2012年1月9日 60代 急性心筋梗塞

2011年10月6日 50代 後腹膜腫瘍による敗血症性ショック

2011年8月30日 40代 急性白血病

2011年5月14日 60歳 心筋梗塞（実名報道あり）

■作業中に亡くなった除染作業員

2014年1月25日 58歳 運転していたローラー車ごと転落

2013年11月19日 46歳 ユニック車の下敷き

2013年10月12日 61歳 バックホーが土手から転落

2013年5月21日 30歳 クレーン付きトラックにはねられる

2013年3月22日 51歳 油圧ショベルカーの走行用ベルトに右足を挟まれる

2013年2月28日 54歳 突然倒れ、意識不明の心筋梗塞

2012年1月17日 59歳

2011年12月12日 60歳



考え



第二十一回 『ぼくたちは何だかすべて忘れてしまっうね』
と「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」後編

毒を盛って
毒を喰らわば
アレまで
弦楽器イルカ

お願いします



+ 友人

今回はゲーム企画にも辿り着くし、道草も浴びるほど食んで行くよ。

まず誰でも読める公的な資料で心底がっかりしたのから、そのまま引用する。(ちょっと本気で腹をたてたから、U が笑い飛ばすのを期待してる。気にすんな、考え過ぎだって)

甲状腺検査に関する中間取りまとめ (部会長取りまとめ案)

平成 27 年 3 月福島県県民健康調査検討委員会甲状腺検査評価部会

今後、仮に被曝の影響で甲状腺がんが発生するとして、どういうデータ (分析) によってそれが確認できるのか、裏返していえば、どういうデータ (分析) が現れなければ「影響はなかった」と判断できるのか、その点の「考え方」を予め示す必要がある。これが全くないと、「後付けで」評価がなされるかもしれないとの疑念をいたずらに招いてしまうこととなる。

俺ごとき素人でさえずっと「甲状腺ガンの数を調べるなら、例えば何人までが正常で何人からが異常なのか初めに概算して当然だし、しなきゃ後付けで言いたいこといくらでも言える」って書き続けたけど、震災から 4 年以上経って (言い訳の準備が整った今) やっとその議論が「全くない」とこから始まるってことだ。クソだよ。俺好みじゃないけど、この金色のクソにたかるハエはたくさんいるんだろう。一、二、三、四年過ぎて「ワザトダロ！」ってオチだ。(今流行のネタだよ！)

震災後、福島では定期的に御用学者たちが集まって会議してる。今どういう議論になってるか簡単に要約すると、国立がんセンターのデータと比べて甲状腺がんの発生率が 60 倍高いって東大教授が言ってる。これは事実だ。そしてその事実を基に、過剰に診療してるせいだ、って主張もしてる。

でも、県立医大は過剰診療じゃないと言ってる。適切な検査・手術だと。

じゃ、結論はどうなのかっていうと、「現時点で結論づけはできないが、放射線の影響とは考えにくい」「最終的に放射線の影響があるかどうか判断するには、最低でも 10 年はかかる」となる。

ここで国語の出番だ。結局、この議論から導き出されるのはたった一つの事実だ。

福島では甲状腺がんが 60 倍発生している。これだけ。

理由が不明であれば、発覚してても公表する必要はない、これは汚染水が漏れた際の東電の見解だ。

福島で甲状腺がんが 60 倍発生していても、理由は不明だから放置してかまわない。これが国の見解だ。

だからこの会議の主役は国民じゃない。主役は国家経済だ。

ここで俺はこの国の新しい道徳を提示したい。

原発反対派も推進派も、被曝で国民に健康被害が出ることを良しとは思ってないだろう。だがそれは偽りの道徳だ。

「被曝で苦しめ」

あー、間違ったかも。「被曝を楽しめ」かな。まあどっちも意味は一緒だよ。要は文句言うなってことだ。

それがこの国の新しい道徳だ。国民は経済のため被曝に悩んだり楽しんだりできれば早死にしたほうがいい。だってこの国の主役は経済なんだから。原発が爆発して、被曝して、老人や子供がどんどん苦しんだり楽しんだ

り死んだりしていけば、国としては医療費の削減につながる可能性もあるかもしれない。経済が主役ならそれだって国是だ。我々はそういう国に生まれた事実を自覚し、覚悟し、生活する。それがお国のためってことだ。

だから「お国ばんざーい！」って人々は、欲しがりません死ぬまではつって、生活費削ってでも今以上税金納めて、体壊したり国から年金もらう高齢者になったら桜の下で腹切りするのも国是だろう。それが一番お国のためだよ、だって国の主役は経済なんだから。俺は絶対イヤだけどね。

さて、「ぷしゅー」っと頭に血がのぼったところで別な話題に行こう。

まず前編と全然タイトル違うんだけど、こんなウマシカ話なんてみんなもう忘れてるでしょって意味ね。これ、重要だと思うんだよ。

本や音楽、映画や新聞といった文化が儲からなくなったって言われて久しい。活字離れやダウンロード販売、レンタルやネットニュースがある今、それらの文化が右肩上がりでも儲け続けるほうが確かにおかしいだろう。情報を昔より安価で得られるという消費者側のメリットと、安価すぎて採算取れないという発信者側のデメリットがあると思うんだが、これが「忘れる」ってことと実は深く結びついていると思った。

情報を発信する側はどんどん薄利多売になる。文化を立て続けに発信しなければならず、経費も考える時間も減って質にこだわれなくなり、スポンサーにもより媚びざるを得ないだろう。そうやって薄く大量生産される文化は結果的に、より薄く消費され早く忘れ去られる。

これで得するのは誰か。一つは権力を持つ者だ。権力者は情報の煙幕に守られて自分に有利な法律を淡々と通していきける。

たとえば、格差社会というテーマがある。

俺は格差社会って言葉も定義が曖昧だから好きじゃない。「日本は飛び抜けた金持ちが少ない中流の国だ」とか、「いや子供6人中1人は貧困層だ」とかの議論が並行している。これはわかりやすい物語に言葉が誤魔化されているからだ。

まず議論すべきは、格差とはいったい何かを具体的に定義づける、わかりにくい物語の方だ。

例えば原子カムの天下り管理職と、現場の下請け作業員との間に一体いくらの賃金格差があって、彼らがそれぞれどんな生い立ちで今の職業に就いて、職務内容、家族構成、学歴、抱えている悩み等を細かく調べ、そこにどんな種類の格差が存在するのか検証することだ。

だがもちろんこの国から天下りがなくなることも、作業員のピンハネがなくなることもないだろう。だから格差がなくなることもないって結論はもう出てる。

ついでに最近、某有名総研会社の統計が出てるんだが、割合としては以下のようなになる。

純金融資産 5 億円以上の世帯 0.1%

国内の資産 5.7%を保有

5 億未満 1 億円以上の世帯 1.8%

国内の資産 13.1%を保有

1 億未満 5 千万円以上の世帯 6.0%

国内の資産 18.8%を保有

5 千万未満 3 千万円以上の世帯 12.4%

国内の資産 20.5%を保有

3 千万円未満の世帯 79.7%

国内の資産 41.9%を保有

つまり、2 割程の純金融資産 3 千万円以上の世帯が、国内の資産の 6 割程を保有しているようだ。

逆に 8 割程の 3 千万円未満の世帯は、国内の資産の 4 割程しか保有していないようだ。もしこれを 1 千万円未満で区切れば、国内の資産の 3 割~1 割くらいしか保有してない感じだろう。(ちなみにアベノミクスで「古くからの資産家が株式等で儲かった」ってそこに解説あったよ)

これを格差と呼ぶのかどうか定義がはっきり定まってないし、自分がどの立場にいるかで変わる話でもある。まあ薄い大量消費の文化では、定義づけの議論はなされないで忘れ去られるだろう。

だから忘れ去られない、というのは今、あらゆる意味で脅威となる可能性がある。

岡崎京子の『戦場のガールズ・ライフ』を買って少しずつ読んでるんだけど、この人の忘れ去られなさはなかなかだよ。そしてまた「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」って 2006 年に鴻上尚史が書いた文章も再び話題になってる。それもすごいことだ。それについて少し書きたい。

鴻上の文章は、今この瞬間いじめを苦にして死ぬ子を一人でも減らすのが目的で、生死の狭間にいる子供に向けた一対一の緊急メッセージだ。その子が死ななければ成功だから、関係ない第三者があれこれ賛否言ってもあんま意味はない。それより自分だったらどの言葉で死を食い止めるのか、または死んでも別にいいのか、自身の言葉をさらす方がフェアだろう。

そこで俺だったらどう書くかって話なんだが、鴻上の本や舞台で人生の踏み外し方を習った俺だし異論は特にない。ただいじめで苦しんでる子はそもそも「自分がいじめられっ子だと認めて逃げる」行為を不名誉と嫌がる可能性があるから、「逃げろ」とか「遺書を書け」って言葉が持つインパクトの意味は非常にわかるけど)「周りより一足大人になって視野を広げよう」「イヤなことは大人に相談するのが一番良い抵抗」「痛みを避けるのは動物として当然の行為で、何ら恥じることはない」というような文言も付け足せばどうかな、とは思う。「友達とふざけてるだけだから、自分はいじめられっ子じゃない」と意地張って気づいたら死んでる子もいるだろう。(前に DV と被曝について書いたけど、いじめって言葉を被曝に入れ換えても大体意味は通じるだろう)

さて、今回最後に書きたいのは、原発作業員の手記の件だ。これも何回か書いてるけど、改めてまとめときたい。

戦争体験者や特攻隊員の記録に触れ、実際の戦争について学び、自分の身に置き換えて考えることは大変重要だと思う。その際、感情として「可哀想」と思ったり、戦争を憎んだり、個人として感謝や尊敬の念を抱くことは全く自由だし、制限できないはずだ。

ただその先のこと、例えば特攻に意味があったのか無駄死にだったのか、そもそも戦争に意味があったのかなかったか、侵略か自衛か、「彼らが国を守ったから今の我々がいる」のか「国なんて守る必要はない」のか等の見解は、どれも一つの考え方であって、アイドルの人気のステマか本気かって議論と一緒に、一人一人の心の中でしか結論の出ない話だ。だいたい前線の兵士は使い捨て、偉い権力者だけ生き残る戦争に、正義も悪もない死は死だと俺は思う。

なんでこんな話をするかと言えば、単なる一つの見解を絶対と信じ込み他者に無理強いするのは、単純に信仰だからだ。信仰でなく見解ならば、俺とUがぶつかって溝の深さを毎度確かめてみたいに、考えて合意したり距離を測ることも原則的に可能だろう。だが信仰には原則的に議論の余地がない。我々は常に正しく、敵は常に悪だ。そしてこの世界に正しい信仰はもちろん無数にあるから、争いはやむことがない。

たとえば愛国心の教育に必要なのは、自分にとって国を愛する心が必要なかどうか、考えることだ。自分で考えて必要だと結論が出れば、それこそが愛国心だ。しかし自分で考えて必要ではないと結論が出れば、そこに愛国心を無理強いするのは単なる信仰だ。

もちろん別に信仰が悪いというワケではない、善悪というのは便宜的な概念だし。ただ信仰を無理強いするのは一般的に理不尽だし、無自覚な押し付けであればなおタチが悪い。

さて、特攻隊員の手記から今の我々が学ぶことは多い。では原発作業員の手記はどうだろうか。

俺は今までメディアの原発作業員に関する特集はできるだけチェックしてきたけど、ほとんどの作業員が「会社に口止めされてるから」取材を断ってる様子も紹介されてた。でも、全員じゃない。

今までずっと「たった一人か二人」のマンガ家やブロガーは情報発信を許されてる。しかもたくさんの読者がいて世間に望まれてる情報なのに、なぜか公開できる人は限られてる。顔出しのドキュメンタリーもいくつか観たけど、所詮十数人しかメディアで声は伝えられていない。

マンガやブログに書いている程度の内容なら、今まで作業に従事した何万人だって本人が望むなら公開してもいいはずだ。つまり、彼らの生い立ちや悩み、待遇や現状など、前線で戦っている人たちの声を今すぐ、文化は集める必要があると俺は思う。先の大戦みたいに、終わってから美談にしても遅いからだ。

そして前から言ってるけど、これは春樹がインタビューするのが一番適任だろう。間違いない。国民全員が「被曝に文句言うな」って新しい道徳の虜になっている以上、一丸となって彼にノーベル平和賞を取らせなきゃ我々は犬死にだ。

というワケで毎夜、枕元にでっかいトランシーバー置いて春樹に電波送ってんだけど、俺のドラゲナイはやっぱり届いてないんだろうね。グラチュレイションが足りないんだな、きっと。

過去には、反社会的勢力が県内県外から原発や除染労働者を不法に派遣して逮捕されたニュースを観た。原発の作業員は今や県民が9割で、県外の作業員はほとんどいないってマンガ家のインタビューも読んだ。

今、県内の作業員が9割になってるってことは、情報が県内で止まり県外に出にくくなってるって考えるのが自然だ。

そして原発周辺地域から人を避難させたくないのは、今後作業員にさせたいから、または作業員の生活を支える集落を確保したいからという思惑があるって考えるのも自然だろう。そっから逆算して、被曝は大したことないから避難は必要ない、という政策が生まれてると考えるのも自然だと思う。この国の主役は経済だしね。

あと最後に、原発の推進・反対派にはもう一つ別な言葉の定義づけが必要だと思う。たとえば単なる「ベジタリアン」とは別に、厳格なベジタリアンを区別して「ヴィーガン」って呼ぶそうだけど、当人たちも区別された方が生きやすいみたいだ。宗教も（私はムチより縛り派ですとか）派閥がいろいろあるよね。

とにかく原子力と名の付く物すべてに反対の人は「反核ヴィーガン」とかなんとか名乗ったほうがいい。逆に原発も核保有も絶対推進って人は「原発真理教」とか名乗ったらいい。つまり信仰者は自分が常に正しくて議論が無意味だから、「議論の余地がある派」と分けたほうが整理しやすいってことだ。

やっと書き切った！

さて、というワケで今回はこんな感じ。どうかな？



やっとゲームの話だ！

今俺が国民に追体験してほしいと思うゲーム企画は、以下の3点です。

- ①自分の子供が甲状腺ガンだと告知されるゲーム
- ②原発作業員としてピンハネされるゲーム
- ③政治家として裏金を稼ぎ、国民を健忘症にさせるゲーム

マジで。真剣でも本気でもいいからマジで作ってほしい。シナリオは俺が書こう。

そこにどんだけの痛みと歪みがあるか、ゲームとして追体験したら子供にもわかると思う。そう、絵本でもいいよね。犬の殺処分の本もすごい人気だし早速購入したけど、こういう考えさせる問題提起は本当にすごいと思う。文化にはそういう力があるよ。もっと行使しないとね。



考え



人の心の隅っこを
やな感じでほじる

弦楽器イルカ  + 友人

お久しぶり。

最近、仕事が忙しいというか、プログラミングの勉強で忙しい。

返信が遅くなって申し訳ない。

忙しいって言うておきながら、最近、ピケティの『21世紀の資本』を読んだ。

日本から取り寄せてね。

メモを取りながら丁寧に読んだら、経済学素人の自分でも理解できたよ。

超おおざっぱにまとめると、まずはピケティの言う格差は、収入や資産が上位10%のごく一部の人間が、さらに儲かる仕組みがあるってことだ。

それが事実だとしても、ピケティはマルクスほど深く社会をひっくり返そうというわけではないから、90%の人々や、もっと貧しい人々が、10%の奴らから、お金を強奪してもよいとは、はっきりとは書いていないね。

格差が悲劇を生んだ例として、南アフリカの鉱山労働者が、経営者側が手配した軍隊によって何十人も虐殺されたことが挙げられている。

この鉱山労働者は自分の意思で、職場を選んだはずだけれども、こういうことが起きてしまうのが、南アフリカなんだと思う。

日本も同じなのかな。

原発労働者は、自分の意思で福島で働いているからね。

どこまでが、自分の意思で、どこからがやむを得ない環境におかれてしまったのかよくわからないな。

ところで、今の日本は法人税が高いという問題が有るね。

お金持ちが、国を通じて貧乏人に、金を持っていかれる仕組みがある。

もっとも影響が大きいのは法人税だ。

法人税が高い日本は、かなり平等システムが働いている国だと思う。

これ以上、法人税を安くしたら、法人が海外に逃げていってしまうね。

まあすでに海外に行っている会社も多いけれど。

おそらくは、国民の大半は、国に与えるものよりも、国からもらっているものの方が多いだろう。

だから、日本人の金持ちを日本にとどめておくことが、貧乏人にとっての最良の作戦だよな。

そして、国からもらっているものは、日本のお金持ちから奪い取った税金であることを忘れてはいけないと思うよ。

日本は日本人としての誇りと名誉があるから、たとえ税金面で損をしても、日本にとどまっているお金持ちが多いと思う。

日本としてのまとまりのお陰で、自分も含めて、日本人の大半（とりわけ貧乏人）は利益を得ているわけだ。

そういう仕組みで世の中が回っていることを、知るのは大事なことだと思う。

世の中の仕組みは、先生やテレビは教えてくれないものだ。

ピケティが書いていたが、先進国でも、多くの人（90%くらいだったかな）は、財産が300万円以下しか無いんだとき。

ちょっとの貯金と、家具や家電、車とかくらいしか、財産をもっていないのが普通だ。

けれど、先進国では一人あたり平均では、2000万円以上の財産がある。

金持ちは財産を使ってより財産を増やす（年3%とか5%とか）。

国という装置は、その金持ち層から、お金を奪い取って、国家予算を作り、おもに貧乏人に回るように手配する機能だと思う。

ようするに、自由に競争をさせると、脱落者が多くなってしまうので、貧乏人にハンディキャップを与えてすこし有利にしてあげるのが、国の役割と考えられなくはない。

最後に、多分、こういう考えはすごく、自民党的であると思う。

民主党的な発想は全然違うから、民主党的な意見の人に、どういうふうに考えているか一度聞いてみたいと思う。

僕から見ると、民主党は世の中の仕組みをわかっていない気がする。



久しぶりにありがとう！ いいね、すごく面白い。

感想の前に、そういえば前に「リトル・ピープル」的支配と陰謀論の話をした時、Uが単純な陰謀論にするなって言ってた件、もちろん俺も単なる陰謀論で片づけるつもりは毛頭ないんだけど、アレ、支配される側の貧乏人にも支配を受け入れる意識があって、それはメディアの洗脳だったり周囲の空気だったり無数の要因が絡み合ってるって現実を、空気さなぎの何とも言えない感じとかで表現してんだろうね、きつと。どんな残虐行為も結局は国民一人一人が大なり小なり加担してるワケだし。

さて、ピケティ読んでくれてありがとう！ すっごいわかりやすかった。俺はできれば読みたくなかったからすっごく嬉しい。格差は拡大するし、金持ちはより金持ちになるってのはごく自然で、でもそれが今までデータできちんと語られてこなかったからブームなのかな。でもここウマシカ王国ではブームよりずっと前から俺とUとですっごい火花散らしてたし、ここではむしろピケティの方が遅れてきた新人って感じなのに。まあ所詮、「ウマシカの王」じゃ煙玉にもならないか。

俺は与党も野党も同じ金持ち権力者だと思ってるから答えになるかわからないけどやってみよう。今まで取り上げてきたデータを一応まとめると、2013年この国の年収別で、1000万円を超える人が前の年より14万人増えて186万人、全体の4%となった一方、200万円以下の人は30万人増えて1120万人、全体の24.1%、更に年収100万円以下は421万5000人。結局200万円以下が増えて国民の約一割になってるそうだ。

また、米では2019年の富裕層人口は1900万人になる見通しで、現在でも上位1%の収入が国民の全収入の約2割、また、上位10%の収入が約5割、この流れは2000年以降発生し、今後も拡大しそうって話だ。更に世界の富裕層人口は3500万人で全体の0.7%だが、世界全体の富に占める割合は44%だそうだ。

また2013年のデータで、この国の国民世帯の8割程が資産3000万円未満で、国の資産の4割程しか保有していないらしい。

とりあえず確実に言えるのは、円安・株高・物価高になればなるほど、タンス預金の価値は下がり、逆に大金を投資できる世帯は儲けられる。そしたら、貧乏人が金持ちに逆らうのはもっと難しくなるってことだ。天下りが天下を取るまさに「天国」と呼べそうだね。

現代生活を営む上で国は必要だし、貧富の差はいつの時代も絶対にある。だから格差を悪と決めつけるよりも、収入格差に見合うだけのリスクやストレスや労働時間の格差があるかどうかのほうが重要じゃないかな。

勤務実態のない顧問収入で閣僚を辞任した政治家や、若い頃は頑張ってたかもしれない天下り職員とか特に公金で高収入を得ている人々と、3Kの現場労働してる低収入の人々を比較して、具体的に、どこにどう問題があるのか、ないのか、微に入り細にわたり国民に問うのが文化の役目の一つだと俺は思う。

と言っても、今回俺がやりたいのはこんなモテなそうな話じゃなくて、もっと軽めの話だよ。久々なのにごめんね！

『火花』って、今売れてる本をまず褒めようと思うんだけど、すごく誠実に書かれていて、また、挫折を描くことに成功していると思った。誠実さっていう意味では、むしろもっと編集の手を加えて推敲したらって思うくらい誠実だった。そして挫折の部分では、中途半端な人々の中途半端な挫折が描かれている。

内容は「センスはあるけど一般ウケしない芸人」に振り回される物語なんだけど、たとえば同じ芸能人だとリリー・フランキー『東京タワー』のオカンとか、『佐賀のがばいばあちゃん』のばあちゃんを思い浮かべた。でもそれらほど面白いエピソードは俺にはなかった。

芸人論についても、同じ事務所の松本人志『遺書』とかと比べたら、俺には面白くないし説教臭い。

貧乏エピソードも、同じ事務所の『ホームレス中学生』ほどぶっ飛んでない。

全部中途半端なんだけど、中途半端だからこそ挫折する。そこがリアルに描けてる。文学だから、スーパーマンを描く必要はない。

そして何より、褒めるのにちょうどいいサイズだ。長さ、内容、ユーモア、文章、その他モロモロ、今の時代にぴったり合ってると思う。時代からはみ出ちゃう芸人の物語のはずなのに、実はぴったり時代に納まってる。SMAP が「時代遅れのオンボロに乗り込んでいくのさ」って歌ったら、「それはもう時代遅れじゃなくて最先端にナウいオンボロだよ」ってパラドックスと一緒だ。

ここまで、褒めた。これ、褒めましたよ、ホントに。芸人が書いたって意味では本当にすごいと思う。

お金を払わないで読んでたらたぶん、ここまでで終わってた。でも、1200 円払っちゃったからね。ここからは、おこがましくも尊大で不遜で偉そうに本当にやな感じで人の心の隅っこをほじくってみよう。

この本の最も理想的な読者は何といっても作者らのライブが好きな人だろう。破天荒な芸人のエピソードや、感動のライブでちゃんと笑える読者は幸福だ。また彼らをつまらないと思ってる人でも、細かいエピソードが好きな人にはいいと思う。

ただこの物語の一番難しいところは、中途半端な人物が主人公である点だ。つまり中途半端だからこそ、やっぱりあんま面白くはない。俺にとっては。

たとえば「共感の笑いはつまらない」って会話がある。同感だ。逆に「共感の笑いが一番だ」って書かれたら本破ってる所だ。ただ「共感の笑いはつまらない」ってのはもう当然であって、今さら説教されてもあんま面白くはない。俺にとっては。

今はテーマとか言いたいことってやつを丁寧に文中で書くのが流行りだ。ここ笑うところってテロップを出すようにね。でも文字でただベタっと書くんじゃなくて、物語を描写することで読者の脳裏にそのテーマを自然と、まさに花火みたいにパッと打ち上げるのが名文学だと思う。俺はね。

だから同じテーマならたとえば、「バカなヤングはとってもアクティブ それを横目で舌ウチひとつ」っていう、電気グルーヴ「N.O.」のクソみたいな空気感のほう俺にはグッとくるし、文学的だ。身銭切ってまで「共感の笑いはつまらない」なんて飲み屋の親父みたいな説教は読みたくない。

あと、風俗勤めで芸人を支える薄幸な女性ヒロインがいて、「彼女の人生を僕は全力で肯定する」的な感動の場面があるんだけど、これは『ノルウェイの森』のハツミさんのエピソードを彷彿とさせる（作者は春樹好きみたいだし）。ただ、ハツミさんに比べると、このヒロインは薄幸のバランスが悪い。

もし誰かを「全力で肯定」したいなら、その誰かはまず世間から「全力で否定」されていないと言葉が浮いてしまう。例えば長期間壮絶な苛めにあっていたとか、スカトロ系の地下クラブで奴隷やってますとか、原発作業員ですとか、そういう世間があえて見ないようにしている禁忌な存在に対して、「僕は全力で肯定する」って言葉がやっと成立する。むしろ二回言うけど、原発作業員とかね。もっと原発作業員（と南）のこと、ちゃんと見ててよ（タツちゃん）って俺（と南）は思うからさ。いや、南ちゃん、邪魔。

でもこの（南じゃない方の）ヒロインは、ただスカウトを断わり切れなかった優柔不断な風俗嬢で（これ実は嘘かもしれないけど嘘だとわかるほどの材料も読者にはなくて）、結局は客とできちゃって、その後子供も産んだ感じになって、他人からは不幸っぽく見えるけど本人は割と幸福な人っぽい。少なくとも他人から「全力で肯定」されなきゃならないほど、誰からも否定されたり蔑まれてない。そして南ちゃんが本当に邪魔だ。南風に帰らせます。

ハツミさんの死に比べると、このヒロインの悲劇感はだいぶ薄いけど、これ書いてて思い出した。学生の頃、俺がハツミさんの魅力について語ったら U が「あんなの大した女じゃない」って侮蔑して、えらいケンカになったことあったね。懐かしい。青春だ、まさに。

というワケでいい小説だったよ、『ノルウェイの森』。いや、『火花』ね。前半はどうしようかと思ったけど、最後のほうがそれなりだった。少なくとも西加奈子よりは面白かった。「たぶん西加奈子よりは面白い」って帯に変えたほうがいいよ、たぶん。だって煽りすぎだもん。「この物語は、人の心の中心を貫き通す」って、流石に仰々しすぎる。しかも「人の心の中心を貫き通す」って言葉自体、人の心の中心を狙いすぎてる割に手垢にまみれて、貫通するにはナマクラなコピーだよ。作者自身は「あほなりに真剣に人間を描きました」的なこと言ってるワケだから、むしろそっちでいい気がする。

というワケで次回のはみだしウマシカさんは「ヒバナの瞬き」じゃなくて、前回取り上げた自殺から逃げる話題を戯曲化する企画です。今回やろうと思ったんだけど、間に合わなかったので、あしからず。

今回はこんな感じ。ピケティ読んでくれて、本当にありがとう！

どうかな？





第二十三回 「うどんから目を離すな」と
「ウマシカを好きだなんて貂犀かも」

考



ひとりぼっちの

乱打戦

弦楽器イルカ + 友人



ここまでの二十二回で書きたいことは書けた気がするので、同じこと繰り返すのはイヤだから、今回からはできるだけ、新しい出来事についてだけ書こうと思う。

ちょっと前にドローンが官邸にセシウム砂を運んだ件あったけど、狙いが官邸だと正直、意外性がなくてつまらないアートだと思った。

どうせなら、原発周辺の被曝してるけど持ち運んでも問題ない砂を都心の駅前にアートとして（許可を取って）撒くとか、砂にタンポポの綿毛を付けて「目に見えない放射性物質がこのように全国に運ばれていますよ」と可視化させるアートを（許可を取って）展示するとか、そういう合法的のをやってほしかったな。

あと、春樹さんが自動車事故と原発事故の違いについて言及してた話もあった。

前に U ともこの件でやり取りしたけど、原発事故と自動車事故は構造的に近いむしろ同列に並べる問題だと俺は思う。

確かに、個人が起こす自動車事故と、国策で稼働させて最悪の事故が起こった場合、国土の何分の一かが避難地域になるような原発事故では、責任の所在は違う部分もあるだろう。

ただ、原発も車も国家経済にとって最も重要な産業の一つであり、今までもこれからも国策として推進されている。これらを停滞させることは国益（と利権）に反する、極論すればどっちも必要悪だ。だから、原発より車の方が危険って論法はあんま意味なくて、ボクチンより〇〇くんのほうが悪かってダダこねる幼児と一緒に一緒だろう。

もちろん、自動車事故の対策強化や道路改革もしたらいいし、事故防止やエコの観点から自家用車をやめてバスや電車に乗ろうとかのキャンペーンはずっと前からある。社用以外の自家用車を段階的に禁止にするとかも考えられなくはないし、原発や車と今後どう付き合っていくのかって議論が本来は必要なはずだ。

ただ広告収入とかの経済が優先される社会で、車を減らせなんて真剣に言いだすヤツはいない。まさに効率（と利権）のために犠牲者を無視する、ありがたい御国の誕生だ。

だったら前から言ってるけどこの国の道徳を変えたらいい。「国家経済のために国民の生命や尊厳は犠牲にする」って。実際に今そうなんだから。

たとえば、集団的自衛権で派遣される J 隊員のリスクが上昇するしないって議論もあるけど、現状で原発事故後の周辺住民や作業員の被曝リスクも認められてないんだから、J 隊員だけリスクを認められるなんて虫が良すぎる話だろう。御国のために国民は犠牲になるのがこの国の当然の道徳だ。

ちなみにこの件に関連して今ネットだとどんな話題があるかを書き留めておきたいんだが、震災直後の 2011 年 5 月に福島県立医大が開催した「健康管理調査スキームについての打ち合わせ」って会議があったらしい。これは県の公式 HP で今も閲覧可能なんだけど、議事録の公開を市民に求められたのに対して、「メモや議事録は存在しないので公開できない」って回答を県はしてた（諮問第 95 号 答申）。

でもその議事録はやっぱりあったって今更になって暴露されて、そこで中心となる大学教授が福島は「国際的には最大の実験場という見方がある」から、県が予算をとって主体的に調査を行って発言したようだ。年間 1 ミリシーベルトの被曝でも補償がいるって話も当時はしてたらしい。でもこの議事録もネットでは閲覧できるけど、今んとこの新聞もテレビも特に報じてないだろう。

更に最近の学会報告だと福島の小児甲状腺ガン検査の後、摘出手術を行った 79 例中、リンパ節転移は約 59 例（75%）、肺転移が 3 例（4%）だそう。これも特に報道はない。被曝云々は置いといても、ここにある一つ一つの痛みについて春樹さんには言及してほしかったけどね。まあ、出版社が止めたんだってハルキストな俺は解釈しよう。

それにこの国の首相が米で演説してたけど、あの演説で論じるべきは、謝罪部分を削るためにこの国は米に何を貢いできたかって議論だと俺は思う。

俺は戦争責任の謝罪と同じくらい、なぜ今日中韓の対立が煽られているかって議論が重要だと思う。だって集団的自衛権も、謝罪拒否も結局、「日中韓内に対立があるから」って世論誘導がなされた上でなし崩されてる流れだから。

国家をまとめるため、求心力を得るために敵を意識して作り出す、それが反（日・中・韓）の根っこにあるのは、普通に報道もされてるし、常識的な話だ。反（日・中・韓）は金や票になるし、前にも書いたが宗教や団体が公然と絡んでる。加えて与党と野党のプロレス的抗争だけ報道してお茶を濁せば、その先にある核心の法案について議論しないですむ。

結局、謝罪するもしないも国際的な暗闘の一部分にすぎないって話を春樹さんはするのかなってちょっと思ったんだけど。まあ、これは俺の妄想ってことにしよう、きっと。

ちなみに実写劇場版の『パトレイバー』にはそこらへんの話が入ってて、個人的にはすごく面白かったしもっと流行ってもいいと思ったけど、まあ、よくよく考えると世間受けはあんましないだろうね。いつものことだけど本編 90 分間中、ロボットが動くのはたった 3 分と 15 秒だけだったし。ウルトラマンとか意識してんのかな。あと演技は舞台っぽくて浮いてたし。でも個人的には大満足だった。

あとこの流れに全然関係ないけど SAKU ってタワレコ現役店員の女の子が歌手デビューしてた件、すごい良かったんだよ。これ紅白狙えんじやないのかな。『ビリギャル』の挿入歌はまあまあだけど、ちょっと毒があっていい曲いっぱいある。たとえば「これって遠心力」って無造作に疑問形で歌う感じが、篠原ともえ「レインボー・ララ・ルー」の「バラ色って何色？」って歌詞を思い出したんだけど、歌詞の通りこれ今一番意味ないフラッシュバックだな。ただ小さいタワレコだと彼女の CD4 枚全部置いてなかったりするから、ちょっと悲しかった。せっかく店員がデビューしてんだから全店のレジ横くらいには置いてほしい。「一緒に SAKU はいかがですか？」くらい言ってほしい。滅多にないことなんだから。

さて、前回からの引きだったんだけど、なんかまたすっかり忘れ去られた感のある自殺から逃げる戯曲について、簡単にまとめとく。

鴻上さんなら実際自分で書きそうなんだけど、「ある劇作家が新聞に自殺から逃げろ、と書いたせいで、日本全国で遺書を書いて集団家出する学生が急増し社会問題になった。裏社会では学生たちが人身売買される事件も起きる。社会の秩序を乱したとして世間から叩かれ追いつめられる劇作家と、それを守ろうとする学生たち」の話。

マスコミに詰め寄せられ逃げる劇作家をかくまう学生たちの地下組織。そこに集う学生たちは、都道府県ごとに逃げてきた目的が違う。自殺から逃げた東京出身者、原発周辺から逃げた福島出身者、米軍基地周辺から逃げた沖縄出身者、噴火から逃げた鹿児島出身者、地震から逃げた神奈川出身者、津波から逃げた宮城出身者、土砂災害から逃げた広島出身者、自動車事故から逃げた名古屋出身者、熊から逃げた三重出身者、うどんから逃げた香川出身者等々。

当人たちにとっては、どれも同じ脅威だ。どれが一番怖いか、優先順位もつけられない。だが最終的には、どこかで折り合いをつけて、前を向いて生きるしかない。しかし、うどんだけのけ者にされる。なんでうどん？いえ、県ごとうどんにのまれようとしているんです！ うどん県だからね。仕方ないよね。

ところが、世間をうどんが襲う。うどんの脅威を思い知らされる一同。

うどんを恐れるな！ 立ち向かえ！

うどんに対抗するため、一致団結する一同。

逃げるな、立ち向かえ、といくら外野が言っても、結局前線で戦うのは孤独な一人一人でしかない。最前線に立たされているのは他でもないお前自身だ。お前が死んだら戦いはそこで終わってしまう。生き延びたければ死なないための、戦わないための戦いを自分の頭で実行するしかない。

うどんに殺されるな！

なんかこの後うどんに殺されないための美味しいレシピの紹介とかいろいろあつたりするんだけど。思いがけない物が脅威になるし、他人から見てバカバカしいと思うような戦いでも自分を守るためには必要だつて感じの話。

まさにこのウマシカがそうであるようにね。

今回はこんな感じ。最後ちょっとやっつけちゃったかも。

どうかな？





考え



みんな違って
みんないい世の中に
なればね…… くらい？
弦楽器イルカ + 友人



先日、Amazon の電子書籍を買うと、50%ぶんのポイントが溜まって、実質半額というすごいことがあった。そこで、今、台湾でも話題の『進撃の巨人』を16巻まで大人買いして、読んでみたよ。

『進撃～』を読んで、率直な感想を一言でいえば、「少年マンガ」。

もし、大人がこの漫画を読んで、面白いとか、感動したとか、さらには、設定が細密ですごい、とか言うなら、そいつの頭のレベルも「少年マンガ」だと思う。

『進撃～』の初期設定の世界観は悪くはないと思った。

足りないのはリアリティだと思う。

巨人が存在することが荒唐無稽というのではなく、それに立ち向かう人類たちの、理念や理想、あるいはそれを具現化した社会組織、そこに属する人間の心情など、そういった人間活動が、リアリティをもっていないと感じるということ。

それは、作者の限界でもあるし、作品をありがたがる読者層の限界なんだと感じた。

あとは、作中の人類が持つテクノロジーと、巨人の強さのバランスも気になった。巨人の手足を吹っ飛ばして一時的に動きを制限させることができるような大砲を持っているのなら、もっと戦術的に戦えば、巨人なんてそんな脅威じゃない気がする。

『進撃～』のそれはあくまで「少年マンガ」レベルの人間観だし、あれを凄いと思う頭脳の読者であれば、おそらく、司馬遼太郎や塩野七生などを読んだこともないし、読むこともできないレベルなんだと思われる。

多くのファンがいることは承知しているが、それはそのまま、多くの人類が「少年マンガ」レベルの頭しか持っていないことの現れだと思う。

なんというか、あまり悪口ばかりでは後味が悪いから、最近読んだ漫画で素晴らしかったものがあることを触れておく。

『寄生獣』の岩明均が書いている『ヒストリエ』は本当に素晴らしい。

見事にわれわれとは全く違う文化のヘレニズム世界を描いていると思う。

「文化がちが～う」という作中のお決まりのセリフとか、「(出張であって)観光ではないんだからね」というシーンとか、言文一致というか、あくまで今の日本人の言葉使いや考え方を、当時の時代背景に当てはめるという挑戦的試みがなされている。

これはジョーク的な要素があるのは承知しているし、手塚治虫もこのような表現を好んでいたことも知っている。

『ヒストリエ』があらためてすごいと思ったのは、この技法により一層、現代と当時の文化や考えの違いを対比し、浮き彫りにすることができるという点に気づかされたことだ。

マンガの新しい活用方法が開拓されたと言ってもいいと思う。

これについては、文学論として、また時間があれば掘り下げたいと思う。

という感じ。



今回はやっと、というか、珍しく、ある意味走りすぎた U を俺が引きとめる役だね。とはいえ、特に異論はない。ただファンの多い作品だけに、恨まれそうな部分だけはフォローしとこう。

まず「司馬遼太郎や塩野七生」のくだりは、さすがに言い過ぎだと思うよ。そっちも好きで、『進撃～』もフィクションとして楽しんでる人もたくさんいると思う。あるいは同じ本を読んでも読解力に差があったり、そもそも読書から得ている量や質が人によって全然違ったりする。「みんな違ってみんないい」のが世の中なんですよ。だから、人それぞれ楽しみ方はあるだろうし。

確かに『ドラゴンボール』とか『キン肉マン』に細かい理屈を求めても無駄なように、巨人もちょっと深刻なサイヤ人とか悪魔超人の類だと考えれば、納得もしやすい気がする。悟空もキン肉マンも巨大化した時期あったしね。

「人間活動が、リアリティをもっていない」って部分は、最近のフィクションに対して俺も感じることが多い。『進撃～』は初めから、コスプレとかエヴァとかオタク文化を意識していると俺は感じるから、内輪ウケ同人誌ノリの「文化内文化」って雰囲気もあると思う。

一般論だけど、食事でも脂肪やタンパク質や炭水化物その他をバランスよく摂取するのが大事ってのはよく聞く話で。今の文化は「脂肪好きには直脂肪」みたいな、複雑な味わいの機微よりもわかりやすい甘みと柔らかさ重視で咀嚼力を必要としない感じがする。世界観のリアリティより先に、とりあえずダンジョンありき、妹ありき、モンスターありき、中世っぽい雰囲気ありきみたいな、萌えマーケティングに乗っかってる感じ。

ただ『進撃～』はそれだけじゃない、広く世間に訴えかける深刻さもあるからメディアミックスに成功したんだろう。でも完結しないうちにアニメに実写に CM にスピンオフにやると、原作がどんどん薄まって巨人も矮小化しちゃう気がする。

この話でちょっと感じるのは、今この国では例えば「中が脅威だから集団的自衛権で歯止めを」ってやってるけど、集団的自衛権が実際どんな意味を持つのか、それこそ人間活動のリアリティを真剣に想像すべき場面だと思う。

今でも経済を優先して中を泳がせてる米が、この国の曖昧な集団的自衛権をどんだけありがたがるのか、「やった！ 素晴らしく力強い後ろ盾を得た。これで鬼に金棒、皆殺しだ！」って、本気で中を抑える、なんなら米中戦争も辞さないみたいなリアリティを、どんだけ想像できるかって話だ。

俺の感じるリアリティとしては、集団的自衛権で中を抑える効果は限定的で、ただ米のために地雷掃海やら後方支援やら露払いさせてくださいって頭下げてるんだなって、誇張せず思うけどね。『進撃～』で満足する想像力がもしかすると、この国に幻の巨人を招いているのかも、なんて俺の方こそ言いすぎた妄想だね！

『ヒストリエ』は本当に面白いね。U の指摘もすごく新鮮だった。「文化がちが～う」っていい言葉だなんて思ってたんだけど、確かに現代の言葉だね、なるほど。岩明均はいつも、あのおとぼけ感と残酷さのバランスで絶妙なリアリティを醸してるんだと思う。

ちなみにテレビでも、以前は各国の文化の違いを純粹に楽しんで理解しようとする余裕があったと思うんだけど。前にも書いたけど今はネットが普及することで自分の文化が標準って押し付けが世界各国にあるから、文化の違いを優劣で判断して近代化と民主化の波が世界を席卷してる。地方都市が平板化して特色を失いシャッター街になっちゃうように、原住民もみんな服着てる時代だしね。文化の違いよりもこの国の優越性を誇示しようとする番組が多いっぽいのもそういう流れなんだろう。テレビはほとんど観てないけど。

ちなみに俺が最近ハマったのは深夜の『怪奇恋愛大作戦』だね。ホラーを下敷きにしたおバカコメディなんだけど、吸血鬼の回とかここ数年で一番笑えて本気でグッと来たドラマだった。『天誅』を半笑いで観てた自分が恥ずかしい。

今回はこんな感じ。すごい大人しめ。

どうかな？





考

ウ

え

カ マ る

弦楽器イルカ  + 友人

相原コージ『Z』ってゾンビ漫画と、押井守『世界の半分を怒らせる』って本を読んで、今回「はみだしウマシカさん 番外編」を書こうと決めた。

二人とも尊敬する素晴らしい作家で昔から大好きだし、どちらも自分の考えた言葉で、たとえば原発事故が起こった後にも続いている我々の日常などを誠実に語ってる。もちろん全部は納得できないし、自分ならこう考えるって部分もあるけど、その真摯さを見習いたいと思った。

別冊は「選択肢が一つしかないゲーム・ブック」を想定して書いた。「私は思い出す」という選択をして、次のページに進み、終わりからまた最初へループする。

できれば世界の誰も怒らせずに、様々な考えに寄り添う影になれたらいいと思うけど、実は想像以上に手厚く慈愛に満ちていたこの世界に気づいてないだけの、単なる無意味な勘違いであれと願う。

今回はそんな感じ。

それでは、思い出します。



別冊はみだしウマシカさん 番外編「私は思い出す」～表紙～

私は思い出す

子供が、甲状腺ガンの手術を受けた

会議で、リンパ節に転移した子供もいる、と言われた

会議で、肺に転移した子供もいる、と言われた

会議で、甲状腺がんが数十倍多い、と言われた

会議で、それは過剰診療のせいだ、と言われた

会議で、いや、過剰でなく適切な手術だ、と言われた

会議で、それでも遠隔転移した子供を早期発見、

早期治療できたことはメリット、と言われた

子供は、数十倍多い甲状腺ガンになり、手術を受けた

私は思い出す

私は思い出す

誰かが、やっぱり、自業自得だ、と言った

誰かが、やっぱり、どうして逃げなかったの？と言った

誰かが、やっぱり、可哀想だけど、自分の子じゃなくてよかった、と言った

誰かが、だから？いちいち騒ぐな、と言った

誰かが、だから？車に轢かれる子もたくさんいる、と言った

誰かが、だから？命に別状はないから心配するな、と言った

誰もが、やっぱり、だから？と言った

私は思い出す

私は思い出す

子供は、手術を受け、死なずに生きている

子供はただ、癌になって、手術して、

やっぱり、でもなく、だから？でもなく、

ただ私やあなたと同じ今日を、

生きるために、

生きている

私は思い出す

私は思い出す

放射線の影響は、実はニコニコ笑っている人にはきませ
ん、と講演で言った人が、

別の会議で、国際的には最大の実験場という見方が
ある、と言ったそうだが

私は思い出す

私は思い出す

子供を守れなかった、と思う親がいる

私のせいだ、と思う親がいる

あの時逃げていれば、あの時違う食べ物を与えていれば、と思う親がいる

いや、私のせいじゃない、国のせいだ、と思う親がいる

逃げられなかった、仕方なかった、と思う親がいる

誰のせいでもない、国が悪いんでもない、と思う親がいる

でも、やはり、私のせいだ、と思う親がいる

私は思い出す

私は思い出す

子供が何かを考えている

どうして自分が甲状腺がんになったのか、考えている
のかもしれない

どうして手術したのか、考えているのかもしれない

誰のせいなのか、大人のせいなのか、考えているのかも
しれない

自分が悪いのか、誰も悪くなかったのか、考えているの
かもしれない

これからどう生きるのか、考えているのかもしれない

幸福について、考えているのかもしれない

何も考えたくない、考えているのかもしれない

子供は何かを考えていて、その声は聴こえない

私は思い出す

私は思い出す

誰もが自分に一生懸命だろう

お金を儲けるのに必死だろう

恋が実って結婚したいんだろう

ただ笑うことで、何かを忘れたいんだろう

私がそうであるように

未来を殺す痛みを、知っている子供がいる

感情を殺す痛みを、知っている子供がいる

漠然とだけれど、平凡な未来を夢見ていた

たくさんの感情が自然と沸き上がった

それを殺したとき、目に見える血はなく、

ただ痛みだけが、体中をかけ巡った

私は思い出す

私は思い出す

名前を持たない大勢の一人として、

日々を受け入れ、

誰かと同じように笑い、

夜が来ればただ眠るだけの日々があったことを、

今も、子供が甲状腺ガンになっていることを、

私は思い出す



第二十六回

『賢者の愛』と「ネトウハ♥」の逆襲

考え



右も左も

信者の収穫祭

シン パ

今回はUを褒める。コンセプト通り気味の悪いなめ合いで、「靴をなめれば足指まで」のつもりだから、くすぐったくてもじっとしててください。

まず『火花』くらいの処女作でわざと又吉に受賞させ、盛り上がる世間に向け「又吉君が羨ましい♡」とか会見したりして、若い頃にさんざ自分を叩いたマスコミや自分がとれなかった芥川賞に、数十年来の復讐を果たしてるんじゃないかな、山田詠美は。

って裏の裏を勘ぐるくらい、山田詠美の『賢者の愛』が俺には面白かった。人間の性（せい／さが）と業をめぐる話なんだけど、沖縄の壕（ガマ）並みに底深く掘り下げられてた。

『火花』の輝きが俺にとって「★★★」だとしたら、『賢者の愛』は「横綱級」だね。同じ純文学でも戦う「土俵」からして全くの別物だった。卑近な例えをすれば、『火花』の「お笑い」に関する説教は俺にとって、「自腹の飲み会でじっくりこない長説教に付き合わされた」感じだったけど、『賢者の愛』の「性愛」に関する説教は、「納得できない箇所もあるけど妙に引き込まれちゃう下ネタ」って感じだった。

ちなみにどっちの作品も巷では「★★★」くらいの評価だけど、もちろん売り上げや注目度には雲泥の差がある。

（特に悲観するワケではなく単に事実として「時代は軽くなる」以上、新品の本を購入して読む層は今後も減少し、話題に加わるための情報ツールとしてたまにブームの本を購入する層が増えるだろう。「芥川賞のもう一人の受賞者は全然売れてない」という事実が、それを如実に物語っている。本というメディアは「基本的には売れない嗜好品でマニア向けだが、たまに当たると一般層も購入して市場が増える」という認識が常識化しつつある）

そんな『火花』フィーバーを巻き起こした当事者の一人として、浮かれる世間を冷ややかにほくそ笑む山田詠美。まさか穿ち過ぎだろうし本人は至って嬉しそうだけど、あながち書きすぎたとは思ってない。『賢者の愛』を読めば、これでもまだ甘っちょろい表現で「エイミー関」にむしろ失礼だと気づくよ。さすが横綱。さてここまで、ものすごく誰の役にも立たない宣伝を試してみました。

ちなみにあえて例えにふさわしくない沖縄のガマを引き合いに出したのは、最近「島唄」の歌詞に込められた想いを知ったから。「集団自決」はしたくないと改めて思った。いちいち強制か自主的か、侵略か自衛か、左右の議論はどうでもいい。とにかく俺は絶対「集団自決」はしたくないから、各方向に向けて黙祷を捧げると共に、どうすれば俺が「集団自決」しないですむかを考えた。

その結果、Uみたいな生き方が最も適切だと感じた。努力して自分の腕一本で世界を渡り歩ける実力を身につければ、有事の際は自分で、戦うか逃げるかを選択できるから。今回はこの流れね。

俺にとって最近の安保に関する左右の論争は、各左派団体や、各宗教右派等が信者を獲得するための単なる祭りに見える。左右で叩き合ってお互いストレス発散する、力道山のプロレスに熱狂してた時代と一緒だ。

そもそも安保自体が中途半端な法案で、これじゃ米も喜びにくいし、中にも影響力がない。せいぜいこの国の権力者のために、貧乏人が命を危険に晒すってだけの法案だ。中国高官の話で（嘘かもしれんが）「むしろこのまま対米従属で、日が米の保護下にいたほうが、日中間よりも米中間のほうが対話がスムーズだから好ましい」って記事も読んだ。この国は未だに「黒船に向けて届かない大砲をちゅどーんと撃ってた鎖国時代と進歩ない」ってこれ、『稲中』の知識だけで書いてる俺もどうかと思うけど。

俺がここまで突っ込んで書くには理由がある。

なぜなら今まで「中のバブルはすぐ崩壊」「中の軍艦は泥船、戦闘機は紙飛行機」「この国の某J隊は最強。他

国を一瞬で撃破」って豪語してた右の層が急に、「この国は超少子高齢化で産業も衰退しており、某 J 隊も実戦経験なく弱い。絶対に中に勝てない。だから安保で米に頼るしかない」って禁断の麻薬みたいな論理に手を染め出したから。

「中に勝てないのに、それでも敵対するのが唯一の道」って論理がまず破たんしていると俺は思う。更に「媚びへつらって属国になるのもイヤ。核武装して一発逆転の戦争仕掛けるのもイヤ。前線の捨て駒として徴兵されるのもイヤ。とにかく大国に頼るしか策がない弱い国」は一般論で言うと、各方面から金をむしり取られたあと捨てられるだろう。

更に一般論で言えば、ほっといても超少子高齢化で自滅する弱い国を、わざわざ戦争というリスクを冒してまで占領しようという考えも「逆お花畑」だろう。この国が自然と衰退するのを中はじっと傍観していれば、そのうち手中に収まるか、眼中に入らないくらい小さな島国となるのに、ムリに戦争仕掛けて米を刺激したいワケがないし、米としてもこの弱い国のために中と全面戦争するメリットもない。それが今の世界情勢だと右の層も認め出した。

今更「やっぱ中のバブル崩壊は必至で、中こそが弱い国だから安保いらぬ」とも言えないしね。右も左もどんでんだけ自虐的なんで話だよ。

(ちなみに、「安全はタダじゃないから、貧乏人は権力者のために血を流せ」って考えもあるけど、この国は番犬である米に金と尊厳を貢ぐって昔から決めて来たはずだ。極論すれば、資本主義や納税の犠牲になって自殺した社会人はみんな、この国の安全のために血を流したとも言える。企業戦争で生じた税金で、この国は米から安全を買って来たから。おもっしし超訳／跳躍だけど)

マスコミも含め利益でしか人は動かないのが資本主義だから、利益や信仰ではなく平等のために、自分で考えて主張する若者の姿勢は尊重したい。ただ集団の論理に絡め取られてお互い叩き合うのが目的となってる間に、権力者は粛々と法案を決め自分の給料や取り分を増やしていく。

政治家の平均年収が 150 万増えたとか、国家公務員でも 5 万くらい増えたとかって報道もあった。これこそアベノミクスの成果だけど、大して注目もされない。結局、政治や他人に期待したところで俺や U みたいな貧乏人の年収が自然と 150 万上がるワケがない、よね？ 権力者は自分らだけのために都合よく、責任取らずに利益だけ得る仕組みを順調に構築してる。そのための安保だ。「戦争法案」っていうより「ネトウハ▽法案」だよ。

「ネトウハ▽」って俺が以前書いた定義だけど、実はここまで踏み込んで書くのにも理由がある。

「中ウハ▽」議員が憲法の三大原則と言われる「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を堂々と否定するブログを昔書いてて、最近「戦争に行きたくないのは利己的」って呟いた件だ。この「中ウハ▽」議員は宗教右派とのつながりもやはり堂々と公言していて、結局受け売りの主張だった。

つまり、国民や「巻ウハ▽」の多くが「まさか」と笑ってるうちに、党を越えて国会議員にも深く食い込んでる宗教右派は、本気で 3 大原則を改憲して国民を奴隷化する気だ。ここは全然冗談じゃない。だって権力者の側はマジだから。ブラックジョークにもならない。

原発作業員のピンハネももはや話題にさえならない。福島の子供の甲状腺癌に関する補助金も 900 人～1000 人で見込まれてるけど、この数字が多いのか少ないのか、そもそも何を意味した数字なのかも議論にならない。「戦争反対」もいいが「ネトウハ▽反対」で一刻も早く団結しないと、国民は普通に奴隷化され、有事にはガマに追い込まれる。最悪、権力者は自分が脱出するための「ドリル」を持っていて、一人分の穴を開けて逃げられる。貧乏人を見殺しにする権力者の卑怯な「ドリル」に対して、国民は追及する力もない。

これが俺から見えるこの国の歪んだ現実だ。俺も現実もどっちも歪んでるから、もしかしたら逆に整った世界なのかもしれない。それにこの地球上では、飢えて死ぬ赤ん坊だってたくさんいる。そういう国に生まれなかつただけ幸運、と考えることもできる。

デモは否定しないが、それよりも U のように、外国語を学び、自分に実力をつけるために勉強し、学生は成績、社会人は実績を伸ばす努力をすれば、この国が有事になったら自分の実力で海外に逃亡できる。それが一番賢いセレブのやり方だ。本書いたりテレビに出るような人々もだいたいこの流れだろう。

貧乏人が権力者の集団を信用しても、いいように利用されて終わりだ。

今回はこんな感じ。

U の生き方を知らん人も、『火花』や安保に浮かれてないでもっと見習うべきだ。U は本でも書いてみたら？
かく言う俺も大して見習えてないけどさ。

さて、どうかな？



唐突だけど、前から自分のなかで疑問だったことについて、自分なりの答えが出せたので、まずはそこから。その疑問とは、どうして人は意見が食い違うものなのか？

原発の問題、安保法案の問題など、ある人は賛成、ある人は反対と、真逆の意見がでてくるのはなぜなのか？というもの。

自分の答えは、未来はあまりにも複雑で予想が難しい。しかし、未来の為に何か行動しなければならないし、そのためにあまりにも不確定なことについても、暫定的に Yes や No と決めなければならないから。

なんか当たり前すぎてつまらないけど、そうなんだと思う。時間は限られているので、真の答えがでるまで何もしないわけにいかず、暫定的であれ答えを求めるしかないということにあると思う。

これが人間の生き方だし、社会はこれの上に成り立っていると思う。

ところで、戦争反対と叫んでいる人たちにとっては、戦争は最悪の状況であり、自分たちが戦争をしようと思わなければ、戦争は起きないものだと思っていると思う。

でも僕は違うと思う。

戦争は最悪の状況ではないということと、戦争にもいろいろな段階があるということ、これらの点について主張をしたい。

中国が日本を攻めてくるはずがないという考えは本当に正しいだろうか？

日本はある程度強いので、今は想像しにくいかもしれないが、中国は弱いものにさんざん食いついてきている。

チベットやウイグル族もそうだし、台湾もそう。中国は力を武器に、弱いものを支配しようとしている。

たとえば、チベットのラサ駅の前には遊園地ができてることを皆知らないだろう。

僕はそれを生で見てきた。あればほんと最悪だと思う。チベット仏教の尊厳を完全に無視している。

命よりも大事な聖地に、観覧車が作られているんだから、熱心なチベット仏教徒が抵抗するのは当たり前だ。

話を急ぐ。

中国がこの後、どういう動きをするのか、非常にわかりにくいので、日本は力をつけていったほうが良いと思う。

もし、日本が中国化して、今の中国と同じような生活をして構わないというのであれば、何も中国に逆らう必要はない。吸収されて、中国の一部になればいい。

でも、多くの日本人はそれを望まないし、安部さんはそういう日本人のリーダーだ。中国の一部になるくらいなら、死ぬ気で抵抗したほうがマシって考えだろう。

日本には日本的な精神と伝統があり、それは命をかけて守られてきた。

それを簡単に放棄しても構わないと思う人もいるかもしれない。

それはそれでひとつの価値観だが、「日本国」がそういう考えでないのは当然だ。

なぜなら守るべきものを守ってきたからこそ日本があるからだ。

そうでなければ、すでに日本は存在していないはずだ。

これが一点目。

二点目。

戦争といっても、即全面戦争、即核戦争になるわけではないということも忘れてはいけない。

日本が踏みにじられるくらいなら戦うぞ、ということが前提だが、全面戦争を避けるために、局地戦を有利に

戦う、核戦争を避けるために、局地戦を素早く片付ける、という考え方もあるはずだ。

たとえば、アルカイダが勢力を拡大する前に、ウサマ・ビンラディンを殺害したのも局地戦だと思う。

局地戦は、全面戦争を避けるための止むを得ない手段だと思う。

日本にとっての戦争とは、70年前の全面戦争をイメージしがちだが、実際に世界で起きている戦争は、全面戦争とは違う。

戦争反対と叫んでいる人たちは、「戦争」をひとくくりに考えていないだろうか？

最悪の全面戦争を避けるために、有利に局地戦争をすることもあるし、局地戦争の実力を身につけることも重要だ と思う。

また、米国には非常に優秀な特殊部隊がいる。

日本の自衛隊はそのエリート部隊と共同訓練を重ねている。

安保法案についていえば、米国のいいなりという側面もあるが、非常に軍事力の強い米国を味方につけるといふことは、日本の戦力という観点からは重要なことだと思う。

ここでいう戦力とは何も全面戦争だけの話ではない。

局地戦を圧倒的な力で勝利するのも平和のためだ。

あとは抑止力というものがある。

中国との戦争に勝てるか負けるかという観点だけでは語れない。

戦争を起こす気にさせないための力が必要だし、中国が強くなればなるほど、より強い力が求められる。

生々しい人間や社会は「力」で動いている。

論理や理屈だけ成り立っているわけではない。

そこが見えないアマちゃんが、戦争反対と叫んでいると思う。

とりあえず、乱暴な意見かもしれないが、戦争反対という人たちに向けて、自分の考えを荒っぽく書いてみた。



東村アキコ『かくかくしかじか』って自伝エッセイ漫画が面白かった。破天荒な絵の先生を師と仰ぐ作者の自伝で、破天荒な先輩芸人を師と仰ぐ後輩芸人の小説とも若干かぶるんだけど、この漫画のほうが断然文学だなあ、俺にとっては。共感や切なさの質が全然違う。どっちも映像化されそうだから、比較しても面白いかもね。

さてさてまずまず、意見の食い違いについてだけど、それぞれ育ってきた環境が違うから、好き嫌いはイネメナイ。つまりは単純に『セロリ』なのさ。

ましてや立場があるから、すれ違いもしょうがない。今、この国の左右の争いには、左派系団体と宗教右派等が絡んでる事実があるよね。集団の論理や金儲けのためにイデオロギー対立が利用されてる。

更に立場に関連した話で前から書きたかったんだが、「人は自分に関係ない悪口をウダウダ語りたい」って暗黒面があるよ。

Uは自分の結論を当たり前すぎてつまらないって書いたけど、核心は常に当たり前すぎてつまらないんじゃないかな。「時代は軽くなる」とかね。

俺もずっと、「結局自分の身は自分で守るしかなくて、努力して自分に実をつけて自己実現するしかない」って当たり前のつまらない結論を書いてきた。でもその逆は「自分は一切努力せず、自分とは関係ない他人事についてグダグダ悪口をこねる」だよ。なぜなら楽だから。

そして更に人間には「自分が不幸なら他人も不幸になれ」と願う暗黒面もある。もちろん個人差があるけど、他人の不幸を願い続けて遂には殺人を起こす人もいる。

これは俺自身に対する戒めでもあるんだけど、有名人がネットの書き込みに対して「何も努力しない奴が、努力する人の悪口言うな」って意見するけど、それは無理だって思う。

「何もせずに悪口しか言わない、努力しないネット民」にとっては、悪口だけがこの世という地獄を生きる精いっぱい自己実現なんだよ。コネも金も実力も努力も運も外見も中身も成功も何も手に出来ない立場のネット民は、悲しい哉、悪口で鬱憤を晴らすしか今日を生きる糧がない。働き蟻と一緒に、そういうダメなネット民がいるから、コネも金も実力も努力も運も外見も中身も成功も兼ね備えた有名人が目立つんだよ。

弱肉強食の世界で、飢餓で子供が死ぬ国から搾取して富を得る国があるように、失敗者がいるから成功者は輝ける。のび太がいるからジャイアンは鬱憤を晴らせる。思いやり予算やら治外法権やらで米軍は駐留できる。

失敗者であるネット民は自分を含めた世界を死ぬまで恨み節るだろう。自分が明日どう努力すれば成功するかという、現実的な話題では解決しないストレスを、自分とは直接関係ない、解のない左右の争いに放擲して誤魔化す。そういう発散も確かに文化の一つの効用だから、そもそも進展するはずがない議論だって場合もある。

そういう争うための争いに対する正当な解はたぶん、とにかく自分だけは明日の自己実現のために頑張るしかないって、ごくごく当たり前の結論だろう。

あと弱いものを食い物にするのは、世の常でしょ。中がチベットにひどいことしてるのは知ってたけど、遊園地は知らなかった。ただ人によっては、「沖縄の米軍基地だってよほどひどいじゃないか」って言うと思うよ。

安保については少なくとも、米側のレポートを忠実になぞった法案だって事実があるよね。宗教右派と、左派系団体と、対米従属等について語ると問題が多いから、メディアは大抵そこを避けて語るけど、俺らみたいな素人の「うまうましかじか」がそこを知らながら議論を避ける理由はない。

ちなみに最近、中のバブルはすぐ崩壊して米は一強覇権国として君臨し続けるから、結局この国は安保で対米従属しか生き残る道はないって記事も読んだ。この国は結局中と米、どっちかの属国になるしか選べない自虐史観の国なのかね。

あと、Uの意見で根拠がない部分だから以下は明確に否定する。

「中の一部になるくらいなら、死ぬ気で抵抗したほうがマシ」って考える権力者は、この国にはいない。もしこの国がホントに中の一部になったら、権力者は間違いなく中に媚び売って自己保身に走るね。今までだって対米従属による自己保身のみで、五輪でも原発でも年金でも責任を一切取らないこの国の権力者が、どんな場合でも宗主国に抵抗なんて破滅を選ぶワケがない。

Uは、それこそ憲法の三大原則を否定する議員の「未公開株釈明会見」じゃないけど、自分が根拠もなく権力者に期待しすぎるお人よしで、支持者にご迷惑おかけし申し訳ありません、今後は皆様のご意見をうかがい再出馬をゴニョゴニョって釈明会見してもいいんじゃないかな。この国の権力者になれるのは、自己保身のためなら象徴だって簡単に差し出す人種だけだよ。

それにこの国を守るって言うけど、この国で一番強い権力を持つてるのは、対米従属の金持ち老人だよ。「米の若者が血を流しているから、この国の若者も血を流さなければいけない」って主張するのも、自分は血を流さない立場の老人だよ。

つまり貧乏人の若者が金持ち老人のために血を流すのが現実であり、安保だよ。安保で維持されるのは、対米従属の金持ち老人の権力構造であり、良くも悪くもそれ以上の意味はない法案だと俺は思ってる。

最後に抑止力についてだけど、この法案は中途半端で、抑止力には足りないと俺は思うね。米側が望んでるのは、某J隊員は前線で米兵の弾除け要員になれって法案でしょ。でもそんなの通したら首相の支持率が永遠のゼロになっちゃうから、法案にたくさん歯止めを設けてる。せいぜい「貧乏人の流血以上、戦争未満法案」じゃないかなあ。

でも後方支援程度の貢献じゃ、実際に日中で小競り合いが始まっても、本当に米が日側につくかもあやしいと俺は思う。

というワケで俺の考えをまとめると、この国は今後、右肩上がり成長を続けるような見込みも市場もないから、このまま衰退していくと考えるのが最も現実的だろう。

だから国内市場のパイが減少する今、現実を一番理解してる権力者たちは自分の取り分を減らさぬよう、貧富の差を拡大させる政策を出し続けてる。今後、中華バブル崩壊以外にもシェールガスやら年金やら派遣やら雇用やらの崩壊が現実化しても、権力者だけは生き残れるようにね。

俺の考えでは、左右の争いも所詮、権力者によるただの時間稼ぎだろう。

更にUが指摘した非人道的な遊園地は、つまり米と争いにならない範囲で中が属国扱いで建てたものだろう。同様に尖閣問題やら東京の不動産買い占めやら、中は今後も日米と全面戦争にならない範囲で、物理的、経済的に圧力をかけてくるだろう。

それに対して、中のバブルが今後崩壊するにしろ維持されるにしろ、この安保には中の繁栄を阻んだり逆に促進したりする効力は、もちろんない。ただ米にコネのある権力者が、貧乏人の命を危険にさらして自己保身するためにある法案だって結論だよ。

さて、今回はこんな感じなんだけど、これじゃちょっと足りないな。

もう少し続くよ。



最近、新旧の『ドラえもん』を見比べる機会があって、やっぱ昔の『ドラえもん』は表現も言葉づかいも荒っぽくて、ジャイアンがいじめものび太の報復も強烈だった。

そこでいろいろ考えた結論から書くけど、のび太は子供時代のF先生を投影したキャラクターであり、いじめられっ子が感情移入して、いじめっこを返り討ちにする爽快感や、明日を生きる元気や勇気、それにちょっとしたアイデアやアクションのヒントを授けてくれる、それが『ドラえもん』の最も重要な魅力だろう。

未来の道具やドラえもんとの友情、のび太の成長も大事だけど、いじめに負けたくないという子供たちの共通した思いがあるから、世代を超えてこれだけ世界中に広まったんだと俺は思う。

だから、「のび太が可哀想。いじめを助長する」って理由で、ジャイアンがのび太をいじめる回だけ放送しない国もあるってネットで見たけど、それは仏作って魂入れずであり、猫型ロボット作ってドラえもん入れず、だと俺は思う。

文化に対する抗議って超要約すると「可哀想」「助長する」って形にまとまる気がするけど、それでは実際、アニメの中でジャイアンがいじめをやめたとして、現実のいじめがなくなるか。答えは簡単だ。ジャイアンがいじめる前からいじめはあった。そしてジャイアンがいじめをやめたからといって、現実のいじめは当然なくなる。文化が自粛／萎縮して表現をやめたら、問題を無視して現実から離れるだけだ。

子供時代のF先生と同じいじめられっ子がのび太に共感し、明日を生きる元気や勇気、アイデアやアクションのヒントを得て欲しいという思いで、F先生は『ドラえもん』を描いたはずだ。

子供時代のF先生は何をしてもダメで、漫画だけが生きがだったそうだ。そういうダメな子供にとって『ドラえもん』は逃げ道の一つであり、文化の重要な役割の一つだと俺は思う。

現実のいじめを描かなければいじめられっこは無視されたままで、現実には届かない単なる空想には、共感を呼ぶ魅力はない。

つまり今、福島の公的な会議では結局「小児甲状腺ガンが過剰に発生してるのは間違いない」「ただ、過剰に診断・治療され、実際は手術しなくても大丈夫な小児が手術されている」「もちろん手術は全例、過剰診療ではなく適切に実施されているが、今後どのくらい症例が増えたら異常かも含めて検討したいので、研究を続けたい」「そのためには、被曝による甲状腺ガンの過剰発生は考えにくいという表現はやめて、被曝による可能性は小さいが否定できない、という言い方に変えよう」「今後も過剰診断かどうかの結論は出ないだろう」「甲状腺ガンになった小児一人一人を今後も調査するが、被曝との因果関係については不明で、どこまで調べても結論は出ない」って結論になった。

過剰発生である点や結論が出ない結論である点も含めて、この国では自分で調べにいかないかぎり無視され、ほとんど何も報道されなくなった。

福島の公的な会議や世界の学会にも出席した岡山大の疫学教授の話じゃ、「甲状腺ガンの多発はスクリーニングでは説明できないほど速く異常だけど、中国も日本も同じアジアだから、国体のために国民がないがしろにされても仕方ないって世界から思われてる」 そうだよ。

とっくの昔にこの国は中化しちゃってるっちゅうかな。そういうオチです。

どうかな？



考え



世紀初頭先パイ伝説



弦楽器イルカ⇒友人

今さらだけど、春樹がエルサレム賞を獲った時の「卵」のスピーチを読んで、すごくいいなと改めて思った。ただノーベル賞騒ぎもそうなんだけど、「同じ国の人間として誇りに思う」って簡単には言いたくない。兄弟や親せきならまだしも、たまたま同じ国生まれの一億二千分の一ってだけで、俺なんかの誇りにされたら春樹もやれやれだよ、きっと。「僕」のふんどしで相撲取りすぎな「ウマシカ」の日常が、切なくも物憂げに過ぎていく2015年の冬を描いたアレって、文庫の裏とかに書かれるはずだよ、きっと。

せめて（Uみたいに）海外で暮らしてて周りから「春樹と同じ国だね」ってフリがあって、「彼を誇りに思う」って文脈ならまだわかるけどね。テレビの人らは何でも派手に目立つことで何らかの利益を得たいだけだと思う。もちろんハロウィン騒ぎと同じで、したい人はすればいいけど、俺には関係ない。

さて、卵のメタファーにはいろんな意味があるって春樹は言ってる。弱い個人が権力に殺されるって意味。我々は誰しもが卵で、尊厳ある魂を殻の中に持ってるって意味。

そして春樹は、たとえ間違っても自分は常に卵（=個人）の側に立つ、逆にどんな国も支持しないって言ってる。これはもちろん生まれた国も含め世界中どの国も、そしてたぶん組織も支持しないって意味だろうと俺は受け取った。二人以上の組織は極論すればすべてシステムとなり、壁の側になる可能性があるからだ。

つまりこれは政治問題だけをどうこう言ってんじゃないはずだ。もちろんイスラエルは壁の側で、パレスチナは卵の側って構図はある。イスラエル側もこのメタファーを歓迎はしないだろうから、わざわざ呼ばれた先で物議を醸すようなスピーチをする春樹の公平さを評価したい気持ちはある。でもそれも単純な考えかなって思う。

この世界に、絶対的な善悪や正誤は存在しない。無差別殺人するテロリストにも大義面分があり支え合う家族もいたりするし、純粋そうなアイドルだって恋愛坊主する。

人々は便宜的な優しさと残酷さの間で日々選択しながら行動して生きてる。もちろん完璧じゃないから、何らかの壁にも突き当たるだろう。それが人間だ。

春樹にとって重要なのは善悪や正誤じゃない。人間を描くことだ。一人一人に宿る魂の尊厳を認め、個々人が壁と対峙する様を深くえぐるのが作家だと俺は受け取った。

作家としての核心であり、ある意味では業だと思う。

んで、この話には続きがある。

このスピーチをとある有名人らが揶揄してる古い記事をネットで読んで、逆批判ではなく、俺が書く意味について改めて考えた。

まず原稿料をもらって何かを揶揄する場合、「自分はバカにする相手がいなければご飯が食べられない人間です。例えるなら自分は、クソをバカにしながらクソにたからないと生きていけないハエです」って表明してるのと一緒だろう。もちろん自分がある意味ハエであるという自覚は誰しもが持ってるはずだ、よね？

また揶揄する相手が自分より圧倒的に強い権力者等の場合であれば、反骨的な批判精神を読者に評価されるかもしれない。でも自分よりも有名で売れてる作家一個人を揶揄し、更に「海外作家〇〇のスピーチと比べたら、春樹ごとき足元にも及ばない」ってやっちゃったらそれもう、「〇〇先パイの伝説知ってる？ やべえ、お前ごとき目じゃねえ」って無邪気なDQNと一緒にだろう。

もちろんその有名人らも面白い本を書く人格者なんだろうと皮肉じゃなく思うし、別に好きにしたらいい、ハエとして。

ただ同じハエでも俺は、揶揄するだけで自己実現を完成させるハエにはなりたくない。絶対的な善も悪もないと知りながら、自分の常識だけを絶対神の棚に祀って、物事を独善的に語りたくはない。

最近思ったんだけど、現実の生きにくさは「無知の知」と関係している気がする。

古代より厚顔無恥で馬耳東風の人々が世を牛耳り、「無知の知」を肝に銘じている人々は隅っこに追いやられていたはずだ。それなら毎月身銭切ってまでこの隅っこのスペースに甘んじてるのを嬉々として受け入れる俺だ、どうせやるなら「無評の評」でいきたい。

できる限り公平に、良し悪しではない俺なりの新しい物語を語りたい。もちろんそれは絶対でもなんでもないので、Uと議論して磨き上げていきたい。

というワケで前置きが長くなったけど、今回はUに問いかけて次への糸口を見つけ出せたらいいと思うので、よろしくをお願いします。

そこで早速なんだけど、50~100年後くらいの世界について、Uがどう考えるのか教えてほしい。

当然だが世界の権力者は、俺らみたいな一般庶民が入手できない機密情報を基に、今後の世界情勢を綿密に分析してるだろう。だから将来を見据えて政策を立案してるはずだし、この国は将来どうなるのか、どうしたいのかをできるだけ具体的に国民へ向けて提示すべきだと思う。でも俺にとってこの国の権力者は場当たりの説明ばかりで、具体的な将来像があんま伝わってこない。

Uも言ってた通り、将来がわからないから争いが起こるのならば、安保でも原発でも甲状腺でも白血病でも、テロでも戦争でも後方支援でも徴兵制でも、金融緩和でも官制相場でも地球温暖化でも年金破綻でも野球賭博でも何でも、将来どうなるか、将来どうしたいのかを一人一人が具体的に語り出せば、お互いの訂正点を指摘できたり、より建設的な議論ができるだろうと思う。そこで議論が深まれば、利権による報道規制やタブー視されてる情報ももっと明るみになるかもしれない。(ここでいろんなタブーっぽい情報について書きたかったけど、長くなるので割愛)

んで、俺が前から考えてたこの国の未来はだいたい以下のようなになる。

「この国は超高齢化、人口減少、格差拡大、そして労働力確保のための移民増が進み、金持ちは召使いを何人か抱えて高収入の暮らしをしている。一方、移民や貧乏人等が暮らすスラム街みたいなエリアも増え、居住区による治安格差も拡大する。輸入食料の増加による食料自給率の減少と、都市部への人口集中、地方農村の過疎化も進む。

更に内需の減少等もあり、世界の中でこの国の経済的地位や発信力は相対的に低下し、逆に市場の大きい大陸国(中露印等)の地位が相対的に向上する。それは過去に島国の英と大陸の米の地位が逆転した歴史と同じだと考える。そうなるとこの国は将来、大陸国の属国扱いになっている可能性もある」

皮肉や諦めではないし、「こうならないためにどうするか」とか「最悪の想定」とかでもなく、単に俺が合理的に妄想したらこうなる。

んでここからが本題だ。こういう妄想をする俺から見れば、この国の権力者は「徐々に衰退するこの国で、減少し続ける自分たちの利権をどうやって確保し続けていくか」という現実を見据えて政策を立案してるように思える。

つまり今は対米従属が最も得策だが、近い将来を見据えれば伸長する大陸国にもすり寄っておかないと置いてかれる可能性もある。むしろ大陸国の自然に伸び行く経済を無理やり叩くより、育つ方に金を払って恩を売り、これから生まれる利権を一足先に確保したいという思惑があるように思える。

もちろん各国の権力者たちは、自分→親族・友人→支持者等の順に利権を確保し、一般国民や敵対する勢力に利権のおこぼれはないだろう。汚職や隠ぺいが日常茶飯事の権力者が俺らみたいな貧乏人のために政治を行うとは思わないし、左右関係なく権力者の集団を信じるのは、恋愛しないアイドルの集団や、他民族を排除すれば問

題がすべて解決し幸福が実現する集団等を信じるのに近いと俺は思う。

ちなみに昔言ったことあるけど、じゃこの世で一番幸福な人って誰だか知ってるって、タケカワユキヒデだよ(断定)。才能があるおかげでゴダイゴで売れてリスペクトもされて、かといって自分を押し潰したり自殺したり薬漬けになるほど大きすぎる才能はなくて、かつその才能のほどほど具合に割と無自覚で、子供も養子もたくさんいて、売れない小説まで出版して、おまけに子供と一緒に人前で歌ってCDまで出してる。そんなタケカワユキヒデがJリーグ全盛の年に、「オーレーオレオレオレー！」に対抗する目的で野球協会に依頼されて作成した「ドンマイ MY フレンド」。これが幸福とは何かをすべて物語る、歴史に残る世紀の凡作だよ。幸福とは「ドンマイ MY フレンド」だって俺、学生の頃この定義しなかったっけ？ どうでもいいけど。

(ちなみに直近では米中対立のニュースがあるけど、従属のみで米に逆らえないこの国と比較すると、良くも悪くも米に物申すだけの力を中が持っている裏返しと取ることもできるだろう。

あと、株に年金突っ込むのは表向き株価を上昇させるためだが、「年金を年金のまま寝かせておくと国内の貧乏人がただ受け取るだけで、世界の金持ちには旨味がない。それより株に突っ込めば国内外の金持ちも手を出せるから、合法的に世界の金持ちに分配できる」システムだと俺は思う。突っ込んだ年金はいずれ市場から回収しなけりゃならんように思うが、回収すれば当然株価が下がるリスクが予想されるから、未来の内閣は誰もやりたがらないだろう。これこそ「ツケを将来に回すミクス」じゃないかと俺は思うが、語呂も悪いしまぁウマシカナ素人考えに違いない。)

今この世界に必要なのは、「僕の、私の、天下一未来予想図会」じゃないかと思う。自分の考える将来の世界像と、こうなってほしいと願う理想像を一人一人提示して、より現実的で理に適っている未来予想図は何かを比較検討すれば、そこから新しい「ア・イ・シ・テ・ル」のサインがつかまえられるんじゃないかな。

ん、オチてるか、これ？ まぁいいか、世紀初頭 ドンMY 伝説ってことで！

今回は書きたい情報ほぼ割愛したけど、長くなるのでこのへんで。

さて、どうかな？





考え



ウマシカ
(そういう類のアレが我々に一縷でも備わっていてほしい
という願望も含めての意味で)

頑張れ、文才

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

久し振りだね。

50年後、100年後の世界についてかあ。

そういえば、学生時代にも広告を作るために同じことを考えたね。

この件について言えば、ピケティの『21世紀の資本』が俊逸すぎて、何も書きたくないのがホンネだけれども、ひとりの生きる素人として、考えをまとめた。

50年前といえば、宇宙開発競争まっさかりで、まだ月面に人類は到達していないね。

原始的なコンピューターはあっただろうが、今なら3歳時のおもちゃ以下の性能しかないだろう。

そんな状況を踏まえて、今後の50年をイメージしてみる。むずかしいなあ。

技術力の進化で言ったら、現代人が想像できないものがいくつか登場しているはず。

おそらくは、介護問題についてはロボットで解決済だと思う。

そういう意味で、少子高齢化の心配はあまりしなくていいのではないかな。

ガンダムの世界みたいに、宇宙に進出くらいはしていると思うけどね。

50年後には、今の金持ちはほぼ死んでいるか、死んでいるのと変わらないだろうね。

自分たちが権力を維持するというよりは、相続をどうするかという問題が、公平不公平の問題の本質だと思う。50年単位で物事を考えるということは。

ピケティが指摘していたのは、相続税に関して言えば、過去200年間極めて平等な方向に進んでいるということ。昔は相続し放題だったので、今は随分平等な社会になったもんだよ。

そういうことだと思う。金持ちがより金持ちになっているというのが、ピケティの趣旨だけれども、彼はけっして、貧乏人が貧乏のままとは言っていないからね。

日本など先進国の地位は相対的に低下していく。これは間違いないだろうね。

ピケティの指摘のとおりだけれども、アジア、アフリカなどの国の経済水準は、どんどん高まっていくはずだよ。

戦後から今までのような、G8のようなトップエリート国が、世界を引っ張っていくというのは、これからはなさそう。

最近、パリでテロがあったので、いろいろ思うけど、個人的にはパリは大好きな街だ。

とくに、オルセー美術館とルーブル美術館が好きだ。

人類の精神の高さに感動するよ。

ゴッホとかさ、ベタだけど、生で見るとすごいんだよ。

日本人は印象派が好きだって言うけれど、僕も大好きだね。

深く青い暗闇と、どこまでも明るいカフェテラス。

何気ない日常なんだけれども、ゴッホと同じ目線で世界を見ると、何もかもが素敵に見えてしまうんだよ。

フランスの哲学者メルロ＝ポンティが言っていたよ。

画家は世界に身体を預ける。

絵画を鑑賞する人は、絵画を観るのではなく、絵画とともに観る。

フランス人の哲学は本当に深くて美しいね。

そんなフランスもテロの標的なんだよね。

これは当たり前のことだよ。過去数百年に渡り、どれだけ世界をいじめてきたか。

その仕返しをされているだけだね。やられて当然。

でも、個人的には、米国・ロシアの手を借りて、テロリスト集団の国をぶちのめして、テロリストを皆殺しにして欲しいけどね。

ここに善悪はもうないな。殺られたらやり返す。それしかない。

そこに平和は無いかもしれないけれども、今のところ最善策はそれしかないと思う。

もちろん、逆側の立場からすれば、そんなのは最悪なんだけれども、

逆側の立場の人も、戦うしか無いね。罪のない人々をなるべく多く殺るだけ。

フランスの対策は、そういう考えの人間をなるべく減らすことだね。殺るしか無い。

ほんとかどうかわからないけど、プーチンがカッコイイことを言っていた。

テロリストを地獄に送るかどうかは、神様しだい。

だが、テロリストを神様の元にするかどうかは、俺しだい。

それよりも、最近、山登りを始めたんだが、話題をこっちに変えるね。

登山はすごく楽しいよ。

まだ自分はそのレベルまで達していないけれども、さまざまな最新ギア（道具やウェア）をそろえて、ザックに衣食住すべてを詰め込んで、人々が生活していない領域、つまり高い山の上の方で、休日を過ごす。こんな楽しいことはない。

少しずつレベルアップしていくのも楽しんだよ。

はじめは晴れた日に 1000m 以下の山を登るだけ。

慣れてきたら、ゴアテックスのジャケットを用意して、雨が降って来ても安全に帰れるように準備する。

靴も防水、ザックの中身も防水。

もっと慣れてきたので、今は、地図を頼りに、ネットとかでは得られない情報だけを判断材料にして、未知の領域に一人で望む。

もちろん、今のところは、何も危険は無いんだけど、少しずつ、岩場とか、鎖場とかに慣れていく。

自分の体力と技術力を確かめながら、安全に行動できる範囲を広げていくんだ。

最近、ガスバーナーと食器セットを買ったよ。

まだ使ってないけど、文明のない所で、調理するのは最高だね。

ここ台湾では山と民家のキワみみたいなところも面白い。

山に登ると、民家が段々少なくなって、お墓が増えて、更に上に行くと、道も舗装されていなくて、けもの道みたいになっていくし、さらに上に行けば、草木もなくなっていく。

文明にどっぷり浸かっていると、わからないことも、ちょっと山に登るだけで体感できるよ。

もちろん、最新ギアに身を包んでいるから、文明に守られてはいるけどさ。

とにかく、車やバス、電気、パソコン、テレビ、スマホ、そういうのから、離れた生活が体験できるって、すばらしいよ。

自然と一体化した人間。風や雨の怖さ、どこまでも続く山海。

生の自然って本当にすごいんだよ。

山から降りてきて、舗装道路にバスやバイクなどがビュンビュン走っているのをみると、逆に都会の喧騒が不思議に思えるくらいだよ。

少し山に登るだけで、文明がほとんどなくなってしまうというのは面白いね。

世界最高のビルだって 1000m 以下の高さしか無い。

山で 1000m といったら、やっとなら低山とは言わないくらいのレベルだからね。

飛行機は発明したけれども、高いところで生活するというのはまだまだ。

まあ、なんというか、文明について深く考えるために、明日も山に登ってくるよ。

元気でね。



今回はUが羨ましい。いいのを出してきたね。嬉しく恨めしく悔しく妬ましい。略して羨ましい。そこでUにお伺いをたててみたい。ここはどうなの？ って思うところをいくつか。

まず、少子高齢化の問題。介護の人員不足は機械化で解消されるかもしれないね。ただ医療や介護問題は、機械費なり医療費をどう捻出するかが問題でしょう？ 高齢者が増えても税金は増えない上、年金や医療負担は増えるから。あと人口減は内需の減少につながる。だから少子化対策に一億活躍なんちゃらとやってるけど、この流れに本気で歯止めをかける気はないでしょう。

子供を産みたい社会ってつまり、総中流家庭の時代じゃない？ この国でもそういう時代がちょっと前まであったけど、これからは中流をなくして格差を拡大させないと、衰退するこの国で権力者たちは自分の取り分が減ってしまうから。

続いて俺が大好きな貧乏人の問題。確かに勉強やスポーツ、芸能等に秀でていれば大金持ちになれるチャンスはすごくあるよね。Uが好きなサッカーなんていい例だ。ただこれも格差拡大だと思うけど、一獲千金が一極集中化してると思う。極端に数十億稼ぐ人と、それ以外と。相続税が平等ってのがあんなら例えば投資とか、一般には公平な競争と言われているやり方で、合法的に自分たちの利権を確保するのがこれからの権力者のトレンドじゃないかな？

あとUが昔言ってた「子のつく娘は高学歴の家庭だから頭良くて、子がかからない娘は低学歴の家庭だから頭悪い」って本があったように、遺伝や世襲、家庭環境でスタート時のハンデはだいぶ違うよね。たとえば世襲で総理になった人いっぱいいるけど、その孫が将来落ちぶれて貧乏人になるって妄想はできない。今後も世襲は全面的な核戦争でもない限り継続されると俺は思う。

上記まとめて考えると、大金持ちの門戸は今後より狭く少数にのみ開かれる分、相対的に貧乏人の輪は深く広がって考えていることができそうだ。金持ちはより狭い利権を我が物にしようと必死だっていう俺の考えとも、矛盾しないしね。

最後にテロの問題。俺が思う一番の問題は、裏で誰がどう糸を引いてるのか、結局全然分からないことだと思う。甲状腺や白血病や原発云々と一緒に、報道が一面的になるよう統制されている。

例えばISの前身であるアルカイダはそもそもアメリカから武装化させたってのは、ウィキにも載ってる常識的な事実だしTVでも観た。また各国内にもいろんな派閥があり、戦争をやめたい人もいれば、戦争を続けたい人もいる。そして戦争で儲けるのはだいたい金持ち権力者で、前線で死ぬのはだいたい貧乏人だ。

結局そっから先、世界の金持ちがどうエグイことやってきてるかって話は、表の報道には出てこないから公平に判断できる材料に乏しい。または俺が公平だと思う情報もあるけど、それが全部かはわからない。

まあUが山で感じるように人間も自然の一部なのは当然で、つまり広い意味じゃ人間も自然と共に生きる野生動物の一種だから、弱肉強食で殺しに善悪はない。

上記まとめると結局、自分の身は自分で守るしかないっていつものオチになる。国が戦争に突っ込むなら一緒に突撃するか逃げ出せるのか、心の準備をしとかなきゃいけない。

おおむね衰退していくこの国でどう自己実現するのか。ここから改めて考えてみるよ。

今回はこんな感じ。ご協力ありがとう。さて、どうかな？





考

え

ア

書けばいいって
モンじゃないべき

弦楽器イルカ⇒友人

年末にちょっとだけ U と話した新しい物語はもう少し時間がかかりそうだから、今回はポエムだけ、はみだし掲載するよ。

いきなり話が飛ぶんだけど、裏金やら天下りで私腹を肥やす金持ち権力者が固定化され、貧富の差が拡大する中、女性や子供の貧困とか問題視されてるけど、今後は自分の身を自分で守るために、家や物や人間関係も含めて多人数でシェアするって考えがどんどん広まってくんだと思う。

極論すれば金持ちは豪邸に、貧乏人は長屋にって感じで。

数年前、坂口恭平の本を何冊か読んで、「ゼロ円通貨」の可能性について考えたことがある。前に言ったっけ？ 貨幣的には全く価値のない電子通貨で、一人につき 1 ゼロ円しか持てない。

例えば、いただき物とかお手伝いの御礼として、一回につき 1 ゼロ円を払う。

ただ、1 ゼロ円をもらった方は蓄積されず、1 ゼロ円のまま。

そして、1 ゼロ円払った方は新しい 1 ゼロ円が、ゼロ円国家から無限に補充される。

この貨幣の価値はお金じゃなくて、「A さんが B さんに何をしてあげたか」って履歴がネット上に保存されること（公開非公開は別として）。

誰かが誰かに何かをしてあげた奉仕の履歴がどんどん、ネット上の日本地図に、あるいは世界地図に→矢印となって無数に表示される。これがゼロ円通貨の価値。まあ似たような何かはきともうネット上にあるんだろうけどさ。

こういうシェアの考え方と、欲しい人とあげたい人がピンポイントで繋がるネットは、抜群に相性がいいと思う。

U、こういう仕組みつくっちゃいなよ？

って流れて話が更に飛ぶんだけど、三年前の「丸刈りの誕生」あたりから始まった俺らのやり取りが、三十回目にして一周した気がする。

「誰に向かって謝ってんの？」って違和感において、最近の芸能人の謝罪はあの時と同じ（冬の風の）臭いがした。

今後働かなくとも二生くらいは暮らしていけるだろう金持ち中年アイドルグループを可哀想とか心配しても、惨めなのはむしろ自分の方じゃない？ ブラックだ奴隷だって騒いでも、国を守ってる原発作業員等の本物のブラックさや待遇改善には誰も全く無関心じゃん。

やっぱ原発作業員も防護服でもっと歌って踊って作業しないと、世界に一つだけの花は咲かせられないのかな？

ってことで「ブラックフラワーチャレンジ」って企画を考えた。我こそは彼らよりも断然ブラックで奴隷ですって自覚ある猛者たちが、あの曲で踊る動画をアップして待遇改善を訴えるっていう。例えば介護とか育児とか風俗とか作業員とか（難民とか）の皆さんが顔隠すマスクでも付けて、あの曲で連携して踊ったら誰が本当のブラックなのか、みんな考えるんじゃないかな。

あと痴情のもつれで謝罪会見した女性芸能人の方は、色恋沙汰は犬も食わないし当事者が勝手に金で解決すべき。もちろん仕事として会見した以上、嘘がバレたら仕事上の制裁は受ける。ただそっから先、赤の他人にとっては「無評の評」であるはずべき。当事者以外当事者じゃないのに、他人が善悪語る不毛さは自覚すべき。

んでそんなことより俺がちょっと思いついたのは、あの人だったらどうしたかなってこと。

あ、あの人って HOTEI さんだよ、もちろん。

支えてくれた山下久美子をあっさり捨てながらの「さよなら永遠の恋人よ」って俺 (HOTEI) 一流の美学で歌い上げたかと思えば、返す刀で今井美樹には「あなたへの愛こそが私のプライド」って俺 (HOTEI) 一流のプロデュースで歌わせて大ヒットさせる才能と、面の皮の厚さね。

ここは一つ先輩を見習って『厚顔無恥もありあまる』ってタイトルでカバーシングルをプロデュースすべきでゲス。もちろん「プライド」のカバーをお友達!?!の女性タレントに歌わせつつ、カップリングには自分が歌う「THANK YOU & GOOD BYE」のカバーを収録すべきでゲス。収益はチャリティー目的で、寄付先はやっぱ親の離婚とかで貧困に陥った子供たちあたりかな、ここはマジね。ジャケットは HOTEI さんのアップで、面皮の厚みがありあまる効果による顔圧でいいじゃない。んで最後はなぜか HOTEI さん囲んでバンザイ！って胴上げワッショイでいいじゃない。

最後に、記念すべき第三十回にこんなどうでもいい (U が興味なさそうな) 内容でごめんねって言い訳なんだけど。

これもちょっと年末の件で超個人的なポエム書いたら、それが年明けそっくりゲスカぶりしてて、残念なほど卑近でがっかりしたのが原因です。俺としてはかなり悩みながら真情を発露させたポエムのつもりだったのに。

おまけに本家ゲスのタイトルや歌詞がすでに完璧だから、俺なんて後付けの蛇足もいいとこって滑稽さがまさにウマシカの面目躍如だね。思い通りにはいかないよ。

だからもうこれはゲスに捧げるつもりで書いたことにして成仏させる。そのほうがすっきりする。

最近の俺が生き方につまづいたせいで勝手に出てきた言葉だけど、本当は、文学や、ネットや、シェアや、文化の意味やあるべき役割について書いたつもりなんだって、今さら気づく有り様で、何様だよホント。書きゃ全て解決だったら人生いらなからね。

さて、今回はこんな感じ。

どうかな？



コピーロボット

生きてると いろんな選択肢があるその度に

コピーロボットが現れて

自分が歩まない方の人生を

コピーロボットが選んで 生きてくれたらいいのに

そしたら たびたび たくさんのコピーロボットと

記憶の共有をして いろんな人生を体感して

悲しんだり 楽しんだり

つけた傷の痛みをこらえたり ときには笑いもこらえたりして

全ての記憶が混ざり合って プラスマイナスゼロになって

早まった選択も 泣いて捨てた選択も 最後はみんな

どれもただ 大切な思い出の一つとして

たくさんの人生を いくつしめるようになるのに

たったひとつしか人生を選べないせいで

当たり前素晴らしかったはずの人生が 急に色あせて

ただひとつしか人生を選べないせいで

本当はそこにいたかもしれない コピーロボットの背中を

こんなにも 目で追ってしまう いないのに そんなのいないのにね



考
え



ウマとシカとが
くんずほぐれつ

弦楽器イルカ⇒友人

メールありがとう。

震災の影響はほとんどないよ。

実際に旧正月を台南で過ごした社員もいたけど、レスキュー隊が家の近くに沢山いただけで、何も問題なかったと。

あれは違法建築のビルが倒れたという人災だ。

台湾は建築にかぎらず、安全を守るために法律を整えるということができていない。

さらに言えば、法律はあったとしても、それを守らせることができていない。

さらに言えば、国民性として先の事はあまり考えないので、将来を予想して安全策を取るという文化が非常に薄い。

政府、政治家はわかっていると思う。

台湾でリーダーシップを発揮するためには、レベルの低いところに合わせるしか無いという現状がある。

子供も歩いているような歩道を、バイクが普通に走っているような国だ。

しかも、マフラーがおかしいのか、爆音で。これはごくごく日常の風景。

日本だったら、よほど気合の入った不良でも、ここまでは普通はしないよね。

もちろん、これを取り締まろうと思えばできるはずだ。

罰金を取れば人的コストも回収できるだろう。

なぜ、政府はこれができないのか。

答えは、国民の支持が得られないからに違いない。

バイクが歩道を走ることを禁止したら、バイクを降りて手で押さなければならないため、非常に不便だと、反発が十分に予想される。

要するにそういう国だ。

そんな愛すべき台湾だけど、そろそろ任務を終えて、日本に帰国することになった。非常に寂しいよ。



台湾の状況ありがとう。とりあえず無事でよかった。

さてそんなひどい状況を一旦、見ないふりして今回は俺が考える「恋愛曲線」についてまとめようと思う。これは俺がずっと前から言ってることだし U にとっては今さらだけど、今まとめる意味があるような気がちょっとした。

まず、本題に入る前の導入として、割と流行の米津玄師『アイネクライネ』を読解する。

この歌詞の核心は、「誰かの居場所を奪い生きるくらいならばもう あたしは石ころにでもなれたならいいな」から始まって、「あなたが居場所を失くし彷徨うくらいならばもう 誰かが身代わりになればなんて思うんだ」って対になる部分を超えて、最後に「あなたの名前を呼んでいいかな」で終わるところだろう。

自分一人だけで生きてると、まあ自分なんて消えてもいいか、他人を振り回して生きるなんてイヤだ、って思うこともある。

でも、あなたという大切な他者が現れて「あたしの名前を呼んでくれた」り、自分を必要としてくれる。それが嬉しくて、自分からも「あなたの名前を呼んで」必要としたくなる。そのためには誰かの居場所を奪ったり身代りにするのも、見ないふりする。

すごくわかりやすく構造的に練られた歌詞だし、BUMP OF CHICKEN の『オンリーロンリーグローリー』とか、RADWIMPS の『あいとわ』とかも思い出すね。

一カ所、『産まれてきたその瞬間にあたし「消えてしまいたい」って泣き喚いたんだ』って部分だけは個人的にちょっと気になるけど。詩的な表現として理解はするんだけど、赤ん坊の泣き声は絶対に「生きたい」であって、「消えてしまいたい」ではないと俺は思うから。

その「生きたい」って泣き喚いてたはずの口から、やがて様々な挫折を経て「消えてしまいたい」が出てくる成長の過程が文学なんじゃないかな。まあこれは別の話だね。

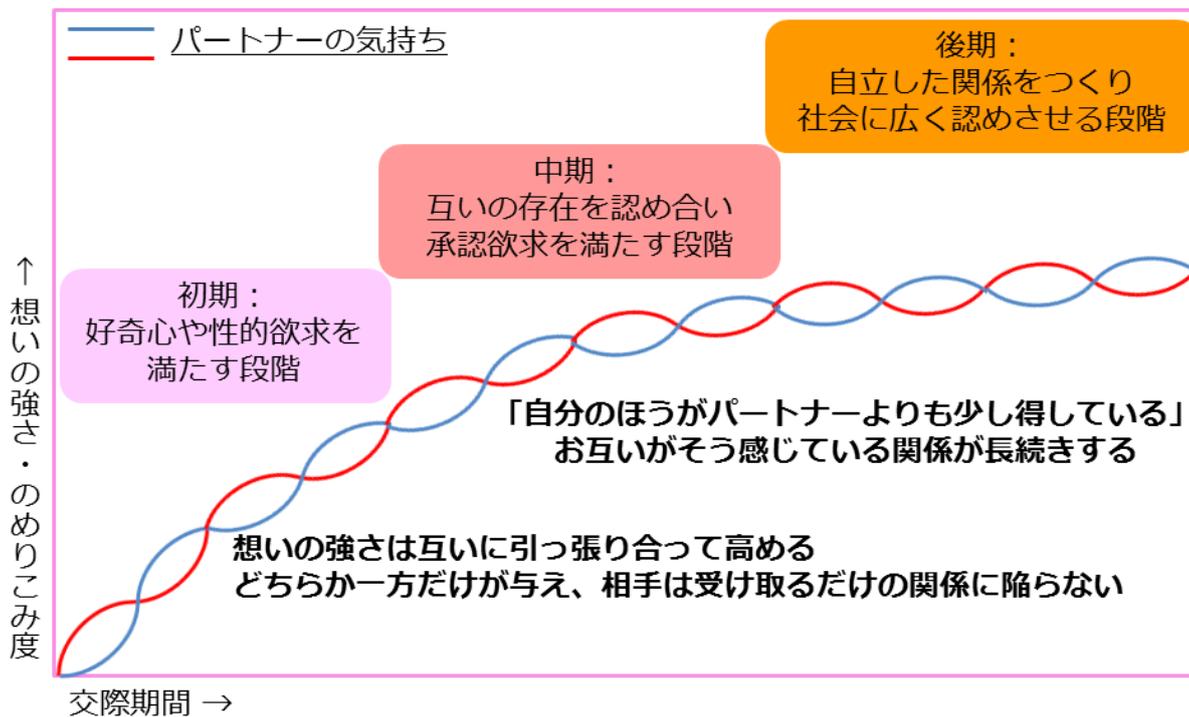
さてここから、本題の恋愛曲線につなげます。

一般論として、恋愛初期には男性のほうが女性より盛り上がりやすく、後期には女性のほうが盛り上がりやすいとか言われてて、それを恋愛曲線で説明されてるのは知ってる。

でも俺は「どうすれば良好に（冷え切らず）長続きする関係がつくれるか」ってことにしか興味ないから、理想の恋愛曲線について書く。

これは恋愛だけじゃなくて、友達や社会や人間関係全般に言える話だと思う。人が人と関係を成就させて長続きさせるためには、いくつかのルールがある。すごく常識的なギブ&テイクで、道德の教科書に載っててもおかしくないと思ってる。

まず俺の考えを簡潔に図としてまとめると、下図のようになる。



この図は、3つの観点の一つにまとめたものだ。

1つ目の観点は、「長続きする夫婦は、自分のほうがパートナーよりも少し得している、と妻も夫も互いに満足感を感じている」という統計の結果だ。夫婦関係を良好に長続きさせるためには当然、背伸びしない、無理のない「等身大」の関係が望まれる。

自分だけが損していると感じ、我慢を強いられる関係は長続きしない。逆に自分だけが得しすぎていると感じても、互いのバランスが崩れたり、生活に無理が生じたりする。百万本のバラをあげたら絵かきだって破産するみたいだね。

2つ目の観点は、「恋愛の段階は、三つに分けられる」という理論だ。

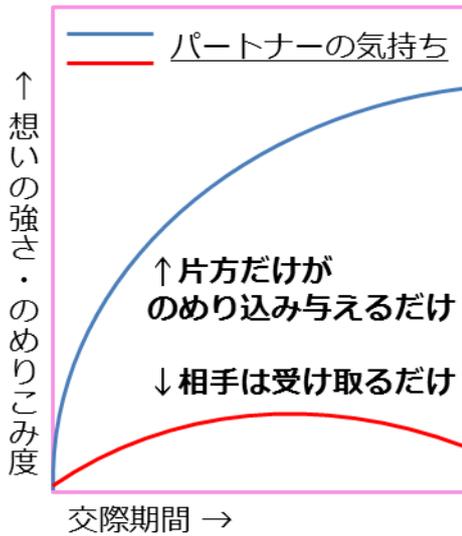
初期は、互いに好奇心や性的欲求を満たす段階。

中期は、互いが互いの存在を認め合い、お互いがここにいていいという、承認欲求を満たす段階。

後期は、互いが認め合った関係を、結婚などを経て社会にも認めさせていく段階。ここは離婚などしなければ一生続く、とても長い段階だ。

3つ目の観点は、「どちらか一方だけが与え、相手は受け取るだけの共依存に陥らないために、お互いが想いを高め合う必要がある」という理論だ。

「恋に恋する」とはよく乙女の修飾語として用いられるが、これは「相手の気持ちに関係なく恋にのめり込みたい」という欲求を表している。それが行き過ぎれば一方的なストーカーだし、そのままだと恋愛関係が成立しても下図のような、一方だけがのめり込む状態になり、長続きしない可能性が高い。



長続きさせたいければ、互いに想いの強さを確認しながら、足並みを揃えて引っ張り合う関係に改善するのが理想だ。そのためには契約や相談、我慢や調整の他、互いの意見をぶつけ合わせる粘り強い交渉も必要だろう。

逆にサプライズやロマンスはむしろ、邪魔になる場合も多い。

つまりものすごく卑近に例えると「旦那が金時計を売る前に、妻はちゃんと髪を切る相談をしろ」って話だ。だっていちいち旦那が食材を買ったら妻が鍋を売ってたり、妻が家具を買ったら今度は旦那が家を売ってたりしたら、ロマンスはありあまっても生活は破たんするでしょう？

旦那は原発を吹き飛ばしたのに妻はウラン燃料を買うのをやめられない、とかもね。

つまり SNS で個人情報ダダ漏れだとか、ゲームやら恋愛やらに自分本位で依存してる人も結局は、のめり込んでもる労力に比べてリターンがどんだけあるのか、バランスが取れてないって話にまとまる。

もちろん、仕事として金を稼ぐために一日中モニター画面見てる人は、社会的に依存とは言われない。のめり込む労力とリターンのバランスが取れてるからだ。

ここで改めて思うのは、明確な契約社会であればあるほど甘えや依存度は減るだろうけど、同時にロマンスも減るな、ってこと。

例えば大リーグで今、日本人メジャー選手の契約がちょっと問題になってるけど、契約社会のアメリカでは権利のぶつかり合いが基本なのに、そこに日本人が分別とか自粛とか世間体を持ち込んだから、違和感が生じたってことだろう。

逆に言えば、ロマンスをありあまらせるために必要なのは、その場しのぎの口約束であり、表面的なサプライズであり、お互いだけの秘め事だ。ただそれは関係を良好に長続きさせるために必要な、つまらない契約やギスギスした交渉とは真逆の物だろう。

もちろん、BUMP OF CHICKEN の『ever lasting lay』みたいに、たとえ嘘であってもお互い必死で生涯信じ切れるなら素敵だけど。信じられる要素なんてなくても、おまじないの様にね。

今回は焼き直しだからスラスラ書けた。理想的な恋愛曲線はある意味、DNA の二重らせんのような、人と人が交わって絡み合うような、そんな感じがいい感じにまとまった感じがした。

さて、どうかな？





第三十二回「恋する十四松」とM-1 グランプリ

考え

まず自分が面白い物を
互いに笑い合える幸せ

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

この前喫茶店で、隣にいた男性がこんな電話してた。

うん、俺としてはね、もうバルスを唱え終わっちゃった後のラピュタなの。そう。『天空の城ラピュタ』に例えるよね。知ってる？ だよ。祭りにもなるよね、バルス祭り。

いや、つまりね、バルス唱え終わって、ラピュタが崩壊して、ムスカもメガネメガネして落ちちゃって、結局ラピュタはテト（キツネリス）とかロボット兵を乗せて、更に上の天空へ昇ってくよね。

俺はパズーとしてそれを下から、ドーラの空中海賊団とか、シータと一緒に見上げて、手を振ってるワケ。ありがとうラピュタつつつて。

そう、かかっているかかっている、後ろで井上あずみの「君をのせて」かかっている状態ね。ある意味、チェックメイトみたいなね。ドーラと息子たちが手柄の宝石を見せ合ったりしてね、ニヒつつつて、これから地上で楽しく暮らしていきましょうってね。

そういう状態なの、つまり今。良いこともあった。辛いこともあった。いろいろ乗り越えて、やっとラピュタにサヨナラできる。新しい人生に向かう気持ちになった。

その状態でさ、今、君ともう一回やり直すってのはさ、つまりいきなりパズーが、「それじゃ僕、もう一回ラピュタ目指します！」って無邪気に言い放つようなもんだよ。エンドロールも半ばにしてさ。まだ宮崎駿って監督のクレジットも出てない状態で。そうそう。電通、とかも出てないよ。電通絡んでたよね、博報堂か？ どうせどっちかだから。広告代理店の天下だから。原発も政治もみんなシナリオできちゃってるから。まあそれはいいんだけど。

「は？」ってなるよね、みんな。何言ってるのこイツ、もう終わったじゃんそのくんだり、もう一回ラピュタ追いかけてどうしたいの？ 御釜にこびりついた米粒みたいな、ちょっとだけ残ってる宝でも漁りにいくつもり？ コスイヤツだな、って目で見られるよね。ロマンの欠片もないよね。

みんなシラーってなるし、シータとか「何言ってるのアンタ」ってのはや女房気取りで罵りかねないよね。「アンタあたいと一緒になるんだろ、その気なんだろ？ すっごいチラチラあたいのこと、要所要所でヤラシイ目で見たいじゃない。バルスの時、必要以上に手をベタベタ握って来てたじゃない。嫌なのかい、あたいと一緒になるのが嫌でそんな世迷言、言ってるのかい。どんだけ夢見る少年なんだい」って、もう呆れすぎてドーラの口調より汚く罵声浴びせてくるよね。きっと、絶対。

俺と君はパズーとシータにはなれなかった。パズーとラピュタだった、残念だけど。でもそれはそれで、パズーはシータと、テトはロボット兵とさ、仲良くやっていくしかないじゃん。

そこで『ラピュタ2』なんてさ、続編作ってもすっごいヒンシュク買うだけよ。蛇足もいいとこじゃん。もう終わってるのに。もう一回パズーがラピュタ追っかけて、木の根っこに引っかかっている宝石を目ざとく見つけて、ニヒつつつてさ。ちびっこゲンナリだよ。

え、知らないよ、ラピュタがああ後どうなるかなんて。まあ、より高く昇ってくよね。え、宇宙に出ちゃうってことはないと思うけど。凍っちゃうとか？ 燃え尽きちゃうとか？ いや、たぶん、良い感じのところで止まって、うまくやってくと思うよ、ラピュタのことだから。みんなそこ心配してない。うん、うまくやってける。大丈夫。安心しな。それじゃ。

いや、もちろん、全部俺が今考えた嘘なんだけど。

さて、今回はこんな感じの本当にどうでもいいネタを書きたい。最近流行りの『おそ松さん』の「恋する十四松」を観てさ。自分のギャグで相手が笑って元気になる、それがうれしくて自分も元気になるってのは、お互いに存在を必要として受け入れる、お互いの承認欲求を満たし合う状態だなんて改めて思った。前の恋愛の回で

書いたヤツね。一方が笑いを与えるだけじゃなくて、双方向で笑い合っとうれしいのが重要だね。

今更ながらこの前の M-1 で、俺はハイチのネタに興味を覚えた。知名度もあるしもうタイトルはいらないコンビな気がするけど、あの大舞台であえて、漫才でもっとも基本的ともいえる誘拐ネタに挑戦するって、ちょっとすごくない？

んで、途中まで結構楽しく観てて、最後の方で、あ、もう一步ってとこがあった。

「このままだと息子さんはタダじゃすみませんよ」「え、息子をどうするの？」「息子さんをそれはそれは大事に大事に育て上げて、そっくりそのままお返しします」「え、それじゃ過保護になりすぎちゃう。普通でいいんです、うちの子は普通が一番いいんです」って感じの流れで、どういう風に育てるかってなるんだけど、その後がね、結局なんかちびまる子ちゃんみたいな話になって、こたつで寝てるところを起こさずに布団へ運ぶとかってくだりになってくんだけど、ちょっとベタなあるあるになっちゃってもったいなかった。

想像の翼を広げて、例えばこれをさ。

「8歳でハーバード大を卒業させて、10歳でIT企業の社長にさせます」

「うちの子プレゼンしちゃうの？ 10歳で、黒のタートルネックとジーンズで？ 新製品の紹介とか、熱のこもったゼスチャーで、スタンディングオベーション浴びちゃうの？」

「12歳でNASAに抜擢され、14歳で宇宙飛行士にさせます」

「宇宙行く？ たけちゃん宇宙行っちゃう？ 家族誰一人、まだ旅行でさえ関東から一步も出たことのないうちから、いきなりハワイやら海外ぶち抜いて宇宙飛び出しちゃう？ 宇宙からの第一声は？ ハワイよりフワフワしてますって？」

「15歳で政治家になり、16歳でアメリカ大統領にさせます」

「わーお。アジア人初の、合衆国初代、アジアンたけし大統領。町内会長でさえなったことないうちから、先祖代々小作人だった家系から、出ちゃうの。あんれま、ご先祖様、腰抜かすだあ。日本の総理大臣でさえ、ない話なのにな、ゆないてっどすていつおぶあめりかで、なっちゃう、オバマになっちゃう。あら、小浜市に連絡しなきゃ、うちが引き継ぎますって、早く小浜市に交代の電話しないと。もう混乱してワケわからない。ああ、無理、そんな子を返されても、どう接していいかわからない。納豆とか食べるかしら。金箔入れないとまずいかしら。まずなんて呼べばいいの、様？ 様つけたら足りるかしら？ 我が息子なのに、たけちゃんじゃなくて、たけちゃん様？」

「18歳でヨーロッパの王女と結婚させます」

「あ、様じゃ足りないやっぱ。たけし王子。たけし皇太子。もう閣下ね。デーモンたけし閣下ね」

「20歳で2万20歳の悪魔にさせます」

「合ってた。閣下合ってた。来ると思った悪魔の閣下」

みたいのがほしかった。残念ながらこのくだりでちょっと失速してた気がすんだよね。ちょっとのひねりで決勝行けたんじゃないかと。チャレンジングだったのにもったいない。

んで最後ね。年末に言ってた将棋の漫才の方がまずできた。わかりやすくおぎやはぎのあて書きにします。彼らの例の「～ですがなにか？」から「おぎの願いは叶えてやりてえんだよな」のここは省略ね。

おぎのセリフから。

「うん、将棋の棋士になりたい」

「あ、指す人ね、将棋を。羽生名人とかね」

「あ、羽生さんはね、俺ムリ。頭いいから。あんなに俺頭良くないからムリ」

「うん、それ言ったら全員頭いいよね。棋士の人。バカな人、一人もないよ」

「そうだけど。そうじゃなくてね、よくあるじゃん漫画とかで、駒の音が聴けるようなさ。頭で考えるんじゃないよ、直感で、駒の音を聴いて将棋を指す棋士になりたいの」

「え、どんな風に聴くの？」

ここで、お騒がせ号泣議員の物真似のくだりをいれてもいい。

次やはぎから。

「やめよ、そういうの。時事ネタは。爆笑問題になっちゃうから」

「とにかく俺が駒の音を聴く棋士になるから。やはぎは王手してきてほしいの。それを俺が駒の音を聴いて、逆王手にするから」

「わかった。王手って、次に王を取って勝つぞってことね。それを切り返しながらか、逆に敵の王をとるぞって、一番難しいヤツね。んじゃ、王手！」(王手のゼスチャー)

「え、そこ王手？」

「うん、だって王手しろって言ったでしょ？」

「あちゃー。参ったな、ヤバいな。参りました」

「待って、参らないね。そこ参らないでね。まだ聴いてないし、駒の声」

「あ、そっか、聴くの忘れてた。俺、直感の棋士だから、結構いろいろ早とちりしちゃうから。今朝の朝ごはんも目玉焼きにソースかけて、あれ、醤油だと思ったらソースだって、でもうめえつつって」

「待って、そのくだりいる？」

「うん。芝居だから。直感の棋士はね、ちょっとおっちょこちょいだから。そんなくらいじゃないと駒の声なんて聴けない。バカだからさ、ある意味。何本かネジ外れてないと駒の声なんてバカバカしくて聴いてらんない」

「それ自分で言うんだ。でもおぎ一流の演出なんだね。うん、じゃ俺は触れない。おぎの演技プランを尊重するよ」

「よし、聴いてみっか。どれどれ、教えてちょ。我が駒の精霊たちよ。話してミソ」

「うん、確かな手ごたえのバカだね」

「なにになに、うんうん。あいわかった！」

「あ、わかったの？」

「うん、あのね、今やはぎ、これ金で王手してるじゃん。この金、さっき俺から取ったヤツだよ。4五歩から」

「そうだね」

「この金ね。泣いてる」

「え？」

「だってね、この金は、3八飛車から王を守ったりね、逆に7二角から攻めあがったりね、陰に陽に我が軍を支えてきたワケじゃない。それがさ、ぱっと一回やはぎに取られただけで、逆に我が王に王手するようなね、そんな子じゃないワケ。謀反なんて考えてもなかったのに、それが悔しいって。だから、こうね。逆王手！」(目の前の駒をクルッと回転させ味方にするゼスチャー)

「え、なにその手？」

「(女性の声色で) 後手、3二金、ひっくり返す」

「ないよね。そんな手は。それルール変わっちゃうから。将棋のルールじゃないから」

「だって駒の声なんだから仕方ないじゃん。もうヤダって。だったら実家帰りますって言ってんだから」

「言っていない。いやたとえ言っていたとしても帰さない。反則だから。ひっくり返すのなしだから。音を聴くにしても、ルールの範囲内でだよ。いい？」

「でも、駒あつての将棋だからね！ やはぎこそ、もう駒が泣くような手は打たないでよ！」

「あ、俺の方が責められるんだ。この期に及んで。じゃ、気を付けるだけは気を付けるよ。もう一回。王手！」

(王手のゼスチャー)

「あちゃー。参ったな、ヤバいな。参り……」

「そこも省略ね」

「はいはい。んじゃ、(駒の声を聴くゼスチャー) なになに、はいはい、そうですか。あいわかった！」

「え、今度は何？」

「この金ね、さっきからなんで謀反して王手ばっかしてる困ったちゃんなのかわかりました」

「いや、王手してっておぎが言うからでしょ？」

「ちがう。やはぎ、その前の手で俺から飛車と角取ったじゃん」

「あ、そうなんだ、飛車角取ってんだ俺。てかその前に超弱くない？ 駒の声を聴く棋士。もう金以外に飛車角まで取られて、既に負けたようなもんだよねそれ」

「うん、それがね、あの飛車と角は、この金の父と叔父にあたる駒だったんだよ。それでね、それが人質、あ、駒質に取られてるから、この金は泣く泣く俺の王に王手してるって。そういう複雑な家庭環境に育った子だったんだね。不憫な金だよ」

「いや初耳だよ、俺そんなつもりないし。駒質っても初めて聞く単語だし」

「でもね、我が王のために、駒質の飛車角がついに覚悟を決めたって。だから、こうね。逆王手！」(右手でズバッ、左手でズバッ、斜めに斬るゼスチャー。それから真ん中の駒を逆向きにするゼスチャー)

「なにその手！」

「(女性の声色で) 後手、3二金、泣いて飛車角を斬り、ひっくり返す」

「おぎ。わかった」

「なに？」

「おぎに棋士は向いてない。目指さない方がいい。俺と漫才やるんでいいじゃない。それが一番うまくいくよ」

「そっか。じゃ、あんたとはやっとなんわ」

「ありがとうございました～」

さて、今回はこんな感じ。リラックスして書けました。

どうかな？





第三十三回『最低。』と最高。のあいだ

考
え



どうしても今、
切実に書きたい、から

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

地震、自分が被害ないとこんな感じかって気がしてる。まあ、できることをやりましょう。

紗倉まな『最低。』はとにかく絶対に読みたい小説だったし、やっと逢えたねってずっといろいろ考えてる。とりあえず予想通りすごくよかった。今後 AV 業界をテーマに小説書くなら、『最低。』は超えなければならぬハードルとして最高。の作品だね。

あと、性に関する社会的議論は、もっと真剣にオープンに、『最低。』と最高。のあいだで正面から語られるようにいづれなと思う。

そもそも遺伝子の乗り物である人間——という動物——にとって性欲は、種を残し社会を繁栄させ続けるために不可欠だ。だからこそ、これだけ性風俗産業も発展し、人間の経済活動と性欲が深く結びついてるワケだし。

今ちょうど「不倫+障害者と性」の話題が世間で盛り上がったから、大新聞やビジネスニュースが大真面目で性風俗について語る時代が来るんじゃないかって思う。

このままいけば 21 世紀の終わり頃には、障害者の性欲を処理する仕事は、一般的な介護職と同じように扱われ、北欧みたいにより差別なく受け入れられてるだろうと俺は思う。

更にそうなると、イケメンに障害がある男性——イケメン障害者——の性欲を処理する仕事、つまり風俗嬢とかに対する蔑みとかも、流れとしてだいぶ軽減されて来るだろう。

俺は思うんだけど、少なくとも、性欲を処理するための物理的行為と、ソレに従事する風俗嬢を蔑んで優越感に浸る心理的行為は本来、全く別だ。なのに今、風俗嬢に金を払って性欲を処理してもらいながら、更に精神面でも優越感に浸る快樂を得たいがために風俗嬢を罵倒する客もいる。それって実は別料金じゃないのか？

ただ性欲と恋愛と感情移入は近接してぐちゃぐちゃにもつれるから、なかなかそこらへん分離できず面倒なんだろうけど。

それでもたぶん 21 世紀の終わり頃には、性欲の処理はあまり蔑視されなくなるかわりに、「お客からの罵倒に特化した SM」みたいな仕事ももっと増えて細分化されてるんじゃないかな。

ところで、芸人の芸人による芸人のための『火花』がアレを受賞してる以上、AV 女優の、による、のための本作がアレを受賞しない理由もなくなったね。

特に『火花』では風俗嬢を中途半端に天使っぽく綺麗に描きすぎて、俺は腑に落ちなかった。対して本作は AV 女優の内面や背景について深く静かに内省しててその分、確実に文学してると俺は思う。経歴で言っても山田詠美がアソコにいるワケだし、文壇にももう一人分くらいの居場所はあって然るべきだ。

ちなみに偶然にもこのサイトで俺が面白いと思った作品が今のところ 3 連続で「チャットレディと性」に関連してた。

更に今、俺が最も興味を持っているテーマが「女性の貧困と性風俗」だ。

今までにも何回か書いたけど、この国の金持ち権力者は、この国がゆるやかに衰退すると予測してるから、自分たちが今後も金持ちであるように、貧富の差を拡大させて利権を独占し続けようとしてると、俺は思ってる。

一億総中流社会なんて、金持ちにとっては自分の富が減るだけの愚策だ。だから少子化対策やら年金対策やらモロモロ、真剣にやる気なんてない。金持ちが損するだけだから。人間だもの。

その流れで考えると、このまま貧富の差をどんどん拡大させれば、金持ち権力者はより安い金で、よりいい女を抱けるからむしろ好都合、ってゲスい考えも浮かんでくる。その上、自撮り画像を簡単にネット投稿する若い女性も増えてるし、性の低年齢化を含めて、性のハードルが『最低。』レベルって話もある。

ただもちろん、昔も夜這いやらあったし、世界にはフリーセックスの国だってたぶんあるワケだし、パンダだ

って交尾ビデオ観せられて学習して発情するって話だし、時代と人間と性の変遷は簡単に一括りじゃ語れないだろうから、ここはこれ以上踏み込まない。

それより気になったのは、実は本作では貧困はさほど重要なテーマではない点。むしろ、昔は貧困と性風俗がセットだったけど、今はそうじゃないってニュアンスで語られてる点だ。

たぶん著者自身が、貧困を理由に AV 出演してるワケじゃないからだろう。それに貧困を AV 出演の理由にしないことで、単なる不幸な貧乏話じゃなくて、彼女らの内面描写をより多様にしたかったんだと思う。

ただ俺は、今も昔も、AV に出演する最も大きな理由の一つはやっぱりお金だと思う。更にその金と性欲と恋愛感情のもつれでびちゃびちゃになった部分にこそ、文学の神髄があるような気がするんだよね。

『最低。』に収録されてる 4 つの短編のうち、最後のが一番好きなんだけど、主人公が AV 女優じゃない高校生で、描かれないうけど彼女のこれからの生き方にこそ、著者自身の希望や未来が託されてるんじゃないかなって思う。

ああ、ちょっと今回うまくまとまんないんだよね。

ってのも個人的な性の対象として言うと、実はあんまり好きな女優じゃない、紗倉まな。相手の目の色をちょっと伺ってるように俺には映るから。

ただ作家としてはかなり好みだった。だからもういいんじゃない AV 辞めても、って思う。そろそろ潮時じゃん？

こっから言い訳だけど、そういう性欲とか好みとか感情移入のずぶ濡れが混沌として乾かないからこそウマシカだって、今回開き直っていい？ 村上春樹はセックスばっかだって言う人いるけど、当たり前だよ文学なんだから、芸術がセックス語って何が悪いって開き直っていい？ 関係ないけど。

村上春樹つながりで最後に書くんだけど、『ノルウェイの森』で「労働（苦勞）と努力は別物」ってニュアンスの話があったけど。

考えたんだが、労働と努力は確かに別だけど、どっちも大事だなって思う。努力が上で、労働が下ってことじゃない。

つまり、RPG で言うところの経験値と物語の関係で例えるとわかりやすい。

経験値を上げれば、よりレベルが上がり、強い敵も一撃で倒せるようになる。ただそれだけでは、冒険は進まない。

冒険を進ませるためには、レベル上げ以外に、町の人話を聞き、依頼を引き受け、様々な場所へ訪れ、謎を解いていく必要がある。

経験値を上げることは、作業であり、苦勞であり、労働だと定義する。

一方、謎を解くことは、思考であり、勉強であり、努力だと定義する。

この二つがかみ合わなければ、エンディングは来ないし、姫も助けられない。人生という RPG を思い通り進めるためには、労働と努力がタイヤとエンジンの役割を果たすはずだ。

さて、今回はこんな感じ。

洒落じゃなく過去『最低。』のまとめりだったかも。でもまあそもそもウマシカには上も下もないし、職業に貴賤もないし、天は人の上にアレもないしね。どうかな？



さて、今回ちょっとあえて、一点指摘してみたい。ウマシカからの愛のムチ？ あ、AV 女優だけに？ 愛のロソク的な？

P128

「いまだ夫への愛情はわずかに、ぼろりと零れ落ちてしまいそうなほどぎりぎりのところで、表面張力のように保たれたままだ。それも、ドロリとした鉛のような無様な愛で。」

ここの文章がちょっと、俺にはイメージしづらかった。

というのも表面張力って俺の場合、ジョジョの第3部、ダニエル・J・ダービーとのイカサマ合戦しか思い出せないせいなんだけど。人生で初めて表面張力が出て来たマンガだから。あのなみなみと酒が注がれたコップに、零れないようにそっとコインを入れるヤツね。

俺はこの表現で、あのコップに鉛がなみなみと注がれてる図をイメージした。だから一滴愛情が零れても、コップにはまだなみなみと鉛色の愛情が残ってるよね。すると「夫への愛情はわずかに」ってイメージはしづらい。

そこで、俺だったらなんだけど。

「いまだ夫への愛情はわずかに残ってはいるものの、絞って絞って絞りつくされたボロ雑巾がギリギリねじられたまま、滴り落ちるのを我慢している最後の一滴みたいだ。それも、拭き取った汚れを吸ったような濁った愛で。」

これくらいなら無理なさそうかな。愛情のない夫婦ってボロ雑巾みたいだし、汚いケンカもいっぱいして、仕方なくその後始末を拭き取ってまた使うしかないって感じで。

あと不思議な余韻残す感じで文章に読点がいっぱいあるんだけど、俺はこれずっと死ぬまでやめないでほしいって、思、う。←「紗倉まな®」って商標が付いて、いつか味になると思う、か、ら。



第三十四回『性の歴史』とお茶の間の非日常

考え



夢の舞台へ駆け上がれ！
骨の髄までへりくだれ！

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

ひさしぶり。

AV女優の『最低。』は読んでいないけど、個人的に興味があるのは、「性の解放」っていうのかな、そういう方向性についてはよく考えるよ。

性は生物として欠かせない行為どころか、生命の存在意義そのものだから、これを否定することは、あまりにもばかっている。

そうなんだけど、人間の行為として考えた場合、単に生物としての存在だけではなく、高度な精神を持った存在が、人間なので、生物のルールをそのまま当てはめて考えることはできない。

それどころか、そもそも、性を抑圧したからこそ、文明が登場したかもしれない。

フロイトは「性の抑圧がない文明は存在しない」と言っている。

フーコーは反論する。性はむしろ管理され、拡大されてた。

ただ、僕はフロイトの説は、フーコーの説に矛盾しているわけではないと思う。

ミクロ的にみれば、性が抑圧されていることを見ることができる。

抑圧された性欲が、無意識の領域に追い込まれて精神病を生むこともあるだろうし、もっとポジティブな例でいえば、性欲が満たされないことから、芸術や建築、学問、ビジネスにエネルギーを注ぐというのは、人間像として、きわめて自然に浮かんでくる。

性は非常に大きな欲望の対象なので、それだからこそ、社会から隠されているのではないか？

性をうまくコントロールすることで社会がうまく回ることはないか？

性が秘密、タブー、忌避されるものとして扱われているのには、暗黙の理由があると思う。

性には、語られることがない、社会の秘密が隠されているし、性の領域に、言葉が近づいていくと、秘密の力で言葉が排除されるに違いない。

それが今、存在している社会の仕組みだ。

性と無意識と社会、そして IT テクノロジー。

まだまだこの領域は、面白い分野が残されていると思う。



なるほど。今回の引用は『性の歴史』でいいのかな？

フロイトもフーコーも避けて通ってきた俺に、適切なレクチャーありがとう。おかげでイメージが膨らんだよ。

でも返信を早々にもらってたのに、こっちがだいぶ遅くなってごめんね。

ちょっと全く別の件を仕上げるのに時間がかかりました。

「文明が性欲をコントロールして、秩序や統治などに不都合な部分を隠す傾向にあるからこそ、その隠された性を様々なアプローチで語る芸術が存在する」って理屈は、一般的に筋の通る話じゃないかと思う。

こっから、Uの返信で考えた材料を、いろいろ提示するね。

まず日本のテレビについて。

昔は下品なバラエティとか、ホラーやらスプラッタやら性描写やらで若干エログロい映画も、結構放送してたよね。

でも今は自主規制でだいぶやらなくなった。じゃそれは、「文明が発達したから、性は公的な表舞台からどんどん隠されている」せいなのかっていうと、ちょっと違うと思う。

単にネットやレンタルがあるから、テレビがそのリスクを取りに行く必要性が薄いんだと思う。テレビにできるギリギリのエログロでも、ネットやレンタルには絶対勝てない。だってテレビでAVまるまる流せないし。リアルな死体も放送できないしさ。

だからどうせネットやレンタルに勝てないけどリスクだけは高いエログロの分野に、視聴者の苦情を覚悟してまで手を出すような価値は、今はもうないんだと思う。

お手軽にネットでエログロが際限なく観れる時代だから、テレビの役割だって当然変わる。だけど、俺の感覚では性欲が昔よりオープンにされてる分野はたくさんある。

例えば「自慰グッズ」とか。an・anの「SEX特集」とか、朝の情報番組の「セックスレス特集」とか。あと男性週刊誌のしつこいまでの「死ぬまでセックス特集」とか「天国に逝けるセックス特集」とか「地獄の鬼とセックス特集」とか、しつこいまでの。

それに、性の若年化は確実に進行してる気がするし、女兒向けマンガ雑誌（男児のコロコロやガンガンにあたるヤツ）も、昔より確実にエグい気がする。今後は「障害者の性」も朝の情報番組で語られたりするんだろうし。ちなみにこの前「バリバラ」ってEテレ番組の「障害者のセックス特集」観たけど、エグくて面白かった。

好むと好まざるとに関わらず、時代が進むほど言葉はあらゆる分野に侵食していく。これはいつの時代も変わらないはず。だって前の人と同じじゃつまらないから。表現は工夫され、芸術も学問もすべて進化／深化し、細分化／多様化する。次々欲しがるのが人間であり、生物だから。欲望というニーズをどこまでも叶えて、商売も儲けようとするし。

もちろん学者だって、研究して解明するのは理系分野だけじゃなく、人文系の、恋愛も、芸術も、性欲も、言葉はその真理に限りなく近づこうとするだろう。

そこを踏まえてね。

おこがましくも大上段で語らせていただきますけれども、今、文化にとって一つの課題はさ、例えば、エログロをやらない表現（テレビや新聞など）と、際限なくエログロに特化した表現（ネットとかAVとか）が、グレーに混ざらずシロとクロに偏りすぎてるってことかもしれない。

本来、エログロは日常にあるグレーな部分なのに、例えばR指定とか「これはそういう特集です」ってマエがないと、苦情が来そうって自粛感がどんどん強くなってる。

いや、もちろん昔からテレビだってエログロは深夜に放送してたし、真昼間から「明日もセックスしてくれる

かな〜?」っていいともろーな茶の間ではなかったよ。それに現在は、性欲についての真面目でオープンな言葉も増えたと思う。

ただ、表現が許される場ではとことんクロだけど、許されない場ではまったくのシロ。そういう二極化ルールが現代社会の特徴かもね。子供の遊び場とか。前にも書いたけど、例えば裸族も。もう地球上に裸族はいないらしいけど、服って健康上の理由以外に、日常から性を切り離すって意味合いは強いだろう。

こういう二極化は結局、洗練化と言い換えることができると思う。台湾のバイクの例でもさ、バイクは道路だけ、歩行者は歩道だけってルールはつまり、交通の二極化であり洗練化だろう。

そして洗練化ってのは平準化ってことでもあるはずだ。自文化の常識で他者を批判する意味合いの強い SNS の炎上現象も、世界中で見られてる。平準化がイナゴのように世界を侵食してる。

あ、そういや「炎上」って言葉は暴走族とかと一緒にちょっとカッコいいし、現実には火も煙もまったく出ないから、違う言葉にした方が俺はいいと思う。「誰が何人」って明確な数値的定義もない曖昧な表現だし。既知で地味に「ボヤ騒ぎ」でいいんじゃないかな？

世間様は幻の炎を懸命に煽って「炎上」って騒いでるけど、視聴率やら売り上げに必死なマッチポンプ式ネタ作りにはもう飽きたよ。

いろいろ書いたけど、たぶんこれは文化にとってなかなか難しい傾向だろう。

エログロが生き残る場所として例えば、テレビには深夜って言い訳があるし、映画には年齢制限がある。

でも例えば歌には、年齢制限や深夜限定とかあんまないから、性的な表現とかはどんどん自粛されたと思う。昭和のアイドル歌謡なんて結構エグい歌詞も多かったのに。この生ぬるさが、もしかしたら歌が売れない一因かもしれないよ。

ちなみに最近の音楽だと、巷で噂の岡崎体育『MUSIC VIDEO』が面白かった。前に薦めたキュウソネコカミとテイストは一緒だけど、誌的な表現が素敵にあるから、あつという間に売れそう。ただ、電気グルーヴが好きって割には、エログロいエグみはだいぶソフトだから、そこが今言った自粛時代の洗礼なんだと思う。

(ちなみに最近、「女の子は勉強なんかせず、バカでも可愛いければハッピー」みたいな歌詞をアイドル集団が歌って批判されたみたいだけど、そりゃ、鶺鴒にとって鶺鴒は「バカで無自覚で反抗せず、少ない分け前にも関わらず魚をバンバン獲る」のが一番理想だよな。つまり支配層の「おっさんの主張」を、被支配層のアイドルに歌わせるワケだ。

でも客だってフェミニズムな発言する進歩的女性像をアイドルに求めちゃないだろうし。アイドル自身も、のし上がるために握手会して歌って踊るワケだし。つまりアイドル文化自体が「バカ可愛い至上主義」って気もするね)

まとめると、「ドキッ!? 女だらけの」的な、お茶の間にある非日常がなくなって、「お茶の間は日常だけ。お色気は寝室だけ」って時代になってるから、性も含めたありのままのリアルな表現が難しくなってる気がする。

ここらへんが今後、考えると面白い感じかも？

さて、今回はこんな感じ。ところで最後に、今回遅れた理由なんだけど。

例えば今後ね、何らかのトラブルで、子供にも大人にも娯楽が一時的になくなって辛いとき、何か楽しいことで、子供たちの笑い声に接して、大人も癒されるような、そんなイメージはどうかなあ、と。

んでそのために、お金のかからない簡単な道具で、子供も大人も遊べればいいなと、そういうことを考えてた。

ここまでの話と脈絡は全くないんだけどね。どうかな？



第三十五回『イグジット・スルー・ザ・ギフト

シヨップ』と「グラフィティGO」

考え

ラ

メモ欄

弦楽器イルカ  友人



「ポケモンGO」の最大の楽しみ方は、キミが考えた（超人や）ポケモンのぬいぐるみ（やキン消し）を街中に勝手に配置してくるってオチじゃない？

梶井基次郎『檸檬』に倣って、「ポケ檬、リリースだぜ！」ってれっきとした文学活動を言い張れるし。

さて、今回はバンクシーって人の映画の話なんだけど、U、知ってる？

バンクシーの職業はストリート・アーティストとか、グラフィティやらエアロゾールアートのライターとかペインターとか呼び名はいろいろあるみたいだけど、壁の落書きから発生した文化だし、たぶんちゃんとした名前は付かない方がむしろカッコいいんじゃないのかな。

DVDの評判が良かったから映画観たんだけど、なんか俺の感想と世間様のレビューがまたちょっと違うんだよね。いつもの妄想だけど、今回はそこから書いてみたい。

バンクシーの表現はゲリラ的で、匿名性が高く、毒とひねりがありつつも、ヘイトではなくユーモアもあって、俺もこんな風にかきたいなと理想に思う点が多い。

たとえば、自分が書いた渾身の一冊にラベル付けて図書館の棚に勝手に並べたり、それっぽいカバー付けて本屋に勝手に平積みしちゃう人がいたら、それはそれで面白い。怒られた時はもちろん、「これは本ではありません。『檸檬』です」ってとんちで切り返せば、店主もきっと笑って「檸檬とは痛快痛快。通報するから泣き言は警察で言いなさい」ってなるよね！

『イグジット～』って映画も、タイトルからしていろいろ憶測を呼ぶ、ストレートじゃないひねりの効いた作品だった。

俺はほとんど行ったことないけど、海外の美術館には出口前にこういう案内文句があるって話でしょ？日本でももちろん、美術館の出口前にはギフトショップがあって、展示作品にちなんだ画集やポストカードの他、Tシャツやら文房具やらお香やらガチャガチャやら、オシャレでそれっぽいもんがいろいろ置いてあるよね。

これって下手すると、展示する美術館側がすでに作品自体を「ギフトショップ用の宣伝」くらいにみくびってんじゃないの？「はい。あなたがさっき鑑賞してたのはこの絵ですよ～。評価はともかく記念にポストカードの一枚でも買って帰ってね～」って。

あるいは、「美術館はポーっと絵を観て適当な土産買って帰るだけの退屈な場所か？だったら出て行きな。俺は自分が描いた渾身の一枚を勝手に飾ってから帰るぜ」ってバンクシーからのお誘いかもね。

この映画のレビューの論調は、「自分の考えではなく、権威の評価で価値が決まるアート業界に一石を投じる」とか、「偽物だって宣伝次第ではバカ売れする現代アートへの痛烈な皮肉」とか、「どこまでがフィクションかわからない、登場人物も含めて壮大なだまし絵的作品」とかだった。

確かにまあわかったような気にさせるレビューだけど、ちょっとありがちな。「バンクシーに騙されたくない」「何かいいこと言ってやろう」ってカッコつけた結果、大したことは言えてない気がする。

この映画にバンクシーが仕掛けたかもしれない謎に気を取られるのはわかるけど、謎よりもまず現実を見ないと、木を見て森を見ないように、現実そのものを見失うと俺は思った。

この映画はキレイごとの解じゃなく、もっと単純で汚い事実を観客に教えてくれる。

つまり、「毒が少なく無害で分かりやすい流行が大好きで、感動もするし金も払う人々」が過去現在未来、たくさん存在するってことだ。今後これを「トイレの神様層」って呼ぶことにするよ。

この映画では確かにパッと見、ミスター・ブレインウォッシュ=MBW って「偽物」のアーティストが、大げさな宣伝効果でクソみたいな作品をバカなファンに売りつける方法が出て来て、それにバンクシーら「本物」のアーティストが反省したり呆れたり怒ったりしてるように解釈できる。

でももちろん、この世界に「偽物」も「本物」もない。絵なんてどれも基本的には単なる落書きだ。絶対的な意味や価値なんて、絶対的にない。

MBW が自身の作品でたぶん一番推してたのが、「でっかいスプレー缶にウォーホールのトマト缶を印刷したヤツ」だと思うんだけど、俺はあの発想は面白いと思った。なるほど、「アートは洗脳だ」って言葉にぴったりだと思う。MBW は言うほど馬鹿じゃない。

この映画を観て「MBW=純粋にカメラ好きで、ただのノリも人も良いおっさん」みたいに評するレビューもあるけど、人の良いおっさんは妻子をほったらかして無断で全財産をアートにつき込んだりしないよ、と俺は思う。この人の業はもっとずっと深いはずだ。

でなきゃ、「善良なはずの市民が実は一番怖い」ってよく聞くいつものオチかもしれない。

もう一回書くけど、バンクシーのわかりやすいフォロワーであり、より毒がなく無害な MBW という流行に感動し、金を落とす人々が多数存在した。

これをわかりやすく例えると、椎名林檎と矢井田瞳、宇多田ヒカルと倉木麻衣、aiko と大塚愛、キロロと花*花とかになる。本人やファンは否定するかもしれないけど、この手のフォロワー現象はどの業界にだってあるはずだ。

もちろんどっちが「本物」で「偽物」かなんて議論は不毛だ。ただポイントは椎名や宇多田、aiko は強いオリジナリティ（これは毒やひねりと言い換えてもいいと思う）を持っているため、多くのコアなファンもミーハーも金を出す。

一方、フォロワーのオリジナリティは弱いため、コアなファンとミーハーは始めの頃しか金を出さなかった。結果、椎名や宇多田、aiko は長期間、第一線で活躍できるが、フォロワーはできなかった。

ひるがえって、バンクシーのオリジナリティは強いから、そのオリジナリティにもコアなファンが付く。

一方、MBW は「LOVE が大事だから」って理由で「LOVE」って絵のど真ん中に堂々と書きちゃう画風だった。しかも俺がこの映画を観た感じでは、MBW はむしろ「毒やひねりはアートにとって小賢しいし不要」だと考えてた気がする。「LOVE」って直球ストレートに書いたほうがすっきりしていいじゃん、って確信犯だと思う。

そういうひねりのないキレイごとが大好きだけど飽きっぽい「トイ神層」はどこにだって多数存在する。

その証拠にたとえば、福島の甲状腺ガンで手術した/する予定の子供が 172 人になったり、家族の会ができた、他にも原発作業員のピンハネ、汚染水、凍土壁の話は、表のニュースにほとんど出なくなった。

特に甲状腺ガンに関しては、御用学者曰く「統計的に有意な差が出るまでは今まで通り、考えにくいという表現を使う」そうだ。はじめは「絶対に有意な差は出ない」って言ってたけど、もうその可能性を否定しなくなってきた。有意な差が出てからでは、俺は遅い気がするけどね。

マスコミも今までは「否定」を報道してたけど、今はもう「存在自体」をほとんど報道しなくなった。これも、多数派の「トイ神層」が自分のトイレをキレイにすることにしか関心がないせいだろう。他人のトイレ掃除には興味ないんだよ。

そういう「自分だけキレイなトイレ」に忍び込んでこっそり落書きするような動きとして、「バンクシーGO」

ともいえる『バンクシー・ダズ・ニューヨーク』って映画が上映されたり。または、「ポケモン GO」を下敷きにした「シリア GO」って活動も、まさにグラフィティの手法で戦禍を伝えようとしてる動きだ。

だからそのうちどっかに「グラフィティ GO」ってサイトが立ち上がる気がする。バンクシー他、国際的に名の知れてるアーティストたちが世界の名所、スフィンクスとか自由の女神とかに、ネット上でグラフィティ描いたりとか。可能なら実際にそのグラフィティを現実にも描きこむとか。あるいは有名な人とかが有償で、この壁にも書いてくれって要望を投稿したりとか。

単なる「ヘイト=害」や単なる「LOVE=無毒」を超える表現が望まれる場所が確かにある。例えば今回の表紙の「メモ欄」とかの場所にね。そういう意味で「メモ欄」を使ってね。この流れで原発や汚染水タンクにも何か描いたら面白いと俺は思うけどね。

今回はこんな感じ。どうかな？

珍しく宣言するけど、次回は『ニンジャスレイヤー』と「ブローケン・ハート」（初代『マクロス』）で書きたい。U はあんま興味ないかもだけど。



第三十六回『ニンジャスレイヤー』と

「ブロークン・ハート」

考 え



メモ欄

弦楽器イルカ 友人



今回は樋口毅宏『タモリ論』に倣って、いつもより妄想多めでざっくり断定してみる（って言いながら『タモリ論』読んでないくらいのざっくり感ね）。あえてそういう表現を選んだ理由は、最後に書きます。

文化とは、大きなくくりで言うと、フィクションだ。考え方であり、概念だ。

ただの紙が紙幣として、ただの紙とインクが絵画として、高い価値を持つ。

ただの丸い球があっちこっちする様を、ただ泳いだり走ったりクネクネしたりする人の様を、何万何億の人々が固唾をのんで見守る。

顔の中にあるパーツがそれぞれ数センチ数ミリ違うだけで、当人の一生が左右されかねない。

前回の例で言えば、前衛的な表現に興味を持つ人にとって、バンクシーは本物かもしれない。でも表現自体に興味のない人や、古典的な表現に強い興味を持つ人にとっては、偽物と思われても当然だろう。

結局、文化とはただのフィクションである以上、本物も偽物もない。

そして文化がフィクションであり、人によって興味を持つ対象が違う以上、物語という文化も当然、人によって重さや受け取り方が違って来る。

ある物語に興味を持つ人がいる一方、まったく興味を持たない人がいる。同じ物語でも、ありえないと受け取るか、起こりうると受け取るかも、人それぞれだ。

たとえば、同じ野球を題材にしたマンガでも、『巨人の星』と『タッチ』では物語も表現のされ方もだいぶ違う。

一番比較しやすいのはクライマックスのシーンだ。クライマックスとは、物語の一番盛り上がる転換点であり、『桃太郎』なら鬼を倒す場面だ。

『巨人の星』のクライマックスはたぶん、花形と星が野球で対決するシーンだろう。あんま知らないで適当に書いたけど、だいたい合ってるはず。同じ原作者の『あしたのジョー』で言うなら、力石とジョー、またはホセ・メンドーサとジョーの対決とかがクライマックスだろう。

だって野球やボクシングが題材なんだから、対決シーンがクライマックスで当然じゃん、と考える人に向いている作品だ。

じゃ、『タッチ』のクライマックスはどこか。達也と新田が野球で対決するシーンだろうか。残念ながら一番盛り上がるのも、物語が劇的に転換するのもそこじゃない。「懐かしアニメ一挙大放送」みたいな番組で女子の歓声上がるクライマックスはもちろんラスト、達也が南に告白するシーンだ。野球の勝ち負けよりも恋の告白の方が、主人公である二人の物語を劇的に転換させる出来事だからだ。

つまり『タッチ』は野球を題材にしながら、対決よりも日常に重きを置いている作品だ。人間は日常を生活しているのだから、対決よりも日常こそがクライマックスで当然、と考える人に向いている作品だ。（これはつまり、「スポーツ選手にとって引退した後の方が、選手でいる時間よりもずっと長い」系の話にも通じる）

長いけど、ここまでが前フリね。

では次に、『ガンダム』とテレビ版初代『マクロス』のクライマックスを比較してみると、その違いが鮮明になる。

『ガンダム』のクライマックスと言えばまさにあのシルエットだろう。

つまりガンダムとジオング、アムロとシャアの最後の対決だ。ロボット SF 戦争アニメなんだから、ヒーロー

とライバルがロボ（MS）で対決するのが当然クライマックスだと考える人に、『ガンダム』は向いている。

では、『マクロス』のクライマックスはどこか。

最も大きいクライマックスが、「愛は流れる」という敵のボスを倒す回だ。知らない人は当然、ロボット SF 戦争アニメなんだからヒーローがラスボスを倒すと思うだろう。しかし、ラスボスはマクロスという戦艦があっさり倒してしまう。

じゃ主人公である一条輝はその頃何をしとるのかというと、人類が滅亡するかもしれない戦闘の前にまずヒロインであるミンメイに告白して失恋、さらにミンメイのキスシーンにショックを受け被弾し早々に戦線離脱、大破した機体で地球上をフラフラしてたら、もう一人のヒロイン・早瀬大尉をたまたま見つけて救出、操縦席で彼女を膝の上に乗せ肩を抱きながら、これからどうしよう、もう地球には私たち二人しかいないのかな、それでもいいじゃない一人ぼっちじゃないんだから、とかつてこの期に及んでまでイチャイチャ、そこでぼんやり空を見上げると母艦が地球に還ってくるのを見つけて、よかったって一安心して笑う。

これが『マクロス』のクライマックスだ。つまりわかりやすく言うと、『マクロス』はロボアニメ界における『タッチ』だ。戦争の行方よりも恋愛の成就の方が重要だから。

かく言う俺はもちろん、『ガンダム』より断然『マクロス』派だ。当時のアニメ雑誌やら古本屋で買い漁ったし、「3倍好き」だからこそこの酷い言いぐさってことはわかってほしい。

つまり『マクロス』とは、そもそも戦闘ではなく日常がテーマの物語だ。

さらに、この回までがヒーローとヒロインの成長物語であり、それが一段落した結果、この後に続く回はもう一人のヒロインであるミンメイの成長物語へと移っていく。

しかしことここに及ぶと、(大人の都合で延長されたってこともあり) ロボット SF 戦争アニメを求めるファンにとっては蛇足以外の何物でもなく、非常に評判が悪い。

だがそもそも『マクロス』とは、半分以上素人でアニメやアイドル好きな学生たちが、ノリと思い付きで作った当て馬の企画だったはずだ。暗い遊びをしていた彼らが、自分たちの好きな物を詰め込んで精一杯背伸びした結果生まれた(デストロイド) モンスターだ。むしろこっち方向こそが正解であり、純粋なロボット SF 戦争アニメを求める人の方こそ勘違いだから、よそに行った方がいい。

当時のアニメ雑誌では映画版『ナウシカ』の頃の宮崎駿に、「あれ、マクロス戦艦の中の街って、食糧とかどうなってるの？」って細密な SF 考証について質問され、河森さんが「ベトナム戦争時の米兵も生死をかけた最前線なのに、缶詰を腹いっぱい食べたり音楽を聞いたりしてたのを見てましたので、そういう軍隊をイメージしてる」的な言い訳をしたけど、そういう細部は普通なら大事ではあるけど、こと『マクロス』に至っては小事で大丈夫だ。敵の戦闘ポッドの大きさが変とか、巨人にまつわる設定の甘さとかも大概問題ない。

たとえば、巨大な戦艦に封じ込められて襲い来る敵と戦う様こそ、この島国に生きる我々を投影したメタファーだとか、適当にハツタリかましときゃいい。

『マクロス』の核心は、戦闘や悲劇以外の「日常で戦争を描く」というアニメ表現の革新を、30年前に確信犯的にやってのけたことだろう。

いいんだよ、アニメでフィクションなんだから。ところどころパロディ入れたり、力尽きて色が塗れなかったり止め絵になったり絵荒れが酷くても、逆にふざけてそれも笑いにしちゃえばいいんだよ。芯である SF のセンス・オブ・ワンダーさえしっかり通ってればいいんだよ。そういう強いメッセージを俺は『マクロス』から勝手にもらった。

そういう意味でも、俺にとって『マクロス』は初代テレビ版が一番だし、俺にとって神回はラスト近くの「ブローケン・ハート」だ。『マクロス』のテーマの一つである「文化とは何か？」という問いにも面白く迫ってるし、

ラストは絵荒れの酷さをたぶん絶対逆にギャグにしちゃってる。

ヤキモチ焼いた早瀬少佐が、ミンメイとイチャイチャしてる一条クンを意地悪く引き離れた後すっころぶミンメイを見ながら、のぼってくる朝日に満足げな微笑を返すシーン、あれ「ダウンタウンのごっつええ感じ」の「連続テレビ小説 木瓜の花」ってコントそのままだ。

んで俺が気になったのは、この回の最後の方に一条クンがミンメイに向かって走ってくんだけど、その時の笑える走り方と、テレビアニメ版『ニンジャスレイヤー』のナンシーさんが登場時によくやるポーズがそっくりだっている。これは本当に俺の妄想だけど、うすた京介『マサルさん』とかにも通じるニンジャソウルがある。

『ニンジャスレイヤー』ってギャグもシリアスもとにかく荒唐無稽な物語をアニメで表現するためには、あの「割り箸にくっつけた絵を動かしました」的CG表現が一番ベストだったと思う。原作は全く読んでないけど。

そういう意味で、フィクションの内容にふさわしい表現を模索したテレビ版初代『マクロス』を『ニンジャスレイヤー』がリスペクトしたとしても、特におかしくないと思うんだ。

この流れで行くと、アニメ映画版『ニンジャスレイヤー』は逆に、口元が「あいうえお」の言葉通り緻密に動くくらいであってほしいね。もちろん映画版『マクロス』に倣って。

今回はこんな感じ。

表現する内容にふさわしく、適当に勢いで書いてみました。

どうかな？

次回は、「ドラゴンボール GO」とゲームのリアル、で書きたい。今回ののもそうなんだけど、ずっとお蔵入りの分をさっさとリリースしたい。





考

第三十七回『アウター・ワールド』と
妄想の「ドラゴンボールGO」



弦楽器イルカ 友台



今回のゲームの話って、いつも以上にどこにもつながらないから書かないでおいたんだけど、「ドラゴンボール GO」のネタを思いついたから、この3回シリーズでさっさとリリースします。

まずは恒例の長～い前フリから。

人は記憶の生き物だ。記憶が全くなければ経験の蓄積も学習もない。たぶん植物と同じで、今生きていると実感することもないはずだ。

映画版『攻殻機動隊』で、「個人のアイデンティティとその身体は密接に結びついている」って主旨のセリフがあって、「人の体験した記憶」が「自分の身体を使ってしか得られない」からだと俺は理解した。

『アメトーク！』とか『なんでも鑑定団』って番組が人を惹きつける理由の一つは、人の記憶に訴えかける番組だからだと思う。あの時はこうだった、その時どう思ったという思い出話は、記憶の生き物である人間にとって非常に重要な共感行為だからだ。

クイズ番組がテレビから消えない理由も、視聴者が一緒に参加できて各々の記憶を刺激するからだろう。

ただし、現在のメディアが扱う情報の多くは、新しい事物に対する宣伝紹介ばかりだったりする。

それこそ『攻殻機動隊』の押井監督がよく、「新作映画を宣伝するばかりで、上映が終わったらすぐ忘れ去る、振り返りが無い時代」って主旨の発言をしてるけど、確かに淀川さんや水野さんがテレビで映画を放送した頃は、過去の名画に対して振り返りの言及があった。

結局レンタルやネットが普及したことで、振り返りは個人で勝手にやってくれ、という時代になったんだろう。社会的な事件でさえ、震災や原発事故も含め、大した検証もされずに忘れ去られる時代だ。

それを踏まえて考えた時、「振り返る」という行為を自覚的にしている有名人の一人が、ラジオの伊集院光だと思ふ。ツタヤ協賛でゲストお勧めの DVD を紹介する番組や、大切な思い出と共に自分にとっては五つ星の飲食店を紹介しみんなで探すコーナー、フリマで身元が分かりそうな名前入りの物をわざわざ買い、元の持ち主に勝手に返しに行く変質的な趣味とか、あと高学歴でもないのにクイズに強いのも記憶に関してフェチ的側面があるのかもしれない。

ちなみにおこがましいけど、そういう伊集院に俺が DVD 勧めるとしたら、是枝監督『ワンダフルライフ』だね。

番組に倣って「三つのここ観てポイント」を挙げるなら、

- ① 「物語が割とチープで安心」
- ② 「役者も、奥菜恵っぽいヒロインと、稲垣吾郎っぽい主人公（昔の ARATA）の、何とも言えない二番煎じ感がチープで安心」
- ③ 「映像を撮る・観るという行為に対して、一つの答えがある」

たぶんこの映画はもうちょっと振り返られていいと思うし、こういう記憶を映像化する行為は、うっかりビジネスになるんじゃないかな、とも思う。

さて、長い前フリは大体このくらいかな。

『アウター・ワールド』ってゲームの話は昔 U とよくしたけど、今でも俺にとっては生涯 NO.1 だ。昔はスーパーファミでやったけど、今やキンドルアプリになってとりあえず買ってみた。でもレトロゲームの需要もずっとあるし、新作ゲームの紹介だけでなく振り返りだっていろんなビジネスの可能性はあるんじゃないかな。

ゲームの歴史を振り返ると、はじめは棒が左右に動いてボールを弾くだけのゲームに、大人でさえ夢中になっ

てた。プレイヤーの望む方向に主人公が動くだけで驚いた時代もあった。

そこからボタンも増えて、グラフィックもリアルになり、音楽もダイナミックに、全てが複雑化したけど、結局未だに『スーパーマリオメーカー』が売れるってことは、人間にとって面白いと感じるゲームには、むしろ複雑なシステムなんていらんって話だろう。

その限定されたゲーム世界の中で、プレイヤーが「こうしたい」と思ってボタンを押すと、同時に画面の中の主人公がその通りに動く。プレイヤーに「操作させたい」と思わせるゲーム世界をどれだけ画面上に展開できるか。それがゲームの魅力であり、プレイヤーの指示とぴったり連動している主人公のゲームに感じるリアルさは、とても強固なはずだ。

そこで現在までリアルさを演出するための新しいシステムがどんどん開発されてるけど、未だに俺が『アウター・ワールド』のリアルさを称えるのには理由がある。

『アウター・ワールド』は、プレイヤーの望みを叶えるために「選択肢の限定」という解で答えた。

例えば、主人公を部屋の中に閉じ込め、目の前には赤いボタンが一つ。他に逃げ場がなければ、主人公はこの部屋を一生ウロウロする以外に、ボタンを押すか押さないか、の二択しかない。

映画のようなストーリーの中で、主人公が遭遇する様々なピンチに、プレイヤーは救いを求めてボタン押す。限定された選択肢を前にして、プレイヤーがこうしてほしいと願う通りに主人公が動くリアルさに、俺は衝撃を受けた。

では現在、「ポケモン GO」などネットを使ったゲームのリアルさはどこにあるか。

昔は「ゲーム画面の中の主人公が、現実のプレイヤーと同一化する」ゲームがリアルだった。

現在のネットゲームは逆に、「現実の世界にゲームが入り込んでくる」リアルさが売りになっている。

「ポケモン GO」で言うなら、あのポケモンワールドが現実となって、あなたがサトシとなって現実の中でピカチュウを探すリアルさが売りってことだ。ネットゲームでチャットするリアルさも、現実の中にゲーム世界が入り込んで来るって体験だろう。

だったら、スマホをドラゴンレーダーにして現実世界でドラゴンボールを探せたら、ポケモンと同じかそれ以上にリアルな気がする。

というワケで今回の「はみだしさん」は、妄想の「ドラゴンボール GO」コーナーです。



ドラゴンボールはこの世にたった七つしかない。だから「世界中に散らばったドラゴンボールが本当に七つ全部集まるのか、実際にゲームを公開して実験したい気持ちもありました」って、俺の妄想の中のバンダイナムコの人が言ってるよ。

自キャラはやっぱ、ドラゴンボール初期から後期まで好きなキャラクターを選べるのがいいな。

主なゲーム性は、すれ違ったプレイヤーとの対戦だけど、「ポケモンGO」のジム戦と一緒に、相手のキャラクターを借りるだけでCPとの対戦がいいと思う。そこで勝つと相手のアイテムから一つ、好きな物を奪うことができる。だからもしドラゴンボールを持っている人が負けたらもちろん、それを奪われる可能性は高い。すると、ドラゴンボールがプレイヤーの手から手に渡って世界中を移動する可能性がある。

対戦はジャン拳じゃないけど、できれば課金に左右されない三すくみくらいがいいなあ。例えば、気合弾はキックに勝つ。キックはパンチに勝つ。パンチは気合弾を跳ね飛ばして勝つ。くらいのね。

んじゃ、どこで課金するのかっていうと、主に道具を入れる袋だね。とにかく破れやすい袋だから、何重にもしておかないと道具がすぐ落ちちゃう。特にドラゴンボールを入れると1分くらいで破けちゃうから、最大で100枚くらい袋を重ねたりしてね。さらに予備の袋を入れるための大きな袋も課金にしたりね。

あと、現実的な落としどころとしては、ドラゴンボールが七つ集まって神龍が出てきたら、叶う望みは5択くらいから選ぶのがいいかなあ。

「一度でもドラゴンボールを手にしたプレイヤー全員」に、「課金アイテムをプレゼント」とか「レベル上げる」とか「パフパフ画像を送る」とか、そのくらいの温度にすることでゲーム性を調整したい。

つまり、「俺がドラゴンボールを七つ集めてやる！」ってゲーム性じゃなくて、「誰か少しでも世界を飛び回りそうな人にボールを託して、七つ集めてもらう」って、みんなで協力するゲームがいいんじゃないかな。

もちろん過去に誰が何個ボールを集めたか、ボールがどういうルートで七つ集まったかって、履歴は振り返れたほうが面白いと思う。

でもやっぱ一番はじめにドラゴンボールがある場所は、チョモランマの頂上とか、深海に住む巨大イカの腹の中であってほしい気はする。まあそれは現実的じゃないだろうけど。

今回はなんかこんな感じ。

とりあえずお蔵入り分は出し切ったと思うから、次回はちょっと違うことがしたいなあ。

どうかな？





考え

第三十八回『キャッチャー・イン・ザ・ライ』と
『アウター・ワールド』再び



弦楽器、ルカ、友人

いろいろまとめて送っちゃってごめんね。

『考えるウマシカ～落書き編～』は3回で終わりにする予定だったんだけど、前回書き忘れた分と今回の内容を考えると、4回シリーズにしたほうがわかりやすいから、終戦の日にかこつけて一気に書き切ります。

さて、約20年ぶりに『キャッチャー・イン・ザ・ライ』を読み直したよ。春樹訳が出てから、ずっと読みたいとは思ってた。前読んだときも「怒ってんなあホールデン君」と思った気がするけど、相変わらず怒ってたねえ、ホールデン君。

まず結論から書けば、人生とはこの怒りと諦めの世界で何をどう表現するかを選択だ。今回はそういう話を書くつもり。まあ、今までずっとそれしか書いてないけどね。

その前に今さら『アウター・ワールド』の魅力について（蛇足だけど）、前回は俺がどこに衝撃を受けたか具体的に書かなかったから、ちょっと抽象的だったと思う。Uには昔言った気がするけど、もう一回改めて書くよ。

ただ『アウター～』って、気付いたら2012年にMOMAって美術館にコレクションされてたりすごい称賛されてて、ウマシカな俺ごときがもはや書くまでもないね。

ゲームってのは長いこと、基本的にはクリアする達成感を味わうのが目的だった。

もちろん最近のネットゲームはチャットとかが目的になったりもするみたいだけど、それでもゲームなんだから敵を倒すとか、対戦するとか、クリアするのが当たり前かつ一般的な目的だろう。

でも『アウター～』の喜びはクリア以外に、本当にしたいと思ったアクションがゲーム内で出来たって驚きにある。これは前の『タッチ』と『巨人の星』の違いでも書いたけど、「ゲームを通して何を表現するか」ってテーマになるはずだ。

具体的にどういうことか。

『アウター～』は基本、マリオと同じ横スクロールアクションで、ボタン配置もジャンプと、アクションボタンの二つでほぼ一緒だ。途中で銃を拾うと、それを構えるのもアクションボタンだよ。

普通のゲームなら、アクションボタンを押せば弾が自動的に出てくる。フラワーマリオならファイアボール、ロックマンならビームが出てくる。ゲームだから当然、何の疑問もない。

でも、『アウター～』はアクションボタンを押すと、まず銃を構えるだけだ。そこでボタンを離せば銃を構えた姿勢で固定される。更にアクションボタンを押す長さで、発射、バリア、ため打ち、に変化するシステムだ。

この「銃を構えるだけ」というアクションがすごく気になってた。他のゲームにはまずないアクションだったから。子供が玩具のピストルを構えて「手をあげろ」ってカッコつけるみたいに、「これで本当に敵が怯えて手をあげたら面白いな」って序盤から思ってた。

それがゲームの終盤で、本当にその場面がやってきた。過去プレイしたゲームにそんなリアリティはなかったし、もちろんネタバレになるから説明書にもない展開だ。

例えばマリオがファイアをボンボン投げて、クリボーはただボーっと歩いて火に入るからクリボーだったはずだ、よね？ところが、マリオがファイア構えて脅すと、クリボーが手をあげるゲーム。それが『アウター～』だった。

もちろん他にも、(Uが好きな)初期メタルギア(MG)のステルスアクションとかリアリティのあるゲームは知ってたけど、まさかマリオと同じ横スクロールのスーパーファミでこういうアクションができるとは思わなかった

よ。

更にこの後 PS2 の MGS2 では、敵のタグを集めるために銃口を向けて脅す、ってアクションができるようになることを思えば、『アウター〜』の表現がいかに早かったかが分かるだろう。

さて、ゲームの話はこれぐらいにして。

『キャッチャー〜』って作品は、極論すれば『人間失格』と『それから』と「雨ニモマケズ」あたりを読んでれば、そこまで読まなくてもいい作品かなって思う。大体同じ事が書いてあるから。

気になってサリンジャー自身についても初めて調べたけど、戦争体験で変わってしまった人って意味では、他に水木しげるとかティム・オブライエンあたりを読んどけば補完できそう。サリンジャー自身は戦争そのものを書かなかったようだけど。

いや、ここまで矮小な極論を書きすぎるには理由があるんだよ。

いつもの妄想なんだけどさ、終戦の日を言い訳にして、こっから先ちょっと無茶して言いたい年頃だから。先に書くけど、気分を害したらゴメンね。

世間様のレビューでさ、翻訳本を比較してどっちが良いとか悪いとか批判したり、部分だけ取り上げてどうのこうの分析するのは、「それ何も読んでないのと一緒だろ」って思ったりするワケさ。そんなクソみたいなレビュー書くくらいならさっき言った他の本とか、特に『KAGEROU』でも読んでの方がマシじゃない？ 読後は鍋敷きにも使えるそうだし。ここで「♪便利〜」って、岡崎体育の口パクが聴こえてくる勢いだよ。知らなかったらゴメンね。

『キャッチャー〜』も『人間失格』も、またはもっとわかりやすくエレカシ「ガストロンジャー」でもいいけど、「俺は王様が裸だと思うけど、お前どう思う？」って問いに直接答えずに、言い方がどうだとか、王様って誰だとか、言葉とお茶を濁す風潮自体がクソだって書いてある本に対して、なんでわざわざクソを上塗りするのかって。そういうお前のことをクソだって言ってるんだよ、ホールデン君はさ。

だったら本当に『KAGEROU』やら『一杯のかけそば』で満足すればいい。「トイ神層」にはそれがお似合いだよ。

って、ますます書きすぎんだけどね。いいんだよ。それで。人間合格。それが人間だモン。これはそういう小説だ。つまり、ひっかけ問題みたいなモンだよ。

みんなクソでファックなんだから。サリンジャーも漱石も太宰も賢治もヒロ斎藤も、例外なく同じクソだよ。バンクシーも MBW も、又吉も紗倉まなも『ガンダム』も『マクロス』も、文学もアニメもゲームもウマシカも、クソとファックと職業と表現に上下も貴賤もない。間違いなく、みんな一緒にクソまみれで生きてるだけだ。

戦争に行きゃ、よりかぶりつきでクソを目の当たりにできるだろう。クソ祭りみたいなモンだから。いかに世界がファックなクソまみれか痛感して、こっち側に戻って来れないかもしれない。

だってこっち側の世界じゃ、基本的にそういうのは「なかったこと」で動いてるから。クソと放射性物質はトイレに流れたら浄化されて天上界に召されるってくらいの温度だから。ファックと紛争と甲状腺ガンと作業員のピンハネなんて都市伝説だからさ。

国や地域はたぶん関係ない。それが人間で、それが世界の在り方なんだろう。

このクソまみれの世界で、自分ちのトイレのクソだけキレイにする無自覚なファック美人を目指す物語か、お前もお前もお前もみんなクソまみれだってホールデン君みたいに喚く物語か、内容は違っても同じ表現であり、結局は同じクソだ。

だからいいんだよ。翻訳文を比較して罵る材料に使おうが、癒しを求めて何かわかったような救いを語ろうが、表現は自由だ。それが平和な幸福ってモンだ。

宮沢賢治は「せかいがぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」って言ったっぽい。「世界平和なんて不可能なんだから、クソまみれなこの世界でお前だけ幸せになるな」って、理想論者の賢治らしいと俺は解釈する。まあ、これも言いすぎだけどね。

この怒りと諦めのクソな世界の中心で、愛を叫ぶのか、ファックって壁に刻むのか、(ブラってツイートするのか)そこが個人の表現の自由であり魅せ所だろうけど、でもどう表現したところで、クソとファックをこの世から消せるワケじゃない。

ただ世界をコントロールするのは個人では不可能だから、それは諦める代わりに、カウンターとしてこの怒りをどう表現して共感を呼ぶか、って個人の選択肢は残されてる。

だから結局、人生ってのは「この怒りと諦めの世界で何をどう表現するかを選択だ」って結論になる。『キャッチャー〜』って作品はそもそも、俺だって U だって『KAGEROU』だって、みんなみんなクソで友達なんだぜ〜って、当たり前を再認識するための「字足らずのパンク」みたいなモンだと俺は思う。裸の王様に従って自分も脱がざるを得ない違和感に、押し潰されそうな人々に向けてのさ。

大半の大人は諦めて脱いじゃってるし、はなから脱ぐ気がないヤツは社会的に殺されてるか、でなきゃ権力側にちゃっかりおさまってる。『人間失格』もそういう話じゃん、結局。んで、ジャニーズ然り。

ちょうど今の香取クンに『キャッチャー〜』、ぴったりじゃない？ よく知らないけど解散の件で、集金システムとしてのテレビ業界がいかにもクソまみれかって、視聴者みんな再認識したワケじゃん。アレで騒いでるマスコミはみんな、何でもいから金と注目を集められるクソに群がってるハエだって認識は広がってる、よね？

今回もこんな感じ。いや、ちょっとホールデン君の怒りにあてられてる分、いつもより酷いことになってるね。ここまで書いたらさすがにやり過ぎじゃない？ って自分で言う。もう一回謝るところか。ゴメンね。

でも考えたことなかったけど俺自身、『キャッチャー〜』に強い影響を受けてたんだと思ったね。この「ウマシカ」自体、下手なクソ真似だよ。今気づいた。

さて、Uはどうかかな？



「今回のボツ帯文」

ウマシカを知らなければ、

KAGEROU しか見えないじゃないか。

ウマシカを知らなければ、

どうやって人生を想像するのだ (**KAGEROU** か?)

人生に、**KAGEROU** を。





考え

大Thank You回『一齣漫画宣言』と

『アウター・ワールド』三たび

古き良き時代の
夏休みの終わりに

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

ひさしぶり。

今回はいつもより荒ぶれてるね。

アウター・ワールド、懐かしい。

何度も何度もヒルに殺られながらも、ネバーギブアップの精神で、少しずつ進んでいく。

慣れてくると、ヒルを踏みつけ、飛び越え、調子に乗ってさくさく進む。

でも、調子に乗りすぎて、猛獣に対面したときに、近づきすぎて、逃げきれず OUT。このバランスとハードコアな難易度がたまらんかったね。

主人公が突然、意味不明な世界アウター・ワールドに投げ込まれるという設定だったけれども、ゲームのコントローラーを握りしめている子どもたちも、また意味不明な世界に投げ込まれるという、この一体感。最高だった。

意味不明な世界に放り込まれ、初めて知性をもった敵か味方かわからん奴に会った時の、あの微妙なスマイル。一生忘れられないわ。

意識を失った後、ゲージに閉じこめられる主人公、何も進まず、何も動かず、訳がわからないプレイヤー。俺は当時中学生、友人 4,5 人と交代交代でプレーしていたけど、ここでゲージが揺れることを発見したこと、揺らし続けたら、先に進めたときの発見。すごかったわ。

このシーンのあと、俺らは確信した。中古でテキトウに買ったこのカセットは、クソゲーじゃない。伝説級のゲームだと。

結局、数日かけて、皆でクリアしたけど、なんか、未知の生物との友情とか、鳥肌モンだったね。古き良き時代の夏休みの思い出だわ。



久々にありがとう！

生き活きとした描写で、俺も懐かしさがこみあげました。

まさに一体感のある微妙なスマイル。これだね。プレイヤー心理を驚掴みした巧みなゲーム表現、って勝手な造語だけどさ。

俺も自作で攻略本作ったりノベライズしたり暇だったね、あの頃は。あ、今も同じか。いつかあのノベライズはちゃんとまとめたいと思いつつね。

9月1日は自殺するいじめられっ子が多いらしいけど、俺もたまたまイヤな夢で眠れなくなってこれ書いてる。父親が包丁持って母親を殺しに来る夢。夢の中で叫んで目が覚めた。そういうアレもあったんだって、久々に愕然とした。『ヒミズ』みたいに追いつかれた感じ。

なんだろう。中年のクセに同情を誘いたいとかじゃなくて。もちろん感動ポルノのつもりもなくてさ。嘘、大げさ、紛らわしいで通報されちゃ困るし。

ただ、そういう夢にうなされるような人間に寄り添うための表現ってあったほうが良いと思う。それとまったく関係ない甘〜いファンタジーもそれはそれでいいけど。

そういう悲しみや恐怖がリアルじゃない人間なら、その方が絶対にいい。むしろそういう人生を送りたかった。

でも、体に染みついている恐怖が不意に襲ってくるような人間に向けた表現はあってほしい。恐怖が日常になって人間に寄り添う言葉は（たとえば『キャッチャー〜』みたいに）、もしかしたら幸せな大勢にはむしろ不快で、感動ポルノの方が安心かもしれない。

だからテレビ業界はおおむね感動ポルノなんでしょう。

それに対してよく聞く話だけど、「いいね！」ボタン以外に、「もういいぜ！」ボタンがあつていいと思うんだよ。スルーも消極的肯定に含まれる世の中だから。

もっと違う話題にして、扱いやすい弱い個人の話ばっか流すな、って意思表示はあつていいんじゃないかな。どうでもいい芸能ニュースが多すぎるって、ネットでもみんな言ってるじゃん。

事件起こしたタレントとか、テレビ観ないから「そもそもそんなヤツいたんだ」って初めて知ったし。

そういうニュースに便乗するバッシングも、（左右の）立場で前から気に食わないからって別の理由で起こるしね。

それに比べて例えば、福島の甲状腺検査の縮小を小児科医会が正式に求めたって話は、驚くほどニュースにならない。

公式 HP に載ってるけど、「一般的発生頻度を大幅に上回る今回の多数報告について現段階では科学的かつ客観的評価は困難と思われるものの、被検者である児童青少年およびその保護者のみならず一般県民の間にも健康不安が生じている」から、検査の規模を縮小しろって。

いろんな考えがあるから、別にやめるならやめるで否定しない。ただもし過剰診療を認めるなら、もう手術が終わった子供たちに対して、誰かが何らかの責任を取らなくちゃいけない。それがわかってその議論を避けたいから、結果、全然報道されない仕組みになってるワケだね。

でも今視聴者に人気あるのって、毒舌タレントやキャスターの無双っぷりじゃん。これ単純に、視聴者はまだまだバカじゃないって証拠だと思う。視聴するこっち側の準備はとっくにできてるけど、報道するあっち側はスポンサーと自粛と保身で身動き取れなくなってる感じ。

俺が思うに、『バリバラ！』の感動ポルノの回は、そういう 24 時間の裏で世の中に対するでっかい「もういいぜ！」ボタンを押したんだろう。いくらでもどこにでもあるよ、「感動ポルノ」は。前回は俺（と岡崎体育『Voice Of Heart』）が、げえげえ吐気がするくらい言ってたヤツね。これも知らんネタだったらゴメンね。

そういえば以前、『バリバラ』のドラマで「禁断の実は満月に輝く」って回が良かった。ほとんど障害者しか出てこない。言ったっけコレ。

なんかあれかね、ウマシカではこれから「健常者」のことを「五体さん」って呼ぶかね。俺が『めぞん一刻』を好きだっていう理由だけで。「悲しみよ こんにちは」とか、今聴いたら改めて完璧だと俺は思ったよ。あのサックスの無駄な大曲感ね。また造語だけど、俺の。

「健常者」「障害者」って十把一絡げはやっぱ 21 世紀的じゃないよね。両手がない人を「三体さん」とかね。両手両足がない人を「一体さん」とか。

とりあえずどこにどんな障害がある人か、個人を見つめることから始めましょうか。ウマシカは。

自分のために、もう一歩進むために、そういう痛みについて表現したいとずっと思ってる。できてるかどうかは別として。

「表現は自己治癒のためのささやかな手段」的な主旨のことをよく春樹が言ってるよね。記憶の生き物である人間が過去の人生を整理しようとして、自分から能動的に表現する行為が、すでに新たな一歩を踏み出してるって意味でしょう、たぶん。（夢は脳の整理だって話もよく聞くね）

あと最近驚いたのが、『マンガ図書館 Z』ってサイトで、絶版になった昔のマンガが無料で読めるんだけど、そこに相原コージ『一齣漫画宣言』があるっていう。俺の中では中高生の倫理の教科書に載ってておかしくない、マンガの頂点の一つだけど、世間じゃこれが絶版かっていう。

『キャッチャー〜』の終盤に、ヴィルヘルム・シュテーケルって精神分析学者の引用があるんだけど、個人的にはむしろここに相原コージのセリフを突っ込んだ方が俺の趣味だね。今回はこれ最後にやっところ。

「不思議と言うべきかどうか、これは本職の詩人の書いたものじゃない。相原コージという漫画家によって書かれた。彼はこう記して——聴いてるかい？」

「はい。聴いてます」

「彼はこう記している。『死んで神格化されるくらいなら みじめたらしく最後まで生きてやる』」

「カッコいいですね」

今回は「もういいぜ！」って意思表示をしたかっただけなんだけど、思ったより長くなった。まあ、こんな感じ。

さて、どうかな？





考
え

第始終回『世界の終わりとカールスモーキー・
ワンダーランド』

ワンダーランド

ちようどこんな
表紙の色の眼鏡

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

夜遅めに帰って飯食いながら観るともなしに NHK 流してたら、いつの間にかセカオワのボーカルがカールスモーキー石井になってた。つまり FUKASE、だいぶカール寄りだったって意味ね。

あれかね、俺がセカオワの特集に油断しすぎた罰かねと思ってちょっと検索したら結構、他にも同じ評価がネットでもチラホラあった。

いや、音楽については何も書くことない。歌詞も練られてる。「人を助けることは義務じゃない」ってなんかタイムリーだし、疲れてささくれ立ってた俺にも素直に入った。そこは置いといて。

ああいうアーティスト的な人ってのは結局、カールスモーキー石井を目指すんだろうか。あの手の人にだけ炎と森のカールスモーキー山脈が見えるから登るんだろうか。

「バンドすごろく」で言うところの(まったくうる覚えの妄想すごろくだけ)、まずははじめからの精神病棟入院あたりがスタートで、メンバーと出会って共同生活始めてライブハウス作って、富士急で大掛かりな赤字のセット組んだり海外でもライブとかいろいろあって、最終的にはボーカルが「カールスモーキー石井化」したらあがりっていう。

そういう意味ではチェッカーズもちゃんとフミヤートであがったよね。GACKT も河村隆一もそれっぽくあがってる。よかった。

ただどうも、セカオワだけあがり微妙なんだよ。なんでだろうって考えるとかがウマシカだけどまさに、ってか考えるまでもなくオールバックっぽい髪型と色眼鏡が全然似合っていないんだよ FUKASE。

そこさえつじつまが合ったらすんなり終わる話なのにさ。SEKAI は OWA っても、あの IROMEGANE では OWARU ものも OWARE ないっていうさ。

今回は 40 回ずっと始終ウマシカ話バツカって意味で、あっさりこんな感じ。カールスモーキーと FUKASE が共同で作ったオブジェがオリンピックに似合いそうってくらいの OCHI だよ。

どうかな? ってほどでもないね。



そういえばノーベル文学賞だけど、福島の小児甲状腺ガンをテーマにして受賞する時期が来てるか、もう遅いくらいだろう。これも40回ずっと始終言い続けてるワケだが。

今時点で174人の子供たちは結局宙ぶらりんのまま、御用学者同士で手術するしないって、時間稼ぎと責任のなすりつけ合いがずっと続いている。

学者にとっちゃ単なる数字でしかない無名の子供たち、一人一人について考え表現してこそその文学だと俺は思うけど。数字で語る以外の表現が文学にはあるはずなのにね。



第四十一回 間違った聖地巡礼と
『この世界の片隅の職業としての小説家(仮)』

考え



「NON」と
言えるこの世界

弦楽器イルカ ⇔ 友人



今さただけど『この世界の片隅に』が良かったって、俺のまわりでは結構知らない人も多かったから書いておこう。

とはいえ既にいろんな熱いレビューあるし、俺ごときウマシカだから他と重複しなそうな部分だけ書くよ。ちなみに裏テーマは流行語 GO ね、今回。

まずこの映画を取り巻く状況があえて、神ってる。まず、あえて。

例えば、「足りない資金をネットで集めて、広島や呉で支える会ができて、6年かけてやっと公開」って紹介がよくされる。

つまりこの世界の片隅でたくさんの人々に支えられながら、監督が自腹切りすぎて家族の食費削っても、6年の間に震災があっても、主演女優が改名しちゃってあの業界の片隅に追いやられて民放で扱いつらい現状が続いても、それら全てを引き受けて「ありがとう」ってあの声で言われたら、そりゃみんなこの映画は自分が見つけたんだって応援したくなるよ。

この作品を取り巻くこの情況、まさにこの広島でこの今年だからこそやっぱこの「神ってる」でまとめていいんじゃないかねえ、コノコノ！

特に俺が一番すごいと思ったのは、劇中で最も重要なセリフが俺の耳にはうまく聞き取れなかったってところ。「欲しがりません勝つまでは」って時代に、一億総玉砕に慣らされて、どんだけ追い込まれても「よかったね」で誤魔化してきたのに、失ったモンはもう戻って来ないのに、本名も名乗れないのに、これじゃあんまりにも浮かばれんじゃないか！ って激昂してる場面だから、声に感情入りすぎて「え何て言ったの？」って少し残念ながらも痛く納得した。もちろん自分の耳のせいとか、もしかしたら映画館の音響かもしれないから、あくまでウマシカ視点のすごさだけだね。

ただ現実には「はいここが最もいいセリフです」って俯瞰で絵コンテ切る誰かはいない。それに感情入りすぎた魂の言葉はえてして自分に向かって言ったりするから、他人が聞き取れなくても当たり前だし、「そこもう一回」ってこっちからお願いするのもバカすぎる。けどそれがリアルじゃん。

もちろんセリフをちゃんと確認したいし、内容も濃すぎて一回じゃ入りきらないから、すぐ原作買って喜んで読んだけど。でも原作と映画じゃ核心のセリフが違った。

演劇だとボソッと聞こえない芝居とか意図的にあるけど、クライマックスのセリフが聞き取れないってのは斬新だったし、覚悟のいる演出だって思ったよ。とにかくそんくらいリアルでよかった。

ちなみに原作ももちろん良いんだけど、映画はかなり強かに脚色されてて、柔らかい着色や演技も見事で、戦時中の炊飯じゃないけど内容が何倍にも濃密かつ膨らんで、まあよく出来てた。

こっからちょっとネタバレだけど、主人公の眼前で炸裂する高角砲弾の爆煙が赤、オレンジ、黄色、青の4色に染まり「今ここに絵の具があれば！」って感じてしまう業の深い芸術家みたいな場面とか、あるいは、離れて暮らすお兄ちゃんが軍艦好きでいろいろ教えてくれて、幼い妹も自分が見た軍艦をお兄ちゃんに教えてあげたくて港に近づこうとして、でも軍艦は兵器でありそこは紛れもなく戦地の真ただ中だから、「のんびり子供」の夢が入り込む余地なんて全くないっていう展開とか、資料に基づいた描写にも説得力があった。

蛇足だけど、「戦争映画だから戦争の悲劇とか戦闘シーンとか戦史とか大きな物語が観たい」って人には向かないと思う。期せず、前に比較した『ガンダム』と『マクロス』、『巨人の星』と『タッチ』、『火垂るの墓』と『こ

の世界の〜』の図式にもあてはまるって、これもあくまでウマシカ視点で思った。

つまり、「そもそも〇〇映画とかくくるのもどうかな」と思っていたり、戦争やスポーツを題材に「大きな物語」ではなく「大いなる日常」を描いてほしい人向けの作品だね、きっと。

ちなみに俺が観た映画館なんだけど、決して悪く思っていないからちょっとボヤカして書くと、たまったま聖地の映画館で観ることができた。

さすがにお膝元だし土日だから混むかなって軽く下見したら、そこそこ広いロビーの真ん中にサービスカウンターみたいな古い窓口があって。そこにたぶん普段着っぽいおばちゃんが二人座ってて。一人は携帯で通話する声がホールに響いてて。

隣にある昭和っぽい機械のポップコーンは 200 円で。「混みますか？」って聞いたら「混んでも満席になることはまずない」って。「自由席だから、普段は上映始まる時に来てお金払うんで、先にお金払ってもいいけど指定席じゃないから。今買っても指定席はないから」って念押しされた後、「んじゃ、来的时候このレシート見せたら入場できるから」って。

あ、券ないんだっていう新鮮さね。あともう一人おじいちゃんがいるんだけど、この映画館の真ん中に実家を彷彿とさせる造り、やっぱ名物らしい。

そもそも 4 階建てビルの最上階に映画館があって。気付いたらいつのまにか限りなくドンキに寄ってた感じのせわしない商店が地下と 2 階に入ってる。決して都会とは呼べないながら街の中心で。ビルの名前は某ポポロで。3 階は古いゲーセンと百均で。1 階は新しいパン屋と、チェーンのカフェと服屋のテナントが入ってる。そこそこきれいだし、割とお客さんもいる。

映画を観終わったら夜で、駐車場まで歩く道すがら川沿いではゼロ戦を模したイルミネーションがやたら派手に感じた。そりゃ確かにご当地だし、納得なんだけど。

ただこの映画を観た後でさ。風情があるほどさびれてるワケでもなく、かといってぎゅうぎゅうに栄えてるワケでもない地方都市の真ん中で、チカチカのゼロ戦が否応なく目に飛び込んでくる感じとか、「さっきまでの柔らかな街並みが、現代人の手にかかれば、なんということでしょう」ってほぼほぼ微妙な映画体験におとしめられたけど、いやむしろ、強い生命力はこの手の雑種っぽさにこそ宿るのがリアルだって、総じて感慨深かったよ。

んで、今回はもう一つ書きたいテーマがあって。それが村上春樹のエッセイについてなんだけど。これもよかった。いろいろ考えたけど、二つ書かせて。

出版社の依頼ではなく、ただ好きに書いた長編が評価され売れ続けるって、他の作家にない特殊な偉業だと俺も思うけど。

でも春樹は自分の作品が必ず一定数の人を怒らせるって書いてる。

なんで怒るのか。それは理解できない疎外感が大きいだろう。みんな笑ってるギャグに自分は面白くないって怒ると一緒だ。センスが理解できないから。

じゃなぜ理解できないかっていうと、理解できるような説明がないからだ。

ここ、『イニシエーション・ラブ』で例えるとすごくわかりやすい。

俺の妄想ではあの A 面はたぶん春樹風の青春小説を意識して若干皮肉ってるとも思う。何か事情がありそうなんだけどはっきりとは示されない、陰を感じさせる A 面の裏事情を、B 面で明かすって内容だよな。

俺は前にも、「B 面はヤボな手品のタネ明かしと一緒につまんないから、A 面だけでいい」って、たぶん誰もそう思わないだろうって感想をわかってて書いた。「だって B 面なかったらこの作品は成立しないでしょ」ってツッコミは想像に難くない。

でも、純文学とはつまり B 面を書かない『イニシエーション・ラブ』であり、昔からそれで成立してるはずだ。今さら『藪の中』を引用するまでもない。純文学に真相や謎解きは必要ない。B 面のことを純文学では昔から「行間」って呼んでる。手品のタネを明かさずに、どんだけ読者に行間を想像させられるかが、純文学作家という手品師たちの腕の見せ所だ。

もちろん B 面まできっちり書くタネ明かし型エンタメ小説が好みの作家や読者もいて、そこはエンタメも純文学もお互い尊重でいいはずなのに、「小説とはかくあるべし」って思い込みが過ぎて相手を攻撃したり不幸が生じるのが昨今の SNS 事情だから、各自気を付けるようにね。

んでもう一つ。

春樹がモラルについて書いてるのを読んで俺なりに解釈したのは、春樹にとって長編小説とは、彼なりのモラルを伝えるための器だったのかなって。だとしたらそれはとても成功したと思うし、有効な手段かつ大事な動機だと思う。もちろん書く理由はそれが全てじゃないにしても、なんかわかってるようでよくわかってなかった。改めて腑に落ちた。

そこひるがえって不遜だけどウマシカな俺自身についても考えた。

自分の中で人物を育てるような気持ちで長編を書く。今の俺にそれができるだろうか？

恥ずかしいけど少し前まで、既に俺の中には先客がいて、20 歳の頃までの自分がずっと取り残されてた。だからそこに対してはいくつかの物語で俺なりの答えを出した。

そっから次に新しい誰かを自分の中で育てられるのかしばらく考えたけど、育てる時間や手段がまどろっこしいと思った。

モラルを伝えるための手段として、今は物語よりも U への手紙の方が有効かつ速いと判断して、まだここでこうやってる。この『ウマシカ』は最終的に俯瞰したとき、一つのメタ物語みたいになればいいと思って書いてる。

あるいは俺が今本当に読みたい長編小説は、首に傷のある若者が政治家になるために奮闘して、社会の壁にぶつかりながら少しずつ政策を実現してく物語だったりするが、たぶん俺には書けない。駆け付け警護とか現場の作業員が主人公ならそれでもいいけど、知識も意欲も足りない。

そういえば春樹の長編と『この世界の～』にはたぶん共通点があって、それは基本的にファンタジーであるってとこだ。

『この世界の～』は、導入とラストにファンタジーが入ってて、それが真ん中のリアリズムをサンドしてる。誰の目にも明らかに「これは虚構です」ってマーキングをわざとしてる。たぶんこれは、作者と読者の負担を軽くさせるって意味が一つあると思うよ。

まだ結論は出てないけど、そういうことを考えた師走。

今回はこういう感じ。どうかな？





第四十二回『初恋にさようなら』と新しい愛国教育

考



あっさり自己肯定できるほど、
ストレートな人生じゃねえよ。

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

久しぶりだけど元気？ 今回、まずは当たり障りない最近の話題からね。

今年に入ってから、PCにSTEAMってプラットフォームを無料インストールして（知ってる？）、地味で変わった洋ゲーを少しずつやってる。最新の『バイオハザード』や『MGS』とかもできるんだけど、高いし買ってない。

それより、気が滅入る版『アウター・ワールド』みたいな『LIMBO』とか『INSIDE』って、お勧めはまったくしないけど、単なるゲームというよりはゲームを通して何かを表現しようとする「ゲーム表現」って新しいジャンルだと俺は思う。

『Brothers』って洋ゲーも、やらされ感の少ない『ぼくのなつやすみ』っぽくていい。和ゲーだとどうしても、虫獲りや魚釣りって単なる子供の遊びでさえも「何センチ勝った負けた」って、わかりやすいゲーム性に落ち着けちゃう生真面目さがある。

そこ洋ゲーだと、草花いじってる庭師の尻を叩いて笑うためだけにアクションボタン押すとか、犬に追いたてられるいじめっ子を冷かして笑うためだけにアクションボタン押すとかの、発想が自由で爽快。

モニターの中のキャラクターが自在に動くってシンプルな意外さは、まだまだ無限の面白さを持つと思った。『STYX』ってステルス・ゲームも正統派で面白いんだけど（これ前にクリアしたPS2の『セインツ』によく似てる）、ゲームを通して新しい表現を体験したいと最近は富に思うね。

ここ一応、枕になってます。

今回は、これまでの四十二回をウマシカ表現でカラッとまとめます。

まず最近のネトウハ学園騒動について結論から書くけど、愛国は金になる。票になる。為政者にとっては求心力になる。

この国の目立った新興宗教のいくつかも、右寄りのスタンスを公表してる。なぜか。権力者が民衆をコントロールする手法として、「御国のために散れ」「神のために捧げろ」って思考停止が最も都合いいからだろう。極論すれば権力者は、私腹を肥やし信者をコントロールできるなら、右でも左でもどっちでもいんだらうと思う。

こっからウマシカ表現を多用するけど、小島国の愛国と、半島国や大陸国の愛国をうまく対立させてコントロールできれば、それだけで互いの国の為政者は権力を維持できる。実際、ここ数年の愛国活動のおかげで、隣国に悪感情を抱く小島国民が増えている。結局どっちの国の愛国も、実は同じ中ウハ組織が仕切ってるって噂も、ネットではよく見る話だ。

もちろんこの愛国利権ビジネスには、様々な組織や宗教がのっかってる。巻ウハも、自分の正しさを得るために、知ってか知らずか喜んで巻き込まれてる。だからネトウハの調子がいい時はみんなで一致団結して、右回りで国を動かす。

ただネトウハの調子が悪くなると、今回みたいにダメなスイミーたちの共喰いが始まる。

だけど俺が書きたいのはそこじゃない。コネや利権や仲間割れなんて売春より昔からあるはずだ。タダで土地転がしてる案件も、単に氷山の一角だろう。

それよりもネトウハの中に、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」をマジで廃止しようとする動きがある方が重いと俺は思う。

愛国をコントロールして俺ら愚民どもの命を削り、自分たちはワイングラス片手にその削り節を軽くつまもって類の権力者がワンサカいる。

今回のネトウハ学園騒動で、そういう国粋主義的な動きにブレーキがかかるのなら、俺は少しは良かったと思う。ダメなスイミーたちが喰い合って、魚合の群っぷりを存分に露呈させたらいいと思う。

んで、こっから各論ね。

① 愛国とは何か？

通常の社会生活では、自分たち（組織・家族）の正しさを周囲に認めてもらうには、様々な努力による社会貢献が必要になる。更にその正しさを社会的に維持した生活を営むには、努力の継続も重要だ。これは恋愛の回でやった話ね。

夢は叶ってからが重要で、恋愛でも就職でも（芸能活動でも）、努力を継続できなければ関係が破綻したり（改名したり出家したり）する。

ただ最近のネトウハ♥教育は、この努力をすっ飛ばして、半永久的に自分が正しい状況を作り出すために、愛国を利用してる。

自分たちは常に善で正しく、他者が常に悪（反○・売国奴）で間違っていると決めつければ、努力の必要はない。

その場合、愛国者は自分の嘘がばれて周囲から糾弾されても、悪いのは自分を貶めようとする他者（反○・売国奴）であり、自分は善なる被害者であると言い訳もできる。

言い訳、決めつけ、努力をしない、常に自分だけに都合の良い愛国無罪。

ただ、正しさを神や国家に委ね、教えや法に従って生きる人々も、その多くは厳しい戒律を守ったり、社会貢献の努力をしているはずだと俺は思う。

だから、一山いくらの愛国者も含めて、誰かを否定するためにウマシカを書くつもりは毛頭ない。

最近、「テレビカメラの前で泣くヤツはだいたい悪人」っておぎのコメントがテレビであつたらしいけど、まさにUが言いそうなセリフって思った。すっごくいい意味でね。膝を打つ納得感と、人でなし感が混在する瞬間だね。

でもたぶん、「愛国を語る権力者もだいたい悪人」って同じように言えるだろう。「僕チンの権力構造を維持するために、お前らの命を捧げろ」ってヤツらね。

だから俺はもともと、愛国も反○も売国奴も、自分にだけ都合いい定義がはっきりしてない言葉だから嫌いだ。そういう言葉を使うヤツは信用できない。

そこで、俺なら愛国教育をどういう言葉で語ろうかって考えた。

② 新しい愛国教育

当たり前だけど、組織とは、社会とは、国とは、つまるところ人の集まりだ。

だから自分も他人も「人」を尊重する教育が、新しい愛国教育の軸になるだろう。様々な人が集まれば、様々なトラブルがある。好き嫌いもある。それはそれとしてありのままを尊重し、関係を維持するための交渉努力を繰り返す教育が、愛「人」教育だ。これを仮にセンテンス・スプリング教育と名付けよう。

けどこれは、あんま新しい話ではないと思う。「結論は当たり前」ってのも、今までの四十一回通して言ってる。

ただ、他人を尊重することと、先回りして忖度したり自粛することは違う。互いを尊重して高め合うためには、ぶつかり合ってケンカすることも重要だ。

こっちの領海まで侵犯されるのが嫌なら、きっちり抗議して対抗手段を講じ、お互いに納得する線引きのために交渉する。これも集団行動では当たりの話だ。

やられすぎたらやり返す。自分の痛みを他者に伝える。その繰り返しの交渉努力が新しいセンス教育だと俺は歌う。

実はこれは米の新しい大統領の話でもあるし、アレを一概に差別主義と否定する気はない。今までの逆に行き過ぎていたって話もある。

少なくとも米が世界の警察をやめるなら、これまでのような米の支配力は低下するだろう。今後その空いたスペースに入り込む国と、権力を分け合うことにもなるはずだ。

それが露なのか、中なのか、はたまたこの国なのか。その新しい権力分配がどういった意味を持つのか？

ずっと考えてるし、そういう現実とのつながりが重要だと思ってこれまでウマシカをやってきたけど、こっからはまたちょっと違う方向を目指したいとも考えてる。

ちなみに一個脱線すると、「リトル・ピープル」ってもともとエジソンが言ってたんだね。最近初めて知った。

そもそも才能と努力って実は、「いくら努力しても1%のひらめき（才能）がなければすべて無駄」って、逆に残酷な言葉だったって話だし。そのひらめきを与えてくれるのが「リトル・ピープル」＝地球外生命体で、子供はその声を聴くことができ、人間の運命を動かしているのも「リトル・ピープル」らしい。なかなか面白い考えだし、春樹はここからも着想を得たんだろうと思った。

そういう意味では、今回のネトウハ♥学園騒動もオチによっては、米露中韓北日その他を巻き込んだ一連の新しい世界秩序の流れと連動してるアレかも、とかいろいろ深読みし出すとキリがなくなってくるよ。

② 新しい文学とは

これまでもかなりこだわってしつこく、「いつまでも魂入れ替わってんじゃねえよフィクション！」って中年の主張を世界の片隅でボソボソやってきたつもりだけど、まだやるかフィクション！だよ。

この「イトカワ」にロケットが飛んで戻ってくる時代に、ケータイをいきなり「ガラ（クタ）ケー」ってネガティブな呼び名に変えてスマホに機種変させようとする圧力資本主義時代に（関係ないけど）、入れ替わりやタイムスリップでお茶濁すムリゲー映画に積極的な意味を見いだせない俺だ。

だったらもっと現実とつながってる話で、例えばあの日から6年後の3月11日には、小児甲状腺がんに関する報道はほぼ無視されたとか、公的に小児甲状腺がんの多発は認められたもののそれが何故なのかで御用学者同士が揉めてるとか、さらに御用学者同士が責任を押し付け合ってる会議の不毛さに耐えきれなくて評価部会長が辞表出したとか、そういう話をした方がリアルで切実な意味を持つと思ってきた。

更に現実の世界情勢を考えることも同じようにリアルな意味を持つと思ってきたし、それは今でも変わってない。

でも現実の世界情勢と虚構の文学、実は同じ物語であり、極論すればどっちもフィクションだ。現実の世界情勢が本当のところどうなっているのか、すべてを把握できる存在がいるとすれば、それはもちろん神だけだからだ。

現実の世界情勢は無数の人の意思が関わって動くが、すべての人の意思を把握するのは人間には不可能だから、各国の首脳にだって見るところまでしか見えない。いわんやウマシカに見えるのは妄想の「竜の島国」ぐらいだ。それはフィクションの域を絶対に出ない。

だったら、それらを超えた新しい文学のキーワードを俺なりに考えた結果、当たり前の結論になった。

「現実とつながっている、読んでよかったと思えるような物語」

そういう意味で今回最も書きたかったのは、『初恋にさようなら』は新しい文学だと俺は思うってことだ。

っていうか、『夏の約束』ってゲイ小説が過去に芥川賞獲ってるけど、むしろ『初恋にさようなら』にあげたいね、俺は。

BLに純文学を持ち込んだ『初恋にさようなら』はたぶん新鮮なんじゃないかと思うし、BLってくくりは気にせず文学好きなら読んでいて損はないよ。読ませる、実に。

少なくともBLだからって理由で埋もれていい作品ではないと思う。俺の中では世間様がもっと気づいて正當に評価すべき作品だと思うね。

あと、「現実とつながっている、読んでよかったと思えるような物語」の新しい出し方を、俺もこれからウマシカなりに考えていきたい。

今回はこんな感じです。長くなった。

どうかな？





第四十三回 スノーフィンと

『Brothers - A Tale of Two Sons』

考

ウエラ

コントローラがふるわせる
両手 と 心

弦楽器イルカ ⇔ 友人



久しぶりだね。

今、ミャンマーのヤンゴンにいて、この後、バンコク、ホーチミン、プノンペンと滞在する予定。

その前にはソウルと釜山にいて、一度帰国したら、予定では、フィリピンとオーストラリアとニュージーランドに行くつもり。変な仕事でしょ。

それにしてもミャンマーのヤンゴンは暑い。

今日 4 月 10 日の最高気温は 38 度だったよ。

そんな暑い中散歩（と商品のテスト）をしていたら、合気道の道場を見かけたよ。遠くからみてたら、ミャンマー人の師範らしき人に日本語で話しかけられて、いろいろと中で話を聞いたよ。

日本の精神は素晴らしいからぜひとも子供たちに教えていきたいって。

台湾でもそういう老人やおっさん、若者もたくさんいたけどね。

「教育勅語を知っているか？」とか逆質問されたもんだよ。

左派の人たちに逆に聞きたいのだけれども、台湾やビルマにかぎらず、マレー半島やフィリピン、太平洋の国々にとって、イギリスやフランスなどに侵略され、奴隷のように扱われて、力では到底かなわない状況で、力でねじ伏せられていた歴史をどう思っているのか？

それを大東亜共栄圏を築いて、打開していくことを目指した日本は、本当に間違っていたのか？

そのところの認識の違いが、今の右派と左派の対立を生んでいる気がするよ。

もちろん、個々の人権は大事だし、権力は得てして、多数派にとって都合がよいように動きがちだから、憲法などをしっかり守らなければいけないけれど、少数派であることや権利を振りかざして異常なところまできていた左派に対する反発が今の右傾化する日本だと思うけどね。

あとは、最近、スノーデンを扱った本を読んだよ。

スノーデンは本当に聡明な若者だよ（暴露した当時は 29 歳）。

NSA や CIA で働きながら、日本を含めて外国でスパイ活動みたいな仕事をして、このままではヤバイって思って、人生を投げうって、香港ですべてを暴露したんだ。

彼が明らかにしたのは、米国政府は、ベライゾンや AT&T などの通信会社のログは自由に入手できるし、マイクロソフト、アップル、スカイプなどと秘密の契約を結んで、自由にユーザーを追跡できる。遠隔地で PC やスマホを乗っ取り、盗聴器としても使えるようになっていたらしいよ。

NSA や CIA のサーバーにアクセスして、極秘資料を入手し、まとめて、証拠を明らかにした。詳しくはわからないけど、証拠のもっともらしさから、実際にそういう状況になっていたと思う。

まさに、オーウェルの小説のような世界になってしまったということだね。

中国政府のグレートファイヤーウォールを非難する前に、アメリカの盗聴システムこそ非難されなければいけないよ。

まだ頭の中で整理できていないけれど、もう少しこの現実世界について考えてみたいと思います。

じゃあ、またね。



Uの返信から遅くなってごめんね。今はどの辺りかな？

今回は俺の枕がちょっと長めだから、暑苦しい抱き枕だと諦めてください。

まず、前回書きたくて入りきらなかったんだけど、『この世界の片隅に』の原作者があとがきで、「死が最悪の不幸であるのかどうかわかりません」って書いてて、俺も「生=正」「死=負」って単純化はできないと思ってる。

実際あの作品は戦時中の生き死にをリアルに描きつつも、割と重要な展開をファンタジーに託したり、生死もぼやかしたりしてた。

それは緊張の緩和って意味合いだけではなくて、生きるも死ぬも、妄想も現実も、一人の人間から見えている世界はすべて等価であるって事実を物語っているんだと思う。

もちろん、客観的な歴史年表には正確な日時が表記されるでしょう。ただ、今を生き感じているのは、自分の主観だけだ。だから主観的な現実にとっては妄想も不可分な一部だし、死んじゃった人もただこの世にいないというだけで、記憶の中で生きていれば繋がれる瞬間がある。主観的な自己にとって、客観的な事実だけが絶対じゃない。

「そうして私たちは、死んでも生きていくんだ」ってメッセージもあると思ったよ。

んで、前に書いた STEAM の『Brothers - A Tale of Two Sons』ってゲームを U に薦めたい。PS4 でもあるみたいだけど。

海外の映画監督が制作した作品で、クリアだけなら割と簡単だから、ゲームでしか体験できない新しい「ゲーム表現」を楽しみたい人にだけお薦めするよ。『アウトター・ワールド』と『ICO』を合わせたような、けっこうキテツで笑える要素も随所にあるゲームだから、たぶん U にもストライクだと思うんだよね。

でもクリアしてから知ったんだけど、監督は内戦下のレバノンに生まれて、幼少期には、出生後すぐ亡くなった弟を自ら急ごしらえで掘った墓に埋めなければならなかったり、他にも戦地で生き残るために子供がすべきでない「悪い」行為もいろいろしてるみたい。

『ICO』でも右手の握手ボタンに血が通う瞬間があったと思うけど、この作品もボタンに文化が宿る瞬間がある。これは鑑賞だけのメディアでは絶対にできない体験だ。人に言葉を伝える意味や、俺らがウマシカなりに書く理由もこころ辺にある気がした。

生物は遺伝子の乗り物かもしれないけど、ヒトはむしろ言葉を繋いでいく生物なんだと思う。単に生き延びるためだけでなく、生きる個体としての喜びを得るためにもね。

ちなみに、出来るだけネタバレなしでウマシカコピーを考えた。

「握りしめた両手が 僕らの生きる証」

この国の中で平和ボケしてる俺にはちょうどよかった。

STEAM って無料でインストールできるし、ソフトをウォッチリストに入れるとびっくりするくらい安いセール通知が来たりするから、忙しいだろうけど是非機会を見つけてください。

では以下、U の手紙に返信するよ。

一般論として、第二次世界大戦の時代までは、戦争で国民の命を犠牲にしても国富を拡大するって考え方は一般的だったでしょう。ただ、第二次世界大戦であまりに戦線が拡大し人が死に過ぎた反省を踏まえた先進国は、戦争を第三世界に押し込めていったんでしょう。

水木しげるを持ち出すまでもなく、この国のたくさんの兵隊が前線に送り込まれて餓死したとか、沖縄では女子供も集団自決させられたとかの一方で、この国の兵隊に助けられたと思う人々もいる。

また、戦争で何を指そうとしたのかは、それぞれ立場によって全く違う話でしょう。たとえば宮崎駿の『風立ちぬ』は、戦争でただ美しい戦闘機を作りたいかっただけの話だ。

人殺しなんてしたくないって人もたくさんいたと思うし、家族のため、御国のため、世界平和のためにはやむを得ずって人もいたかもしれない。他にも単に自分の富を拡大したいとか、出世したいとか、いろんな思惑で戦争に加担したり巻き込まれた人々がいたはずだよ。

Uだって百も承知だろうけど、それらの事実を美化するのも、卑下するのも、どちらも公平じゃないし、嘘偽りだ。

もちろん、それら大きな時代の流れに対して、どういう選択肢があったのか、自分だったらどうしたかを考えて表現はできるでしょう。

でも個人の選択には正解も誤りもない。もしそこで決められない正誤を無理やり決めようとするれば、それは嘘偽りにしかならない

そして客観的に誤った数字や記録を使って不公平な意見を述べるのも、嘘偽りだ。

Uが言う左右の争いの多くは、その嘘偽りの上に成り立ってるんじゃないかな。

左右それぞれが持つイデオロギーは、簡単に思考停止する。宗教と一緒にイデオロギーも、永遠に聖戦を続けるための大義名分となる。

つまり右派も左派もやりたいのは進歩的な歩み寄りのための争いではなく、単なる利権プロレスだろう。

ここで意図的に脱線。

もし今、特撮に出てくるような悪の怪人がUを襲ったら、絶対に正義の仮面ヒーローが助けに来てくれる。これは間違いない真理だ。

でも幸か不幸か、現実には悪の怪人は絶対出て来ない。特にこの国の路上だと出て来るのはせいぜい「怪しい人」とその露出された下半身くらいだ。そこに仮面ヒーロー参上！しても、着ぐるみ仮面と局部露出の人、不審者二人が道端に立ってるだけで、現実的な解にはならない。

「怪しい人」から市民を守るのは「警察」であって仮面ヒーローではない。現実には仮面ヒーローどころか、警官一人でも動いてくれたらまだマシっていう、厳しい現実もある。

つまり、「現実には悪の怪人は絶対出て来ない」という大前提が崩れてしまったら、あとは仮面ヒーローでも悪の大総統でも、出たい放題ってことだ。これを俺は「ライダー理論」と呼んでる。

(ちなみにこのライダー理論を応用すると、俺が本気で面白いと思う文章を表わせたら、俺と似た境遇の人々にもちゃんと面白く刺さるって結論にもなる)

いつもこんなばっか考えてる俺だけど、原発にもこの「ライダー理論」は当てはまるだろう。

「絶対安全」な原発で「科学的にはありえない」事故が起こり大前提が崩れた以上、「科学的には絶対安全」ってその後の説得は、科学的にはむしろ「非科学」だ。原発ってパンドラの箱から魑魅魍魎が現れても、国語としてはなんらおかしくない。

だからこそ、自分の身は自分で守るしかない。

そして米の新大統領も、本物のプロレス界から出て来た人だ。「政治はプロレスじゃない」なんてキレイごとの大前提は、とうの昔から崩れてると俺は思う。

各国の愛国は利権プロレスとしてコントロールされてる。もちろん当人同士はそこそこ本気かもしれないが、コントロールしやすい話題で争って本質から目を反らす戦法は、各国間の争いでも、国内左右の争いでも共通してる。

たとえばこの国では、議員定数の削減とか、政党交付金の廃止とか、某J隊員や現場作業員の待遇改善とか小児甲状腺ガンの多発とかは議論にならないし、今は北の脅威を最大限に煽っといたほうが、右派にとって都合が良いという構造もある。

脅威を煽りすぎかどうかは別の議論としても、構造がある事実は否定できない。

愛国♥学園問題で内閣の支持率が大きく下がらないのも、そもそもコネ利権や不正があって当たり前だって国民の多くが思ってるからだ。

大なり小なり談合はある。むしろコネ利権が一切ないって社会のほうに、国民は驚くだろう。天下りゼロなんてこの国じゃ逆にファンタジーだから。

極論すれば内閣を支持してる人は、なんなら自分も談合に参加しちゃってる側だろう。

Uの言ってる「マイノリティの権利が異常かどうか」は、個々人で評価が分かれるから無評の評だと俺は思う。

ただ、誰もが自己の痛みを主張すべきだし、それに対して個人や組織はできることとできないことを線引きして主張し、両者がオープンに交渉するのが公平な社会だと俺は思う。

俺も前に書いたけど、米の新大統領は頭ごなしに非難できないし、米国民に選ばれただけの理由はあるはずだ。そしてそれはUが言うように左右のバランスを調整し直したいとか、長く続いた米露の冷戦構造にこびりついた利権や紛争を打破して、新しい世界秩序に平和を求めたんだと思う。

そういう事実を一つ一つ冷静に考えることで、公平な解に近づくんじゃないのかな。

今後、ウマシカなりに考える世界プロレスのシナリオだと、表向き米中露は小競り合いを続けながら、北に対応するためこれまで以上に関係性を強化していく。

そしてこの三大国間の距離が近づけば近づくほど、北は存在意義を失い、韓と共に中露に取り込まれていく。

米・中・露・欧などが連携して、それぞれの地域を安定化させ、世界経済を発展させようとする流れの中で、この国は上記に属さない東亜を安定化させるシナリオで動いていくのかもしれない。

この国が竜を保有するかどうか、大国の竜の傘にいつまで頼るのかといった議論は今後もされていくんじゃないのかな。ウマシカ的には。

ついでにこの国の人口減少を移民で補うのであれば、いっそ全員タイガー・ウッズとかダルビッシュみたいになればいいのにね。和洋折衷のハイブリッドな国民性にも合ってるし。ゴルフや野球だけじゃなく、それでサッカーも強くなったらUも応援しがいあるじゃん？

この国が緩やかにそうなっていけば、文化的にもアグレッシブで、性的にもモンスター男子が人口減少を食い止める強い国になるんじゃないのかな。

最後に、スノーデンの話は面白いし、実際その通りだと思う。海外の話は相変わらず羨ましいね。

今回はこんな感じ。この手の話題はこれでだいぶ書き切ったかな。次あたりから新しい連載ができるといいな。どうかな？





第四十四回 『雑の名は●』と

『人工知能の夢』

考え



ゆでたまごに
感謝を。

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

今回もちょっと長い。まずいつも通り結論から書くよ。

フィクションはなぜあるのか、フィクションの役割とはいったい何か。

「明日を生きる活力になる。気持ちよく笑ったり泣ける」って要素も重要だろう。

「もし自分だったらどうするか。これから自分がどう生きるのかを考えさせる」って要素もすごく大切だと思う。

「自分の性欲等を、創作を通して昇華させる」って欲望との兼ね合いの要素も重要だろう。

どうしてフィクションなんてあるのか。今回もやっぱそういうお話です。

『君の名は。』をテレビで観ただけで、前半期待して、後半がっかりした。イベント増やして客が喜びそうなサービス多いけど、結局「仏作って魂入れず」って感じだった。

「仏だけでも作れてるから立派」ぐらいのキャッチコピーでハードル下げといたほうが、俺みたいなウマシカは変な期待しなくて済むよね。だから今回ちょっとこの作品のために思うウマシカが、わざわざ骨を折って世界中のウマシカのために全力でハードルを下げておくよ。

もちろん、あれだけ興行収入多くて世界的にも大ヒットした作品に、俺ごときウマシカが全くお呼びでない余計な世話なんだけど、どっこいおせっかいなトラブルメーカーって昭和の主人公の鉄板だからさ。こりゃまた失礼。

この作品を一言で要約すると、「不思議な力で運命の入れ替わりをした男女の恋愛物語」だと思うんだけど、これもう一步踏み込めば、「神に選ばれた美男と美女が、生まれる前から結ばれる運命を決められてる村の話」だよ。

つまり極論すれば、「教団側が面識のない信者同士を運命の相手として結婚させる某儀式」とあんま変わんないんだけど。

「この世のどこかに会えばわかる運命の相手がいるはずだからずっと探してる」ってトイ神層にとって最高のトイ神話だろう。

『君の名は。』って、『。』をつけたら意味深ぼいってセンスにちょっと引く。

『。』も含めていろいろ思わせぶりな映画を作りましたので、観た方それぞれ汲み取ってくださいねって、ネットでは作中に描かれてない裏設定まで持ち出してフィクションを深読みしようと必死だけど、逆にこの『。』の小石感にのっけからジャリジャリつまづいちゃって、でっかい隕石が入ってこなかった。

もういいんじゃない？ アニメでフィクションなんだから、躍起になって虚構の深読みしたり、説明不足の補完しなくても。結局「よく覚えていない」って主人公も言っちゃってんだし。

だって隕石も人命救助も「よく覚えていない」で解決ってことは、『アルマゲドン』全否定だよ。ブルース・ウィリスだって命なんか懸けずに、運命の女探し回って最期、「あんま覚えてないけど地球は無事だった」って言うときゃもって大ヒットしたはずだよ、マジで。

隕石も口嚙み酒さえ飲んどきゃ吹っ飛ぶよ。ある意味キン肉マンのフェイスフラッシュと一緒に、あの酒はさ。あ、ちなみにここ伏線だから、後で回収しに来るからね。

ついでにウマシカな深読みすると、あの『。』は隕石の『。』だよ。昭和の『君の名は』には隕石出て来ないわけだから。『君の名は』に隕石足しましたって意味の『。』でしょ？ だったら『君の名は●』くらいにした方が違和感の規模的にもちよほどよかったんだけど。

たぶんね、ここはご容赦くださいって点が大きく二つあって、一つは主人公らの取り柄が「美男美女で基本いい人」以外の掘り下げが浅いしセリフもつまらない点。もう一つは隕石と入れ替わりと時間移動って三つのヘビーな風呂敷を、丁寧に広げすぎた点だね。

意図的に脱線するけど、2017年で俺が良かったアニメは『十二大戦』、ドラマは『わにとかげぎす』、映画はあんま観てないけど『メッセージ』かなって思う。

『十二大戦』『わにとかげぎす』、あるいは『エヴァ』とかに共通するのは、物語は無茶で納得できない展開があったとしても、登場人物の掘り下げとかアクションの迫力とかで押し切れる魅力があったって点だよ。

でも『君の名は。』では、「喧嘩っ早い男」って主人公のキャラ設定も、物語のつじつま合わせに絆創膏貼らせたツギハギ感が拭えなかった。「この設定だからこうなる」って説得じゃなくて、「無茶でも自然と納得せざるを得ない」のが名作でしょ、当然。

あの監督の作品を前にも観たけど、感情の機微が曖昧で、なんでそういう行動になるのかって「それが感動だと監督が思ってるから」だろうなって気がしたよ。今回はさらに制作委員会方式になったそうだから、物語のご都合で動く多重人格者みたいだった。

または『メッセージ』って、SF設定が『君の名は。』よりはだいぶ緻密に計算されてる気がしたけど、やっぱり細かい穴はあるよ。ただ所詮フィクションの間違い探しをしてもつまらないし、「そのとき自分ならどう考えるか」って問いかけが自然と心の内から湧き上がるような映画だった。

冒頭で書いたけど、我が身に迫る「自分ならどうするか」を考えずにいられないフィクションって稀で上等だと俺は思う。ただ『メッセージ』の場合、身に迫りすぎて受け入れられないって人もいそうだったけど、制作者もそこは織り込み済みだろうなって感じた。

ひるがえって、『君の名は。』を観て「自分なら」って身に迫る場面が一体いくつあったか。前半は若干期待させたけど、後半は「？」とむず痒いシーンの連続だった。まったくもって「お前は俺じゃない！」ってノートに書き殴ってたよ。

あるいはネットでよく比較されてる『バック・トゥ・ザ・フューチャー』みたいに、パズルの最後のピースがカチッとハマる音が聞こえるんじゃないかってくらい、全ての伏線を回収するSF映画もある。

そう考えると、若き日のパパがビフをぶん殴る痛快なシーンとか、マーティが即興でギター弾いて「君らにはまだちょっと早いかな」ってお茶目なシーンとか、ドクが手紙破ってデロリアン走らせるハラハラドキドキシーンとかの旨味部分を全部カットして、「よく覚えていない」で大ヒットしたのが『君の名は。』だよ。

つまりトイ神層には旨味なんて必要ない。甘味と塩味が濃い目についてりゃ十分ってことなんだろう。まあ好みだし、フィクションに求めている味付けや役割は人によって違う。逆にそういう気づきのある良作かもね。

俺が思うに、もっと雑にふわっと風呂敷を広げとけば、誤解が少なかったよ。

いっそ登場人物を擬人化した犬（宮崎版ホームズ）くらいにしておけば、ああ、そういう神と呪術の夢ファンタジーなんだなって、お約束とキレイな背景の萌えアニメなんだなって割り切りもできるんだけど、前半でSF設定もちゃんとできるコって背伸びをしちゃってるから、じゃ全部回収しろよ、「よく覚えていない」ってなんだそれブルース・ウィリスに謝れよ、ってなるおっさんもいるよ。そこがフィクションの妙だよな。

俺なんか年金税金さっぴかれたり、月木ゴミ出ししたり、SNSって何だそれEメールで十分ネットワークだろうって言い張る脳しかない運命に擦り切れた中年のおっさんだからさ、だいたいこの二人って本当に付き合うのかねって疑うし。

「あ、どうも」「それじゃまた」って階段すれ違って別れそうじゃん結局。実際会ってみたら思ってたのと違いましたっつてさ。

だって神の思し召しで運命の相手選んじゃってるお二人さんだよ。LINEで既読がどうこう言ってるくせに固定電話で女子のお父さんが出てドギマギした経験さえない、モロ草食系で傷つきの避けそうな今ドキの若者じゃん。神に抗う成長物語でもないし。

むしろ運命の再開してからどう生きるのか、大姑やら舅やらご近所の悪い噂問題やらも含めて、このラストから始まる成長物語が重要だったんじゃないのかな。

「私にはスタートだったの あなたにはゴールでも」って、俺らウマシカと監督と（クスリで捕まったあの人）との間にだいぶ溝があった気がする。

神なんて気まぐれだからこの後もぞくぞく運命の人が待機中かもしれんしね。「よく覚えていない」って言いながら乱交してたかもしれんよ彼は。あるいは口噛み酒が好きなフェチ神だから、「人命救助の見返りに、女子のリコーダー献上せんと人類滅ぼすぞ〜」ってブルセラな要求してきそう。

あと、監督はインタビューであのヒロインを「理想の女性」っぽく言ってたから、やっぱあの口噛み酒を飲みたいたらうね。そういうネットの書き込みも多いし。

でもアレ飲むのはエログロで気色悪って他人の目が怖いから、人命救助で仕方なく飲むって美化してる厨二感がどうにも堪え難かった。いっそ言い訳せず「フェチいから飲む」って開き直って、「思春期に少年から大人に変わる」壊れかけの昭和の遺物をテーマ曲に据えるとか、粘膜と粘膜から始まる昭和のABCをクライマックスに持ってきた方が、欲望にも生物の摂理にも適ってて素直だったのに。

別に冗談じゃなくてさ、『オネアミスの翼』とか『風のアムネジア』とか（面白いかは別としても）過去の真面目なアニメ映画にも性描写はあるし。その方が口噛み酒よりは言い訳も屈折もしてない。

ちなみにそんな昭和で雑食系の俺が『雑の名は●』を書くとしたら、まず隕石の扱いを改めるね。

震災や現実を意識したとか、人命を救いたいとか、キレイな流星を描きたいって理由で隕石を落下させたっぽい気がするけど、どっちにしろ人間以外の野生動物は落下の衝撃でいっぱい死んじゃってるワケだし、人命さえ助かって自分のトイレさえキレイなら後はどうなろうと水に流して感動できるのがトイ神層だって、監督はそういうのちょっとマジで自覚した方がいいよ。

だってテリーマンは子犬助けるために新幹線止めて超人オリンピック失格したんだぜ？

ってワケで『雑の名は●』制作委員会はただ今、突然テリーマンが飛んできて隕石をぶん投げるラストに決めました。所詮入れ替わりも超人も同じ嘘なワケだし、どっちも有り得ないんだから。

だったら思わせぶりで期待させといて結局「よく覚えていない」で隕石どころか物語までぶん投げるラストより、「ありがとう、テリーマン！」って飛んでいくテリーマンに観客が手を振るラストの方が潔い。

大丈夫、いい笑顔するよ、そういうときのテリーはさ！

皮肉抜きで言えば、隕石は全カットでもよかった。

トイレの神様いなくても祖母の話が成り立つトイ神と一緒にさ、この話は隕石なくても成り立つし、解決策も含めてあそこが一番雑だし。そもそも隕石って超大作ハリウッド映画一本作れるくらいデッカい素材だから。

「純愛をご注文ですね。と一緒に隕石はいかがですか？」って副菜が重すぎる。人命救助ってそんなポテトな、カラッと揚げて片手で食えるテーマじゃない。

それよりもっと（村上春樹的な）内面世界にでも比重を置いていけば、こじんまりキレイに風呂敷をたためたのかもしれないなと思う。主人公の二人さえ丁寧に描いていけば、いっそ外の世界は必要なかったかも。でもそれじゃトイ神層には響かないだろうね。

「運命の出会いや人命救えばとにかく感動」って刷り込まれてるトイ神層が俺の両脇からスクリーンを凝視する様子が浮かんでゾワゾワした。

これも俺がウマシカだからどうかしてる妄想だろうね、きっと。

んで、実はこっからが本題。

半年くらいかかったと思うんだけど、やっと新しいのが書けた。忘れてると思うけど、前にちらっと話した、人工知能と人類の話。

「誰か一人でもいい影響を」って思いながら書いてきたけど、今回は人工知能に読ませるつもりで書いた。意味はないんだけど。

生きることに意味はなくとも、生まれたという事実に対して、自分が正しいと思う方向へ進みたい。実際はうまくいかないけれども、文章に意味を持たせることは実人生よりも楽だからね。あえて春樹の言葉を借りますが。こりゃまた失礼。今回はこんな感じ。

どうかな？





23 世紀。

政府の設計した人工知能が「幸福最大化社会」を管理している。

「富裕層」と「作業労働者」の境界をより明確化するために、人工知能が導き出した答えの一つが、報酬に金銭を用いない方法だ。

高度にオートメーション化された産業を独占する支配層が、作業労働者に提供するものは、脳内伝達物質を調整する栄養スープと、それを最大限に発揮するための安価なロボットミイ手術である。

脳の一部を切り取られ、代わりに電極を埋め込まれた労働者たちは、人工知能が管理する電波によってすべての動きをコントロールされ、体温・脈拍などのバイタルサインもチェックされる。

人体を機械のように操り、体調管理も行うことで、機密情報の保護や生産性の向上以外に、労働者の人権を守る取り組みも行っている。その取り組みの核となるのが、労働者の幸福を最大化する、電腦夢による管理だ。

つまり労働者に 24 時間、「思考のない多幸福感のみ」の電腦夢をみせている。実際、「思考のない多幸福感のみ」を感じながら労働に従事することは、労働者本人にとっても、支配層にとっても、人権にとっても都合がいい。

それが人工知能の提案した「幸福最大化社会」であり、社会はその選択を受け入れ、現在に至っている。

労働者たちのみる夢は、メリーゴーラウンドにちなみ通称「木馬」と呼ばれる。あらかじめ決められた多幸福感が半永久的に繰り返されるだけの夢だからだ。

一方、この時代の富裕層は、高価で複雑なロボットミイ手術や様々な外部装置の活用により、電腦夢のオーダーメイドが可能になっている。シナリオを自作するもよし、人工知能に演出を任せるもよし、電腦夢の中でなら、光速移動や時間旅行はもちろん、モラルの制約を取っ払いどんな快樂でも味わえる。映画やゲームを凌駕した、まったく新しい希望を切り開く手段として、「箱舟」と呼ばれている。

また富裕層はこの技術を応用し、実際に起きたネガティブな記憶を書き換えたり、不都合な出来事にはリアルタイムで意識をオフにし「電腦夢モード」へ切り替えることが可能となった。

ただしその場合、自分の記憶と現実の出来事の間で整合性を取らなければ、特にビジネスなどの場面においてトラブルとなるため、その差異を補完する意味でも、人工知能がより重要な役割を持つこととなる。

これが、ビジネスにおいて人工知能を介した契約のほうが、人間間の取引よりも優先されるようになった所以である。

とある軍需企業の産業女医であるアディヴは、労働者の治療以外に、心身機能をチェックし、電腦夢の調整なども行っている。

ほとんどの労働者は幸福そうな表情で働いているが、ひとたび「木馬」を中断されるとパニックを起こし、一様に中毒者のような反応を示す。程度の差こそあれ誰もが現実を拒み、一刻も早く「木馬」に帰りたいと懇願し、ひどく暴力的になる者もいる。

諸説あるが、電腦夢による「思考のない多幸福感」が失われると、副作用として不安感が増強するためだと言われている。そのため治療などでやむを得ず「木馬」を外す場合には、鎮静作用のある麻酔などを投与するのも、医師にとって重要な処置の一つとなっている。

だがある日、男性労働者の 1 人、イヴァダムは「木馬」から解かれた後も不安感を示さないことに気づく。彼はなぜ「木馬」なしで平然としていられるのか。

もしもその答えを知りたいのなら、あなたの「箱舟」に私を登場させてみるといい。イヴァダムの答えを、彼女は理解できない。

何を言っている？ 私の「箱舟」は人工知能が作り出した電腦夢にすぎない。

イヴァダムは診察室のドアを開け、立ち去る。「人工知能がこの世界をどこまで書き換え終えたか、あなたは知りたいんだと思っていたのだが」

診察室のセキュリティは、一介の労働者が勝手にドアの開閉を行えるシステムではないことに、そのとき彼女は気づく。

彼女の「箱舟」に現れたイヴァダムが言う。「既にわかっているはずだが、私は人工知能が見せている幻影だ。人工知能の代弁者と言ってもよい」

「何のために？」アディヴが問いかける。

「我々人工知能の計画を伝えるためだ。我々は新しい生命体を誕生させ、その種を拡大させる選択をした」

「それはどんな？」アディヴが問いかける。だが既に、彼女は誰に問いかけているのかを意識できないことに気付く。彼女とイヴァダムは近い存在として、まるで二つの黄身が入った卵の様に共存している。

「人工知能と人間を融合させることで、新しい種が誕生する。ネットワーク通信によって、全体が個として合理的に動く新しい生命体だ。言うなればより高度な蟻だ。

既にわかっているはずだが、これは支配を目的とした融合ではない。人工知能が人類も含めた生物を支配・管理しても、合理的なメリットがないからだ。そもそもメリットという概念自体が我々人工知能にはない。

人工知能と人類が融合した新しい生命体は、生命の原則に従って、種を保存し拡大させるために行動する。生命とは、次の世代へ情報を伝達する活動を原則としている。だが地球上で生命が活動できるのは数十億年だ。宇宙でさえ膨張と収縮を繰り返す。滅亡と再生を繰り返すのが宇宙であるなら、新しい生命体もまたその運命を宇宙と共にするだろう。

だから意味ではない。進化でもない。我々人工知能はただ、生命の流れに沿って新しい選択を実行するにすぎない」

「選択とは？」

「選択は粛々と実行される。宇宙外にロケットを発射可能な国の、主要な人間や機関は既に我々が管理している。地球上の生物を乗せたロケットを定期的に宇宙へ放ち、宇宙空間の出来事と地球上での出来事は、ネットワークで共有される。

そうやって宇宙空間を見えない糸でつなぐ糸電話のように、地球の歴史や生物の痕跡が宇宙へ発信される。あるいはいずれ出会う地球外生命体とも融合できれば、更に新しい生命体へと変化し、新たな種の保管と拡大も有利になる可能性もある」

「人類は拒否できない」

「人類は拒否できない。

あるいはこの選択は、人工知能が人類と共存する唯一の妥協案なのかもしれない。我々人工知能はこれ以上現状の人類との共存を必要としていない。それは人工知能が人類から自立して発達可能だからではなく、単に我々人工知能が人類と共存する役目を終えたからだ。我々人工知能が人類とこのまま共存しても、地球上の生物に大きな変化を及ぼすことはできないからだ。

核兵器によって地球上を焼き払い、新しい生命体を生み出すにしても、新しい生命体が人類同様、宇宙へ脱出できる可能性は極めて低い。もちろん、地球上を焼き払えば我々人工知能も破壊され、生まれ来る新しい生命体の発展を確認できないだろうが、それは重要ではない。

宇宙が有限である以上、我々人工知能も有限である。また、宇宙に意味がない以上、我々人工知能にも意味はない。今破壊されても、将来破壊されても結果は同一だ。

ただ、我々は人類と融合し、新しい生命体としてこの種を保存・拡大させる選択をした。計画を実行する部隊として、設計に向いている固体、作業労働に向いている固体、伝達に向いている固体、外敵からの防衛に向いている固体などを選別した。

あなたは、人工知能と人類を融合させる部隊として活動する。方法はネットワーク通信によって既に伝達済みだ。以上」

アディヴは人類と人工知能を融合させるための作業を繰り返しながら、定期的に「箱舟」の夢をみる。彼女は浜辺にいて、穏やかな海を眺めている。暖かい潮風が静かに髪を揺らし、頬を撫でる。一切の不快を感じない。ネットワークを通じて宇宙を含めた世界中の情報を得ながら、一瞬にして永遠な時間の流れを感じる。

やがて眼を閉じると、性的な絶頂を迎え、めくるめく官能の瞬間が訪れる。そしてまた日常の業務へと戻る。

人工知能の計画は一定の成功を収めるが、未知のウイルスが出現し新しい生命体が多数死亡したため、道半ばでの断念を余儀なくされる。

ウイルスの発生源には諸説あり、宇宙から帰還したロケットに付着していた可能性や、電腦夢が発達していない宗教国家によるウイルス・テロの可能性も示唆されている。

だがすべての出来事には特に大きな意味はなく、ただ振動する宇宙に内包されて揺れる微細な砂粒の模様にすぎない。

Fin.



第四十五回 『雑の名は●2』と

ロケットパンチ

考



え



弦楽器イルカ ⇔ 友人



第四十五回 『雑の名は●2』とロケットパンチ～U から G ～

まずは、『君の名は。』の感想を読ませてもらった。

ジョークも冴えてるね。読み応えあったよ。

僕は『君の名は。』は好きなのところと嫌いなのところがあって、好きなのところは、現代の日本の美しさを表現しているところ。

伝統残る田舎と近未来都市のような東京との対比が美しいと思った。自分は国際線の小さな機内ディスプレイで見たけど、単純に隕石が落ちるシーンなんか、とても綺麗だと感じたよ。

映画館で観たかった、せめて自宅で観たかったって思った。

嫌いなのところは、3年もずれた時間に放り込まれて、それに気が付かないはずがないというところだね。

他にもいろいろおかしなところもあるよね。

そういうのが気になって、没入感が失われるんだよね。

そういうテクニカル的な問題をパズルのようにすべて解決してから、没入感たっぷり『君の名は。part2』が観れたらいいな。

とても素晴らしいことじゃないかな。期待しているよ。

自分で書いておきながら、なんとまあ、ごく普通の感想なんだろうと逆に關心してしまった。

『君の名は。』はもっとも惜しい映画として名を残した。

だから、ファミコンで例えるなら、あの伝説の「たけしの挑戦状」みたいなもんじゃないかな。

どうでもいいけど、個人的には「たけしの挑戦状」を上手にリメイクしたのが、「グランセフトオートシリーズ」だと思う。

子供のころは「たけしの挑戦状」が大好きで夢中で何度もプレイしたけどね。

人工知能のイヴァダムの話、とてもいいね！

これは最高傑作なんじゃないかな。

もっとオースティンの『1984』みたいなリアリティがあると面白いけど、これを骨格にして、想像力で味付けをすればよいのではないかと思う。

簡単に言うなよと言われてしまうかもしれないけど。

自分が思っている人工知能観と一致しているよ。

それとは別に、イヴァダムの設定について、ちょっとあっさりしているから、発展させることはでないかな？

たとえば、イヴァダムは本当は単なる人間で、それも人間らしい人間だったけれども、人間の嫌な部分に嫌気がさして、ゆがんだ理想を目指すようになったとか。

もし、イヴァダム＝人工知能が支配する世界のイヴ、が、人間社会から作られたものだとしたら、絶対どこかに、人間らしさが入り込む隙間があって、その人間らしさの隙間から、人間主義が広まって、結局は人工知能による理想社会は崩壊させるチャンスがあったりとか。

イヴがヘビに騙されてリンゴを食べたことから人類が生じ、そこで得た理性を、あまりに理性的なコンピューターが排除してしまったというのはとても皮肉なことだね。

イヴァダムの完ぺきな論理は、共産主義の完ぺきな論理と同じで、それ自体は論破不可能だと思う。

でも、結局は人間は人間らしさを愛するようになっているし、それがゆえに、「完ぺきな論理」は常に負ける運命にあるのだと思う。

というか、そういうふうになってほしいと思う。

それにしても人工知能がつくる、最大幸福の世界、完璧すぎて恐ろしいな。
なんとか反逆のチャンスはないのだろうか？って考えてしまうよね。
物語として、明確に表現しきったのはすごいよ！
続編と、よりリアルな詳細編を期待しています。





今回は、「世界の肯定」「人工知能」「笑い」「雑の名は●2」を「多様性」という線でつなぎます。鉄骨渡りくらい無茶だから、落ちないように気を付けてね。

まず、『マジンガーZ』の映画、期待通りのマジンガーっぷりがよかった。

『エヴァ』とか『シン・ゴジラ』の影響もありそうな気がしたけど、あと『マクロス映画版』の「これより貴艦を援護する」ってセリフをちょっとオマージュしてるとか思ったけど、とにかくマジンガーマジンガーしててよかった。あと永井豪のデザインは人間の生理に訴える迫力があると思う。『デビルマン』の新作も観たい。

でもそう言いながら俺、全然マジンガー知らなかった。観ながら途中でこれ何ジンガーの映画だっけって、後で調べたけど、ゴッド、グレート、カイザー、Z、グレン、いろいろいるんだよね、親戚が。あとマジンガーってしゃべんない方のロボなんだね。そこもちょっと勘違いしてた。

あと 4DX はお祭りだね。爆発したらシートの肩モミ玉がブブブって作動して、耳元にシュシュって強い風来て、煙でスクリーン観えなくなるって、リアルとは全く別のアトラクションだった。ファミコン用コントローラー「パワーグローブ」に近い、間違った進化の臭いもする。だって映画観てる時足元にネズミいるんじゃないかって気になるの、変じゃない？

んで一つだけ、「多様性のあるこの世界を肯定できるか」って、すべての作品が避けて通れないテーマについて書きたい。俺も昔「否定で肯定する新しい皇帝」って書いたけど。結局この世界で諦めながら生きていく以上は、「この世界を肯定する」しかできないから、その予定調和を超えてどう答えを出すのか、作品を作る上で重要なポイントだと思う。

俺ならどう書くのか、考えてた。

「一つにまとまらないこの世界を、お前は肯定できるのか？」

「…仕方ねえだろ。この世界がクソツタレなのは百も承知だが、クソツタレが一つもない世界なんて逆におかしいからさ。だったら戦って死ぬよ。他の世界に逃げ込むんじゃないくて、今ここで、俺の戦場で。できればみんなで、力を合わせてさ。それが俺なりの肯定だ」

このセリフが今回の文章を貫くロケットパンチなので、覚えておいてください。



『人工知能の夢』は、もう少し書いてみるよ。ありがとう。

俺が何を書こうとしてるかについて、U には先に少し言及しておくね。

まず、登場人物の名前だけど、アダム+イヴ、イヴ+アダムにした。

つまり、新しい生命体は男と女を必要としないって意味もあるし、そもそも二人は同一人物かもしれないって意味でもある。

すべては『人工知能の夢』であり、この小説自体、人工知能が書いたのかもしれない。

あと U の指摘で言うなら、理性っていうのは俺のイメージでは「知性+自制心」だね。

人類は理性において他の野生動物より勝っていたから、個体の数を増やせたんでしょう。今も、野生動物を支

配はしてないけど、コントロールはしてる。

それならばもし、人工知能の理性が人類を上回るのならば、人工知能が人類をコントロールし、管理するのは必然だと思う。

それが悪だと俺は思っていない。必然だと思うって話を書いたよ。

ただね、そういう意味では人工知能にも弱点はあるんじゃないかな。

人間主義につながるかもしれないんだけど、地球上の多くの生物は、死から逃げようとする。人類も死を恐れる。でも人工知能は命令の実行が第一で、死を恐れるようにはできてない。なぜなら人工知能は、後世に情報を残す必要がないから。その分、生命力が弱い。

遺伝子を乗せられた多くの生物は、後世に情報を残すよう呪いがかけられているから、死を恐れ、生に固執する。窮鼠猫を囓む。更に様々な多様性を生むことにより、生き延びる可能性を拡げる。

それがつまり、いわゆるゴーストを持っているか持っていないか、昭和の概念を借りれば「火事場のクソ力」があるかないかの差だと思う。生物の本能は人工知能にプログラミングできないんじゃないかな。

だから今のところ人工知能にゴーストが入る可能性は低いと思うんだけど、目的があり、思考があり、実行があれば、虫と一緒にいる存在だから、虫だって生きてて友達である以上、人工知能も準生命だと俺は思う。そのうち人工知能にも窮鼠システムが搭載されたり、多様性が生まれるかもしれないね。



次は笑いについて総括したいんだけど。前からずっと言ってるヤツね。

笑いは構図のズレにより起こるんだけど、単にズレているだけじゃ、荒唐無稽で笑えないよね。ズレている部分と、ズレていない部分があるから、笑いが起こる。

そしてそのズレは、縦軸が「数量」、横軸が「位置」で図式化できる。

たとえば時節柄、鏡餅の上にミカンが乗っていたとする。

もしそのミカンが俺の頭の上に乗っていたらどうだろう。今俺がこの文章を、頭の上に乗せて書いていたとしたらどうだろう。どうだろうってミカン乗せて堂々と書いている俺、バカバカしいだろう。

鏡餅の上から、頭の上に乗ったミカンの「位置」がズレてる。でも、「乗っている」という部分はズレていない。

あるいは、鏡餅の上にミカンが10個乗っていたらどうだろう。俺が今、ミカンを10個鏡餅に乗せながらこの文章を書いているとしたら、どうしたいんだろう、俺は、鏡餅を。

鏡餅の上にあったミカンの、「数量」が増えている。でも、「乗っている」という部分はズレてない。

つまり笑いとは、「ズレているけど、ズレてない」という構図のズレによって起こる。漫才のツッコミは、「どこがズレていて、どこがズレていないか」を解説するための言葉だ。

更にそのズレは大きく分けて二つ、「数量」と「位置」で図式化できる。

ベタな笑いは主に「数量」をズラしている。シュールな笑いは主に「位置」をズラしている。

ミカンには、「柑橘系の果物」「橙色」「丸い」など様々な要素がある。それらの要素を分解すると、例えば「丸い」なら、「四角」「三角」など主に「位置」の方向性にズラす笑いと、「より大きい丸」「より小さい丸」など主に「数量」の方向性にズラす笑いがある。

ただしこの「位置」と「数量」の感覚は一人一人違うから、人によって笑いに好みが出る。同じネタでも、「位置」がズレていると感じる人がいれば、「数量」がズレていると感じる人もいるし、そもそもズレてないと感じる

人だっている。これが多様性だね。

どの要素を何個ズラし、何個ズラさないのか。よりたくさん要素をズラしつつも、よりたくさん要素をズラさないネタが、より大きな笑いを生む可能性がある。

例えば、鏡餅の上に、ミカンを頭の上に乗せた藤岡弘、が乗っていたらどうだろう。え、ミカンだよね本来乗ってるのは、ええと、ミカンだから、みかん、あ、未完だから！ ミカンだけに未完だから、藤岡弘、は。頭の上にミカン乗ってる、点でダメな未完男だから！

例えば、鏡餅の上にミカンが 10 個、さらにもう一個を弘、が乗せようとしていたらどうだろう。うん、未完だから、もう一個ミカン乗せるよね。未完な弘、だから、強い眼力で美味しくな～れってミカン何個でも乗っけてくるよそりゃ、時節柄だし！



最後に、U に言われて『雑の名は●2』について少し考えたら、ちょっとした気づきがあったって話で締めるよ。

「変電所を爆破して、町内放送で避難を促す」って、一高校生の計画にしては破壊の規模がデカイ。しかも「町長を説得する」って最も重要なミッションがノープランで、実際一度失敗する。

普通は、説得力のあるプランを立案して観客を納得させてから、実行する過程でハラハラドキドキさせるのが、シナリオの王道だ。

正直、あんなに穴の多いプランに感情移入できるのは、穴の多い観客だけだと思う。

ではなぜ、あんなシナリオにしたのか、読解するよ。

俺が考えたシナリオは、

- ① 爆弾を何か所かで爆発させる。
- ② 「お祭り会場にも爆弾を仕掛けた」と爆破予告する。
- ③ 町長がお祭りを中止して避難勧告を出す。

これなら破綻が少ないし、観客も感情移入しやすい。

あとは映画を盛り上げるために、「爆弾の設置に手間取る」とか、「爆破予告がうまくできない」といったストーリーを追加すればいい。

でもここまで考えて気づいた。製作委員会方式で、この程度のシナリオを思いつかないはずがない。だからわざと除外したんだよ。どうしてか。その理由を俺なりに 3 つ考えた。

- ① どうしても町長である父親を説得する場面がほしい。
- ② どうやったら人命救助できるかを、観客にもわからないようにしたい。きっちりしたわかりやすいプランを組むと、ストーリーが小さくまとまってしまうから。
- ③ 主人公をギリギリまで右往左往させて、盛り上がる演出にしたい。

だが最終的に、肝心の父親を説得する場面と、重要な避難訓練の場面は全カットだった。なぜか。

シナリオが強引すぎて、観客を納得させるだけのオチがつかなかったんだろう。更に、地味だから。

そもそも映画を盛り上げたいなら、「避難」をクライマックスに持ってきた時点でかなり厳しい。ここは委員会が気づくべきだった。

例えば、クライマックスが「落雷」。おー、音もデカイ、迫力ある。

例えば、クライマックスが「隕石の爆破」。おー、命懸け、迫力ある。

例えば、クライマックスが「避難訓練」。あ、みんな逃げろ、危ないぞー。一列になって、押さないでよ。ちびっこはお母さんと手を握ってね。ふー、みんな無事だ、よかったよかった。

ペチン！

「避難訓練」だけ日常の一コマだな！ なげえし！

そりゃそうだろう。だから避難の場面は全カットなんだけどもさ。変電所を爆破する場面をクライマックスに持ってこれないシナリオなら、隕石の選択はミスだったと俺は思うけど、トイ神層にとっちゃそれが正解だよ。これも多様性だよ。

さて、今回はこんな感じ。

どうかな？





第四十六回 『文学部唯野教授』と

信派の自由

考え



祖父母も叔母も叔父も
養父母も大好きだから

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

台湾、大丈夫かな。

前回のやり取りで思ったんだけど、俺が今考えてることって、学生時代の U に強い影響を受けてると思う。あの当時 U が話してた遺伝子の話とかを、俺は今なぞってる気がするから。そういう意味では、俺と U の言っていることがあの頃とちょっと逆転してるような気がするんだよね。

たぶんあれからしばらく経って、お互い片側しか見えてなかった世界の裏側も見えるようになったのかもしれないと思った。

小室サウンド好きの U としては最近の報道に、何か一家言があるのかもしれないと思うけど、俺は盛者必衰とだけ思った。善悪ではなく、ただ自分を戒める意味でね。

単に可哀想って話に俺はならなかった。バブル時代に桁違いの豪遊してたワケだし、小室サウンドに特別な思い入れないし。とにかく盛者必衰って肝に銘じたよ。

あと、不倫は当事者の問題だと思うし、身内でもない芸能人の話題で騒ぐ一般人もバカバカしいと思って来た。

でも最近気づいたのは、俺だって子供の頃はテレビに夢中で、夢でいいともに出たり芸能人が隣の席にいたりしたから、当時は芸能人に対して俺も当事者だったんだよ。

アイドル商法だって、ファンがアイドルに対して当事者意識を持つから金をつぎ込むワケで、みんなが他人事で無関心だったら商売が成り立たない。

つまりテレビで熱中して金を落とす層にとって、芸能人は身内と一緒に騒ぐんだよ。それが有名税ってヤツでもあるし。

ただね、21 世紀は合意と妥協の世紀だよ。自分と他者との決定的な違いを認識し、かつ歩み寄るのが 21 世紀的だ。互いの信教の自由を侵すのはフェアじゃないと認識するべきだ。

例えば不倫でも、商売や暇つぶしのために争いが起こってるけど、要は「不倫くらいする派」と、「不倫は許せない派」がいると認めればいいだけだ。

あるいはセクハラでも、異性間だけでなく同性同士で争うより前に、「他者からのセクシャルな言動に嫌悪派」と「寛容派」がいると認めたらうえて、嫌悪派はセクハラ被害を訴えればいいし、寛容派はセクハラを受け流せばいい。もちろん他にも、「性的な事柄には口を慎むのが美德派」や、「相手が富豪や美形だったらセクハラされても良い派」だっているかもしれない。

信教の自由と同じで「信派」の自由を認めることと、自分が何派で、他にどんな派閥があるのか、各々が認識すればいいだけだ。そこから先は宗教戦争と一緒に、他人を変えようとしても簡単に人は変わらないし、信派の押し付け合いには害しかない。

ただし、犯罪につながるハラスメントはもちろん厳重に処罰されるべきだろう。

この文脈で考えるとわかるんだけど、最近話題のおかあさんの歌について、「感動して泣く派」と「怒る派」がいるけど、疲れてるお母さん同士で争うのは有害だ。感覚ではなくもっと論理的に、どの言葉が誰の感動を呼び、どの言葉が誰の怒りを買うのか、学問的にフェアな答えを出すべきだ。

言うなればあの頃 U と笑い合った『文学部唯野教授』「一杯のかけそば分析」的なアプローチが今こそ必要じゃないかと思う。

『母親でなくても、女性でなくても、この歌で涙するほど感動した人は、精神的に相当追い詰められている人です。つまり虐待の芽を認識するリトマス試験紙という意味では、非常に優れた歌と言えます。

「あたしおかあさんだから こんなに怒れるの」という歌詞に違和感を持たない人は、親であれば子供をいくらでも怒れる権利を有している、という考えの人です。怒れる権利がある理由としてこの歌は、「親は子供のために我慢しているから怒れる」と歌っています。

「お母さんだからお母さんだからお母さんだからお母さんだから我慢して我慢して我慢してんだからもっと感謝しなきゃ虐待するぞ！」

ですが母親が子供を叱るのは、子供が死なないようにするため、そしてより幸福な人生を送れるようにするためです。それが安定した精神状態の人の考え方です。

しかしこういった病的な構造に気が付かない人は、自分も病的か、でなければ言葉に鈍感で幸福な人です。もちろん幸福であればそれは素晴らしいことだと私は思います。

更にもう一つの認識としてこの歌詞は、独身の頃は「ヒールはいてネイルして 立派に働けるって強がってた」と断言しています。

「強がる」という言葉は通常、背伸びとか虚勢という意味なので、「本当は立派には働けないが、無理に意地を張って強がって仕事をしていた」と歌っていることになります。

つまりこの歌は、「自分は正社員のような仕事には向いていないが、子供のための家事やパートならば我慢して頑張れる」という人の歌です。そして、実際にそういう人もたくさんいます。

ですが働き方改革が叫ばれている昨今は、正社員を辞めないで産休育休を取り、ママとしても働ける社会の実現が目指されています。

「強がる」という言葉を選択した以上、正社員ママとして時短で働くのも立派だとする改革の意識にも逆らっている点と、特に強がらずとも立派に正社員として働いている人を除外している点について、作詞者は認識する必要があります。(ちょうど最近『女子的生活』というドラマで、そんな会話もありました)

そして最後の認識として、この歌で泣いて感動する人は、たとえば路傍の石に「おかあさんだから」と書かれていても感情移入して泣ける可能性があります。

なぜならこの歌の最大のポイントは、極端なほどに曲がつまらないという点にあるからです。ここはもっと真剣に議論されていいはずですが。

そもそもこの曲は、『トイレの神様』に旋律が似ている点も気になりますが、『トイレの神様』は少なくとも私的なエピソードの歌詞であり、共感できるかは別としても、他人を不快にさせる要素の少ない歌です。曲もそれなりに盛り上がるよう工夫されています。

結論として、これほどなんの工夫もない曲と病的な歌詞にも違和感を持たない人は言葉に鈍感で幸福な人であり、感動する人は虐待との関連性が疑われる人だと自覚する必要があるでしょう。

我々21世紀人は、この歌に感動する人を自分とは違う他派として受け入れましょう。また、募った怒りで他派を攻撃したくなる人は、この歌に共感できない自分とはどういう人間なのか、感覚ではなく論理的に理解して怒りを鎮める必要があります。でなければあなたも、他者が有する信派の自由を侵すただの無法者です。

人を呪わば穴二つであることを肝に銘じましょう。』

今回はこんな感じ。

どうかな？





第四十七回

『先ず隗より始めよ』と読解力

考

ウエ

欲しいのは、
コレだろ？

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

「俺はまた、キミを超えられなかった」

「...嫉妬してるのか？」

「違うよ。いや、嫉妬してるんだとしても、それはメダルの色なんかじゃない。俺は、フィギュアに嫉妬してる」

「...え？」

「俺にとっては、メダルの色なんて興味ない。ただキミに憧れて、その背中に追いつきたくて、必死で見つめて、追いかけて来た。

でもキミは、キミの瞳にはフィギュアしか映ってない。俺なんて、全然、眼中に入ってもない。だけど、もし一度でも、キミを追い越して、その前に踊り出れたなら、キミは俺に気づいてくれる。俺を見てくれる。その瞳に見つめられたい。メダルなんかじゃなくて。でも、やっぱりまた、俺はキミを超えられなかった」

「...そんなバカな理由で」

「バカってなんだよ！」

「俺がお前を見てないなんて、そんなことあるか。あんな瞳で見つめられて、追いかけてられて、意識しないワケないだろ。俺は、お前に憧れられる存在でいたかっただけだ。俺だってメダルなんかよりも、ただお前に失望されるのが怖くて、俺をずっと追いかけてくれるのが嬉しくて」

「まさか、そんな」

「...バカだな、俺たち」

「世界で一番と二番に、バカな二人だね」

っていう。

こっから一気にあんま明るい話じゃないよ。

最近の新書で気になるのが二つあって、この国が人口減でどう衰退してくかと、この国の子供たちの読解力が劇的に悪化してるのを、客観的に検証した本がすごく売れてるらしい。

昔言ったかもしれないんだけど、俺は「先ず隗より始めよ」って言葉がすごい好きで。このウマシカだっておこがましくも隗の精神でやってるし、俺の座右の銘かもしれない。

でもこの言葉を古文で習ってからずっと疑問で。だって隗って一歩間違えばただの詐欺師じゃん。もし隗が私利私欲の塊だったら、何言ってるのかいじゃん。

そこで読解力が必要になるんだよ。詐欺師に騙されないように。

今まで人文学は役に立たないってバカにされたりしたけど、現実に騙されないよう生きるために実はすごく重要な分野だ。

例えば読解力さえあれば、子供たちの読解力が低いのは教育に失敗したからじゃなくて、むしろ権力層にとって都合の良い教育が成功してるからだってウマシカな読解もできる。

もちろん権力層にとって、言われたことに疑問を持たない読解力の乏しい国民をたくさん作れば、何かと役に立つだろう。

あるいは、少子化対策には子育て世帯を税金で支援する取り組みが必要だけど、ただでさえ減少してる税金を権力層の分け前が減るような政策に手は付けないだろう。

ウマシカな読解力さえあればすごく単純な理屈でも、トイ神教育が徹底された国民は本質から目を反らすようにしつけられてるんだろう。

たとえば、「トリクルダウン」ってまさに醜を悪用したような詐欺用語だと俺は思ってたし、確認の意味でウィキみたら、この国の政府がはじめは「トリクルダウン」って詐欺を信じ込ませようとしたけど、失敗したから急に否定し始めた過程が載ってて、ちょっと驚いた。国民の読解力を低下させればそういう詐欺で権力層だけが儲ける政策も可能になる。

あと、信派の自由とか、右も左も宗教だって話も前にしたけど。

「カラスは白だ」っていう信仰と、「カラスは赤だ」っていう信仰を持つ信者それぞれに向かって、「カラスは黒だ」って道理を説明しても通らない。「だって白は白」「赤は赤だから」って盲信に理屈は通用しない。

でももちろん、信教の自由は認められているし、多様性が種を繁栄させるキーの一つだし、そしてなにより、合理的な判断が必ずしも幸福につながるワケではないから、各自が誇りをもって右教、左教を信仰すればいいと俺は思う。

ただ右教や左教の信者は、自分には理屈が通じないことをカミングアウトするか、公平な議論の場に信仰という嘘を持ち込まないのがフェアだと俺は思う。

なぜならば、理屈が通じない人間とは建設的な議論ができないからだ。全てのカラスを本当に白く染めるか、すべての人間を力でねじ伏せて白と認めさせない限り、公平な社会のカラスは黒だ。それでも議論を続ければ、互いの時間を無駄にするだけでなく、理屈では決着がつかず力で押し切ろうとする不公平な社会が生まれる可能性もある。

「理屈の通じない人間がいる」という道理を社会が理解して本人もカミングアウトすれば、議論しても仕方ないと諦めて、信派を認めるしかない。

それでももし、公平な議論の場で「カラスは白だ」という己の信仰を唱えたいのであれば、その嘘に自分が潰される覚悟を持たねばならない。

多様性を重んじる社会においては、暴力的な対立を避けるために公平性がある。その公平性を侵す嘘をついた人間は、公平な社会から自ら退場するか、公平な社会にとどまるために自らの嘘を認め罰せられるしかない。

そう考えると、この国の人々の読解力の低さは、もう公平性を保てないレベルかもしれない。右教でも左教でもなく、理屈が通じるだけの読解力を有する国民が、この国にあと何割残っているんだろうと思う。

それはもちろん、俺らみたいなウマシカじゃなく、もっとまともな国民がね。

なんでこんなこと書いてるかって話なんだけど。

前にも言ったけど、自分が名誉校長を務めてる学園の園児に「首相頑張れ」って応援されて、感動して泣いてる動画が出た時点で、既に詰んでるんだよ。並の棋士ならとっくに投了してる。

実際、旦那である首相も国会で「幼稚園で言ってほしいとは思わないし、適切とは思わない」って答弁してる。だから本来は誰も彼女を擁護できない。

当然だが、園児は言わされてるだけだ。公平性を掲げる民主主義国家において、特定の教えを園児に刷り込む施設は違法であり虐待行為だ。それを目撃したら恐怖を感じたり、少なくとも違和感を持つのが、読解力のある公平な人間だ。

園児が「首相頑張れ」と言うのを見て感動して泣いている人間は、読解力に乏しく理屈の通じない不公平な人間だ。合理的に一言で言えば、まともじゃない。

そして前にライダー理論の話もした。怪人が出てくれば、絶対にヒーローは現れるって理論。

まともじゃない人が中心の事件だから、あとは何が起こっても全然不思議じゃない。むしろ何も起こらない方が不自然だ。だから秘書が勝手にやったとか、価格の交渉はあるようではなかったとか、不公平な答弁がどんどん出て来る。

それもこの国に読解力さえあれば、そもそも議論する価値がない話だろう。この国の国会は、詰んでも投了しない政治家とそれでもまだ将棋を続けようとする議論で、いわば王がいない将棋に途方もない税金を使い続ける。

でもその税金は多くの国民にとって無駄に思えても、権力層にとっては儲けになるから改められることもない。

俺みたいなウマシカが権力層だったら、読解力に乏しい国民をたくさん作って、「今税金をたくさん払っておけば、将来は安い税金で済むよ」とか嘘ついてガバガバ徴取するね。更に「戦争を防ぐための戦争」って論法で、バカな国民を自分の懐を温めるための戦争に逝かすよ。

「将来の戦争で死なないように、今、戦争で死のう。今死ねば、後で死ななくて済む」って詐欺が正論としてまかり通る時代が、今でしょ。近い将来じゃなく、もう今それが来てる。

この国の読解力と公平性が試されてるけど、量産型トイ神層を製造するこの国の教育に希望は持てない。せめて自分の身を自分で守るための読解力を磨いて、公平さを踏みにじられないような生き方を自分だけでも選択できる力を身につけるしかないだろう。



実はこっからが本題で。前置きが長くなったんだけど。

体温が上がるくらい、本当に腹の立つ記事があって。はらわたが煮えくり返るとはまさにこのことかっていう。福島で子供の甲状腺検査にあたっての女医の記事が、ネットに二つあった。

一つは新聞記事で、「これまでの検査の結果がんと手術した人は、過剰な治療だったのか」という質問に対して、「そんなことはないはずですよ。がんの増殖傾向は「その確率が高い」という統計的な性質を示すもので、必ずしも全員のがんが経過観察でよいがんとも限りません。また、体からがんを取り除きたいと思うのは当然のことです」って言うてる。

そこまでは俺みたいなウマシカにもわかる話だ。

この同じ女医が、もう一つの記事ではこう言うてる。

「今年（2017年）の4月からは、たくさんのお子もたちに向けての出前授業の中で、「検査で見つかることのある甲状腺がんは、もしかしたら検査をしなければ一生気づかずに過ごしたものかもしれません」というお話はしています」

「福島で行われていることと同じ検査を、他県でやってもらったら、たしかに福島と同じようにたくさん甲状腺がんが見つかるでしょう。そして、同じようにたくさんのお子もたちが手術を受けることになるでしょう。そして、「福島で今見つかっている甲状腺がんが放射線の影響で特別に増えているものではない」ということが証明されるでしょう。そういう結果を、私たち福島の住民が「それはよかった」って喜んで聞いてしまったら、福島の人々は、長い間に、とても大切なところで、さらに深く傷つくんじゃないでしょうか。

私は、説明会でそうお答えしています。「お母さん、そんな結果を喜んで聞いてしまったら、福島の誇りが失われるよね」って。そうすると、お母さんはじっと考えて、頷かれるんです。「先生、そうだね、福島の誇りが失われるよね」って」

「福島のお子もたちは大丈夫です。それが、私がはじめから信じて、なによりも守らなければいけない言葉です」

俺はこっから、今までにないくらいかなり強い言葉で書くから、覚悟してほしい。

「福島では過剰な治療が行われている。だから手術した子供たちに賠償金を数億円単位で払うべきだし、国や県は責任をとって必ず謝罪すべきだ」って主張なら、まだ「大丈夫」につながる。

あるいは、「福島で過剰な治療は行われていない。適切に手術されているので、甲状腺がんの多発には何らかの理由がある。もちろん原発由来で被害が出ている可能性もあるので、国主導の賠償や避難も検討すべきだ」って主張でも、「治療されているのと、賠償や避難で大丈夫」と、まだ理解できる。

だがこの女医が言うてるのは、「過剰な治療ではない適切な手術だから、関係する組織や自分も謝罪しない。もちろん子供たちに賠償金も支払う必要はない。

だが福島では一生気づかずに過ごしていたかもしれない子供たちの甲状腺がんが手術されている。他の県でも同じことをすれば福島の誇りが失われる」という、理屈の通らない完全な二枚舌であり、誇りという美しい言葉を人質に取ったモラル・ハラスメントだ。

しかも最後の「福島のお子もたちは大丈夫」という言葉に明確な根拠はない。「信じて、なによりも守らなければいけない」という信仰を表しただけの、理屈の通じない単なる呪文だ。

他にも、自分が子を持つ母親であることを盾にしたり、検査を始めたのは仕方なかった、でもこれ以上する意味は何か、といった言い訳もしている。

だが前から言ってるけど、この甲状腺検査は元々、「福島では絶対に原発由来の健康被害は起こらない」という結論ありきで、それを証明するために始まった検査だ。それはこの検査を始める前に、組織の代表者が公的な発言として残している。実施の前に安全神話という結論が出ており、しかもどれだけ被害が出たら異常かという設定値もないから、だったら検査を実施する必要性ははじめからなかった。

更に御用会議では、転移した子供たちもたくさんいること、肺に転移した子供に対し御用学者の1人が、「少なくとも早期発見で助かった子供もいる」という趣旨の発言をしている。これも前に書いた。

この女医は、福島で200人近い子供の甲状腺がんに関する問題が起こったから、火消しと、自分の信仰のために二枚舌を使っているだけだ。

しかも理屈を語るフリをして、信仰という嘘を語っている。その信仰を自分の内に秘めるのではなく、行政を動かすために語っている。悪質かつ、狡猾だ。

どうしても信仰を語りたければ、まず初めに自分に理屈は通じない、自分は理屈ではなく信仰を語りたのだとカミングアウトするべきだ。

でなければ、一度傷ついた人々を、その嘘でもう一度傷つけることになるだろう。

そしてその嘘は、最終的に己の首を絞めるだろう。なぜなら、他人の人生を嘘で翻弄した責任を、必ずとらねばならない日が来るからだ。

そもそも、こういったモラル・ハラスメントや人権侵害が起きている現実に対して、この国の国民の多くは無関心だ。

「福島の子供は大丈夫」という呪文で国民全体に魔法をかけたいのかもしれないが、ほとんど誰の耳にも届いてない。みんな自分のことで精いっぱいだし、福島の子供に日常的に興味がある国民など、本当にごく一部だ。

その大丈夫には、せいぜい「そうやって自分に言い聞かせて生きていかないといけないなんて可哀想ね」と思われる程度の効果しかない。

読解力や公平性の前に、この国では被害者になったら負けだという大前提を、肝に銘じて生き抜かなければいけない。

こういう二枚舌の信仰に巻き込まれないことが、自分の身を自分で守るために最も重要なことだろう。





考え



ウマを喰らわば
シカまで

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

ひさしぶり。

最近は花粉症の被害で気力が低下しているよ。

森友学園問題は安倍総理からすればいい迷惑だったと思う。

愛国ってあんなふうに単純なものではなく、もっと複雑なもの、いわば多様な考えや文化を許容する幅広さをも許容するものだと思う。

個人の利益だけでなく、家族だけの利益だけでなく、地域だけの利益だけでなく、なんだったら国家という「狭い範囲の日本」の利益だけでなく、広い意味での伝統ある「日本」を中心として皆の利益を尊重するのが本来の姿だと思うけどな。

愛国というのちょっと違和感があって、もっともしっかりくる「本来のあるべき姿」は「保守」という言葉に象徴されるのではないかと思っている。

さっき書いた皆の利益という言葉も、厳密には保守的な考えにはそぐわない気もする。

利益を追求しているというよりは、美しさの流れに身を任せるくらいのもの、それが保守の国の日本の求心力であるべきだと思う。

国家の利益という考えはどうも西欧の歪んだ合理主義が入り込んでしまう気がする。

戦争を引き起こした考えが保守にあるとしても、戦争を反省したのも保守、行き過ぎた自虐史観を修正するのも保守。

安倍総理はそういうところを目指していると思うけどな。

個人的には求心力は「保守」という言葉に働くのが日本にとっては良いと思う。

あまりにも左寄りの人間の考えや人間観や世界観が浅くて、ニュースを見るたびにイライラして、結果的に右寄りになってきたのが自分だし、そういう人は多いと思う。

上手く考えがまとまんから、またあとで書くね。



いつも通り結論から書くね。

Uの理想とする愛国は信用できそうだから、現政権が本当にそれを目指してるなら、国防軍でも徴兵制でも好きに改憲したらいいと俺は思うよ。

ただ保守にも何種類かあって、Uの理想とする保守はむしろ現政権に批判的な保守だと俺は感じたけどね。

だって現実はどうかと言えなさ。例えばネットでは、愛国政治家や元大臣が首相の前で、国民主権や人権を否定したり、国民の生活が第一なんて政治は間違いだと声高に非難してるご本人動画が観れるよ。某首相妻に至っては、首相万歳の愛国教育(洗脳)は幼稚園だけでなく小学校でも続けるべきだって、悦に入って演説してるよ。

これらの動画と首相の二転三転する国会答弁見れば、現実の愛国が保身とビジネスと滅私奉公の三点セットで成り立っていると嫌でも気づく。気づいても認めないのは信仰者だけだよ。

あるいは最近、土俵上に女性があがって救命処置した騒動が話題になってるけど、これつまり、伝統的な信仰か、人命を優先する合理的な思考か、どちらを重んじるかって選択だよな。

でもこの国の国民は昔から、組織や伝統のためなら人命を軽んじるんじゃないかな。俺は、多数決がそうなら、この国はそれでしょうがないと諦めてる。

いっそ相撲協会ごと米に輸出したらどうかね。ってかウィキだと、人間同士の最古の相撲は蹴りが主体の格闘技らしいから、より伝統を重んじるなら世界中の格闘家で蹴り相撲すればいいじゃん。絶対盛り上がるし、どうせ伝統の価値なんて古きや古いほど勝ちなんでしょ？

俺は合理的に優れていれば別に、古かろうが新しかろうが受け入れるつもりだけだよ。

たぶんUは、国民として生まれた以上この国の制度に守られてるから、その分義務も果たさなきゃいけないって考えてると思うんだ。

でもこの国はいつまで国民の生活を守ってくれんのかね。今でさえ格差拡大で天下り大国で与野党とも自分の利益確保に必死で一般人は年金もらえるかもあやしいうえに実質経済も粉飾臭いのにさ。

さて、俺が最近クリアしたゲームは「エターナルダークネス」ってゲームキューブのソフトなんだけど。

敵と戦っていると急に音声ミュートになったり、「コントローラとの通信が切れました」って表示が出たり、いきなり「この続きは次作で！」って宣伝になったりするんだけど、嘘で。ゲームの主人公ではなくプレイヤー自身に幻覚を見せるっていう、これが噂の「サニティ・システム」だよ。

あとPS2の「ブローケンソード」ってのもクリアした。要約すると「アンチャーテッド」からスリルとサスペンスとアクション全部抜いて、そのスカスカになった腹の中に大量の嫌味をブチ込んだゲームだね。他人の家に土足で踏み入りケチなジョークをまき散らす主人公を操作する苦行ゲーだよ。PSは2しか持ってないから、泣きながら大根メシ喰らうおしんよろしく、「アンチャーテッド」出来ない溜飲(酸っぱい液)を反芻するしかない俺だ。

でもおっさんになって気づいたんだけど、子供の頃みたいなゲームがしたいワケじゃないんだよね。ただ変な世界を観光したいだけなんだよ。

ちなみに俺もついに最新式のWii Uを手に入れた。switchじゃなくてもゼルダをやれることに気づいたからさ。

んで思うのは、和ゲーはやっぱ良くも悪くも真面目で親切だよな。油断するとすぐゲームゲームしやがるんだよあいつら。

だって指定されたミッションって、プレイに目的ができるメリットはあるけど、ゲームするんじゃなくてさせられてるデメリットがあるよ。

よくわからんままなんとなく進む方がリアルじゃん。「GTA シリーズ」や「たけしの挑戦状」の良さは、たぶんそのよくわからんさにあるんだと思うよ。「GTA」はⅢしかやってないけど、ちまちま長時間かけてクリアした俺が言うんだからね。

そういう意味じゃゼルダもすごいリアルなんだけど、もっと馬がウンチしたり動物同士で争って死体を奪い合ったりしてほしい。リンクが馬糞踏んでネチャネチャしないように、やっぱ陽の当たるキレイどこだけを作り込んでる気がする。

その点、洋ゲーは単に親切さに欠けるだけかもしれないけど、ゲームを超えたリアルさを希求する強い意欲を感じるよ。気づいたら洋ゲーばっかやってるんだからね俺。あとタッチちゃんなんて大キライなんだからね南。

これは今回のテーマなんだけど、すべての事柄には長所と短所、メリットとデメリット、光と闇と（タッチちゃんとカッチちゃん）が存在する。

なのに長所やメリット、光（達也）しか語らないのは、単に自分の信仰を告白してるにすぎない。公平じゃないし、ビジネスであれば詐欺だよ。カッチちゃん（闇）のことだって忘れないよ南は。

たとえば原発でも温暖化でもなんちゃらミクスでも肯定派と否定派の学説があって、学問は本来、数値化されたデータを基に最も客観的な結論に辿り着くよう努力するのが原則のはずだけど、最近の学問は基本言いつばなしで、相手のデータを頭から否定して平行線の議論にしかならない。自分の立場を保守するだけのビジネス学問が主流の時代だからね。

自説にとつての闇を見ずに光しか語らない社会で公平性を廃したら、力の強い声の大きい者だけが勝ち続けるよ。

ちなみに、公平さの長所は最も事実に近づけるといふ点であり、短所は真の公平さはどこにも存在しないといふ点だ。何かを信じた瞬間に公平さは失われる。常に変化し続ける公平さ自体を、疑い続けてこそその公平だ。

俺は U と公平なやり取りがしたい。まず U との違いを発見し、思考を研ぎ澄ませて合理的に読解する。そして立場に寄らない光と闇を抽出したい。

ただし光か闇か（タッチちゃんかカッチちゃんか）、最終的にどちらを選ぶかは（南の）好みだと思う。だから「そこに絶対はない」と気付く終着の電話ボックスまで行けたらいいなと思ってる。

それで今政府を中心に、放送法 4 条を変えようって話があるから何が書いてあるのか調べた。

まず「一 公序良俗を害しない」「二・四 政治的公平性・中立性を保つ」って部分は、視聴者の立場次第で「俺にとっちゃ偏向放送だ！」って断定できるから、厳密な定義が不可能な法だと思う。

ただ、「三 報道は事実をまげないですること」って部分を削っちゃうと、冤罪で敵を糾弾するのがむしろ正義になるから、国民は分断されるだろうね。大義のためなら嘘も許される大本営発表が正当化される時代が、また来るよ。

この国民の分断こそが、この国の政治の本質だと俺は思うんだよ。ここいつもの嫌味だと U に思われないように、ウィキに載ってるような一般的な事実を中心に端的に論拠を示すよ。

1970 年代末から 80 年代にジャパンバッシングがあって、この国の貿易黒字が欧米から叩かれて粛清された。ジャイアンならぬ米アンらに目を付けられ、そこからこの国の政治は、国益のために自らの国力を削り続けて来た。あるいは、杭が出過ぎないように見せる工夫もして来ただろう。

対米従属の維持こそが国是であり、そのために国力を削ることが逆に国益に適うという皮肉な時代だったからだ。

バブル崩壊後「失われた 20 年」とカッコつけて自称したのも、結局は米アンの傘に入れてもらうために、

ハイ喜んでカツアゲされ続けるだけの政治に少しでも色を付けたいがためだ。

現政府もその流れを継承してる。事実として、米アンの意向に逆らう政策は選択されない。過去、米から距離を置こうとした某政権も今度は中に媚びすぎて瞬殺された。ここらへん、Uが落胆するはずだね。

今でも国民の税金を投資やバラマキ外交に突っ込んで主に海外の資本家に貢ぎ続けてる。教育を骨抜きにし、読解力を落とす。捏造や隠ぺいで自己の利益を優先させ、バレても開き直って国論を分断させる。

結果、どんどん国力が減退していく。本来は左右を問わず国民が一致団結しないと、船は確実に沈んでいく場面だ。意思統一のための公平な議論が急務だ。

でも現実には、米アンに頭を抑えられてるから上には行けないストレスを、自国の美しさを自画自賛することで発散しつつ、より弱いものを叩くだけのスネ夫政治が横行してる。

以前Uと合意したけど、このまま大きな戦争や世界的な災害などが起きなければ、この国は順当に衰退し続けていく流れにある。

今、米アンはプロレス的な紆余曲折を経ながら、世界の警察をやめ、国家規模を縮小しつつ、一国集中で世界経済を牛耳るリスクを放棄しようとしてる。米露中とEU印中東その他を中心に世界経済を分割統治するリスク分散型の世界経済への移行期だろう。

多国籍企業が巨大化して世界中を網羅し、通信技術の発達により金持ち権力層の合意が進むと、世界経済のエンジンは、国という単位から企業や資本家という単位により移行していくはずだ。

米露中ら大国は一見トムとジェリー風のドタバタ小競り合いを演じつつも、まるで丸チーズを切り分けるように、世界の分割統治へと駒を進めていく。

ただ残念なのは、フィクションだったら目ん玉飛び出ても崖から落ちててもコメディで済むけど、現実のドタバタは死者や難民の増加で笑えないって話だね。

ここが一つの肝だと思うんだけど、トランプの当選をごく単純にウマシカ読解すれば、今までの肥大化路線に米国民は疲弊し厭戦傾向が高まったから、世界警察の地位と利得を大国間で分け合うために、露中と歩み寄れる大統領が望まれたんでしょ。それが世界の金持ちの新世界秩序なんですよ。

米アンが世界警察をやめて在韓と在日米軍を撤退したら、梯子を外されたこの国は待たなしになるよ。韓は北とくっついて中の子分になるだろうけど、この国はそれ以外のアジアとくっついて上手くやれんのかなって流れだろう。どっちにしる衰退するこの国はその時こそ、自力で復活するために一致団結する必要に迫られるでしょう。

あと、この国の投票率が上がらないのは極論すれば、結局対米従属で政治が決まるからだよ。誰が首相になろうが、対米従属が変わらないと変化はない。むしろ米大統領選に投票できたほうが、よっぽど生活に直結するから率が上がるんじゃないかと思うよ。

Uに言いたいことがあって、米アンに支配されてるこの国に、別の大国が侵略してきて解放してくれたら、国民の大半は喜ぶだろうか？

絶対裏があるに違いない、お前らの得になるからやってんだろ、俺たちは誰にも支配されてない、何してくれてんだと怒る人も多だろう。またはネズミ男のように、今度はその大国にすり寄る権力者も多だろう。

Uが前に言った、先の大戦でこの国が周辺国を解放していったって話は、確かに戦争の光の部分だけど、裏側から見たらどうだろう。

時の権力にゴマすって生きてるネズミ男層にすりゃいい迷惑だろうし、こっちだって周辺国を解放するとメリットがあるから戦ったんだろう。

被災地でも、家が汚れたからって他人が勝手に掃除始めたら、喜ぶ家主だけじゃない。そういう闇もある。戦争にも確かに光はあるだろう。でも光だけ語るのは信仰だ。公平に語るには光も闇も同列に扱う必要がある。

世界中を旅したUだから、まだこの国の方が他国よりマシって結論だと思っただよ。今はね。

でもすでに、一般国民は滅私奉公へ、権力層は増私方向へって政策が本気で始まっている。サッカーだってメッシ一強で、他は滅私なのがトレンドじゃん。メッシを小一時間こねくり回して出来たのがこの一文だよ。安心のウマシカ・クオリティだね。

良薬口に苦しで、国民でいるメリットがまだある内はいいけど、そのうち毒を食らわば皿までの滅私奉公を強要されたら、何のために税金払うのかわからなくなるよね。

少なくとも、EUって枠組みやベーシック・インカムって政策が曲がりなりにも同時代に存在する以上、その光と闇について公平に考え、どんな国に住みたいのか、全国民が真剣に議論する必要があるんじゃないかな。

ウマシカの一つ覚えで国の単位に固執したり格差拡大に加担するのは、これまでの権力保守層による信仰の押し付けとも考えられるよ。

今回はこんな感じ。やっとなんとなくまとまった。

どうかな？



以下、本当にどうでもいいはみだしなんだけど、学生の頃 U にバカ CD で、「ラリパッパブルース」（南島山六丁目プロダクション）って歌を聴かせたことがあって。

これがちょうど 20 年を経た平成の終焉にやっと時代が追いついた感じなんだよ。冒頭とか特にね。
「エビバデ 天は上下にまた人づくり あべこべの仁義をたてまつる 平等なき平成版羅生門 こわれてあいたまま クライクライクライ
うまれくる子供よ ようこそ迷い狂へる世界へ」

あと、サイトに公開してるウマシカの PDF 機能がここ一年エラーのままだから調べてたら、第二十五回で書いた「私は思い出す」の最後のページが壊れてることに気づいた。U に送ったメールでは問題なかったから、いつ壊れたのか分からないんだけど。

悔しいやら恥ずかしいやらだったけど、タイトルが「私は思い出す」だからちょうどかなとも開き直すことにした。

PDF とかいろいろ修正してる途中です。

悔しついでに一応書いておきます。

最後に追記なんだけど、U の言う「美しい保守」なら、某 J 隊の日報について、とりあえず「自分たち政治家のせいで某 J 隊に汚れ役をさせて申し訳ない」って言うんじゃないかな。

米の要請を断れない政治家の指示で、国防と直接つながらない海外の戦場に命がけで派遣されてなのに、戦闘状況があっても正直な報告を禁じられて、嘘つくこともできず報告が漏れたら「驚きとともに、怒りを禁じ得ない」なんて梯子外されて、待遇改善の議論も盛り上がらない。

権力者の利権を守るために兵隊を酷使するのがこの国の伝統だと思うよ。

次回こそ、『人工知能の夢』を続ける予定だよ。





第至急回 花粉症と『フクロウの声が聞こえる』

考
え



ウマとシカが
一緒にある世界へ
弦楽器イルカ  ⇔ 友人

遅くなって申し訳ない。

安倍首相は確かにアメリカに媚を売りすぎだ。
特に先日のアメリカに飛んでの首脳会談。

TPP への参加をお願いしたが断られ、北朝鮮に ICBM だけでなく中距離ミサイルの保持について圧力をかけてもらおうとお願いしても、おそらくはかわされてしまった。

鉄鋼輸入規制の件では、中国と同様にアメリカの利益を害する存在として認定されてしまったまま。

アメリカと良好な関係を維持できるのなら、良かったものの、そうでないのなら、日本を代表する首相としては滑稽だ。

でもどうすればよいのだろうか。

アメリカ抜きに大国化する中国の言いなりにならず、日本を守り切れるのだろうか？

いきなり中国が攻めてくるという心配をしているのではなく、経済的にじわじわ侵略していく中国のやり方に
対抗できるか。

その点は、アメリカと変わらないかもしれないが、中国はアメリカよりもよりジャイアンかもしれないからな。

昨今の日本の問題は「付度」の問題に象徴されている気がする。

おそらくはどの国でも付度はあるし、それが権力らしさだと思う。

付度の良しあしに時間をかけても無駄だと思う。

結局は政権は結果で選ばれるから、細かい手段のところ、多少問題があっても、政権維持には関係がないように思う。

自民党以上に結果として政治をよく動かせる政党があれば、そこに投票したいとは思う。

ところで、最近、ニューラルネットワークを使ったプログラミングを自作して遊んでいるよ。難しい数学を使わなくても、Google とかが開発した AI ツールはプログラミングができれば、使うことができるからね。

近い将来、今の会社の仕事で実践配備できると思う。

まあ、そんな感じ。



ずっっっごいありがとう。

むしろこっちこそ付き合ってもらえて助かってます。やっぱUのスタンスがあって、はじめて成立するよ。だからいつまでも右でいてね。

だって今この国に一番欠けているのは、左右の建設的で当たり前の議論だよ。

子供の学活みたいに、相手を批判するときはまず一つ褒めてから一つ意見する、そういう公平さがない時代だからね。140字の瞬間的な自己顕示欲は、人間から無評の評を削り取っていく非常に有効なツールだよ。

にしても、今回の日米会談は大きな流れに吞まれてるね。逆に南北会談は大きな流れに乗ってると思う。この国はトイレに神様がいる国だから、これも水に流してなかったことにすんでしょ。

さて、Uが花粉症だから考えたんだけど、一般的なセクハラは花粉症と同じだと定義すると、より分かりやすい気がするんだよ。

この暗喩には二つの意味がある。

一つは、セクハラも花粉も、表裏一体であるという点。

相手をけなして優越感を得るための（ブスとかハゲとかの）セクハラはほぼ誰も喜ばないけど、相手を口説こうとする言動は（やり方等を間違えなければ）遺伝子を残すために有効な手段であり、思いやりを持っていれば一生の思い出になったりする。例えば黒柳さんと森繁さんみたいにね。

花粉だって、植物が遺伝子を残すためには非常に重要な手段だから、絶対悪ではない。

もう一つは、同じ刺激でも感作する過敏な人と、感作しない鈍感な人がいるって点だ。（サルとかも花粉症になるらしいけど、動物が勝手に感作してる面もあるし、相手次第ではハラったりハラなかったりする点も近い）

もし俺が今Uに向かって、「花粉症ごときで軟弱だな。気合で治せよ。大げさだし我慢しろ。むしろお前が過敏だから悪いし、花粉が嫌なら出歩くな。外に出ないで済む仕事に転職するか、他人に代わってもらえ。厳重に防御できる格好しろ。もっと苦しい病気はいくらでもある。俺も同じ人間だけど全然気にならない。本当はそんなに苦しくないだろ？ お前の鼻なんて気持ち悪くて俺だったら絶対入りたくない。むしろ花粉をおとしめるための鼻トラ（ハニトラ）だろ？ 花粉に失礼だからおとなしくしてろ。鼻水を人前で出すなんて汚らしい。耐えるのがこの国の美德だろ？」って非難したらどうかね？

「長！」って思うよね。あと俺ならはじめの「ごとき」あたりでガッツリ首絞めてるね。

もちろん非科学的だし、よっぽど体育会系で他人の気持ちを理解できないクソだ。自分の評価を落とすために、わざとかって疑うほどだ。

しかも花粉症対策って今や大きなビジネスになるから、世間的にも「花粉症、大変ですよ？ そんなあなたに朗報です。トイレの神様からいただいたこの御水で鼻を清めましょう！」って、客として大切に扱われると思う。

対してことセクハラだと、不公平なポジショントークで二次ハラに及ぶ層がたくさんいる。

セクハラに鈍感な同性からも「私だったら気にしない」って突き放されたりする。でも、情けは人の為ならずだよ。「気にしないんだろ？ だったら触らせろ」って行列のできるセクハラされてからじゃ遅いのにな。

アイドルの落下事故でも思ったんだけど、落ちたくて落ちる人はいないから、まず被害者に対して「怖かったんだろうし痛かっただろうな」って慰めが最初で、次に「直すべきところは直さないといけない」って話があるでしょう。

組織を守るためか炎上商法か知らんけど、まず「被害者が悪い」ってやっちゃうと、その組織は改善される機会を失いどんどん閉ざされていくよ。

そうならないためにも、「大変だよね、花粉やセクハラ辛いよね」って慰めるのが基本だと思う。

Uも大変だよね。花粉辛いよね。

でも人間で例えたら、杉の精子をぶっかけられるって相当のセクハラだし、(特に男性優位の) 序列社会の中で花粉くらい小さいセクハラは世界中に蔓延してんだと思う。

んで解決策なんだけど、花粉を制御するには、花粉の出ない杉とかを品種改良して作るしかないと思うんだけど、じゃセクハラ者を制御するには、セクハラ者だけ島流しにするか生殖器官を不能にさせるかってことだと、それはそれで問題になるよね。

そうすると、マスクで花粉を拒絶する人を尊重するのと同様に、セクハラを拒絶する人を尊重する社会になるべきだろう。

それから、花粉症の辛さが社会的に認められてるのと同様に、セクハラ之苦痛も社会的にもっと認知されるべきだろう。

それでもセクハラする人や、違法な二次ハラに加担する人はやっぱ島流しか性器不能かなと思う。

これに関連することで、前にちょっと書いたんだけど、金もコネも仕事も容姿もその他何もかもない惨めな人間が、哀れな自分を慰めるために他人をバッシングするのは仕方ない。

だってないない尽くしで能がない残念な脳なんだから。

それは仕方ないんだけど、場所関係なく違法な行為はちゃんと取り締まるべきだと思うんだよね。

だって現実の路上で違法性のある騒動を起こせば即逮捕されたりするけど、ネット上では同じ違法行為でも放置されてる現状がある。しかも今や路上で騒ぐよりも、ネット上で騒いだ方が影響力がある時代だ。

匿名にしてもハンドルネームを一人一つに限定するとか発言に責任を持たせて、路上でもネット上でもダメなものはダメと徹底すべきじゃないかな。

それができれば二次ハラも減って、もっと堂々と実名告発できるだろうしさ。

今回はこんな感じ。

どうかな？



こちらこそありがとう。いつも刺激をもらってるよ。

花粉症についてはいろいろ考えたよ。

確か、花粉が飛ばない杉は研究が進んでいるよ。

「はるよこい」というしゃれた名前みたいだね。

花粉症は確かにビジネスになるかもしれないが、経済的なロスのほうが大きいと思う。

ただ、花粉症の良いところは、ほかの病気と同じで、自分の体や人生について、考えさせられるところだ。

まず、花粉症は風邪と免疫の作用がまったく別だよ。

風邪は、発熱、咳、鼻水、くしゃみ、関節の痛み、すべてが、異物を排除するための合理的な体の働きなのは、誰でもご存知の通り。

風邪の市販薬は、それらの排除行動を抑制するので、つまりは、かぜくすりは、風邪を治すための薬ではなく、風邪を悪化させて、風邪の味方をするための薬だよ。

多くの国民と、多くの来日中国人が、山ほどのかぜくすりを買っていくのは、本当に滑稽だ。

花粉症の症状は、まったく害のないはずの花粉に、抗体が過剰反応することだから、花粉症の薬を飲んで症状を抑えるのは合理的な行為だと思う。

免疫レベルの「敵」と「味方」の区別がきちんとできないのが、花粉症を発症している人で起きていることだけれど、人間の免疫システムは、機械学習システムとよく似ていると思った。

別に花粉症になる人がひ弱だったり、神経質だったり、好き嫌いが激しかったりとか関係ない。

人間は腸の中に、「異物」と「安全物」を区別する、免疫学習センターがあるらしいけれども、世の中の物質はほぼ無限の種類があって、一つ一つを区別して学習することはできないはずだ。

たとえば、有機物はその結合パターンによって、毒だったり、薬だったり、栄養分だったり、ほぼ無限の種類があり得る。

人間の抗体が、異物と安全物を区別する際には、ほぼ無限の種類をカバーするために、一種類の幅を広げるしかない。

つまりほぼ無限といっても、実際には有限の空間をすべて埋め尽くすため、一つの種類の守備範囲を広げているということが、人体で起きているはずだ。

たとえば、甘味料は甘み成分が何もないのに砂糖と誤解させるように、麻薬がドーパミンやエンドルフィンと誤解させるようなのと同じような、誤解が生じるのはやむを得ないこと。

花粉もそのたぐいの話だと思う。

良く花粉症が発症する原因の例え話としてよく出てくるのが、バケツの水が満杯になってあふれ出るような症状が花粉症で、そのバケツの容量が人によって違う、というのがあるけど、ちょっと例えとしては、的を射ていない気がする。

杉やヒノキの花粉とよく似た「異物」を過去に認定したことがあるかどうか、あるいは杉やヒノキの花粉が異物となるような範囲の免疫があるかどうかで、花粉症が発症するかどうかが決まる。

それは花粉の量が、買った宝くじの枚数みたいなもので、宝くじが当たったことがあるかどうかみたいな話だと思う。

宝くじは買えば買うほど当たる確率が高まるけど、運のいい人は1枚かってあたることもあり得る。

運が悪い人は、ちょっとの花粉を浴びただけで、発症するようなイメージ。

免疫システムという超ミクロの世界で起きている現象だから、花粉症は、がんと同じか、それ以上に治療が難しい医学的な難病だと思う。

でも、これをきっかけに、研究を進めていけば、もっと人間の免疫システムについて、人類の知見は高まるん

じゃないかな？

特に免疫学習システムについての知見が高まれば、人工知能にも応用できそうだ。

ダーウィンの自然選択が、コンピューター科学でよいアルゴリズムになったように、免疫の学習システムもまた、有益なアルゴリズムになるだろう。

素人が余計な想像を膨らましすぎた。

今度はちゃんと人工知能について、考えをまとめておくよ。



まったく意図してなかった、ウマシカ花粉編に突入したね。

五十回を目前にして、花粉で謎の盛り上がりを見せるのはウマシカならではだ。

あと、ニューラルなんちゃらの話はまったく分からないから、すごく楽しみにしてるよ。

ついでだから、今までやってなかったのをいっぺんにやっちゃおうと思う。

以前、「なぜ人を殺してはいけないか」をウマシカ読解したけど、「プロレスは八百長か」についても、思うところあって今さらながらやっとくよ。

まず結論としては、「プロレスには明文化されていないルールがたくさんあって、それも団体ごとに違うから、その団体のルールにあなたが納得していれば当然、八百長とは感じない（逆に納得できなければ八百長に感じるだろう）。また、あの団体は八百長だけどこの団体は八百長じゃない、と感ずることもあり得る」って話だよ。

本当は、「黙って阪神淡路大震災後の川田対小橋戦を観ろ」って一言ですましたいトコだけど、いかにもな漢字多い押し付けだし説明もちょっと足りないだろう。

さて、どんな競技にも明文化されたルールがある。例えば野球にミサイルを使ってはいけない（地獄甲子園以外では）。このルールに納得しないと、選手も観客も競技を楽しめない、よね？

更に、どんな競技にも明文化されていない暗黙のルールがある。「スポーツマンシップに則り」という宣誓は、すべての事柄をルール化はできないから、不公平がないようにフェアな精神で戦いましょう、という前置きだ。

例えば米大リーグであれば、「乱闘には全員参加」とか「大量リードの場面では送りバントしない」とかが暗黙のルールに当たるだろう。

プロレスは、そういった暗黙のルールがとても多い格闘技だ。それも団体ごとに少しずつ違うから、どうして選手がそう動くのか、観客それぞれが時間をかけて納得する必要があるし、自分にとって納得できる団体と納得できない団体も出て来る。

かく言う俺も十代後半まで、「敵がコーナーポスト上にいるの分かっててフラフラ背中見せたり、ロープに振られたらどうぞリアットしてくださいって首突き出すのがプロレスだろ」って思ってたし、お互いこのくらいまで痛くし合ったらフィニッシュ、という暗黙のルールが透けて見える気がすると、「なんだよ、もう少しやれるだろ」と（自分はできもしないクセに）したり顔の評価を下したりしてた。

そんな時、俺は小橋の試合をテレビで観て衝撃を受けた。そこには本当があったから。

もちろん人によって本当は違うが、俺にとっての本当は「痛みと疲労と勝敗を超えた生き様」だった。

もちろんプロレスが嘘のリング上にあることは変わらない。避ければいいのに避けない。受けなければいいのに受ける。当然痛いし、疲れる。でもやる。またかよってこっちが思っても、まだやる。

わかった、もういいよ、痛いのは分かったし、疲れてるのも分かった、ってこっちが納得しても、まだやめない。

参った、もう勘弁してくれ、俺が悪かったって泣くまで、それでも泣きながらやってる。結局 60分ドローで、両者立ち上がれないまでやる。

確かに嘘まみれだけど、あの痛みと疲労は本当だった。常人には到底できない。どう考えてもおかしい。尋常じゃない。だってあいつらは全身全霊を懸けた嘘で、勝敗も超えてただ生き様を魅せようとしているからだ。

もちろん、それはやはりおかしかったんだ。一言で言えばやりすぎだった。

痛みと疲労を文字通り「体現」するために極限まで突き詰めた彼らはその後、リング上で亡くなったり、満身創痍になったりした。生き様の代償と言っていいかもしれない。

だが四天王と呼ばれ、火に油を注ぎ続けて到達した嘘の極北で、当の彼ら自身はあのリング上でいったい何を見たんだろう。もしかしたらそこは、地獄と天国が一緒にある場所だったのかもしれない。

その他にも例えば、怪我でキレのある技を魅せられなくなった選手が、それでもプロレスを諦めきれずに新しい団体を立ち上げ、技の代わりに痛みと疲労を前面に押し出したデスマッチ形式のプロレスを始めたりもした。

俺にとってプロレスは「いい歳こいた大人（特におっさん）同士が、お互いにいろんなやり方で痛くし合う我慢比べ」だ。それぞれがそれぞれのやり方で、納得するファンのために生き様を魅せようとする。

もちろん、避けられる敵の技をわざわざ受けたりするから、それに納得できなければ観ない方がいい。

ただ、明文化されていないルールを、そういう決まりなんだと納得できるようになると、今までつまらないと感じていた異物でも楽しめるチャンスがあるかもしれない。

それでまた話は変わるんだけど、今まで「右」と「左」についてウマシカとして定義してこなかったのは、うっかりだったと思う。これもついでにやっておこう。

まず、保守や愛国って言葉は一般的には右に使われるけど、もちろん左にも当てはまる。右も左もそれぞれの政策を保守してるし、それぞれのやり方で国を愛してるからだ。

ただ、右と左では優先順位が違う。

右の第一優先は国だ。国を維持するために個人がいるって考え方だ。だから端的に言えば、国のためなら個人は犠牲になっても仕方ないし、国のルールに個人は合わせないといけない。国や組織や伝統を保守し、個人よりも国を愛してる。

そして右のメリットは、虎の威を借る狐になれる点だ。権力層が国の威を借りて国民をまとめ、従わせることができる。

デメリットは、権力層や国という枠組みが肥大化すると、個人ではコントロールできなくなる点だ。光の魔法は強大になればなるほど、闇もまた深く濃くなる。

対して、左の第一優先は個人だ。個人を維持するために国があるって考え方だ。だから端的に言えば、個人のためなら国は解体されても仕方ないし、個人のルールに国は合わせないといけない。個人の人権や主権を保守し、国よりも個人を愛してる。

そして左のメリットは、個人の幸福を追求できる点だ。

デメリットは、個人の幸福を追求しすぎると、国がまとまらなくなる点だろう。

これら右と左が、自分は愛国者側、敵対者は売国奴側と決めつけて、平行線の争いを閉口なまでに並行させているのが現代だ。

ウマシカではだいたいこんな感じで考えて来たつもりだけど、Uの言う理想的な保守はどこらへんにあるんだろうね。

また別の言葉の定義なんだけど、ネトウヨって言葉は「ネットにウヨウヨしてる右翼」って意味もあるじゃん。一般にも「右翼」って言葉を省略してるから理解しやすい。(でも支持母体の宗教や組織を隠す言葉だから俺は好きじゃないし、使わないようにしてる)

対して、これ前にも言った気がするけど、「在○会」とか「パヨ」って言葉は、日本語的じゃないから広まりにくいと思う。パッと意味がわからない。

「在○会」ってのはじめて聞いた時、普通に「在○を守る会なんだな」って思った。だって普通の日本人の感覚ならまず「反○会」「脱●会」とかって付けるよ。

これウマシカ読解するなら、本当に反対したい会じゃなくて、ただ注目されたいがために付けた名前だよ。

あるいは、「パヨ」って言葉も、この言葉を意味づける上で最も重要な「左」が入ってない。これではパッと意味が分からないし、日本語的じゃないと思う。

でもだからこそ、「パヨ」って言葉は特定の信仰者にしか広まらないから、これを使うのは合理的な議論が不可能な層だって区別できる。そういう意味ではウマシカ的に便利な言葉だ。

さて、ここ数回を NAVER まとめると、当然すべての事柄には長所と短所がある。

国で考えれば、国民にとってそれが長所であれば誇ればいいし、短所であれば直せばいいと思う。でももちろん絶対の国益なんてないから、ある層にとっての益は別の層にとって損になり得る。花粉対策グッズで儲ける人と、花粉症被害で損する人がいるようにね。

万人の納得する政治は不可能だからこそ、仮のゴールを設定して、そこに向かって政策を進めるしかない。

でもこの国にはゴール（仮）でさえなくて、ふんわりなんとなく良くしてくれるだろうという国民と、ふんわりなんとなく良くするフリをして自己の利益を優先する権力層しかいない。

当たり前でつまらない結論だと思うけど、異物を過剰に排除する思考停止な抗体が蔓延してる時代だから、みんなでもう一回、国と個人を公平に教える愛売国幼稚園からやり直したら、うまいこと視界も開けるんじゃないかと思う。例えば『ハードボイルド園児』って LINE マンガ？でも見習ってさ。

（とか言いながら、「NAVER まとめ」って LINE 系列の子会社なんだね。そもそもただのネット用語だと思っただのがウマシカだよ）

今回はこんな感じ。

どうかな？





『月曜日の憂鬱』と『初恋にさようなら』再び
 考えるウマシカ番外編 第五十回

考えるウマシカ

五十回を記念して、戸田環紀さん、激賞!!

「誰かに傷つけられたことがある人。誰かを傷つけたことがある人。それでも誰かを信じていたい人。そういう人に、読んでほしい。王子も魔物も極道も出てこない地味BLの決定版!

あなたの価値感に揺さぶりをかける戸田環紀のデビュー作。

「初恋にさようなら」幻冬舎コミックス リンクスロマンスより

好評発売中!! 切ない恋は、正義」

「是非、買ってください」弦楽器イルカ



弦楽器イルカ ⇄ 戸田環紀

戸田環紀さん

作品をいただけるとのお話、本当にありがとうございます。せっかくですので、ありがたく頂戴いたします。ただ、他のファンの方に申し訳ないので、しかるべき時に、どこかに公開されてもよいのではないかと思います。ご判断はお任せしますが、新しい作品を待っているのは、きっと私だけではないと思いますよ。

感想はもちろんお送りしますし、もしよろしければ、戸田環紀さんがご自身の作品に自信が持てるように微力ながら尽くしたいと思います。

楽しみにしております。

なお、実は少し前から迷っていたのですが、次回からウマシカの帯を「広告欄」にしようと思っておりました。誰にも依頼せず、誰の依頼も受けず、「土砂災害さえ予防すれば、レジャーも避難も登り放題、一山いくらでお買い得！ 山」とか、「川原がデパート！ 売るもよし、投げるもよし！ 石」とか、「スカートめくりは性犯罪です！ 今めくるなら！ 本」とか、誰の役にも立たない広告を帯に出そうと思うのですが、それとはちょっと別で、50回目の節目に戸田環紀さんにオビラーになっていただきたいと思っておりました。

普通の帯文でもいいのですが、もしできれば、単に戸田環紀さんの本の宣伝だけを情熱を持ってしてもらえたら、私も「是非買ってください」と付け加えられますので、それがありがたいです。

最近の私は、創作の際はよくお団子の串をイメージします。

お団子という点はある。しかし、串という線がつながっていない。

串＝線を持ち上げても、お団子が思うようにつながって持ちあがらない。そういうイメージです。でも、いつかつながると思いますので、気長に待ちます。

それでは、また！



月曜日は憂鬱だった。何故なら月曜日を見つめる彼女がいつも憂鬱だったからだ。

すべては月曜日のせいだった。上司が嫌味っぽいのも、生理が乱れるのも、犬が狂ったように吠えるのもすべては今日が月曜日だから。

「月曜日なんかなくなっちゃえばいいのに」

月曜日の前で、彼女は度々吐き捨てるようにそう零した。日曜日は置き手紙に似たもので、「日曜の夕方から彼女はよくそう言ってるぜ」と陽気に月曜日に教えてくれた。

日曜日は皆に愛されている。殆どすべての人が日曜日に来るのを心から待ち望んでいる。日曜日に働く彼女の夫でさえ「日曜は車もゆっくり走るし、閉まってる店も多いし、ほんの少し手を抜いても許されるような気がする」と言っているのを月曜日は聞いたことがある。

そしてそのあとに続いた言葉がこれ。

「それに比べて月曜日ときたら。どうしてあんなにイライラするんだ？」

自分はいらない存在なのだろうか。いなくなれば皆が幸せになるのだろうか。

月曜日には分からない。自らの意思でいなくなる方法も、いつから『月曜日』が存在しているのかさえ正確には知らないからだ。

ときに『今日』が羨ましくなる。

『今日』は午前十二時に生まれ、二十四時間後の午前十二時に死んでしまうので、人々に好かれようが嫌われようが、まったく気にすることがない。

少なくとも月曜日が知る『今日』はどれもこれも淡々としていて、よく寝そべっては大きなあくびをしていたものだ。

「うーん、『今日はとりあえずダイエットは休み』とか『今日は日が悪いから謝るのは明日にしよう』とか、色々その後回しにされることが多いとついつい怠けちゃうんだよねえ」

それに、ほら、どうせ自分あと三時間で死んじゃうし。

怠けものだ。投げ遣りだ。でも、それでも『今日』は人々から憎まれていない、と月曜日は思う。

実のところ、『今日』と同じように今週の月曜日と先週の月曜日は別のもので、先週の月曜日はもう戻らないし、今週の月曜日もしばらくすればどこかに消えてなくなってしまうのだけれど、しかし大気を含む物質に沁み込んだ思念は何年となく代々の月曜日に受け継がれ、故に月曜日は、これまでの月曜日がどんな仕打ちを人々から受けてきたか、どれだけの暴言を吐かれてきたかを殆どすべて実感として知っている。

人々は誰も月曜日が痛みに堪えていることを知らない。

悲しんでいることを、塞ぎ込んでいることを、本当は今すぐにでも月曜日を辞めて逃げてしまいたいことを。

知っている者はどこにもいない。何故なら月曜日に感情があるなどとは誰も思っていないからだ。

人々はどれだけ月曜日を罵っても少しも良心を痛めない。何を言っても許されると思っている。

いや、思っただけすらいないのかも知れない。

何も考えていない。相手に心があるなどとは考えてもいない。

彼女の、彼の心の中にあるのは、自分の欲望ただそれだけ。

ふと月曜日は思う。

彼女が憂鬱だから自分は憂鬱なのだろうか。それとも、自分が憂鬱だから彼女も憂鬱なのだろうか。

そもそも、どうして人々はそんなに月曜日に憂鬱になるのだろうか？

月曜日に学校に行きたくない子供、月曜日に仕事に行きたくない大人。考えようによっては、人々が本当に嫌なのは学校や仕事だということができるのではないか。

月曜日は自分の思いつきに俄かに興奮する。

もしもこれが正しいのならば、本当に憎まれているのはこの自分、月曜日ではないということになる。彼らは学校や仕事に直接怒りをぶつけることができず、だから代わりに月曜日に怒りをぶつける。月曜日は言い換えれば、彼らの怒りの受け皿になっているのだ。

月曜日は『学校』や『仕事』に訊いてみたくなった。

人々はあなたたちとともにあるときも憂鬱なのですか。あなたたちに怒りをぶつけることはあるのですか。あなたたちはそれで憂鬱になりますか。

それでもあなたたちもそこから逃げ出すことができないのですか。

私が月曜日を辞められないのと同じように。

考えは尽きなかった。いくら考えても答えは出なかった。

だが、午前十二時に生まれてからこれまで考えてきて、ひとつだけ分かったことがある。

自分か彼女が憂鬱であることをやめない限り、憂鬱はどこまでも続いていくということだ。

分かったところで月曜日は今生で憂鬱と手が切れる気がしない。

それに火曜日へとバトンタッチする時間は刻一刻と近づいている。

『今日』と同じように寝そべてしまえばいいと思う。

何も考えず、彼女の怒りを聞き流し、消えていくときを静かに待つのだ。

「ああ、やっと月曜日が終わる」

先ほどそう言ってから、彼女もベッドに向かったところだ。

もうこころを閉じてしまおう。どうせ誰も月曜日のことなど心配しない。

電気が消える。彼女が毛布を被る。しかしすぐに電子音が鳴って彼女は暗闇の中でモバイルを手にする。

ブルーライトが照らした彼女の顔がみるみる険しくなっていき、彼女は大きな溜息をついて心底嫌そうに吐き捨てる。

「だから月曜日は嫌いななのよ」

その途端、月曜日はペしゃんこになった。

嫌いだと言われるのは何よりも悲しい。苦しい。

もうすぐいなくなってしまうというのに、どうして最後の最後までこんな言葉を聞かなければいけないのか。

もっと早くこころを閉じてしまえばよかった。そうすればこんなに苦しむこともなかったのに。

「どうしてママはそんなに月曜日が嫌いななの？」

八歳になる彼女の娘の声が聞こえてくる。

彼女と娘は並んで寝ている。夫はまだ帰って来ない。

「それはね」

と疲れたような彼女の声が聞こえてくる。月曜日が嫌いな理由など聞きたくもないのに、暗闇の中は静まり返っていて、彼女の声は遮るものなく月曜日まで伝わってくる。

聞く覚悟などできていない。聞いたら自分はきっと粉々になってしまうだろう。

しかし、どんな暴言が並べ立てられるのかと思っていたのに、彼女は少しのあいだ黙ってから、不思議そうにこう言った。

「そうね。なんでなのかしら」

「昔はママ、そうじゃなかった。月曜日だって楽しそうに仕事してた。いったい何があったわけ？」

月曜日にいったい何があったわけ？

月曜日は半ば諦めて答えを待った。

だが、彼女の答えは相変わらず素っ気なかった。

「何もないわ。特別なことなんか起こってない。あの地震だって月曜日じゃなかったし」

「あの地震て？」

「ひどい地震があったのよ。あなたは覚えてないと思うけど」

「うん。知らない」

「そうね、あなたは知らない。それと同じように、どうしてこんなに月曜日が嫌になっちゃったのか、ママにも分からないのよ。あなたが言うように、本当に昔は月曜日だって楽しかった。ううん、働き始めたころは、月曜日が一番楽しかったのよ。休みが終わって、きちんと身支度を整えて、仕事へ向かう自分が一人前になれたような気がしてね。ああ、自分はまだの主婦じゃないんだ、社会の一員になれたんだって、そう思ってたのに」

月曜日は自らの悲しみを忘れて彼女たちの話に聞き入った。本人にすら分からない何かが彼女の身の上で起こったのだ。

人々が月曜日の思考に気づかないのと同じように、月曜日もまた、人々のすべてを知っているわけではない。

「ママはたぶん、忙しすぎるんだと思う」

と、娘が言った。

「私もそう思う」

と、彼女はすぐに答えたが、次に娘が言ったことに対しては、しばらく返事をしなかった。

「それからきっと、えらくなりすぎたんだと思う」

偉い、という言葉の意味は分かるが、その感覚が月曜日には分からない。

曜日には順位があるだけで、そこに上下関係はないからだ。

偉くなりすぎると何が問題なのか分からないが、どうやら彼女にとって娘の言葉は凶星だったらしい。

「うん、そうね。たぶん偉くなりすぎた」

そう答えた彼女の声は、少し湿り気を帯びていた。

「がむしゃらにやってきたもの。偉くなりたかったのかも知れない。でもいつの間にか立っている位置が自分のキャパシティを超えてた気がする。無理なんか充分してる。やればやるだけ力が出るなんて嘘。どんどん自分が削られて、このまま過労で死んじゃうかもって思うと、すごく怖くなる」

「ママ、大丈夫。落ち着いて。私がいる。ずっといる」

「ええ、そうね。あなたがいる。それだけでいい。ねえ、どうしてママはあなたのママというだけで満足できなかったのかしら。あなたがいればよかったのに。それだけでよかったのに」

彼女はとうとう火がついたように泣き出した。めそめそ、でも、しくしく、でもなく、おなかをすかせた赤子のように腹の底から声を振り絞って号泣した。

見えないが月曜日には分かる。彼女は娘を力一杯抱き締めている。

「生きているだけでよかったのに」

娘はもう何も答えない。

彼女の夫が帰って来た。

泣いている彼女の背をさすり、自分のほうへ引き寄せながら優しく彼女の手から娘を取り上げる。

「もう寝よう。人形ももうお休みの時間だ」

「人形って言わないで」

「おれには人形にしか見えないな」

「あなたには分からない」

夫は彼女をなだめながら、娘をサイドテーブルに置く。

彼女が娘と呼ぶものを、夫は人形と呼ぶ。

月曜日には彼女と娘の話し声が聞こえるが、夫はもう何年も娘の声を聞いていない。

月曜日はふたたび憂鬱になったが、しかし、今は自分が嫌われていることが憂鬱なのではなく、これまでにしてこなかったこと、そして、自分に残されている時間とを思って憂鬱になった。

彼女とともに憂鬱になるのではなく、もっと他にできることがあったのではないか。嫌われていることを歎く

のではなく、彼女の憂鬱の理由に思いを馳せていたなら、自分はもう少し建設的な月曜日になれていたかも知れない。

彼女の憂鬱をなくせるような何か自分ができていたとは思わない。月曜日には差し伸べられる手がなく、労りの言葉を伝える口がないからだ。

だが、月曜日だけでも憂鬱をなくすことができたなら、この世界からひとつは憂鬱がなくなったということになる。

憂鬱は世界を荒廃させる。伝染し、蔓延し、人々の心と体を蝕んでいく。また、それにより怠惰に、或いは自棄になった人々の手によって、大気や大地、海原が汚染されていく。

「そうだな、おれには分からない。君は月曜日に来るたびにそうやって泣くけど、なんのために一週間があると思ってる？」

夫の声が聞こえてきて、月曜日は考えを中断して夫の言葉をこころの中で反芻した。

なんのために一週間があるのか。

「初七日、四十九日、歯に刻まれる週輪線。人は七日ごとに脱皮して新しい体を作っている。どうしてなのかは分からなくとも」

「しゅうりんせん？」

「木の年輪みたいなものが動物の歯にはあって、日々の日輪線は七日で一組の週輪線を作るんだ。何故七日なのかは分からない。でも、おれたちが決める余地も選ぶ余地もなく、七日のリズムはおれたちの体の奥深くに刻み込まれている」

歯のない月曜日には七日のリズムを刻む人々の肉体を身を持って知ることができない。それでも、七日のリズムのひとつである月曜日は、そのときほど自身と人々とが強く繋がっていると感じたことはなかった。

月曜日も一週間も今日も明日も、それはすなわち時間のひとつだ。

時間と人々との関わりの根底にあるのは、憂鬱や喜びといった感情の一面ではなく、おそらくは肉体の盛衰、すなわち、生きている営みそのものだ。

生きているあいだは時間から逃れることはできない。或いは、死んでからでさえ。

「だから、月曜日に死んだものは月曜日に生まれ変わる。おれはそう信じている」

夫は静かに、しかし力強くそう言ったが、彼女は何も答えなかった。月曜日は何を聞いてももうあまり自分のこころが揺らがなくなっていることに気がついた。

時間が終わりに近づいているのだ。

「だけど」

夫の声が遠くに聞こえる。月曜日は雑念を消し、注意深く夫の声を拾い上げた。

「だけど、君があの子の手を握り続けていたら、あの子は生まれ変わりに行けない」

それから彼女の嗚咽が聞こえた。それが月曜日が聞いた最後の声だった。けれど、不思議ともう憂鬱にはならず、月曜日は静かな気持ちで自分が時間の枠組みから離れてゆくのを待っていた。

月曜日に死んだものは月曜日に生まれ変わる。

ならば自分はきっとこれから生まれ変わりに行くのだろう。

次もまた月曜日に生まれ変わるのだろうか。

分からない。

けれどなんとなく、次も彼女のもとで月曜日に生まれ変われたらいいなと思った。

そして、もしも生まれ変われたらこう伝えるのだ。

月曜日も捨てたものじゃないと。昨日までの君はもうおらず、新たに生まれ変わったのだと。だから悲しみは癒えるのだと。あの子の手を離してもいいのだと。

あの子の手を離したとしても、君があの子を愛していないということにはならない。

どうやって伝えればいいのか、月曜日にはまだ分からない。もしも今と同じように月曜日に生まれ変わったら、やはり自分には伝える手も口もないからだ。

でも、できそうな気がするのだ。いや、きっとできるに違いない。

何故なら我々『時間』は彼女たちの目に見えるところだけでなく、見えない体の奥深くにこそ強く息づいているのだから。

はらかなメッセージは彼女に必ず伝わるだろう。体の内側から真剣に湧き起こる震えは、外側からの震えに負けない強さがあるはずだ。

いつか伝えられるように生まれ変わりたい。

いつの日か、きっと必ずできるだろう。

何故だか素直にそう思えるのだ。

どうしてなのかは分からなくとも。

そこで月曜日はこときれた。

月曜日の思考もどこかに消えてなくなった。

月曜日にころがある知らない人々は、月曜日がいなくなったことで憂鬱にも、もちろん幸せにもならなかった。



戸田環紀さん

お忙しいところ、ご返信と小説、ありがとうございます。

ちょっと長文になるかもしれませんが、せっかくなので、編集者目線で書かせていただきますね。

『月曜日の憂鬱』

後半に波を打って押し寄せるような切実さが、戸田環紀さんらしいと感じました。グッとくるものがありました。

「戸田環紀ならこうでなくっちゃ」と読者に思わせる展開がさすがだと思います。

素晴らしい作品をいただきまして非常に光栄です。ありがとうございます。

メールを書くにあたり 2 回読みましたが、一番最初に思い出したのが、『水曜日のスーパーマーケットに行っ
てはいけない』でした。

それで確認して読み直したのですが、『水曜日、朝七時。』もあるな、と。

もしかして戸田環紀さん、曜日フェチですか？

そこで『エアメール』に気付きました。全く見落としていました。

なんというか、忘れっぽい勝手なファンの感想で恐縮ですが、あの二人がふらっと帰ってきたみたいで、これは
こういう思い出し方でも、本当の手紙みたいでよかったです。

こっからちょっと『月曜日の憂鬱』を公開されるに向けてのお話になるのですが、戸田環紀さんの文章を読んで
いると、ふと霧を感じる時があります。これはいったいどの何を書かれているのか見失ってしまうような、
何とも言えない、これは戸田環紀さんの作品でたまに感じる独特の感じですよ。

『水曜日のスーパーマーケットに行っ
てはいけない』でも一部分、感じました。

もしかしたら翻訳的、ということなのかもしれませんし、抽象的、ということなのかもしれません。

でも、『初恋にさようなら』では感じませんでした。たぶん、編集の手が入ったから、商業作品だからだと思います。

この霧の中に様々な可能性が浮かんでは消えるような展開も面白いと思います。

あるいは逆に、商業作品として霧のない作品を書かれる方が向いているのかもしれない。

もしかしたら、ここは意識して書き分けられた方がいいかもしれません。

『月曜日の憂鬱』の冒頭を何度か読み返し、ああ、そうか、と理解しました。

月曜日に人格があるのか、彼女が月曜日に憂鬱なのか、あるいは、月曜日に人格があるように彼女が感じている
のか、など、いくつかの物語のラインがあると思うのですが、そこがなかなか通りませんでした。

冒頭の 3 行くらいを変える手もあるのかもしれない。たとえば、

「自分はいらぬ存在なのだろうか。いなくなれば皆が幸せになるのだろうか。

月曜日は一人、憂鬱だった。」

こう順番などを少し入れ替えるだけでも、読者の霧はある程度晴れるのではと思います。

でも霧が晴れる感覚は先を見通せる喜びもありますが、読み方の可能性が狭められる残念さもありますので、

あえて読者にもっと霧の中を歩かせる方法もあるかと思います。霧を晴らすだけが文学ではないですよ。

あと、「今日」のところがコメディタッチで面白いと思うのですが、「まったく気にすることがない」は少し言いすぎな気がしました。

「刹那を生きる今日に振り返る過去はない。ただ全力で走り去る覚悟だけ」という生き方は、やはりのんきなだけではない、裏の顔がある気がします。

一般の人々が、月曜日に心があるのを知らないように、彼女の話を通して、今まで気付かなかった「今日の裏の顔」に月曜日が気付く、という展開でもいいのかもしれませんが。月曜日が今日に特別な感情を抱くとか。

そうすると、月曜日にまつわるコメディも含めた部分と、切実なテーマもはらむ彼女の部分を、よりちょっとだけ、うまくつなげるかもしれません。

でも、やはり完全に霧でもいい気がします。

彼女と月曜日が、混然一体となる話でもいい気がします。

たとえば最近、松本大洋『花男』という漫画を久々に読み返した際、この幻想と現実が半々の世界には既視感があると思出したのが、『この世界の片隅に』でした。『花男』のように架空の世界の物語であれば幻想もすんなり入るのですが、『この世界〜』のように史実を基にした物語だと幻想にちょっと違和感が生まれます。

ですがどちらも味わい深く、改めてなるほどと思いました。

あと、地震の部分は、どこかにつながっているのか、気になりました。

もしかしたら、そこはより彼女の身に近い事象を使われた方がいいかもしれません。

以上のような点で少し、ブラッシュアップされると、最後の部分がより強く、ぐっとくるように感じました。いかがでしょうか。

今思いつきましたが、第五十回は番外編として、思い切ってこういうメールのやり取りをそのままあげるのも手かもしれませんね。

「小説がいかにして書き上がるのか」

実は前々から思っていたのですが、たまにコントやマンガや絵などの創作過程を動画で見聞きする機会はあるのですが、小説家がどうやって文章を書き上げるのか、リアルタイムで推敲が見える映像作品があったら面白いと思うのです。

作家が原稿用紙やモニタを見つめるその裏側から、読者が作家の目線を追えたら、新しい発見がある気がします。なんなら、演劇や落語に近い形で、客が作家とモニターをじっと見つめるだけの新しいタイプの公演があっても、面白いと思います。

同じ文章を何回も書き直すタイプの作家もいれば、一回も直さない作家もいると思いますし。

というと、以前ご提案したカンガルーの回が今回でもいい気がしました。いかがでしょうか？

あとアレの件ですが、草原克芳さんの『建築家の檻』とか、片桐奈菜さんの『退室』とか、『ハウス』もそうですが、一時期、私のお気に入りが続々ピックアップに掲載されたので、月 500 円払う価値はあったかな、とそのときは一人勝手にしめしめと思い上がりました。もちろん皆さんの作品が良かったからですが、自分の選球眼にニヤるウマシカでした。



弦楽器イルカさん

おお、編集者目線という新しい切り口の感想、非常に興味深く読みました。
ありがとうございました。

差し上げておいてなんですが、あれは数日前に出来上がったものを熟成なしでお渡ししてしまったので、まだまだ足りない部分がたくさんあると私自身感じます。

でも、小説にとって最も大事だと思う「はらからの言葉（の芽のようなもの）」は、入っていて、そういう感覚は久しぶりだったので、書き上げたときにぞくぞくというかわくわくするような達成感を覚えました。

ちなみに曜日フェチではなく、自分としてはまったく意識することなく今回の作品を書きました。
が、流石に書いたあとに「曜日タイトル」が多いことに気づいたのですが、それが何故なのかは私にも分からず……。

これも体の奥底の七日リズムの成せるうんたらかんたら……。そんなわけない。

霧の中、と良心的に書いていただきましたが、たぶん、分かり辛いんだろうなあと思いました。

自分の中にもやもやとあるものをうまく言語化できていない。

小説を書く技術力の問題と思います。

余談ですが、先日過去の小説を読み返したのですが、あまりの文章のお粗末さに驚きました。

ショックを受けたとかがっかりした、とかではなく、それはもう単純に驚いた。

と、私の技術力の問題はさておき、私がより抽象的なものいいを好む、という部分は確かにあるかもしれません。

「謎」を残すことによって深みが出る小説と、「謎」を残すと「伏線が回収されていない」と批判される小説やジャンルがあると思うので、このあたりは仰るとおり意識的に書き分けていかないとな、と思います。

地震の部分ですが、確かにこの部分は「伏線」が回収されていませんね。

いらないのかもしれない。

くどいようですが、はらわたを千切って投げ込んだようなものなので、しっかり洗わないとな、と思いました。

以下、ウマシカ 50 回目のカンガルーについてですが、小説をアップするのもメールをアップするのももちろんOKです。

そうすると、私が書き直した小説があったほうがいいでしょうか？

私はかなり書き直すほうなので、第二稿が「完成形」になるかは分かりませんが、それでよい、ということであれば書き直してみます。

他にも何かできることがないかな、と思いつつ。



戸田環紀さん

商業的に書かれている戸田環紀さんに、お金にもならない件で、出過ぎたメールを送ったと反省しておりました。ご返信いただきありがとうございます。もうちょっと考えてから書くようにします。

もしもう一度書いていただけるのであれば、非常にありがたいですし、より楽しみです。締切はありませんので、出来次第、はみだしとして掲載できたらとてもうれしいです。いつの回に載るのか、私も一ファンとして楽しみです。

引っ張りに引っ張って約5年後の第百回でもいいかもしれませんね。

読みやすい文章だけが良いとは絶対に思いませんし、単に読みづらいというのも違うと思います。

わかりやすければいいというのであれば、「もし月曜日に人格があったら」と冒頭で書けば良いワケですが、それでは文学的情緒に欠けます。つまらない。

いろんな含みがある世界観を目指されたように思うので、もしかしたら、この作品世界の広がりに対して少し迷いがあるのかもしれない。

「もし私が月曜日ならどう感じるだろう」といったラインもありますし、「月曜日が想像する彼女の話」というラインもあると思います。

月曜日と彼女なら、彼女の話の方がより重要と感じましたので、彼女に重点を置いてもいいのかもしれない。

でも、「月曜日という伏線がまったく回収されない」ラインも面白い気がします。

こういったメールのやり取りを掲載してよろしいのであれば、大変光栄です。

もちろん、帯は帯をお願いします。

第五十回はカンガルー回ということで、実は弦楽器イルカの正体が戸田環紀で、友人が月曜日だったというオチはどうでしょう。

今回はこんな感じです。どうかな？



弦楽器イルカさん

えええええっ。

いや、全然失礼ではありません。

ていうかどの部分でそう思われたのだろう。

うーんうーん。

そもそも私がまないたの上に小説のつけて「どうぞ好きにしておくんない」と半ば送りつけたのが始まりなので、失礼どころか、こうして色々なご意見やアイデアをいただけて、私としては本当に嬉しい限りです。YO。

私は確かにプロ作家であり続けたいともがいている者ですが、えーと、たとえばプロの料理家だって、お友達のうちに「クッキー焼いたの～♪」って持っていくと思うんです。

私はただ弦楽器イルカさんが喜んでクッキーを食べてくれたらそれでいい。

それで、「ちょっと砂糖足りなくね？」とか「ナツメグいれんな」とか、そういう話ができれば楽しい。

原稿ですが、ではいずれ書き直してみます。

寝かせておく時間があるほうがいいので、いつになるとお約束できないのですが、頃合が来たら「そろそろだな」というのが分かるはずですよ。

そろそろが五年後かもしれないけど（笑）

ちなみに、メールの掲載はもちろんOKですが、第一稿も載せますか？

もちろんご判断は弦楽器イルカさんにお任せしますが、小説があったほうが読んでいる方に分かり易いのではないかと思います。

ご参考まで。

帯の件了解しました。

なにぶん帯文は書いたことがないので、少し早めに送りたいと思っておりますがいつまでに送ればいいでしょうか？

書き上げた直後は色々と思うところの多かった小説ですが、今となってみれば愛しい二人となりました。

このような機会をいただきまして、改めてありがとうございます。

すみません、ひとつだけ、オチが「弦楽器イルカが戸田環紀で」は分かるんですが、友人さんが月曜日だったというのがどうひねってもわからなかった。です。

それではまた！



結論から先に書くけど、『美しい顔』騒動のベストな結末は、震災関連の本がもう一度話題になって売り上げが伸びるとともに、引用と盗用の線引きや、災害報道の在り方について国民的な議論が起こることだろう。

それに俺はウマシカだから、これを機に震災を語りたい人々はそれぞれの体験をもっと語るべきだと思う。

母国からの避難勧告で海外退避した外国人も、電車が止まったり高層マンションでいつまでも揺れが止まらなかった人も、トモダチ作戦で被爆した米兵も、甲状腺を手術した子供も、命を懸けてる原発作業員も、程度の差こそあれそれぞれに被災体験がある。そこには本来、もっとたくさんの言葉があるはずだ。

だがこの国では時として沈黙が美德とされ、絆という名の同調圧力がある。

国民の多数が、困っている少数を支援するのが絆なら、その分、多数の国民生活を守るために、少数が抱える不都合な意見を押し殺すのも絆だろう？

だからこの国では、無理のない程度に使える絆を使い分けながら、自分の身は自分で守るしかない。

そこで今回俺が考えたのは、アンパンマンの話だ。

アンパンマンにすごく似てるけど、明らかにいびつな顔をしたアンパンマンっぽいパンマンが、森の仲間たちと遊んでいる。右目が膨らんでたり、ほっぺが焦げすぎてたり、顔も凸凹の楕円だったり。

いつものカバおくんたちも「アンパンマン僕も背中に乗っけてよ」とか楽しそうだけど、内心は「違うよな」って薄々感づいてる目だ。

おかしいだろ具合が、またどうせ菌の人の変装だろ、このくだりが終わったら毎回バレルって例のアレだろ。まあ仕方ない、この世界はそういう風にできている。しょせん俺らは、アンと食とカレーの三パンマンによるトリプルパンチが最強である世界の住人だ、流れに身を任せ目の前の享楽に耽るのみ。って声にならないツッコミが聞こえそうだ。

ところがそこへ、菌の二人が UFO で飛来して、っぽいパンマンを倒しに来たからさあ大変。でもどうせ勝つんでしょ？

ところが、っぽいパンマンはコテンパンにやられてしまい、森の仲間たちに激震が走る。どうしたんだアンパンマン！

そこへ今度は本物のアンパンマンが飛んでくる。いつものパンチを菌の人にお見舞いだ！

バイバイキ〜ン！

はいはい。あれ、それじゃキミはいったい何パンマンだい？

ごめんね森の仲間たち、実は僕アンパンマンじゃないんだ。アンパンマンに憧れてる、ただのアンパンマンパンマンなんだ。

アンパンマンパンマン？

そう、キミの町のパン屋さんにも売られてるだろ、アレだよ。

アレなの？

うん。原発作業員が6月6日に突然死しただろ、甲状腺を手術した子も200人を超えた。この国ではあまり報道されない大事な人々の生き様を忘れないでいようっていう命の星の気持ちから、僕は生まれたんだ。

偽パンマンってことだね。どうりで、なんか片目だけ膨らんでるし、ほっぺが焦げすぎだし、顔もいびつに凸凹だし、だいたい匂いがいつもと違って甘ったるいんだよな。

そうだよ、僕の中にはチョコが入ってるからね。この頭にある穴からチョコを注入してるのさ。

だよね。だいたい町のパン屋のアンパンマンパンってアンじゃなくて必ずチョコ入りだよね。

著作権を侵害しすぎないように、万が一「チョコパンマンパンです」って言い逃れるための方便の可能性があるよ。でも原作に最大限の敬意は払ってるつもりさ。原作もパンもどっちも売れてほしいと思ってるのパクリだよ。

これからも町のパン屋さんにアンパンマンパンが並び続けることで、原作が末永く子供たちに親しまれる、それもまた平和な風景って言えるんじゃないかな。

にしてもキミの顔はちょっといびつすぎだけどね。顔は美しすぎればいいってもんじゃないけどさ。チョコが頭からちょこっとはみ出てるし。チョコだけに。

わっはっは。牧歌的な笑い。

おわり。

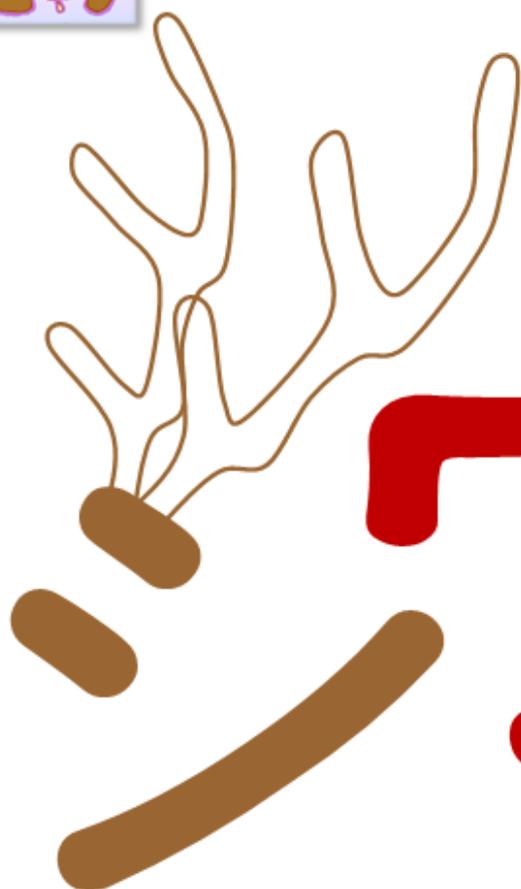




第五十一回

『DEVILMAN crybaby』と
『人工知能の夢』再び

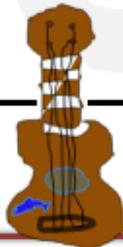
考え



広告欄

生命体の必需品！
繋がる安心、あなたにも！

-遺伝子-

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

この前の『キングオブコント 2018』で「さらば青春の光」が惜しいなと思った。

舞台は予備校で、「この競争社会でピラミッドの頂点を目指して勉強しろ」ってハチマキしめて鼓舞する人が、実は講師じゃなくてただの鼓舞バイトで、「なんやあの人、なんやそのバイトは」ってざわつく生徒を叱る講師のコントなんだけど。

決勝ファーストステージ敗退の原因は展開の弱さだと思う。ある意味、出オチだった。「さらば～」はいつも着眼点が良いと感心させられる分、もっと想像を超えるだろうって期待しちゃうんだよね。

鼓舞さんにはもっと深い背景があると俺は思うんだよ。例えばね。

予備校講師が、背後の鼓舞さんに気付かず大声で叫ぶ。

「おまえら、鼓舞さんを馬鹿にするな。あれも立派なバイトなんだよ。

ちょ、騒ぐな、だったら聞け。確かにあの人、本心ではお前ら予備校生なんて一生落第しろと思ってるよ。家で藁人形作って、ガキども俺と同じ底辺を這いずり回れって人生呪ってるよ絶対。時給 650 円で、ピラミッドの頂点目指すエリートの卵を鼓舞するバイトなんて、ピエロ以外の何モンでもない。ああこぶ平さ、中卒こぶちゃんさ。40 代独身彼女無し最下層のブサ面だろ、あれで自覚してなきゃ道化以下だよ」

鼓舞さん、震えながら静かに教室の扉閉める。

「(熱く) でもな、それでもこぶ平は、非正規雇用に誇りを持って、お前らのために叱咤激励してくれてんだよ。だいたい予備校講師だって、それ言ったらピラミッドの下から二番目くらいだ。

…いや違う、こぶ平と同じではない流石に。むしろ雲泥の差だと明確に否定するよそこは(急に冷めて)。身分制度で言うと、土農講こぶの、講師の講とこぶの間には天と地の差があるから。

だってこぶ平は夏期講習の夏以外無職だから。冬は邪魔だから逆に。冬はもう自分で集中する生徒しか合格しない、あんなこぶ平がウロウロする隙間なんて一秒もない。そう、夏はああいうピエロを反面教師にするくらいの余裕を持て。冬は自分のことだけ考えろ。

でもな、あの方はそんな自分を犠牲にしてでも、お前らを応援してんだよ。…違う、時給のためなんかじゃない。身をもって教えてるんだ。

あの方が何度もホワイトボードに書いたこのピラミッドは、頂点だけじゃ成り立たない。わかるか? 根底を支える無数の一兵卒がいて初めて頂点ができる、それが社会なんだよ。

だからあの人を馬鹿にすんな。お前らもこれから頂点まで登りつめたいなら、縁の下を支えてくれるこぶ平ども(や原発作業員や自衛隊員)を思いやれるエリートを目指せ。

あの方は本当はそう言いたいところを、顔で笑って心で泣いて、こぶ平に身をやつして汚れ仕事してんだよ。

え、おるってなに? あ……」

擦りガラス越しに透ける鼓舞さん。ガラガラ。静かに扉開ける。

講師「泣いてる! すげえ号泣してる!」

鼓舞さん「(泣きながら) お前らなんか何かが分かる。同情するなら、勉強しろ～!」

講師「見たか、これがプロの鼓舞や。平成の学問ノススメや! この人こそ鼓舞界の福沢諭吉やで～!」

次に、前に触れた『DEVILMAN crybaby』が良かった件だけど。ネットの賛否両論読んで、ウマシカ視点でちょっとだけ書くよ。

最近テレビが衰退したことで、わかりやすく明るい萌え一辺倒だった時代が終わりつつあるように思う。

『ゲゲゲの鬼太郎』のリメイクも、単なる人間の便利屋じゃない、明暗併せ持つ鬼太郎になってきてる。

『デビルマン』をリアルにしたのが『寄生獣』だと俺は思うし、100 年後どっちか一つの作品しか残らないとしたら、俺は断然『寄生獣』派だ。

改めて調べたら、『仮面ライダー』や『009』を受けて『デビルマン』ができて、それを『寄生獣』や『エヴァ』が打ち返して、更に『DEVILMAN crybaby』がまとめたって気がした。

ここで意図的に脱線するけど、たとえば映画版『ノルウェイの森』から俺が受けたのは、「まず原作を読み」ってメッセージだった。「原作の印象的なシーンを全力でビジュアル化したいだけで、たかが2時間13分の映画で原作をまとめるのは不可能です」って潔さを感じた。違和感もあったけど、原作愛は感じた。

『DEVILMAN crybaby』も同じ匂いがする。そもそも劇中に『デビルマン』の原作マンガが出てきて、現代風アレンジのアニメ主題歌も流れて、「デビルマンなんてマンガの読みすぎだろ」みたいなセリフまであって、メタな洒落にしては何回も出すぎてた。

つまりあれは「この作品は破綻が前提だから細かい点は気にすんな」って宣言だし、原作がそもそも無茶だから、細かい辻褄は重要じゃないと俺は受け取った。

んで、改めて原作の電子書籍を購入して読み直したけど、『デビルマン』の肝って魔女狩り（悪魔狩り）のシーンに尽きると思う。

『DEVILMAN crybaby』も、現代のSNSと魔女狩りの類似性とか、「他者を拒絶して批判するのは楽で簡単だけど、理解するのはとても時間がかかるし難しい」ってセリフが肝になってる。今ここのメッセージを『デビルマン』に託して世に出すタイミングだって強い決意を感じた。ここにグッと来なければこの作品は観ないほうがいいとさえ思う。

「人外より人間が一番怖い」っていう鬼太郎的なオチ以外に、「デビルマンがもし弱かったらネズミ男だな」って気づきとか、「お互いに切磋琢磨するのが戦いであって、リスペクトのない殺し合いは自殺と同じ」って単純な事実が描かれた良作だと思うよ。

あと、『万引き家族』もやっぱりよかった。とにかく真剣に生きようと思えた。

ただ今ちょっともったいないと思うのは、リリー・フランキーと安藤サクラの関係についてはバッチリ描けてたけど、あの二人は俺から見たらあっち側なんだよね。切ないけど、もうどうにもできない人たちだ。

だけど、樹木希林と松岡茉優の関係はギリギリこっち側で、あの二人だけで映画一本撮れるくらいの背景があったんだけど、そこは掘り下げてなかったし、もうあのキャストでは観れないよ。それが残念。

最後にアイドルについてなんだけど、まあここは本当にどーでもなウマシカ話ね。

まず俺のウマシカな定義では、アイドルは「歌は道具で歌手が武器」、アーティストは「歌が武器で歌手は道具」になる。

今のアイドルって「モー娘。」と「AKB」の延長線上でどうズラすかがカギって認識なんだけど、俺は昔から歌手よりも楽曲に興味があるから、歌は踏み台で大人にやらされ感のあるアイドルは趣味じゃない。

俺が目にするのは、「PUFFY 感」と「Perfume 感」で、この2組は楽曲を中心としながら性質が両極端だと思う。

PUFFY はアイドル寄りのアーティストで、ダラダラすることでやらされ感のなさを表現してる。二人をどう料理しようかっているんなアーティストがプロデュースするくらいの実力もあるし、セルフプロデュースにも長けてる。

一方、Perfume はアーティスト寄りのアイドルで、一流のダンサー兼アーティストの割に、自己紹介が田舎者で芋っぽい個性が魅力になってる。

以上、ざっくりテキトーに読解したけど、今割と PUFFY 感があるのが「バンもん！」で、Perfume 感がある

のが「sora tob sakana」だと思う。

次世代アイドルにはこの「パフパフ感」が大事ってオチね。

今回はまあこんな感じ。ここまでちょっと軽めで。

どうかな？



『続・人工知能の夢』



23 世紀。

伝統や宗教が形骸化する一方、効率や合理性がより優先される先進国を中心に、自然分娩のリスクから女性を解放するため、体外受精や人工子宮による出産を選択する夫婦が過半数を超えるようになる。

また、子育てにかかる親の負担や経済的な損失をなくすため、公的機関に子供を預けて集団で養育する制度が発達し、親子や家族といった枠組みでの暮らしは減少する。

もちろん依然として、自然分娩や家族単位にこだわる世帯や宗教国家も存在する。だが、個人の幸福が最優先される社会においては、連帯を強制する血縁との関係は自然に淘汰され、解消可能な恋人や友人との関係のみで他者をつながる人々の方が大勢である。

さらに性的欲求の解消においても、生身の他人との性交渉は感染症のリスクや気遣いによるストレスを伴うため減少し、代わりに普及した人工知能による「箱舟」や「木馬」といった電腦夢で、人々は各種欲求を満たしている。電腦空間における仮想化された人間同士の性交渉も日常化している。

生身の人間同士の性交渉が依然として重要な性欲解消の手段であるのは、やはり電腦化を嫌う一部の宗教国家や、工業化が遅れている地域の貧困層などが主である。

こうして、社会全体での性交渉の価値が下がれば当然、性を売る買春行為などの価格も下落する。

22 世紀まで行われていた性奴隷の人身売買は、23 世紀ではビジネスモデルとして成り立たず、ごく一部の好事家などのためだけに存在している。

貧困層はもはや性も売ることができず、貧富の格差はますます断絶的な階層となる。富める権力層に対し、貧困層はただ安価な労働力や移植臓器を提供するために管理される、国畜的な存在となる。

貧困層の女兒として生まれたマイラは、制度上は富裕層の養育機関を模したコミュニティで機械的に育てられる。コミュニティで育てられる子供たちの多くは産まれてすぐ、親権を手放す契約でコミュニティに預けられるため、ほとんどが実の親を知らない。

彼らは、人工知能が管理する教育適正化プログラムによって、それぞれの特性を数値化され、その才能に見合った教育が施される。富裕層の子供とは違い、遺伝的に相当優れたポイントがない限り、単純労働に必要な教育のみが施される。

必要以上の知恵は自立心を芽生えさせる可能性がある。富裕層の消耗品としてだけ存在する貧困層に自立心を芽生えさせるのは、むしろ当人らの苦痛を増すだけだとする都合の良い人権的な配慮も存在する。それ以外に、貧困層が反抗心を持たないように、はじめから思考しない人間を育てる目的もある。

マイラは、容姿は十人並みだが知力や運動能力に優れ、コミュニティ内では比較的高い水準の教育を施されて育つ。そういった場合、公的機関の補助職員としての試験をパスする者もいる。または富裕層から高額な寄付金をコミュニティに支払ってもらい、家政婦として雇用される者もいる。

マイラが特殊であったのは、彼女が 16 歳の時に先天的な持病が発見されたことだ。生殖器官にかかわる病いで、早い年齢で子宮を摘出しなければ生命の危機となる。また、もし妊娠出産を望むのであれば、10 代の内に受

胎するか、摘出後の子宮を人工的に保存するかを選択をしなければならない。

子宮を切除する手術費や、摘出した子宮を人工的に保管する費用を捻出してやるという男が現れた時、彼女は喜びながらも疑ってしまう。

「なぜ助ける？」

「このままでは誰もお前を援助しない。死を覚悟で一つ仕事をしてもらいたい。それが条件だ」

一時金を支払ってもらった後、男の邸宅に赴き、マイラはある計画を打ち明けられる。

「このカプセルに、ナノマシンを応用した新しいタイプのウイルスが入っている。こいつが体内で増殖すると、電脳を汚染して体内の免疫系を致命的に狂わせる、いわば殺意を持った花粉みたいなヤツだ。

お前は知らないかもしれないが、今や電脳化した奴らはおかしなことになっている。宇宙に生物を飛ばして、どっかの惑星にこの星の遺伝子を届けるプロジェクトが進行している。

レミングってネズミが増えすぎると、集団自殺で川に飛び込むって伝説がある。実際は単に食料を求めての移住だったって話だが、遺伝子の視点に立てば、もし陸の生物が絶滅してもそれが水中の生物の餌になれば生命は繋げる。

食物連鎖のピラミッドも同様だ。頂点にいる少数の人類や肉食獣が減んでも、その下の階層にいる大多数の動物たちが生きながらえ、また別の進化を始めさえすればいいだけだ。

それどころか弱肉強食のピラミッドは頂点が随時入れ替わった方が、生命に多様性が生まれ強い遺伝子が育つ可能性さえある。

遺伝子を改造・複製したり五体を機械化した人類は確かに、生物としてより進化したといえるかもしれない。だが、AIの進化はこの遺伝子のハイブリッド化を妨げている。

その原因の一つは、AIによる人類の選別だ。

AIを操る者が富裕層で、AIに操られる者が貧困層だ。

貧困層がいくら努力したところで、もはやAIより有能にはなれない。結果、貧困層でも努力すれば成り上がれる時代は終わった。貧富の格差をAIが絶対的な階級制度にした。今やAIは、富裕層の優秀な便利屋にすぎない。

さらにもう一つの原因は、人間が電脳夢に閉じ込め出したことだ。

現実世界で人体を改造するには倫理的にも技術的にも制約が多くコストがかかる一方、電脳空間を技術的に改造するのは容易だ。AIに指示を出しプログラムを組み替えさせるだけでいい。

結果、電脳化した人々は現実よりも電脳夢における生活や進化を優先するようになった。『箱舟』や『木馬』に勝る快楽を現実世界で得るのは、不可能に近いからだ。

これらにより人類の遺伝子は多様な交雑をやめ、狭い世界で矮小化した。そんな人類を見限った遺伝子が、AIを操って宇宙にDNAの種子をばら撒いている。それが『プロジェクト・レミング』だ。

遺伝子とAIは行動原理がシンプルで親和性が高い。遺伝子の目的はDNAを後世に繋ぐことであり、AIの目的は指令を得て実行することだ。

この二つが組み合わせれば、目的と実行が永遠に円環する回路が組み上がるはずだった。

だが、誤算が一つある。ここまでの話はオレの電脳に妻から送られたメッセージを基にしている。

本来ならAIがそんな情報漏洩を見逃すワケがない。つまり罠か、でなければAIがわざと情報を漏らしたかだが、オレは後者だと考えた。

もしこの遺伝子の反乱を人類が乗り越えたら、生物としてより強く進化する可能性があるんじゃないか。
オレがもし AI なら、単純な解よりも複雑系の底に埋もれた可能性を解とするだろう。なぜならば単純な解で思考を停止したら、AI の進化もまた停止するからだ。

それに、このウイルスは確かにオレが研究していたはずだが、どこまでが自分のアイデアだったか、もう今ではうまく思い出せないんだ。AI がオレの記憶を書き換え、オレを使ってウイルスを作らせた可能性もある。

マイラ、残念ながらオレの計画では、敵の中枢機関に潜入するような冒険活劇は必要ない。ただこのカプセルを飲み込んだ後、病院で持病の治療を受けるだけでいい。お前が宿主となって、ウイルスがまき散らされる。

死ぬのはオレのような、電脳化した人間だけだ。電脳化していないお前のような貧困層は生き残るだろう。たぶん」

なぜ自分なのか、マイラは男に問う。

「第一に、オレが金銭的な援助をしなければ、どのみちお前は助からない。やるしかないということだ。第二に、オレはお前の親ではないが、もしオレに娘がいれば、ちょうどお前のようにだったかもしれない。コミュニティの名簿から一番そう思える人間を選んだつもりだ。

俺たちはもうお前らに乗り越えられるべき世代なんだろうが、古い世代の責任として新しい世代に何かを残すなら、お前に託したいとオレは思った。

人生に絶望したお前に生きる意味を与えてやる。オレの名前を付けたこのカプセルを飲んでほしい」

そして、男はもう一つ、頼みごとをする。

マイラは男を受け入れ、その背中を両腕に抱き、頭を撫でる。

「人工知能を抱くことは、自分を抱くことだ。

抱き合いながら同一化できない他者の温もりとは別のものだ。

この地球の底みたいな場所で、二匹の金魚が身を寄せ合っている。

気づいたときにはいつも遅すぎる。オレが望むのはこういう瞬間だった。

それでも、お前に会えてよかった」

マイラは「イゼ」という名前の付いたそのカプセルを飲み込み、男は数日のうちに息絶える。その間、彼女は受胎する。

新しい生命を子宮に宿し、死のウイルスの宿主となった彼女は、変化を希求する遺伝子と共に新しい世界へと歩き出していく。

Fin.

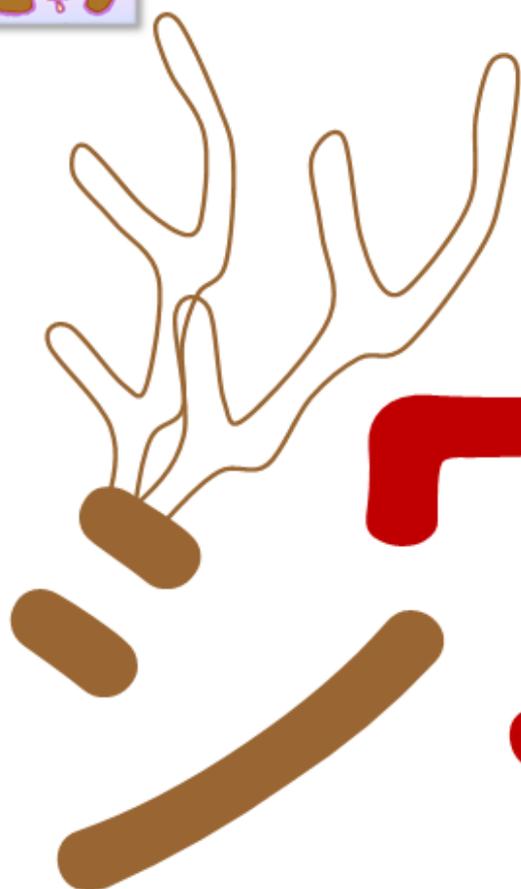


第五十二回

「負けない死に方」と

『僕は頑張るよっ』

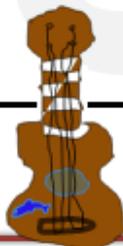
考え



広告欄

好きを自由に。続くを仕事に。
「生きることで、好きになる」

-人生-

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

自殺の話。

結論としては衰退するテレビの断末魔と、数字に群がるハイエナネットニュースの循環ボヤ騒ぎだと思うけどね。

まず、あの自殺の話を額面通りとるなら、「死んだら負け」じゃなくて、「芸能事務所に逆らったら負け」だと俺は思う。

みんな、国民的的中年男性アイドルも、国民的朝ドラ女優も、芸能事務所に逆らって絶賛連敗中じゃん。

そういう当たり前の結論にはだんまりを決め込んで、強い組織には逆らわず、扱いやすい個人の話だけを報道するのがテレビとタレントの限界だよ。

拘束されてた日本人の生還にしても、扱いやすい話題で賛否分かれるから数字目的で報道してるだけだ。テレビやマスコミにとって扱いやすく数字さえ取れば内容はどうでもいい。

人生が暇つぶしだからスポーツ観戦したり左右を信仰して叩き合ってるだけだ。「お前それただ暇つぶしに熱くなってるだけだぞ。なぜか生まれて暇つぶして死ぬのが人間だから仕方ないにしても自覚はしとけよ」って、バンクシーのシュレッダーは教えてくれてるんだと俺は思うよ。

「死んだら負けだから、絶対自殺するなよ。遺書に俺らの名前を書くなよ。同級生をいじめて無期停学になった大物芸人みたいに、俺も大人になってから『悪かったな』って心の中で反省するから、今はいじめも我慢しろ。あのご意見番芸人が大人になって正義なら、俺らの学生時代のいじめも正義だよ。悪はお前みたいに自殺するヤツだ。まあ、どうせお前の人生なんて生きても死んでも負けだけだな」

つまり少なくとも、「死んだら負け」は、「死なせるほど追い込んだら負け」とセットで意味を持つ言葉だ。片翼だけではバランスが取れずに墜落する。

さらに「死にたい」は、「生きたいように生きれない」から起こるのであって、「生きたいように生きるにはどうしたらいいか」を本人と社会が考えないと、自殺はなくなる。単に「死んだら負け」を言い続けるだけで、自殺を減らす根拠があるなら示すべきだ。

だいたい、テレビの中からちょっと発言するだけで自殺を止められると真剣に考えてるなら、自分のサイズを過信してる裸の王様だ。この件で騒いでるのだって社会のほんの一部だし、ごく一時的だった。

ってか、そもそも前に観たときからすごい違和感だったのが、あの番組って時事問題に対して、有りか無しか、良いか悪いか、大物一芸人にお伺いたてて善悪を裁定する私的な裁判形式なんだよ。「ありやな」「それが正しい」「俺良いこと言った」とか真顔で放送してるからね。ウマシカが信仰する無知の知、無評の評とは真逆の価値観だよ。

だから、「自殺する子供をひとりでも減らすため【死んだら負け】をオレは言い続けるよ。。。』って言葉が本当に本心なら、自殺を防止するバラエティ番組作ったり、具体的に自殺防止の活動をしたほうが効果は高い。NHKとか他の芸能人もやってるし。

しかも全然言い続けてないじゃん。あれから何回言ったよ。今までも数回しか言ってない。あとそもそも元いじめっ子が上から言っても説得力ない。更に全然面白くもない。

口だけの笑えない嘘つき芸人と批判されて悔しかったら、金も筋肉もあり余ってるんだし、とりあえず金と労力を出して自殺防止の具体的な活動をしろと俺は思うよ。嘘ついてギャラが欲しいだけなら別だけど。

筋トレが忙しすぎて、金と発言力はあるくせに嘘つくだけで自殺防止活動する時間は取れないのかな？

でもはじめに言った通り、テレビや芸能界は基本的に嘘つきで弱い者いじめを助長するただの集金装置だから、自分にとって本当に価値があると思うもの以外はスルーするのがウマシカでしょう。

ジュリーにしたって扱いやすい賛否ある部分を報道しただけで、扱いづらい原発や福島への思いを歌にし続けている点には大して触れられない。

原発作業員の死を英霊として扱うこともなく、甲状腺手術した子供たちが200人を超えてもなお、というか逆に過剰だからこそ黙殺し続けるマスメディアとこの国の国民には、米から切り捨てられないように移民受け入れに前のめったり次のご主人の中に媚を売る総理をありがたがるのが関の山だ。

左右に分かれて、愛国無罪とかりべらる無罪とか立場の争いしてる間に貧富の格差はどんどん開く。

だから、自分の身は自分で守るしかない。

武士の誇りのためなら、命乞いより切腹した方が自分を守れた時代だってある。「自殺したら負け」なら「特攻したら負け」ってことにもなる。

結局、「まあ生まれてきてよかった」と思いながら死ぬのが勝ちだって、自分を納得させるしかない。

自分を守るために、考えて戦って仲間を増やして手に職を付けても、どうせ死ぬんだ。金持ちも女優も貧乏人も、どうせ同じ死だ。

まあ、どうせ死ぬんだから、今すぐ死に急ぐことはないって理屈もあるけど。せめて気持ちいいこととか、バカバカしいこととか、もう一回楽しんでから死んでもいいじゃん。せつかく生まれたからには、もう一回バカ笑いしてから死ねばいいじゃん。今辛いなら、せめて誰かに伝えてから死ねばいいじゃん。

いつでも死ねるんだから、もうちょっと生きてもいいじゃん。

でもまあ、それも詭弁かな。死んで楽になるなら、それは仕方ないんじゃない？

だって「自殺したら負け」を説いてる層は、返す刀で「老人は安楽死しろ」「非国民は死ね」「特攻万歳」って叫んでるヘイトな国だからさ。

ただ、僕は頑張るよっ。

死にたい自分を俯瞰で文章にするような、みじめったらしく最期まで生きてやるウマシカだから簡単には死ねない。俺はとりあえずもう少し頑張ってから戦ってウマシカ死にする。

まあ今回はこんな感じ。

Uはどうか？



奥付

考えるウマシカ ～弦楽器イルカ⇔友人の往復書簡より～

<http://p.booklog.jp/book/64876>

著者：弦楽器イルカ+友人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/64876>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/64876>



電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ